

JP1 Version 9

JP1/Automatic Job Management  
System 3 - SOA Option Web システム  
呼び出し機能編

解説・手引・文法・操作書

3020-3-S25-10

## 対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については, リリースノートで確認してください。

適用 OS : Windows Server 2008

P-2A12-3A94 JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option 09-50

適用 OS : Windows Server 2003, Windows Server 2003 ( x64 )

P-2412-3A94 JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option 09-50

適用 OS : Linux 5 (AMD/Intel 64), Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64), Linux 5 (x86), Linux 5 Advanced Platform (x86)

P-9S12-3A91 JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option 09-12

## 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には, 外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上, 必要な手続きをお取りください。

なお, ご不明な場合は, 弊社担当営業にお問い合わせください。

## 商標類

Active Directory は, 米国 Microsoft Corporation の, 米国およびその他の国における登録商標または商標です。

BEA WebLogic JRockit は, BEA Systems, Inc. の商標です。

BEA WebLogic Server は, BEA Systems, Inc. の登録商標です。

GIF は, 米国 CompuServe Inc. が開発したフォーマットの名称です。

IBM は, 米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

J2EE は, Oracle Corporation 及びその子会社, 関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java は, Oracle Corporation 及びその子会社, 関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

JSP は, Oracle Corporation 及びその子会社, 関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Linux は, Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle 及び WebLogic は, Oracle Corporation 及びその子会社, 関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

SOAP ( Simple Object Access Protocol ) は, 分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

UNIX は, The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

WebSphere は, 米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Windows は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は, 米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標で

す。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

## 発行

2011 年 9 月 3020-3-S25-10

## 著作権

Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi Solutions, Ltd.

## 変更内容

変更内容 ( 3020-3-S25-10 , 3020-3-S26-10 ) JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option 09-50

追加・変更機能	変更箇所	
	Web システム呼び出し機能編 ( 3020-3-S25-10 )	ジョブ・ジョブネット呼び出し機能編 ( 3020-3-S26-10 )
対応する Web アプリケーションサーバに WebLogic Server 11g を追加した。	3.1.1 , 4.4	1.2.2 , 2.1 , 2.2.1 , 2.2.2 , 2.3 , 2.4.5(3)(b) , 3.4 , 3.5 , 3.5.1 , 3.6 , 4.1 , 5.1.1(2) , 5.2 , 6.2 , 6.2(1) , 6.6 , 6.6.1 , 6.6.2 , 6.6.3(3) , 6.6.6 , 6.6.7(2)(b) , 6.6.7(2)(c) , 7.1(1) , 7.2 , 8.2 , 8.3 , 9.1.2 , 9.1.3 , 9.2.1 , 10.1.2(3) , 10.3(3) , 10.4.2 , 10.4.3 , 10.4.5 , 11.4 , 付録 A , 付録 D
JP1/AJS3 - SOA Option に Cosminexus Application Server の SOAP クライアントライブラリを含む Java 実行環境を組み込んだ ( 組み込み SOAP クライアントライブラリ )。これによって、Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server 08-50 以降のとき、WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server をインストールする必要がなくなった。	2.1 , 2.3.1 , 2.4 , 2.4.3 , 3.1.1(2) , 4.2 , 4.8 , 4.8.2(1) , 4.8.2(2) , 4.8.4 , 4.8.4(1)(b) , 4.8.4(3) , 11.3.1 , 11.3.3 , 14. ajsws_log , 付録 H	-
Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合に、標準 WS ジョブで利用できるデータ型として、複合型を追加した。	2.3.1 , 3.3.3(1) , 3.3.3(3) , 9.3.1 , 9.4 , 11.7(1) , 13.4.3(1) , 15.1 , 15.3 , 付録 E.1(3) , 付録 E.1(4) , 付録 E.2 , 付録 H	-
メッセージを追加した。	16.5 KNAW4221-E ~ KNAW4223-E , KNAW4325-W ~ KNAW4327-W , KNAW8261-E ~ KNAW8267-E	-

変更内容 ( 3020-3-S25-10 , 3020-3-S26-10 ) JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA  
Option 09-12

追加・変更機能	変更個所	
	Web システム呼び出し 機能編 ( 3020-3-S25-10 )	ジョブ・ジョブネット 呼び出し機能編 ( 3020-3-S26-10 )
対応する OS に Linux を追加した。	2.1 , 2.4.4 , 2.6 , 3.2 , 3.3.3 , 5 , 6.1.1 , 6.1.2 , 6.4.1 , 6.4.2 , 7.1 , 9.1 , 9.3 , 10.1 , 10.2.2 , 10.3 , 11.1 , 11.2.2 , 11.4 , 12.1 , 12.2 , 12.3.1 , 13.2.1(1) , 13.2.2 , 13.4 , 14. コマ ンド一覧 , 14.ajswwskillwsp , 14.ajswwsstart ( UNIX 限定 ) , 14.ajswwsstatus , 14.ajswwsstop ( UNIX 限 定 ) , 14.ajswws_log , 15.1 , 16.4 , 16.5 , 付録 A , 付録 B	3.6 , 4.1 , 4.1.1 , 4.1.1(1)(a) , 4.1.1(1)(c) , 4.1.1(2)(a) , 4.1.1(2)(c) , 4.1.1(3)(a) , 4.1.1(3)(c) , 5.1.2 , 6.3 , 6.4.1 , 6.6.3 , 6.6.4 , 6.6.4(1)(a) , 6.6.4(1)(b) , 6.6.4(1)(c) , 6.6.4(3)(a) , 6.6.4(3)(c) , 6.6.4(5)(a) , 6.6.4(5)(c) , 6.6.5 , 6.6.7(1)(a) , 6.6.7(1)(b) , 6.6.7(1)(c) , 6.6.7(2)(a) , 6.6.7(2)(b) , 6.6.7(2)(d) , 6.7(1) , 6.7(3) , 6.9 , 10.2.2 , 10.3(1)(b) , 10.3(1)(c) , 10.3(1)(d) , 10.3(1)(g) , 10.3(1)(i) , 付録 A
英文メッセージを追加した。	16.5 KNAW5000-W ~ KNAW6999-E , KNAW7103-E , KNAW7201-E ~ KNAW8260-E , KNAW8999-E ~ KNAW9999-E	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。



# はじめに

---

このマニュアルは、JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option (以降、JP1/AJS3 - SOA Option と省略します) の機能、および JP1/AJS3 - SOA Option が提供する「JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能」の構築・運用方法を説明したものです。

## 対象読者

JP1/AJS で運用する業務 (ジョブネット) に、Web サービスと接続する業務を組み込みたいと考えている方を対象に説明しています。

なお、次の内容を理解されていることを前提とします。

- JP1/AJS の基本的な運用知識
- Web サービスアプリケーションの開発知識
- Windows の基本操作に関する知識 (Windows ホストで JP1/AJS3 - SOA Option を使用する場合)
- Linux の基本操作に関する知識 (Linux ホストで JP1/AJS3 - SOA Option を使用する場合)
- Cosminexus の運用知識 (Cosminexus Application Server を Web アプリケーションサーバにする場合)
- WebSphere Application Server の運用知識 (WebSphere Application Server を Web アプリケーションサーバにする場合)
- WebLogic Server の運用知識 (WebLogic Server を Web アプリケーションサーバにする場合)

## マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。

### 第 1 編 概要編

JP1/AJS3 - SOA Option の特長および JP1/AJS3 - SOA Option に対応する Web アプリケーションサーバについて説明しています。

### 第 2 編 機能編

JP1/AJS3 - SOA Option の、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能について説明しています。

### 第 3 編 設計編

JP1/AJS3 - SOA Option のシステムの構成について説明しています。また、JP1/AJS3 - SOA Option を効率良く運用するための見積もりについても説明しています。

### 第 4 編 構築編

JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール、環境設定、およびアンインストールについて説明しています。また、クラスタシステムでの環境構築についても説明しています。

## 第5編 運用編

JP1/AJS3 - SOA Option を運用するためのプログラム開発，ジョブの定義，実行などについて説明しています。また，JP1/AJS3 - SOA Option のメンテナンス，およびトラブルが起こったときの対処についても説明しています。

## 第6編 リファレンス編

JP1/AJS3 - SOA Option のコマンド，JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログボックスの内容，および JP1/AJS3 - SOA Option が出力するメッセージについて説明しています。

## 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

### JP1/AJS3 関連

- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 入門 ( 3020-3-S01 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド ( 3020-3-S02 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド ( システム構築編 ) ( 3020-3-S03 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド ( 業務設計編 ) ( 3020-3-S04 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1 ( 3020-3-S05 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 2 ( 3020-3-S06 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド ( 3020-3-S07 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング ( 3020-3-S08 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド ( 3020-3-S09 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1 ( 3020-3-S10 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2 ( 3020-3-S11 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド ( 3020-3-S12 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1 ( 3020-3-S13 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2 ( 3020-3-S14 )
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option ジョブ・ジョブネット呼び出し機能編 ( 3020-3-S26 )

### JP1/AJS2 関連

- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 ( 3020-3-K21 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド ( 3020-3-K22 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド ( 3020-3-K23 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド ( 3020-3-K24 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス ( 3020-3-K25 )

- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド ( 3020-3-K27 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ ( 3020-3-K28 )
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 for Web Service Web システム呼び出し機能編 ( 3020-3-K43 )

#### JP1 V9 関連

- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド ( 3020-3-R71 )
- JP1 Version 9 JP1/Base メッセージ ( 3020-3-R72 )
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用) ( 3020-3-S81 )
- JP1 Version 9 JP1/NETM/DM Client(UNIX(R) 用) ( 3020-3-S85 )

#### JP1 V8 関連

- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド ( 3020-3-K06 )
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ ( 3020-3-K07 )
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用) ( 3020-3-L38 )

#### Cosminexus V8 関連

- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド ( 3020-3-U04 )
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド ( 3020-3-U13 )
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編 ( 3020-3-U14 )
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引 ( 3020-3-U30 )

#### Cosminexus V7 関連

- Cosminexus システム構築ガイド ( 3020-3-M06 )
- Cosminexus システム運用ガイド ( 3020-3-M07 )
- Cosminexus 運用管理操作ガイド ( 3020-3-M09 )
- Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド ( 3020-3-M47 )

## 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章または節を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的		記述箇所
JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストの OS が Windows の場合	JP1/AJS3 - SOA Option の特長や運用イメージについて知りたい。	1 章
	JP1/AJS3 - SOA Option の JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能について知りたい。	2 章
	JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成、およびシステム性能や処理性能の見積もり方法について知りたい。	3.1

マニュアルを読む目的	記述 箇所
<ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1/AJS2 for Web Service から JP1/AJS3 - SOA Option へのアップグレード方法を知りたい。</li> <li>• バージョンの互換性を知りたい。</li> </ul>	3.3
JP1/AJS3 - SOA Option のインストール, アンインストール, および環境設定の方法について知りたい。	4 章
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール, アンインストール, および環境設定の方法について知りたい。	6 章
JP1/AJS3 - SOA Option のクラスタシステムでの運用と環境構築について知りたい。	7 章
運用編の読み方について知りたい。	8 章
標準 WS ジョブの定義について知りたい。	9 章
ユーザー WS ジョブの定義について知りたい。	10 章
WS ジョブの実行方法, および実行中の操作について知りたい。	11 章
JP1/AJS3 - SOA Option のシステムに必要なバックアップやりかた, およびホストの設定変更の手順について知りたい。	12 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用中に発生したトラブルの対処方法について知りたい。	13 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のコマンドについて知りたい。	14 章
JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログボックスの項目について知りたい。	15 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージについて知りたい。	16 章
ファイル, プロセス, ポート番号, 制限値, JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option の WSDL のサポート範囲, および JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option の用語について知りたい。	付録
JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストの OS が UNIX の場合	1 章
	2 章

マニュアルを読む目的	記述 個所
JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成，およびシステム性能や処理性能の見積もり方法について知りたい。	3.2
<ul style="list-style-type: none"> <li>• JP1/AJS2 for Web Service から JP1/AJS3 - SOA Option へのアップグレード方法を知りたい。</li> <li>• バージョンの互換性を知りたい。</li> </ul>	3.3
JP1/AJS3 - SOA Option のインストール，アンインストール，および環境設定の方法について知りたい。	5 章
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール，アンインストール，および環境設定の方法について知りたい。	6 章
JP1/AJS3 - SOA Option のクラスタシステムでの運用と環境構築について知りたい。	7 章
運用編の読み方について知りたい。	8 章
標準 WS ジョブの定義について知りたい。	9 章
ユーザー WS ジョブの定義について知りたい。	10 章
WS ジョブの実行方法，および実行中の操作について知りたい。	11 章
JP1/AJS3 - SOA Option のシステムに必要なバックアップやりかた，およびホストの設定変更の手順について知りたい。	12 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用中に発生したトラブルの対処方法について知りたい。	13 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のコマンドについて知りたい。	14 章
JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログボックスの項目について知りたい。	15 章
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージについて知りたい。	16 章
ファイル，プロセス，ポート番号，制限値，JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option の WSDL のサポート範囲，および JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option の用語について知りたい。	付録

## このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。正式名称と、このマニュアルでの表記を次の表に示します。

このマニュアルでの表記		正式名称	
JP1/AJS	JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
		JP1/AJS2 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
		JP1/AJS2 - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
	JP1/AJS3	JP1/AJS3 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
		JP1/AJS3 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
		JP1/AJS3 - View	JP1/Automatic Job Management System 3 - View
JP1/AJS2 for Web Service	JP1/AJS2 for Web Service	JP1/Automatic Job Management System 2 for Web Service	
	JP1/AJS2 - View for Web Service	JP1/Automatic Job Management System 2 - View for Web Service	
JP1/AJS3 - SOA Option	JP1/AJS3 - SOA Option	JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option	
	JP1/AJS3 - View for SOA Option	JP1/Automatic Job Management System 3 - View for SOA Option <sup>1</sup>	
Cosminexus	Cosminexus Developer's Kit for Java	Cosminexus Developer's Kit for Java™	
	Cosminexus Application Server	uCosminexus Application Server Enterprise	
		uCosminexus Application Server Standard	
	Cosminexus Developer	uCosminexus Developer Professional	
uCosminexus Developer Standard			
Java		Java™	
Linux <sup>2</sup>	Linux 5 (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)	
	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	
	Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)	
	Linux 5 Advanced Platform (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)	
Microsoft Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R)	
WebLogic Server	WebLogic Server 9.2	BEA WebLogic Server 9.2	
	WebLogic Server 10	BEA WebLogic Server 10	

このマニュアルでの表記		正式名称
	WebLogic Server 10g Release 3	Oracle(R) WebLogic Server 10g Release 3
	WebLogic Server 11g	Oracle(R) WebLogic Server 11g Release 1
WebSphere Application Server		WebSphere Application Server V6.102
		WebSphere Application Server V7.0
Windows 7 <sup>3</sup>		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows Internet Explorer		Windows(R) Internet Explorer(R)
Windows Server 2003 <sup>3</sup>	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
	Windows Server 2003 ( x64 )	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2008 <sup>3</sup>		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
Windows Vista <sup>3</sup>	Windows Vista Business	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
	Windows Vista Enterprise	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
	Windows Vista Ultimate	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
Windows XP Professional <sup>3</sup>		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

## 注 1

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View と連携して動作するコンポーネントです。

## 注 2

Linux を UNIX と表記することがあります。

## 注 3

Windows XP Professional , Windows Server 2003 , Windows Vista , Windows Server 2008 , および Windows 7 を総称して Windows と表記することがあります。

**このマニュアルで使用する英略語**  
このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
API	Application Program Interface
FTP	File Transfer Protocol
GUI	Graphical User Interface
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
HTTPS	Hyper Text Transfer Protocol Security
J2EE	Java <sup>TM</sup> 2 Platform, Enterprise Edition
jar	Java <sup>TM</sup> ARchive
JavaVM	Java <sup>TM</sup> Virtual Machine
JAX-WS	Java <sup>TM</sup> API for XML Web Services
JRE	Java <sup>TM</sup> 2 Runtime Environment, Standard Edition
JSP	JavaServer Pages <sup>TM</sup>
OS	Operating System
QName	Qualified Name
RPC	Remote Procedure Call
SOAP	Simple Object Access Protocol
UAC	User Account Control
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64
WSDL	Web Services Description Language

## このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次の表に示します。

記号	意味と例
[ ]	メニュー項目、ウィンドウ、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタンなどを示します。 (例) [ファイル] - [新規作成] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示します。

## 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次の図に示します。

● ジョブネット



● ジョブ



● Webサービスと接続する  
ジョブ (WSジョブ)



## Windows 版 JP1/AJS3 - SOA Option のデフォルトのインストール先フォルダ

JP1/AJS3 - SOA Option のデフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。

32 ビット版の Windows Server 2008 および 32 ビット版の Windows Server 2003 の場合

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORWS

64 ビット版の Windows Server 2008 および Windows Server 2003 (x64) の場合

システムドライブ ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥JP1AJS2FORWS

## JP1/AJS3 - View for SOA Option のデフォルトのインストール先フォルダ

JP1/AJS3 - View for SOA Option のデフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。

Windows 7, 32 ビット版の Windows Server 2008, Windows Vista, 32 ビット版の Windows Server 2003, および Windows XP Professional の場合

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORWSV

64 ビット版の Windows Server 2008 および Windows Server 2003 (x64) の場合

システムドライブ ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥JP1AJS2FORWSV

## このマニュアルで使用するフォルダ名またはディレクトリ名

このマニュアルでは、Windows のフォルダ名と UNIX のディレクトリ名が同じ場合、原則として、フォルダ名と表記しています。

## このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーを指します。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザー、および ActiveDirectory 環境で動作に違いはありません。

## オンラインマニュアルについて

このマニュアルの「14. ウィンドウとダイアログボックス」にある各ダイアログボックスの説明は、該当するダイアログボックスの [ヘルプ] ボタンをクリックすると、HTML マニュアルとして参照できます。HTML マニュアルは次のブラウザで参照できます。

- Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
- Windows Internet Explorer 7 以降

## KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024<sup>2</sup> バイト, 1,024<sup>3</sup> バイト, 1,024<sup>4</sup> バイトです。



# 目次

## 第 1 編 概要編

<b>1</b>	<b>JP1/AJS3 - SOA Option の概要</b>	<b>1</b>
1.1	JP1/AJS3 - SOA Option の特長	2
1.1.1	Web サービスを利用した業務の自動化	2
1.1.2	Web システムからの JP1/AJS 業務の呼び出し	5
1.2	使用できる Web アプリケーションサーバ	9
1.2.1	JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の場合	9
1.2.2	Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能の場合	9

## 第 2 編 機能編

<b>2</b>	<b>JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能</b>	<b>11</b>
2.1	JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像	12
2.2	JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の概要	14
2.3	WS ジョブの定義	16
2.3.1	WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)	16
2.3.2	WS プログラムを独自に開発する (ユーザー WS ジョブの定義)	20
2.4	WS ジョブの実行	22
2.4.1	標準 WS ジョブが実行される仕組み	22
2.4.2	ユーザー WS ジョブが実行される仕組み	24
2.4.3	組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み	26
2.4.4	複数の WS ジョブの同時実行	27
2.5	WS ジョブの強制終了	29
2.6	JP1/AJS3 - SOA Option を導入したシステムの構築から運用までの流れ	30

## 第3編 設計編

3	設計	33
3.1	システム構成の設計 (Windows の場合)	34
3.1.1	システムの前提条件	34
3.1.2	システム構成	35
3.1.3	メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり	44
3.2	システム構成の設計 (UNIX の場合)	45
3.2.1	システムの前提条件	45
3.2.2	システム構成	46
3.2.3	メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり	55
3.3	JP1/AJS3 - SOA Option のアップグレード	56
3.3.1	JP1/AJS2 for Web Service から JP1/AJS3 - SOA Option へのアップグレード	56
3.3.2	JP1/AJS2 - View for Web Service から JP1/AJS3 - View for SOA Option へのアップグレード	56
3.3.3	バージョン互換	57

## 第4編 構築編

4	インストールとセットアップ (Windows の場合)	59
4.1	インストールとセットアップの流れ	60
4.2	前提アプリケーションのインストールとセットアップ	62
4.3	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール	65
4.4	WebLogic Server 10 以降に必要な設定	67
4.5	環境変数の設定	68
4.6	障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定	71
4.7	JP1/AJS での設定	74
4.7.1	WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定	74
4.7.2	WS ジョブ実行時のワークバスの設定	74
4.8	JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定	75
4.8.1	環境設定ファイルの定義手順	75
4.8.2	環境設定ファイルの定義	76
4.8.3	JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義	85

4.8.4	Web サービス接続環境の定義	86
4.9	運用環境に応じた設定	95
4.9.1	HTTP 基本認証を利用する場合の設定	95
4.9.2	HTTP プロキシサーバを利用する場合の設定	96
4.9.3	HTTPS 通信する場合の設定	98
4.9.4	Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する場合の設定 (Cosminexus Application Server 限定)	99
4.10	JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール	101

## 5

インストールとセットアップ (UNIX の場合)		103
5.1	インストールとセットアップの流れ	104
5.2	前提アプリケーションのインストールとセットアップ	106
5.3	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール	109
5.4	WebLogic Server 11g を使用する場合に必要設定	112
5.5	環境変数の設定	113
5.6	障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定	117
5.7	JP1/AJS での設定	119
5.7.1	WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定	119
5.7.2	WS ジョブ実行時のワークパスの設定	119
5.8	JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定	120
5.8.1	環境設定ファイルの定義手順	120
5.8.2	環境設定ファイルの定義	121
5.8.3	JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義	129
5.8.4	Web サービス接続環境の定義	130
5.9	運用環境に応じた設定	138
5.9.1	HTTP 基本認証を利用する場合の設定	138
5.9.2	HTTP プロキシサーバを利用する場合の設定	139
5.9.3	HTTPS 通信する場合の設定	141
5.9.4	Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する場合の設定 (Cosminexus Application Server 限定)	142
5.10	JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール	144

## 6

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ		145
6.1	JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール	146
6.1.1	Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista でのインストール	146
6.1.2	Windows Server 2003 および Windows XP Professional でのインストール	148

6.2	障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定 ( JP1/AJS3 - View for SOA Option の場合 )	150
6.3	JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定	152
6.3.1	環境設定手順	152
6.3.2	環境設定ファイルの定義	153
6.4	カスタムジョブを使用するための準備	155
6.4.1	カスタムジョブ登録の手順	155
6.4.2	カスタムジョブ登録で指定する内容	156
6.5	アンインストール	159
6.5.1	JP1/AJS3 - View for SOA Option のアンインストール	159

## 7

クラスタシステムでの運用と環境構築	161
7.1 クラスタシステムでの環境構築	162
7.2 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の動作	166

## 第 5 編 運用編

## 8

運用編の読み方	169
8.1 運用編の読み方	170

## 9

標準 WS ジョブの定義	171
9.1 標準 WS ジョブ定義の流れ	172
9.2 WSDL ファイルの取得	174
9.3 標準 WS ジョブの定義手順	175
9.3.1 標準 WS ジョブを定義する	175
9.3.2 標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ	184
9.4 入力メッセージにセットするパラメーターの値をファイルに設定する	186
9.4.1 入力パラメーターファイルの作成 ( 単純型の場合 )	186
9.4.2 XML 文書の作成 ( 複合型の場合 )	187

<b>10</b>	<b>ユーザー WS ジョブの定義</b>	<b>197</b>
10.1	ユーザー WS ジョブ定義の流れ	198
10.2	ユーザー WS プログラムの開発	199
10.2.1	ユーザー WS プログラムの開発環境	199
10.2.2	ユーザー WS プログラムの開発手順	199
10.2.3	WS プログラム提供インターフェース	201
10.2.4	ユーザー WS プログラムの実装例	204
10.2.5	ユーザー WS プログラムのインスタンス生成タイミング、インスタンス破棄 タイミング、およびメソッド実行タイミング	205
10.2.6	ユーザー WS プログラムの注意事項と制限事項	206
10.3	ユーザー WS ジョブの定義手順	208
10.3.1	ユーザー WS ジョブを定義する	208
10.3.2	ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ	213
<b>11</b>	<b>WS ジョブの実行</b>	<b>217</b>
11.1	WS ジョブ実行の流れ	218
11.2	WS ジョブ実行前の準備	219
11.2.1	Web アプリケーションサーバの起動	219
11.2.2	各種ファイルの確認	219
11.3	コントローラーの開始と終了 (Windows の場合)	221
11.3.1	コントローラーの開始	221
11.3.2	コントローラーの終了	221
11.3.3	コントローラーを自動で開始または終了する	222
11.4	コントローラーの開始と終了 (UNIX の場合)	224
11.4.1	コントローラーの開始	224
11.4.2	コントローラーの終了	224
11.4.3	コントローラーを自動で開始または終了する	224
11.5	WS ジョブの実行登録	227
11.6	WS ジョブ実行中の操作	228
11.6.1	WS ジョブの実行状況の確認	228
11.6.2	WS ジョブの強制終了	228
11.7	WS ジョブの実行結果の確認	230

<b>12</b>	<b>メンテナンス</b>	<b>237</b>
12.1	運用中の WS ジョブの実行抑止	238
12.2	バックアップとリカバリー	239
12.3	JP1/AJS3 - SOA Option が動作するホストの設定変更	242
12.3.1	JP1/AJS3 - SOA Option が使用するポート番号を変更する	242
12.3.2	ユーザー WS プログラムを変更 / 削除する	242
12.3.3	WS ジョブ実行ホストのホスト名を変更する	242
12.3.4	WS ジョブ実行ホストの IP アドレスを変更する	242
12.3.5	WS ジョブ実行ホストの日時を変更する	243

<b>13</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>245</b>
13.1	対処の手順	246
13.2	ログ情報	248
13.2.1	ログ情報の種類	248
13.2.2	稼働ログファイルおよびフォルダー一覧	248
13.3	トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法	253
13.4	トラブルへの対処方法	255
13.4.1	コントローラーが開始しない場合の対処	255
13.4.2	標準 WS ジョブの定義がエラーになった場合の対処 (Windows と UNIX に共通)	256
13.4.3	標準 WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処	256
13.4.4	ユーザー WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処	258

## 第 6 編 リファレンス編

<b>14</b>	<b>コマンド</b>	<b>261</b>
	コマンドの記述形式	262
	コマンド一覧	263
	ajswskillwsp	264
	ajswsstart (UNIX 限定)	266
	ajswsstatus	268
	ajswsstop (UNIX 限定)	273

ajswsvgetWSDL ( Windows 限定 )	275
ajsws_log	277
ajswsv_log ( Windows 限定 )	281

## 15 ウィンドウとダイアログボックス 285

15.1 [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックス	286
15.2 [ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックス	297
15.3 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス	298
15.4 [ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックス	300

## 16 メッセージ 303

16.1 メッセージの分類	304
16.2 メッセージの形式	305
16.3 メッセージの記載形式	306
16.4 メッセージの出力先	307
16.5 メッセージ一覧	312

## 付録 379

付録 A ファイルおよびフォルダー一覧	380
付録 B プロセス一覧	382
付録 C ポート番号一覧	384
付録 D 制限値一覧	385
付録 D.1 JP1/AJS3 - SOA Option の制限値一覧	385
付録 D.2 JP1/AJS3 - View for SOA Option の制限値一覧	386
付録 E WSDL のサポート範囲 ( Cosminexus Application Server の場合 )	387
付録 E.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( Cosminexus Application Server の場合 )	387
付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( Cosminexus Application Server の場合 )	391
付録 F WSDL のサポート範囲 ( WebSphere Application Server の場合 )	395
付録 F.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( WebSphere Application Server の場合 )	395
付録 F.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebSphere Application Server の場合 )	399
付録 G WSDL のサポート範囲 ( WebLogic Server の場合 )	403
付録 G.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( WebLogic Server の場合 )	403

付録 G.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (WebLogic Server の場合)	407
付録 H 用語解説	411

---

<b>索引</b>	417
-----------	-----

---

# 1

## JP1/AJS3 - SOA Option の概要

この章では、JP1/AJS3 - SOA Option の特長について説明します。

---

1.1 JP1/AJS3 - SOA Option の特長

---

1.2 使用できる Web アプリケーションサーバ

---

## 1.1 JP1/AJS3 - SOA Option の特長

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/AJS と Web システムとを連携させた運用ができます。運用方法は、次の 2 種類から選択できます。

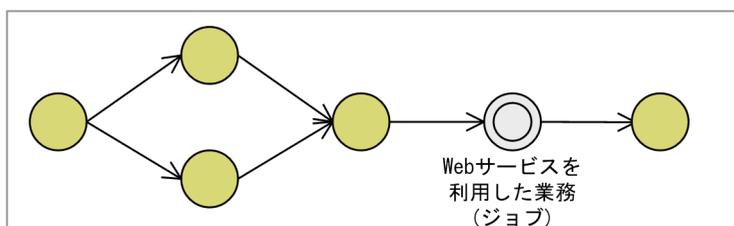
- Web サービスを利用した業務の自動化
- Web システムからの JP1/AJS 業務の呼び出し

それぞれの特長を説明します。

### 1.1.1 Web サービスを利用した業務の自動化

JP1/AJS3 - SOA Option は、Web サービスを利用した業務の自動化を支援します。次の図のように、JP1/AJS で自動化している一連の業務（ジョブネット）に、Web サービスを利用した業務（ジョブ）を効率良く組み込みます。

図 1-1 ジョブネットに Web サービスを利用した業務を組み込んだ例



このような運用は、JP1/AJS3 - SOA Option の、「JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能」によって実現します。

ここでは、「JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能」を使用した場合の特長について説明します。

なお、「JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能」を使った運用およびシステムの構築については、このマニュアルで解説します。

#### (1) Web サービスクライアントの開発不要

従来の JP1/AJS では、自動化している業務（ジョブ）に Web サービスクライアント（Web サービスのクライアントプログラム）の実行を定義することで、Web サービスの呼び出しを実現していました。ジョブに定義する Web サービスクライアントは、独自に開発する必要がありました。

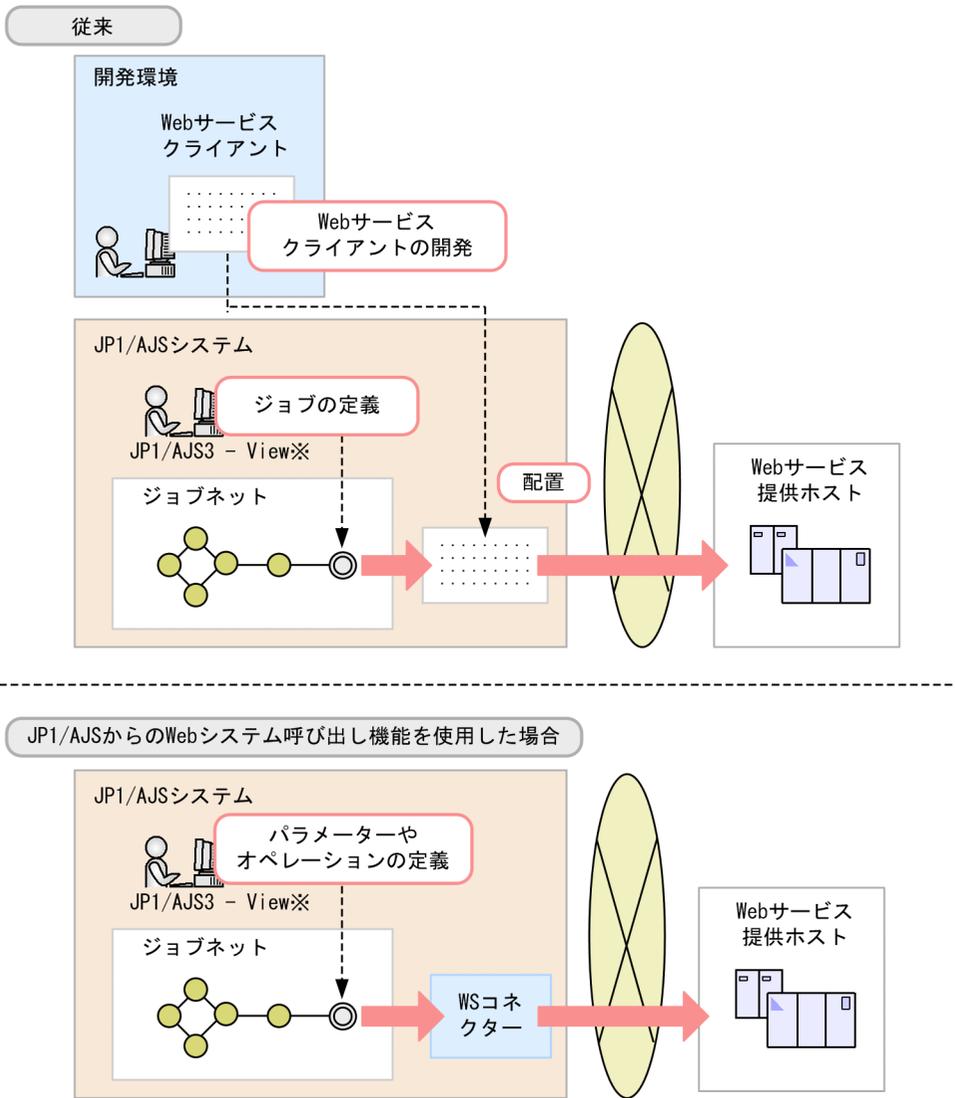
JP1/AJS3 - SOA Option を導入すると、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の GUI から、接続する Web サービスに渡すパラメーターやオペレーションをジョブに定義するだけで、JP1/AJS から Web サービスを呼び出せます。このような、Web サービス

の呼び出しを定義したジョブを WS ジョブといいます。

従来と JP1/AJS から Web システム呼び出し機能を使用した場合との違いを次の図に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option の概要

図 1-2 従来と JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を使用した場合との違い



(凡例)

- : ユーザーが行う作業
- ◎ : Webサービスクライアントの実行を定義したジョブ (WSジョブ)
- ➔ : Webサービスを呼び出す流れ

注※

JP1/AJS2 - Viewでも可能

図中にある WS コネクタとは、JP1/AJS3 - SOA Option が用意している Web サービスクライアントです。WS コネクタを利用することで、Web サービスクライアントを開

発することなく、Web サービスに接続できます。

## (2) 既存の Web サービスクライアントの有効活用

(1) では、Web サービスクライアントの開発が不要である、という特長を示しましたが、すでに Web サービスクライアントを開発してある場合でも、その Web サービスクライアントを利用して JP1/AJS から Web サービスに接続できます。既存の Web サービスクライアントに、JP1/AJS3 - SOA Option が規定しているインターフェースを実装することで、Web サービスへの接続を実現します。以降、Web サービスクライアントにインターフェースを実装したプログラムを、ユーザー WS プログラムと表記します。

## (3) Web サービスクライアントの高速起動

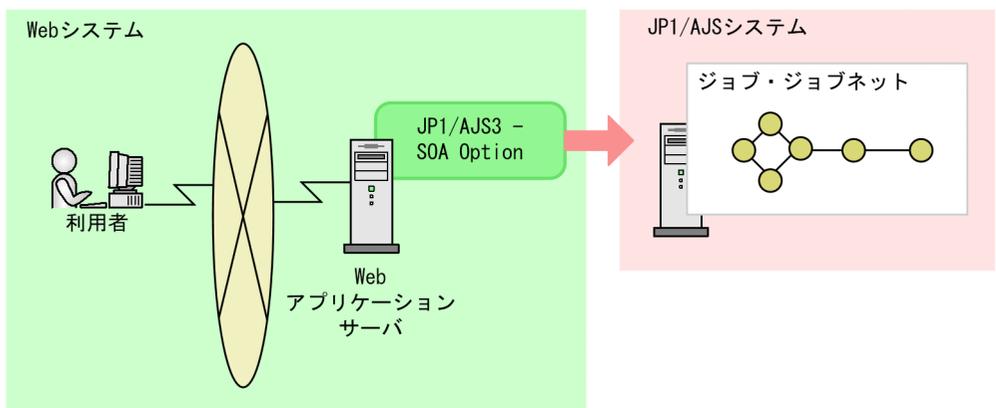
従来の JP1/AJS で、Web サービスクライアントをジョブネットに組み込んで運用していた場合、ジョブネットの実行時に JavaVM の起動処理が実行されるため、ジョブネットの起動に時間が掛かるという問題がありました。

しかし、JP1/AJS3 - SOA Option を導入すると、WS ジョブを実行するホストの OS 上に JavaVM を常駐し、WS コネクタまたはユーザー WS プログラムをスレッドとして実行することで、ジョブネットを高速に起動できます。

## 1.1.2 Web システムからの JP1/AJS 業務の呼び出し

JP1/AJS3 - SOA Option は、Web システムからの JP1/AJS 業務の呼び出しを支援します。次の図のように、JP1/AJS で自動化している一連の業務（ジョブ・ジョブネット）を、Web システムから呼び出せます。

図 1-3 JP1/AJS の業務を Web システムから呼び出すイメージ



(凡例)

 : JP1/AJSのジョブ・ジョブネットをWebシステムから呼び出す流れを示します。

## 1. JP1/AJS3 - SOA Option の概要

このような運用は、JP1/AJS3 - SOA Option の、「Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能」によって実現します。

ここでは、「Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能」を使用した場合の特長について説明します。

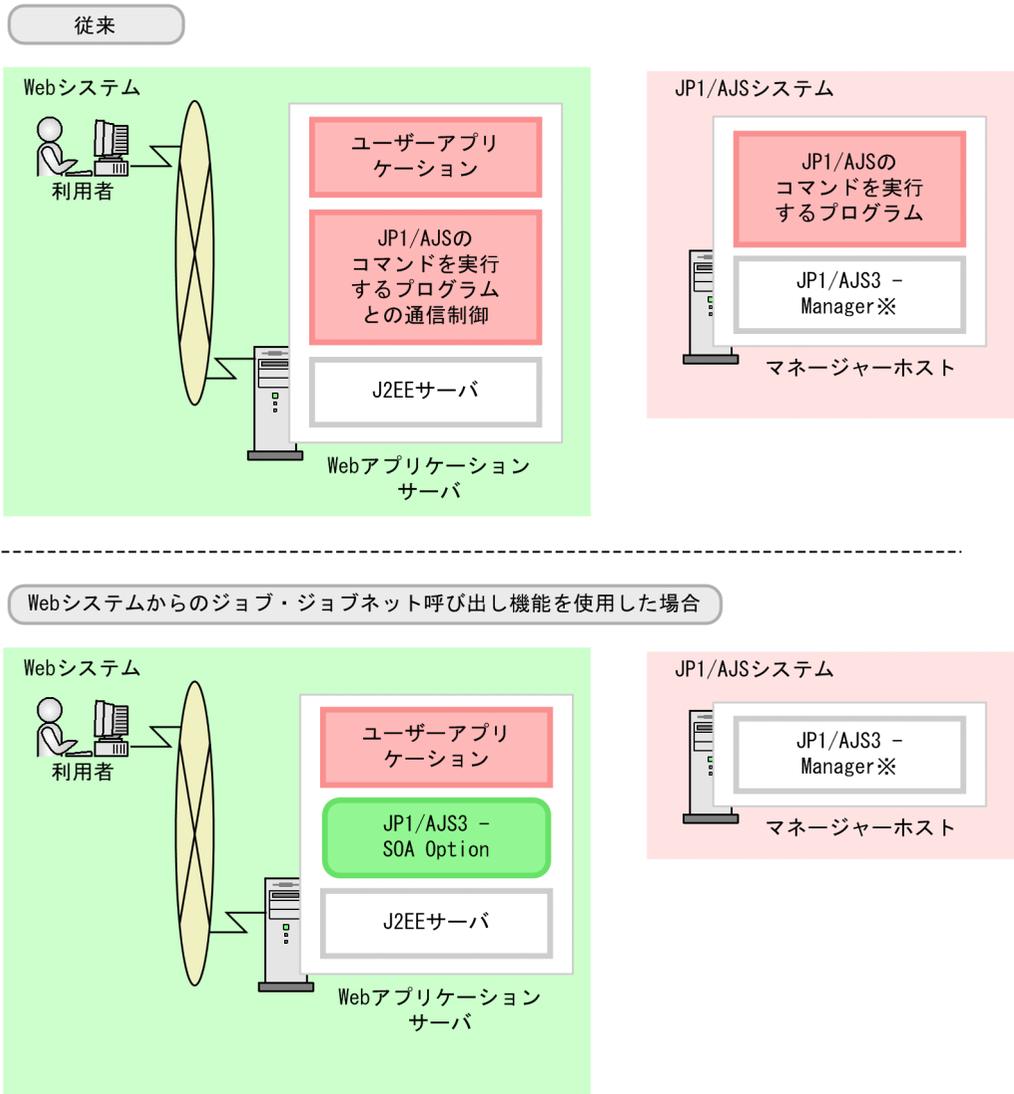
なお、「Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能」を使った運用およびシステムの構築については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option ジョブ・ジョブネット呼び出し機能編」で解説します。

従来、Web システムのユーザーアプリケーションから JP1/AJS の業務（ジョブ・ジョブネット）を実行するためには、次の作業を行う必要がありました。

- ジョブ・ジョブネットを実行する JP1/AJS のコマンドを起動するプログラムの作成
- JP1/AJS のコマンドを起動するプログラムの運用方式の検討

Web システムに JP1/AJS3 - SOA Option を導入すると、JP1/AJS のコマンドを起動するプログラムの作成や運用方式の変更をすることなく、Web システムからジョブ・ジョブネットの実行ができます。従来と Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能を使用した場合との違いを次の図に示します。

図 1-4 従来と Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能を使用した場合との違い



- (凡例)
- : ユーザーが作成するプログラム
  - : ユーザーが作成しないでよいプログラム

注※  
JP1/AJS2 - Managerでも可能

利用者は、JP1/AJS3 - SOA Option のライブラリが提供する機能を利用したアプリケーション（以降、ユーザーアプリケーションと表記します）を作成するだけで、JP1/AJS の呼び出しができます。

## 1. JP1/AJS3 - SOA Option の概要

なお、ユーザーアプリケーションは、Web アプリケーション上で動作するプログラム（サーブレットまたは JSP）を前提としています。

## 1.2 使用できる Web アプリケーションサーバ

---

ここでは、JP1/AJS3 - SOA Option に対応する Web アプリケーションサーバを、JP1/AJS3 - SOA Option の機能ごとに説明します。

### 1.2.1 JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の場合

JP1/AJS3 - SOA Option は、Web アプリケーションサーバに接続して、業務に必要な Web サービスを呼び出します。JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web アプリケーションサーバは次のとおりです。

- Cosminexus Application Server
- WebSphere Application Server
- WebLogic Server

システムの構成については、「2.1 JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像」を参照してください。

### 1.2.2 Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能の場合

JP1/AJS3 - SOA Option は、Web アプリケーションサーバで動作する J2EE アプリケーションとなって、ジョブ・ジョブネットを呼び出します。

JP1/AJS3 - SOA Option が動作できる Web アプリケーションサーバは、次のとおりです。

- Cosminexus Application Server
- WebSphere Application Server
- WebLogic Server

システムの構成については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 - SOA Option ジョブ・ジョブネット呼び出し機能編」を参照してください。



# 2

## JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

この章では、JP1/AJS3 - SOA Option が提供する、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合のシステム全体像、機能の概要、およびシステム構築から運用までの流れについて説明します。

---

2.1 JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像

---

2.2 JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の概要

---

2.3 WS ジョブの定義

---

2.4 WS ジョブの実行

---

2.5 WS ジョブの強制終了

---

2.6 JP1/AJS3 - SOA Option を導入したシステムの構築から運用までの流れ

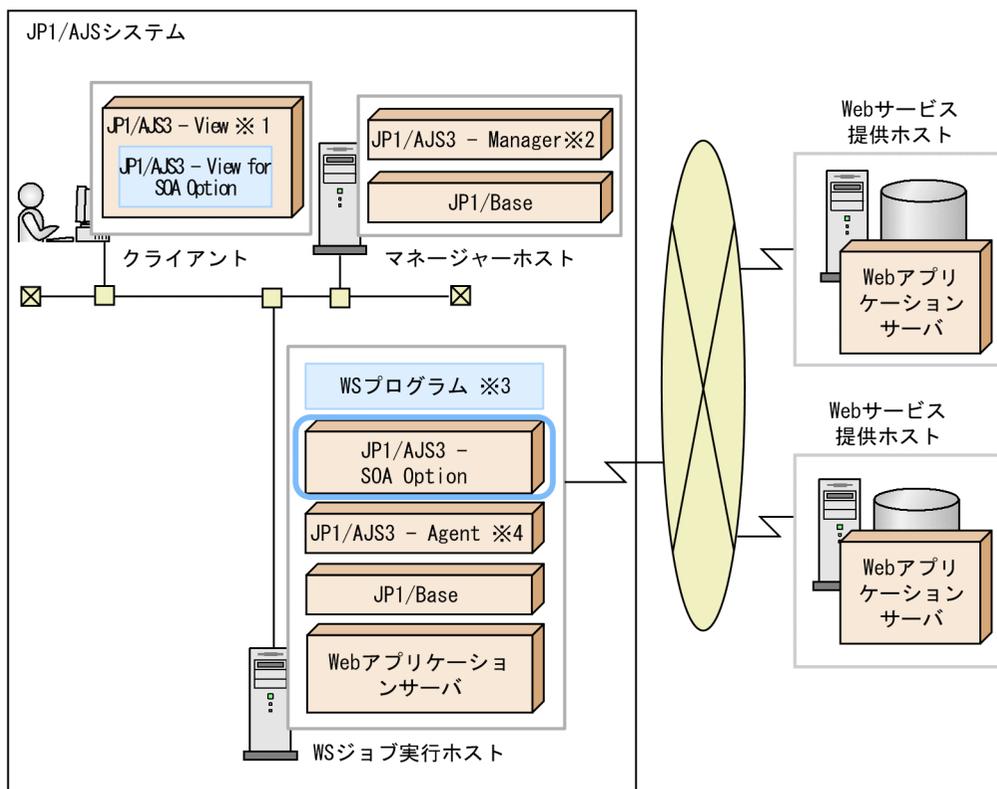
---

## 2.1 JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像

JP1/AJS3 - SOA Option の JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の説明をする前に、JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像を説明します。

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像を次の図に示します。

図 2-1 JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 「WSプログラム」は、WSコネクタとユーザーWSプログラムの総称です。

注※4 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

JP1/AJS3 - SOA Option のシステムの構成要素について説明します。

### クライアント

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View , および JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールしたホストです。

WS ジョブを定義したり、実行状況を確認したりできます。

JP1/AJS3 - View for SOA Option は、WS ジョブを定義する際に JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View と連携して動作するコンポーネントです。JP1/AJS3 - SOA

Option に含まれています。

#### マネージャーホスト

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager をインストールしたホストです。WS ジョブの定義情報を管理したり、WS ジョブの実行要求を WS ジョブ実行ホストに送信したりします。

#### WS ジョブ実行ホスト

JP1/AJS3 - SOA Option をインストールしたホストです。

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent、および Web アプリケーションサーバ (Cosminexus Application Server、WebSphere Application Server、または WebLogic Server) と同じホストにインストールします。JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で WS ジョブを実行する場合は、マネージャーホストに JP1/AJS3 - SOA Option および Web アプリケーションサーバをインストールします。

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager からの WS ジョブの実行要求を受けて WS プログラムを実行し、Web サービス提供ホストにサービスの要求を送信します。

#### 注

組み込み SOAP クライアントライブラリを使用するとき、WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server は不要です。組み込み SOAP クライアントライブラリについては、「2.4.3 組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み」を参照してください。

#### Web サービス提供ホスト

Web サービスを提供するホストです。

WS ジョブ実行ホストから送信された要求に基づいて必要な処理を実行し、処理結果を WS ジョブ実行ホストに返信します。

これらのホストにあるアプリケーションによって、WS ジョブを実行します。システム構成の詳細については、次の個所を参照してください。

#### WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「3.1 システム構成の設計 (Windows の場合)」を参照してください。

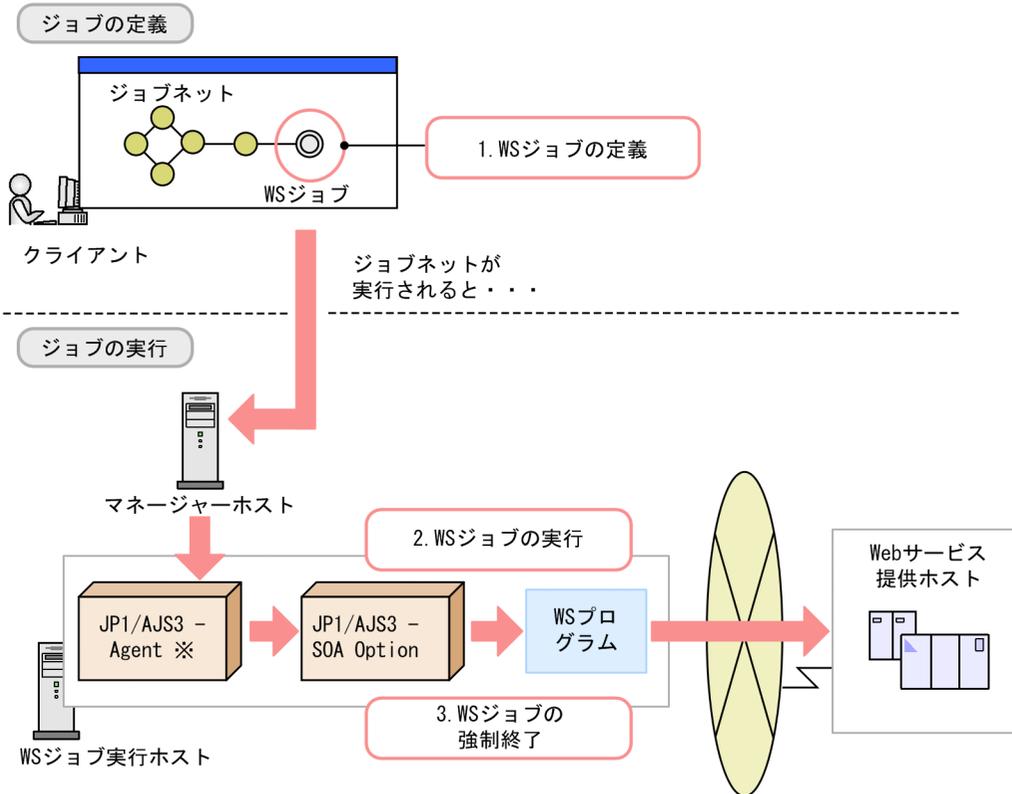
#### WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「3.2 システム構成の設計 (UNIX の場合)」を参照してください。

## 2.2 JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能の概要

JP1/AJS3 - SOA Option の JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能概要を次の図に示します。

図 2-2 JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能概要



(凡例)

○ : 機能を示します。

注※

JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

それぞれの機能について説明します。

### 1. WS ジョブの定義

JP1/AJS から Web サービスに接続する WS ジョブを定義する機能です。

### 2. WS ジョブの実行

WS ジョブの実行を契機に、WS プログラムを実行する機能です。

### 3.WS ジョブの強制終了

実行中の WS ジョブを強制終了する機能です。

次節から、それぞれの機能の詳細を説明します。

## 2.3 WS ジョブの定義

---

WS ジョブの定義方法は、次の 2 種類から選択できます。

WS プログラムを GUI で作成する（標準 WS ジョブの定義）

WS プログラムを独自に開発する（ユーザー WS ジョブの定義）

それぞれの機能について説明します。

### 2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する（標準 WS ジョブの定義）

Web サービスクライアントの開発なしで Web サービスに接続できる WS ジョブを定義する機能です。以降、この WS ジョブを標準 WS ジョブと表記します。

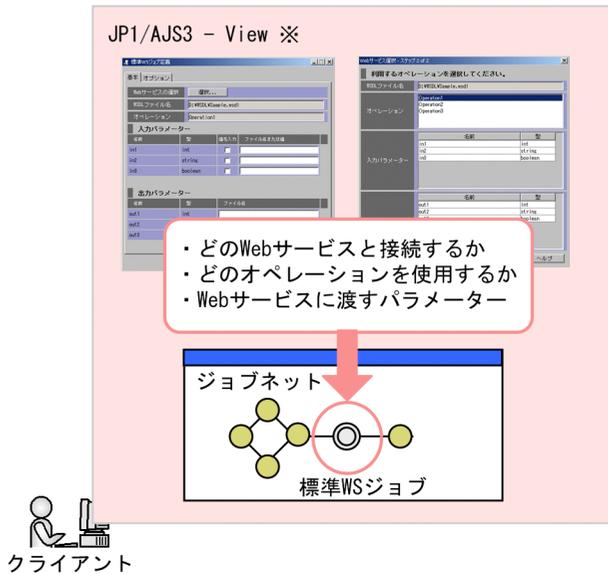
標準 WS ジョブには、次の項目を定義します。

- どの Web サービスと接続するか
- どのオペレーションを使用するか
- Web サービスに渡すパラメーター

標準 WS ジョブでは、Web サービスとの通信に SOAP を使用します。使用できる SOAP のバージョンは 1.1 です。

標準 WS ジョブを定義するイメージを次に示します。

図 2-3 標準 WS ジョブを定義するイメージ



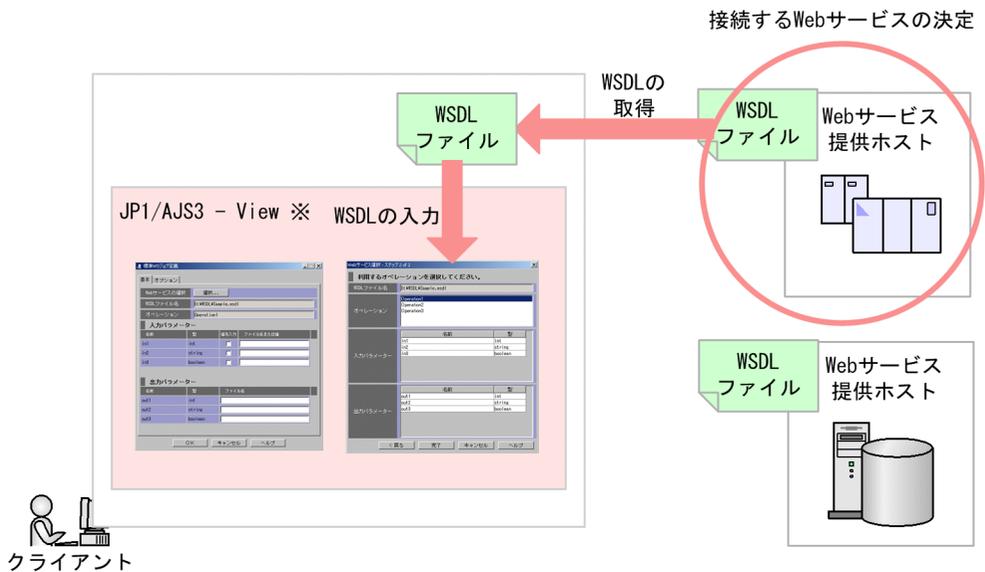
注※  
JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

標準 WS ジョブの定義の詳細を説明します。

まず、どの Web サービスと接続するかを定義します。クライアントで、接続する Web サービスの WSDL ファイルを取得し、標準 WS ジョブの定義画面に入力します。

## 2. JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

図 2-4 接続する Web サービスの定義概要

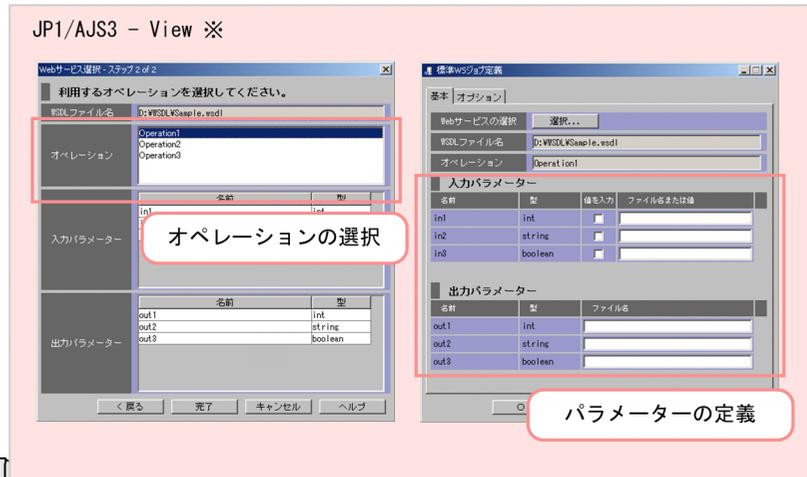


注※ JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

次に、どのオペレーションを使用するか、および Web サービスに渡すパラメーターを定義します。

取得した WSDL ファイルに定義されているオペレーションやパラメーターのデータ型が、標準 WS ジョブの定義画面に表示されます。そこでオペレーションを選択し、Web サービスに渡すパラメーターの値を定義します。

図 2-5 使用するオペレーションとパラメーターの定義概要



クライアント

注※  
JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

パラメーターのデータ型については、標準 WS ジョブによる Web サービス接続では、次の型を使用できます。

- 単純型（XML Schema の基本データ型）  
単純型の場合、入力パラメーターの値を JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログに直接指定できます。
- 複合型（配列型と列挙型を含む）  
単純型以外のデータ型です。  
複合型の場合、入力パラメーターの値を XML 形式で記述し、JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログに XML ファイルのパスを指定します。  
ただし、複合型を使用できるのは、次の場合に限られます。
  - JP1/AJS3 - SOA Option 09-50 以降の場合
  - WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server を置き、Cosminexus の SOAP クライアントライブラリを使用している場合
  - 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用している場合  
組み込み SOAP クライアントライブラリは、JP1/AJS3 - SOA Option に組み込まれている SOAP クライアントライブラリです。詳細は、「2.4.3 組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み」を参照してください。

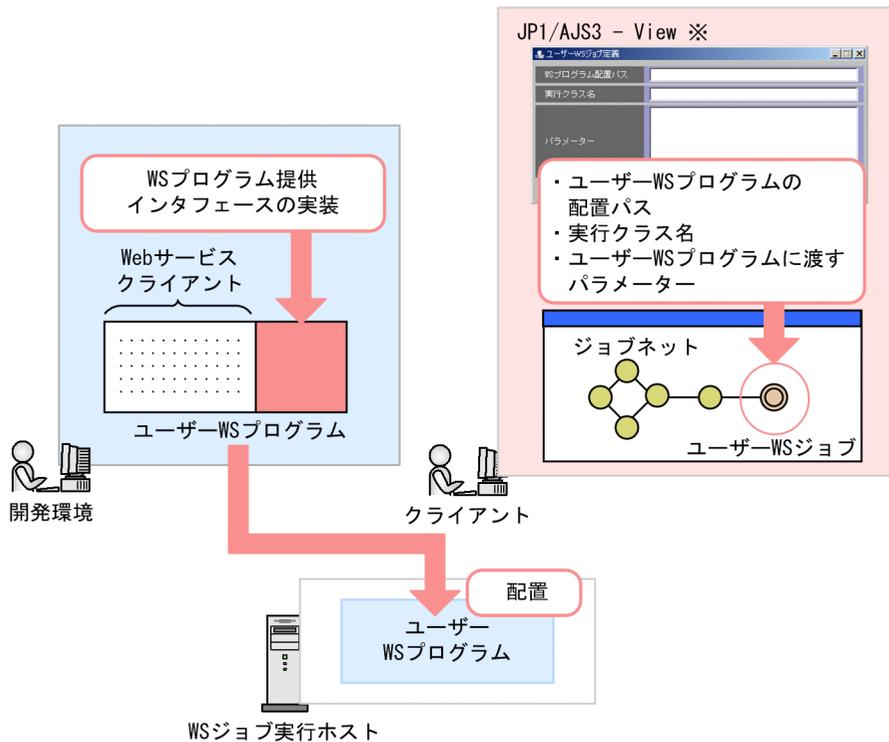
JP1/AJS3 - SOA Option でサポートするデータ型については、「付録 E WSDL のサポート範囲（Cosminexus Application Server の場合）」、「付録 F WSDL のサポート範囲（WebSphere Application Server の場合）」、または「付録 G WSDL のサポート範囲（WebLogic Server の場合）」を参照してください。

## 2.3.2 WS プログラムを独自に開発する (ユーザー WS ジョブの定義)

既存の Web サービスクライアントを活用して、Web サービスに接続できる WS ジョブを定義する機能です。以降、この WS ジョブをユーザー WS ジョブと表記します。

ユーザー WS ジョブを定義するイメージを次に示します。

図 2-6 ユーザー WS ジョブを定義するイメージ



(凡例)

○ : ユーザーの作業を示します。

注※

JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

既存の Web サービスクライアントを利用するには、既存の Web サービスクライアントに WS プログラム提供インターフェースを実装する必要があります。WS プログラム提供インターフェースは、JP1/AJS3 - SOA Option が規定するインターフェースで、Web サービスクライアントの呼び出し口となります。Web サービスクライアントに WS プログラム提供インターフェースを実装したものが、ユーザー WS プログラムとなります。

ユーザー WS プログラムを実装したら、WS ジョブ実行ホストに配置します。

次に、ユーザー WS ジョブの定義をします。ユーザー WS ジョブの定義では、次の内容

を定義します。

- ユーザー WS プログラムの配置パス
- 実行クラス名
- ユーザー WS プログラムに渡すパラメーター

## 2.4 WS ジョブの実行

---

JP1/AJS3 - SOA Option は、WS ジョブを実行する機能を用意しています。ここでは、WS ジョブが実行される仕組みについて、次の場合に分けて説明します。

- 標準 WS ジョブの実行
- ユーザー WS ジョブの実行
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用した WS ジョブの実行

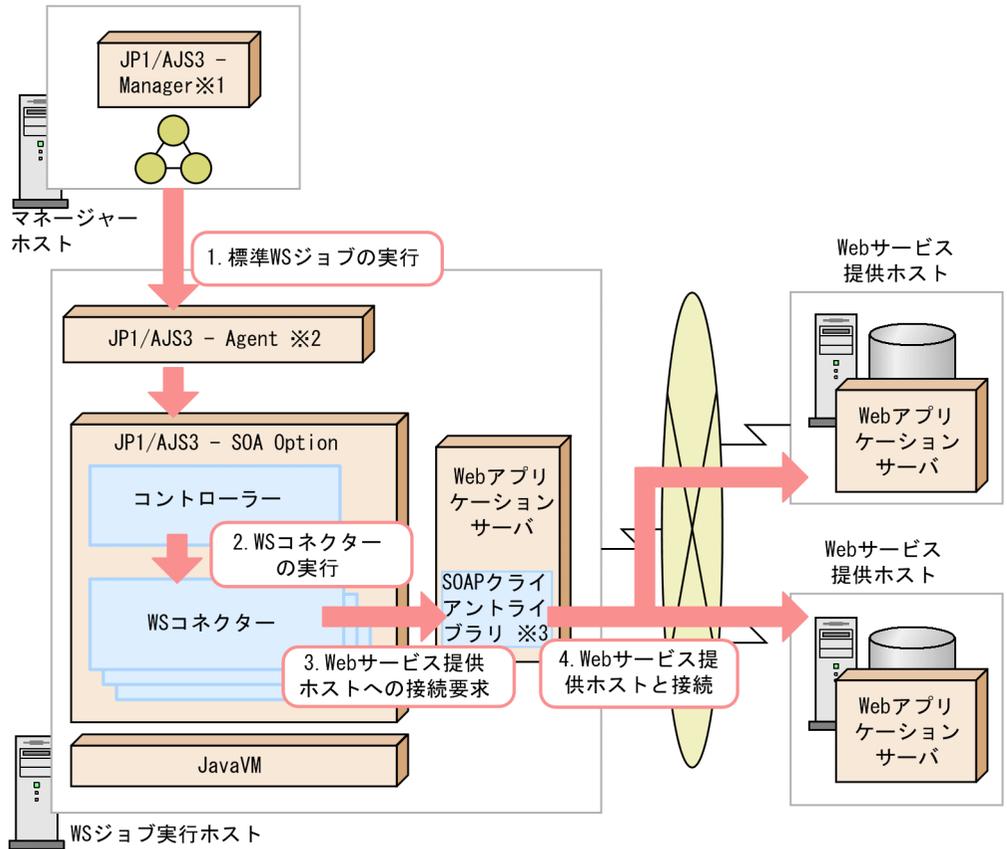
### 2.4.1 標準 WS ジョブが実行される仕組み

ここでは、標準 WS ジョブが実行される仕組みを説明します。

標準 WS ジョブが実行されると WS コネクタが、JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネント「コントローラー」で実行されます。

標準 WS ジョブを実行する仕組みを次の図に示します。

図 2-7 標準 WS ジョブが実行される仕組み



注※1 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

注※3 CosminexusのSOAPクライアントライブラリ、WebSphere Application ServerのSOAPクライアントライブラリ、またはWebLogic ServerのSOAPクライアントライブラリを指します。

### 1. 標準 WS ジョブの実行

マネージャーホストは、実行登録された標準 WS ジョブが実行されると、WS ジョブ実行ホストの JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent に標準 WS ジョブの実行を要求します。

JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent は、JP1/AJS3 - SOA Option のコントローラーに WS コネクタの実行を要求します。

### 2. WS コネクタの実行

JP1/AJS3 - SOA Option のコントローラーは、WS コネクタを実行します。

### 3. Web サービス提供ホストへの接続要求

WS コネクタは、Web アプリケーションサーバの SOAP クライアントライブラリに対して Web サービス提供ホストへの接続を要求します。

## 2. JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

### 4. Web サービス提供ホストと接続

Web アプリケーションサーバの SOAP クライアントライブラリが Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバに接続します。

#### 注

マネージャーホストに JP1/AJS3 - SOA Option をインストールし、標準 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合は、マネージャーホストで WS コネクターが実行されます。

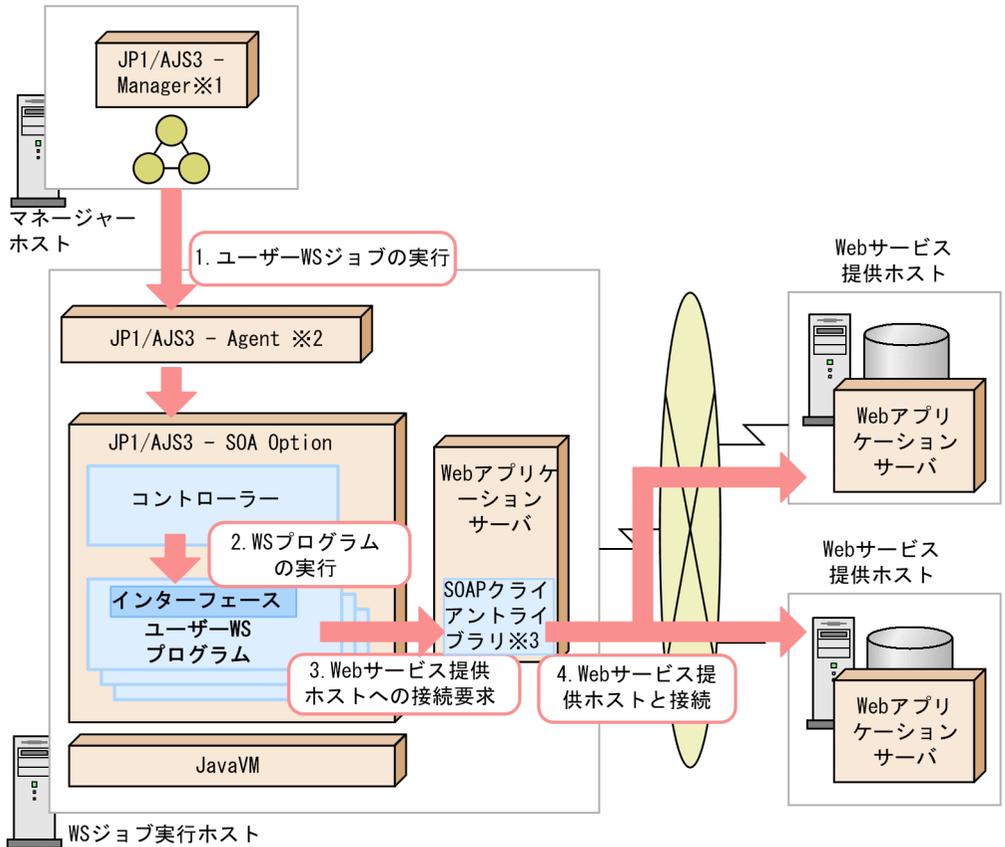
## 2.4.2 ユーザー WS ジョブが実行される仕組み

ここでは、ユーザー WS ジョブが実行される仕組みを説明します。

ユーザー WS ジョブが実行されるとユーザー WS プログラムが、JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネント「コントローラー」で実行されます。

ユーザー WS ジョブを実行する仕組みを次の図に示します。

図 2-8 ユーザー WS ジョブが実行される仕組み



注※1 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

注※3 CosminexusのSOAPクライアントライブラリ、WebSphere Application ServerのSOAPクライアントライブラリ、またはWebLogic ServerのSOAPクライアントライブラリを指します。

### 1. ユーザー WS ジョブの実行

マネージャーホストは、実行登録されたユーザー WS ジョブが実行されると、WS ジョブ実行ホストの JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent にユーザー WS ジョブの実行を要求します。

JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent は、JP1/AJS3 - SOA Option のコントローラーにユーザー WS プログラムの実行を要求します。

### 2. ユーザー WS プログラムの実行

JP1/AJS3 - SOA Option のコントローラーは、ユーザー WS プログラムに実装された JP1/AJS3 - SOA Option 規定のインターフェースを呼び出して、ユーザー WS プログラムを実行します。JP1/AJS3 - SOA Option 規定のインターフェースについては、「2.3.2 WS プログラムを独自に開発する (ユーザー WS ジョブの定義)」を参照してください。

## 2. JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

### 3. Web サービス提供ホストへの接続要求

ユーザー WS プログラムは、Web アプリケーションサーバの SOAP クライアントライブラリに対して Web サービス提供ホストへの接続を要求します。

### 4. Web サービス提供ホストと接続

Web アプリケーションサーバの SOAP クライアントライブラリが Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバに接続します。

#### 注

マネージャーホストに JP1/AJS3 - SOA Option をインストールし、ユーザー WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合は、マネージャーホストでユーザー WS プログラムが実行されます。

## 2.4.3 組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み

### ! 注意事項

ここで説明する機能は、WS ジョブ実行ホストが Linux の場合、使用できません。

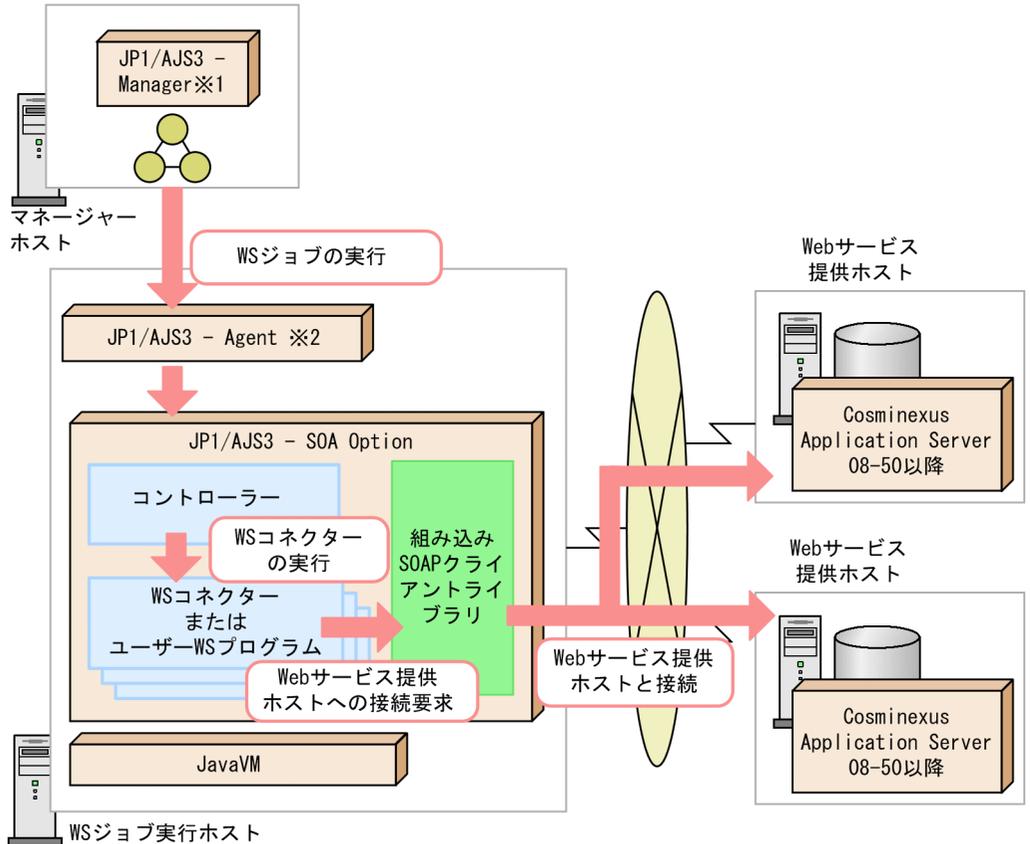
「2.4.1 標準 WS ジョブが実行される仕組み」と「2.4.2 ユーザー WS ジョブが実行される仕組み」では、WS ジョブ実行ホストに、接続する Web アプリケーションサーバと同じ Web アプリケーションを置いた場合の WS ジョブ実行の仕組みを説明しました。

WS ジョブ実行ホストが Windows の場合、接続する Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server 08-50 以降のとき、WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server を置くことなく、WS ジョブ（標準 WS ジョブおよびユーザー WS ジョブ）を実行できます。

Windows 版の JP1/AJS3 - SOA Option には、Cosminexus Application Server 08-50 以降の SOAP クライアントライブラリが組み込まれています。以降、組み込まれた SOAP クライアントライブラリを、「組み込み SOAP クライアントライブラリ」と表記します。

WS ジョブ実行ホストが Windows の場合、Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server 08-50 以降のとき、組み込み SOAP クライアントライブラリを使うことで、次の図のように、WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server がなくても WS ジョブを実行できます。

図 2-9 WS ジョブが実行される仕組み（組み込み SOAP クライアントライブラリを使用した場合）



注※1 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

## 2.4.4 複数の WS ジョブの同時実行

WS ジョブは、同時に複数実行できます。

WS ジョブを同時に複数実行させるためには、次の作業が必要です。

同時に実行する WS ジョブの数に合わせてメモリー所要量を見積もる

同時に実行する WS ジョブ数のメモリー所要量を見積もる方法については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「3.1.3 メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

## 2. JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

「3.2.3 メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり」を参照してください。

WS ジョブの最大同時実行数を設定する

次の環境設定が必要です。

- JP1/AJS の環境設定にあるジョブ実行多重度の設定

設定方法については、WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、「4.7.1 WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合、「5.7.1 WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定」を参照してください。

- JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定にある、同時に実行させる WS ジョブの最大数の設定

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定については、WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合、「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

## 2.5 WS ジョブの強制終了

---

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View から、実行中の WS ジョブを強制終了できます。

WS ジョブを強制終了すると、WS ジョブの実行プログラムである WS プログラムも強制終了されます。

詳細は、「11.6.2 WS ジョブの強制終了」を参照してください。

## 2.6 JP1/AJS3 - SOA Option を導入したシステムの構築から運用までの流れ

JP1/AJS3 - SOA Option を使用して Web サービスと接続した業務を、設計、構築、運用するまでの流れについて説明します。

### 1. 設計

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の設計、および JP1/AJS3 - SOA Option のメモリー所要量とディスク占有量の見積もりをする必要があります。  
設計の詳細は、「3. 設計」を参照してください。

### 2. 構築

JP1/AJS のシステムに JP1/AJS3 - SOA Option、および JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールして、環境を設定します。

OS が Windows の WS ジョブ実行ホストに JP1/AJS3 - SOA Option をインストールする場合は、「4. インストールとセットアップ (Windows の場合)」を参照してください。OS が UNIX の WS ジョブ実行ホストに JP1/AJS3 - SOA Option をインストールする場合は、「5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)」を参照してください。

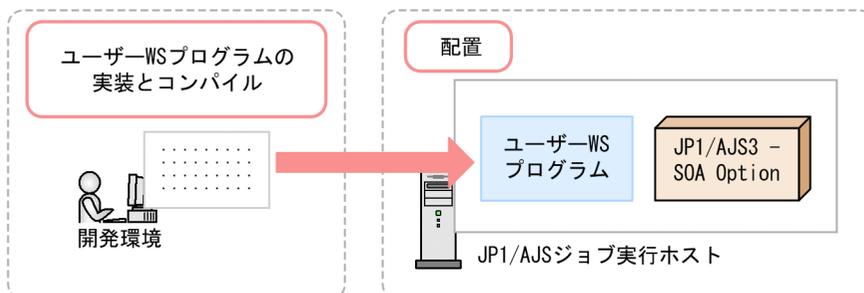
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップについては、「6. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ」を参照してください。

### 3. 運用-1 ユーザー WS プログラムの実装、コンパイル、および配置 (ユーザー WS プログラムを開発する場合にだけ必要な運用です)

ユーザー WS プログラムには、規定されたインターフェースを実装する必要があります。実装したら、ユーザー WS プログラムをコンパイルして WS ジョブ実行ホストに配置します。

ユーザー WS プログラムの実装、コンパイル、および配置をする例を次の図に示します。

図 2-10 ユーザー WS プログラムの実装、コンパイル、および配置



ユーザー WS プログラムを実行する機能については、「2.4 WS ジョブの実行」を参照

してください。

また、ユーザー WS プログラムの実装、コンパイル、および配置については、「10.2 ユーザー WS プログラムの開発」を参照してください。

#### 4. 運用 -2 WS ジョブの定義

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で、WS ジョブを定義します。

WS ジョブの定義には、次の 2 種類あります。

WS ジョブの実行プログラムに WS コネクタを定義する場合

Web サービスクライアントを開発することなく、Web サービスに接続できる WS ジョブを定義する方法です。

この機能の詳細については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する（標準 WS ジョブの定義）」を参照してください。

操作の詳細については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

WS ジョブの実行プログラムにユーザー WS プログラムを定義する場合

手順 3 で開発したユーザー WS プログラムを利用して、Web サービスに接続できる WS ジョブを定義する方法です。

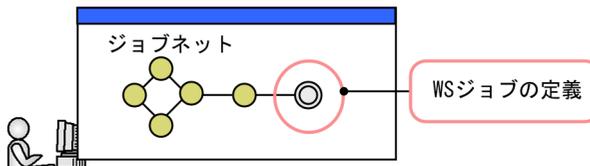
この機能の詳細については、「2.3.2 WS プログラムを独自に開発する（ユーザー WS ジョブの定義）」を参照してください。

操作の詳細については、「10. ユーザー WS ジョブの定義」を参照してください。

どちらの WS ジョブも、カスタムジョブとして定義します。

定義した WS ジョブをジョブネットに組み込む例を次の図に示します。

図 2-11 WS ジョブの定義



JP1/AJS3 - View ※

注※

JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

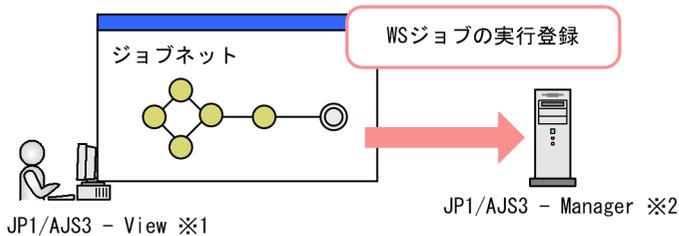
#### 5. 運用 -3 WS ジョブの実行

WS ジョブを定義できたら、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に実行登録します。

定義した WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に実行登録する例を次の図に示します。

## 2. JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能

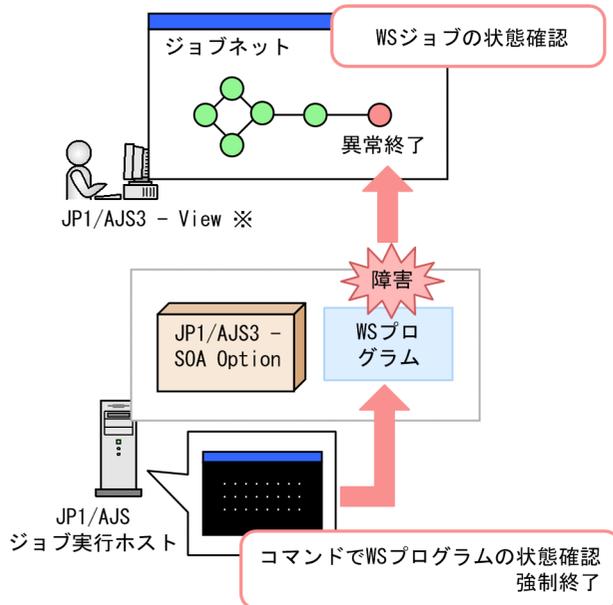
図 2-12 WS ジョブの実行登録



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。  
注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

WS ジョブの実行中は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で実行状態を確認  
できます。  
また、WS ジョブ実行中の操作例を次の図に示します。

図 2-13 WS ジョブ実行中の操作



注※  
JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

WS ジョブの実行登録および WS ジョブの実行中の操作については、「11. WS ジョブ  
の実行」を参照してください。

# 3

## 設計

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合の、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステム構成の設計について説明します。また、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option で効率良く運用するための見積もりについても説明します。

---

3.1 システム構成の設計（Windows の場合）

---

3.2 システム構成の設計（UNIX の場合）

---

3.3 JP1/AJS3 - SOA Option のアップグレード

---

## 3.1 システム構成の設計（Windows の場合）

---

Windows 版 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するシステムの前提条件，およびシステムの構成について説明します。

### 3.1.1 システムの前提条件

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホスト環境の前提条件を次に示します。

#### (1) 前提 OS

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホストの OS は，次のとおりです。

JP1/AJS3 - SOA Option

Windows Server 2008 または Windows Server 2003

JP1/AJS3 - View for SOA Option

Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista，Windows Server 2003，または Windows XP Professional

なお，適用 OS のバージョン，JP1/AJS3 - SOA Option が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については，リリースノートで確認してください。

#### (2) 前提プログラム

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホストの前提プログラムは，次のとおりです。

なお，Web アプリケーションサーバのバージョン，リビジョンなどの詳細については，リリースノートで確認してください。

WS ジョブ実行ホスト

- JP1/AJS3 - Agent 09-00 以降，JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降，JP1/AJS2 - Agent 08-00 以降，または JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降
  - Cosminexus Application Server 07-10 以降，WebSphere Application Server V6.102 以降，または WebLogic Server 9.2 以降
- Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバと同一にする必要があります。

注

組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合，WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server は不要です。組み込み SOAP クライアントライブラリについては，「2.4.3 組み込み SOAP クライアントライブラリを

使った WS ジョブ実行の仕組み」を参照してください。

#### クライアント

JP1/AJS3 - View 09-00 以降または JP1/AJS2 - View 08-00 以降

#### マネージャーホスト

JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降または JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降

#### Web サービス提供ホスト

次の中から選択できます。

- Cosminexus Application Server 07-10 以降  
Cosminexus Application Server を使用する場合、JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは、Cosminexus の SOAP アプリケーションです。
- WebSphere Application Server V6.102 以降  
WebSphere Application Server を使用する場合、JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは、WebSphere Application Server の SOAP アプリケーションです。
- WebLogic Server 9.2 以降  
WebLogic Server を使用する場合、JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは、WebLogic Server の SOAP アプリケーションです。

### 3.1.2 システム構成

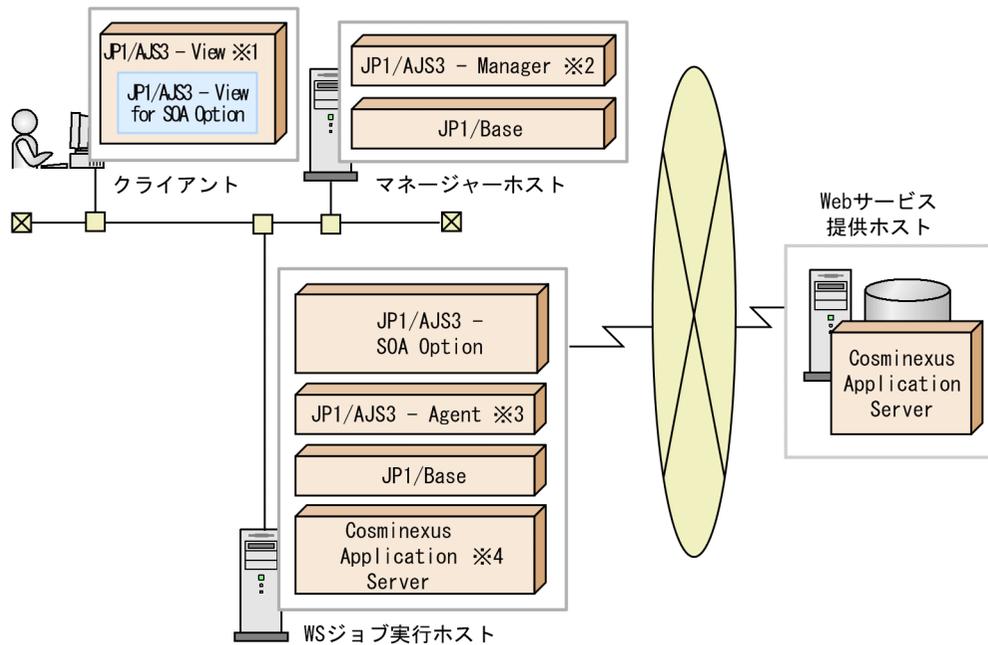
JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステム構成について説明します。

#### (1) 基本構成例

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例を次に示します。

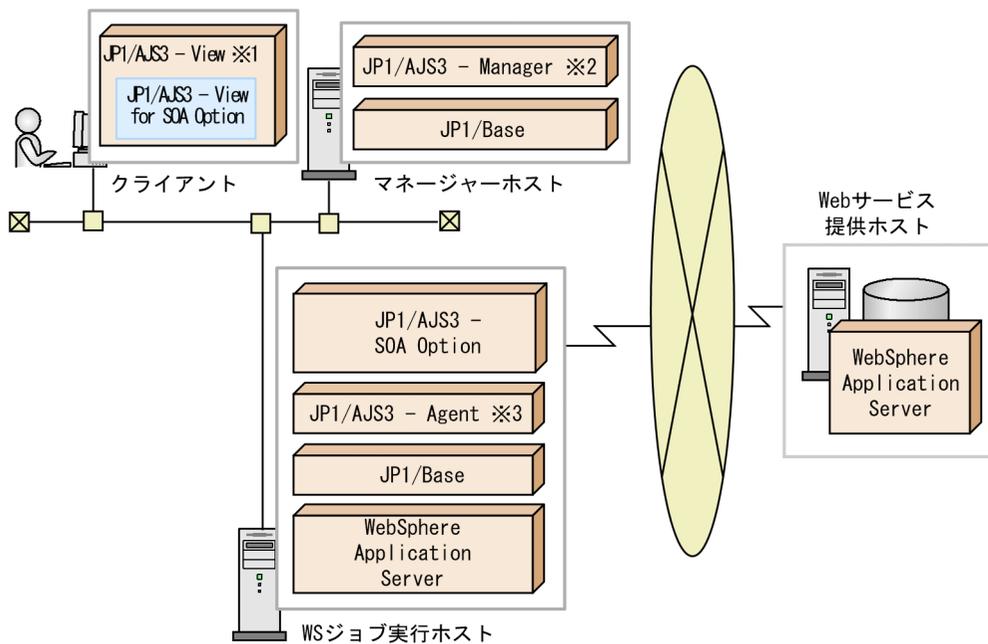
### 3. 設計

図 3-1 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
(Cosminexus Application Server を使用する場合)



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。
- 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。
- 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。
- 注※4 組み込みSOAPクライアントライブラリを使用する場合、WSジョブ実行ホストにCosminexus Application Serverは不要です。

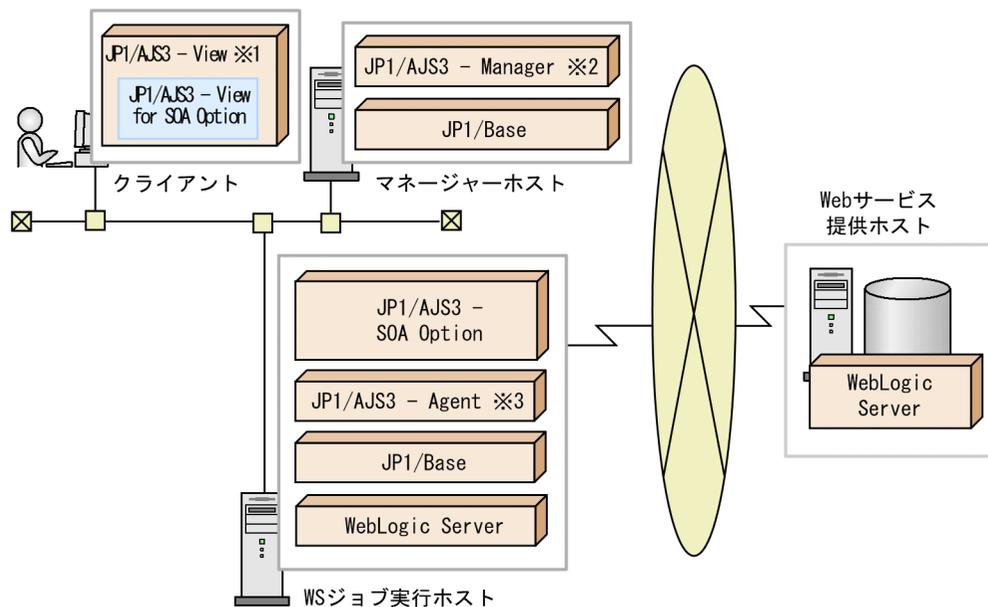
図 3-2 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
 ( WebSphere Application Server を使用する場合 )



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。  
 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。  
 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

### 3. 設計

図 3-3 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
(WebLogic Server を使用する場合)



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

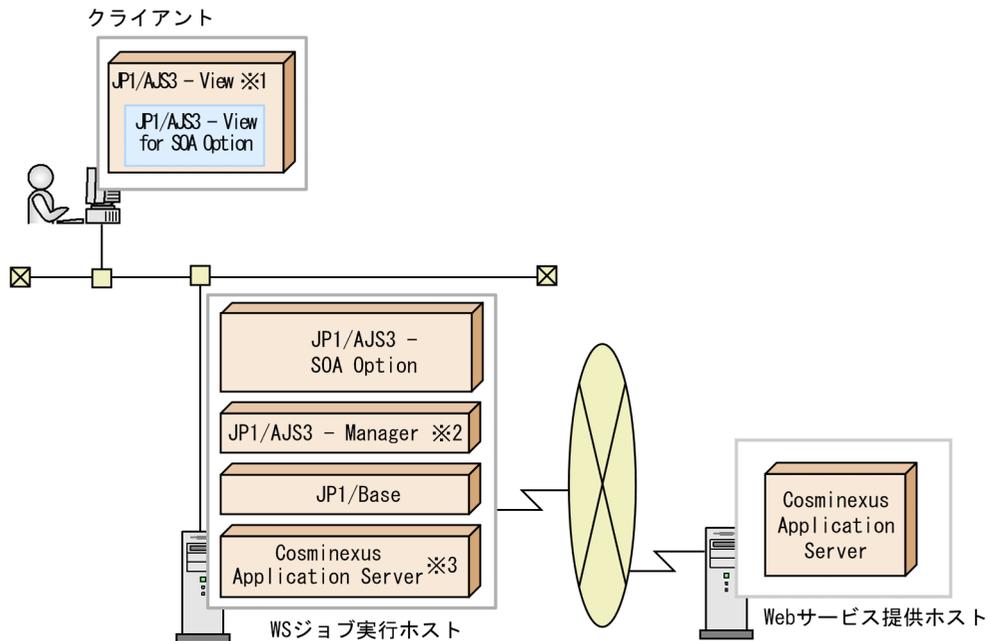
注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

クライアント、WSジョブ実行ホスト、マネージャーホスト、およびWebサービス提供ホストに分けて業務を実行するシステム構成です。WSジョブは、WSジョブ実行ホストのJP1/AJS3 - AgentまたはJP1/AJS2 - AgentとJP1/AJS3 - SOA Optionによって実行されます。

WSジョブをマネージャーホストのJP1/AJS3 - ManagerまたはJP1/AJS2 - Managerで実行する場合は、次のようにJP1/AJS3 - ManagerまたはJP1/AJS2 - ManagerとJP1/AJS3 - SOA Optionを同じホストにインストールします。

図 3-4 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例（Cosminexus Application Server を使用する場合）



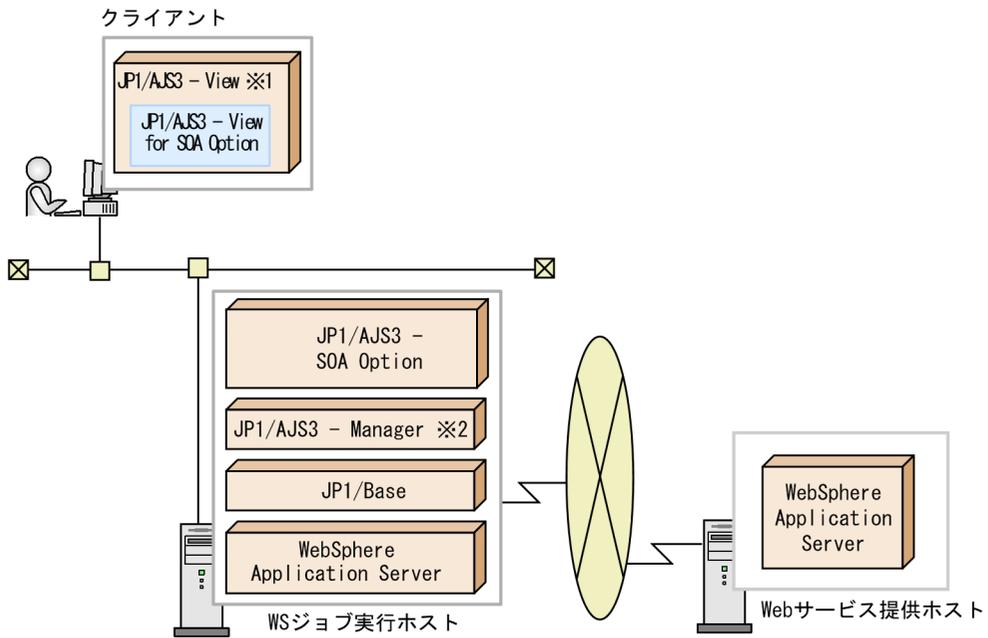
注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 組み込みSOAPクライアントライブラリを使用する場合、WSジョブ実行ホストにCosminexus Application Serverは不要です。

### 3. 設計

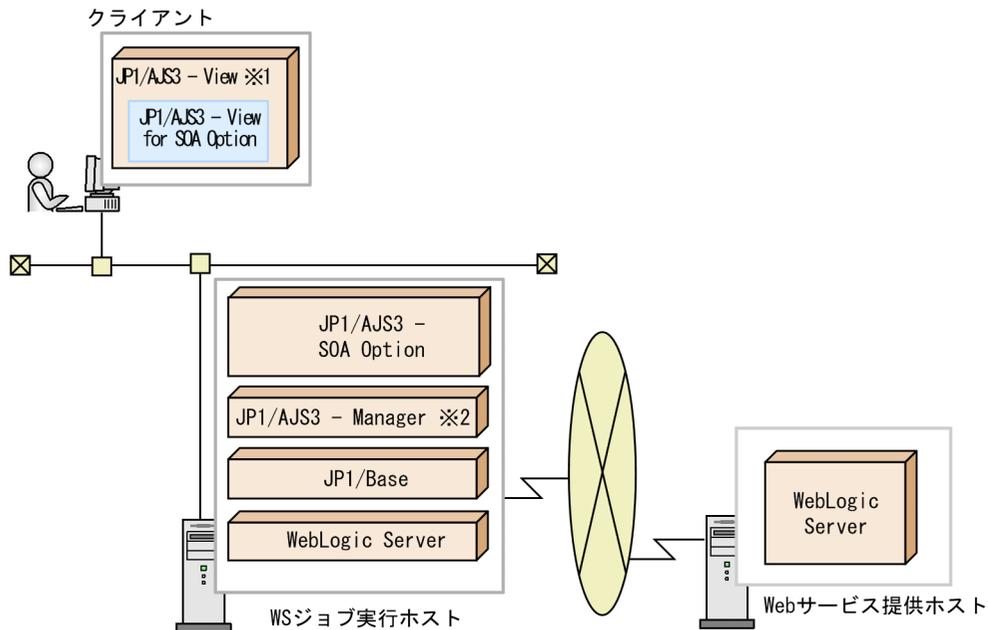
図 3-5 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例（WebSphere Application Server を使用する場合）



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

図 3-6 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例 (WebLogic Server を使用する場合)



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

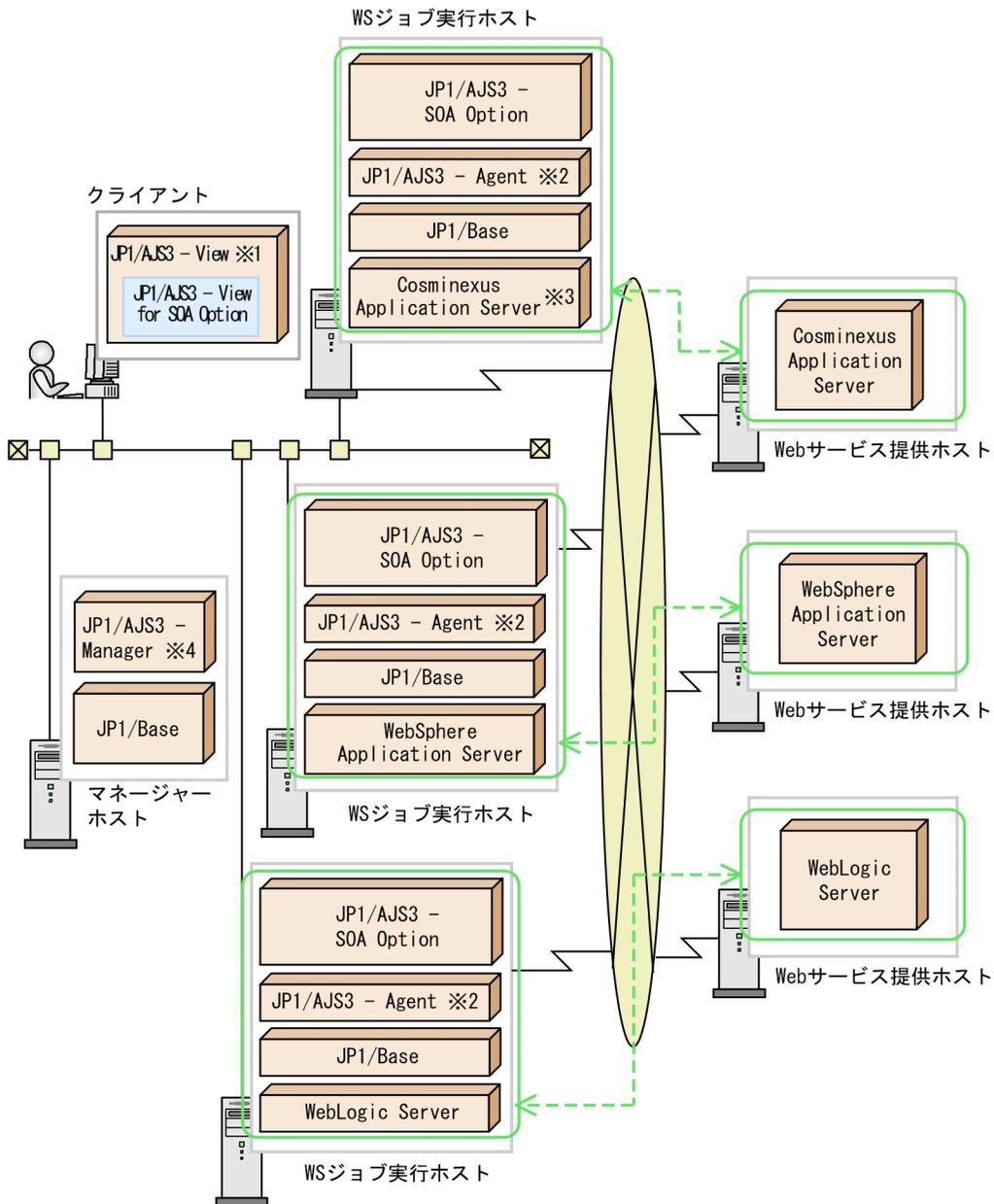
注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

## (2) 最大構成例

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成例を次の図と表に示します。

3. 設計

図 3-7 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成例



(凡例)

 JP1/AJS3 - SOA Optionが接続できるWebアプリケーションサーバを示します。

注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

注※3 組み込みSOAPクライアントライブラリを使用する場合、  
WSジョブ実行ホストにCosminexus Application Serverは不要です。

注※4 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

表 3-1 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成

項目	管理対象の最大数
一つの WS ジョブ実行ホストに導入できる JP1/AJS3 - SOA Option の数	1
一つの JP1/AJS3 - SOA Option に対応する JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager の数	1
一つの JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に接続できる WS ジョブ実行ホストの数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。
システムに導入できる JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

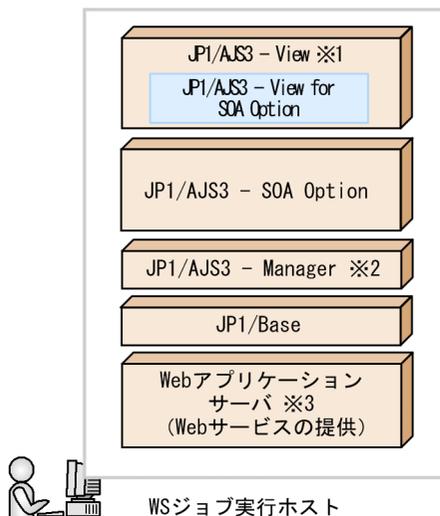
なお、WS ジョブ実行ホストと Web サービス提供ホストの関係は n 対 m の関係を取ることができます。

### (3) 最小構成

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最小構成を次に示します。

### 3. 設計

図 3-8 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最小構成



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 「Webアプリケーションサーバ」は、Cosminexus Application Server, WebSphere Application Server, またはWebLogic Serverを指します。

WS ジョブ実行ホストで、WS ジョブ定義、WS ジョブの実行、および Web サービスの提供を一括して処理・実行します。

#### 3.1.3 メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のメモリー所要量、ディスク占有量の見積もりについては、JP1/AJS3 - SOA Option のリリースノートを参照してください。

## 3.2 システム構成の設計（UNIX の場合）

---

UNIX 版 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するシステムの前提条件，およびシステムの構成について説明します。

### 3.2.1 システムの前提条件

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホスト環境の前提条件を次に示します。

#### （1）前提 OS

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホストの OS は，次のとおりです。

JP1/AJS3 - SOA Option

Linux 5 (AMD/Intel 64)，Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)，  
Linux 5 (x86)，または Linux 5 Advanced Platform (x86)

JP1/AJS3 - View for SOA Option

Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista，Windows Server 2003，または Windows XP Professional

なお，適用 OS のバージョン，JP1/AJS3 - SOA Option が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については，リリースノートで確認してください。

#### （2）前提プログラム

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が動作するホストの前提プログラムは，次のとおりです。

なお，Web アプリケーションサーバのバージョン，リビジョンなどの詳細については，リリースノートで確認してください。

WS ジョブ実行ホスト

- JP1/AJS3 - Agent 09-00 以降，JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降，JP1/AJS2 - Agent 08-00 以降，または JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降
  - Cosminexus Application Server 08-50 以降，WebSphere Application Server V7.0 以降，または WebLogic Server 11 以降
- Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバと同一にする必要があります。

クライアント

JP1/AJS3 - View 09-00 以降または JP1/AJS2 - View 08-00 以降

### 3. 設計

#### マネージャーホスト

JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降または JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降

#### Web サービス提供ホスト

次の中から選択できます。

- Cosminexus Application Server 08-50 以降  
Cosminexus Application Server を使用する場合，JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは，Cosminexus の SOAP アプリケーションです。
- WebSphere Application Server V7.0 以降  
WebSphere Application Server を使用する場合，JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは，WebSphere Application Server の SOAP アプリケーションです。
- WebLogic Server 11 以降  
WebLogic Server を使用する場合，JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは，WebLogic Server の SOAP アプリケーションです。

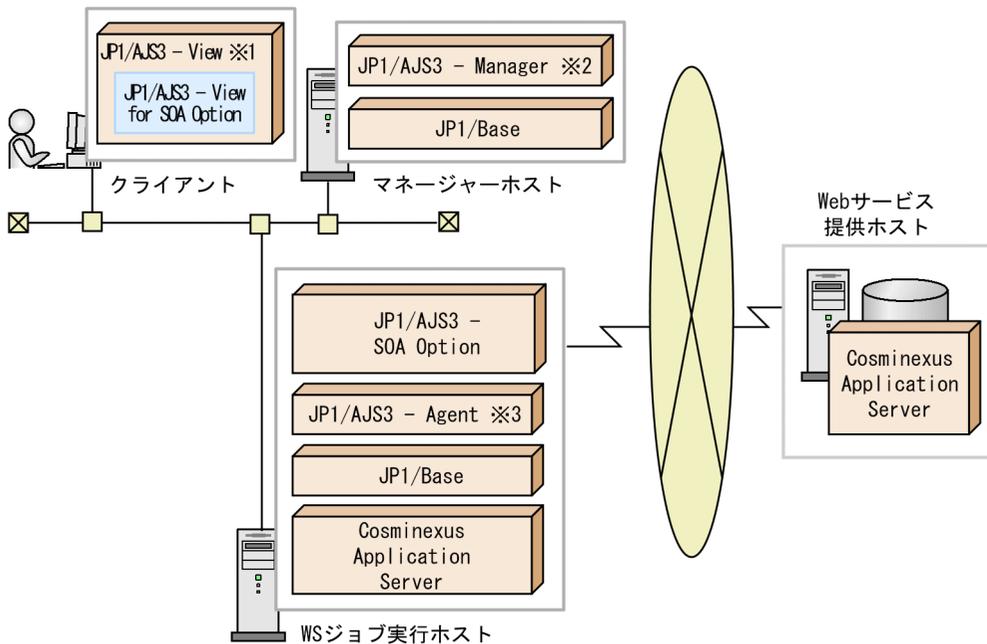
## 3.2.2 システム構成

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステム構成について説明します。

### (1) 基本構成例

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例を次に示します。

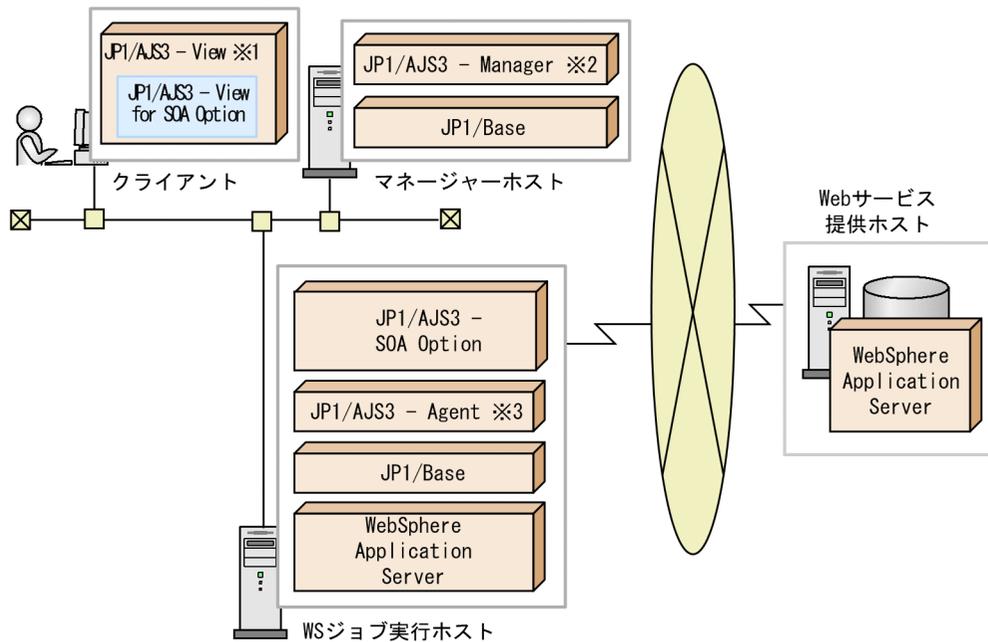
図 3-9 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
 (Cosminexus Application Server を使用する場合)



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。  
 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。  
 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

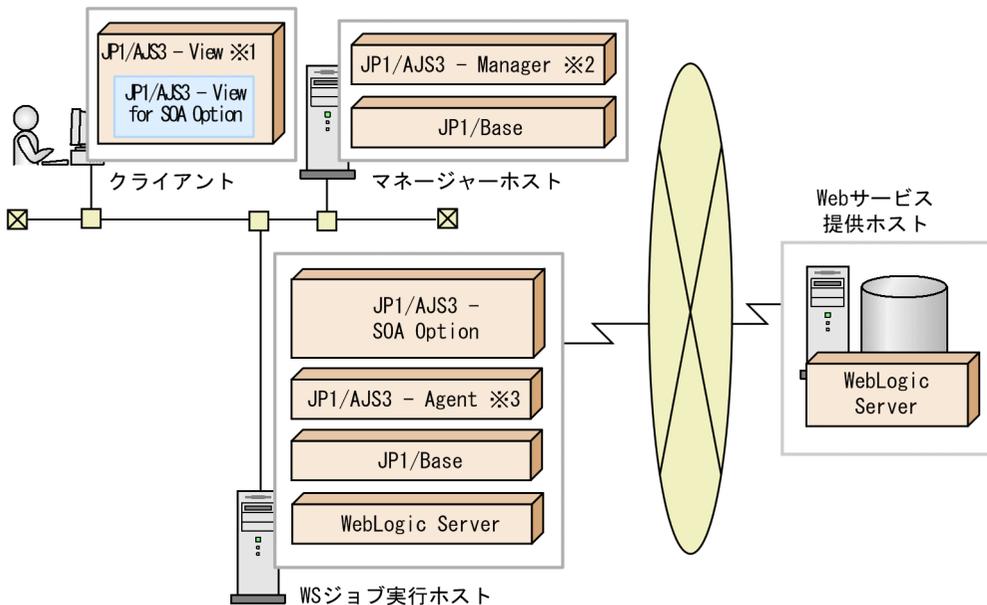
### 3. 設計

図 3-10 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
( WebSphere Application Server を使用する場合 )



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。
- 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。
- 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

図 3-11 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の基本構成例  
( WebLogic Server を使用する場合 )



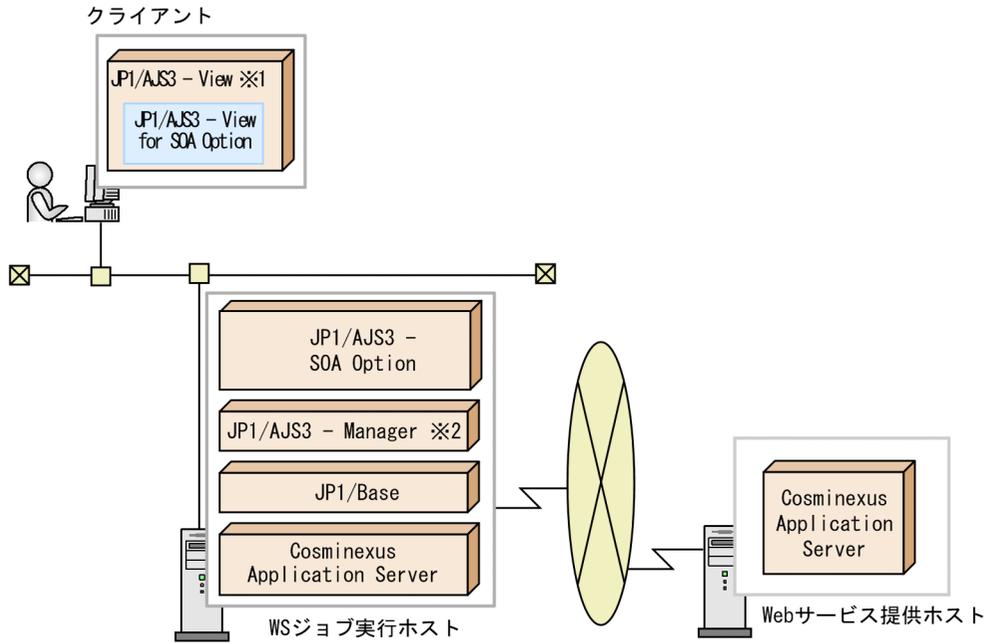
- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。  
 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。  
 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

クライアント、WS ジョブ実行ホスト、マネージャーホスト、および Web サービス提供ホストに分けて業務を実行するシステム構成です。WS ジョブは、WS ジョブ実行ホストの JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent と JP1/AJS3 - SOA Option によって実行されます。

WS ジョブをマネージャーホストの JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合は、次のように JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager と JP1/AJS3 - SOA Option を同じホストにインストールします。

### 3. 設計

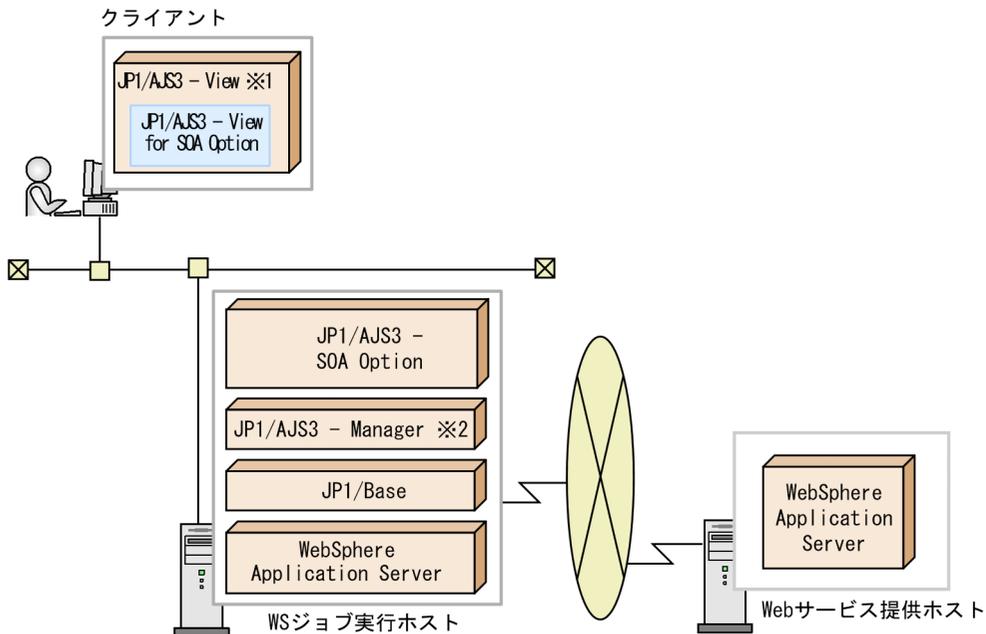
図 3-12 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例（Cosminexus Application Server を使用する場合）



注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

図 3-13 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例（WebSphere Application Server を使用する場合）

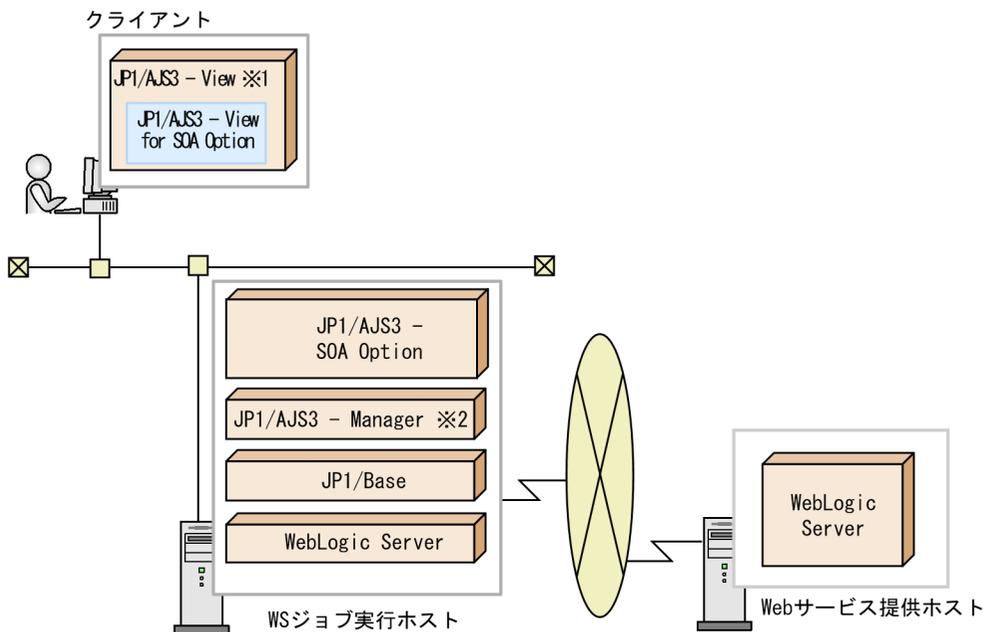


注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

### 3. 設計

図 3-14 WS ジョブを JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で実行する場合のシステム構成例（WebLogic Server を使用する場合）



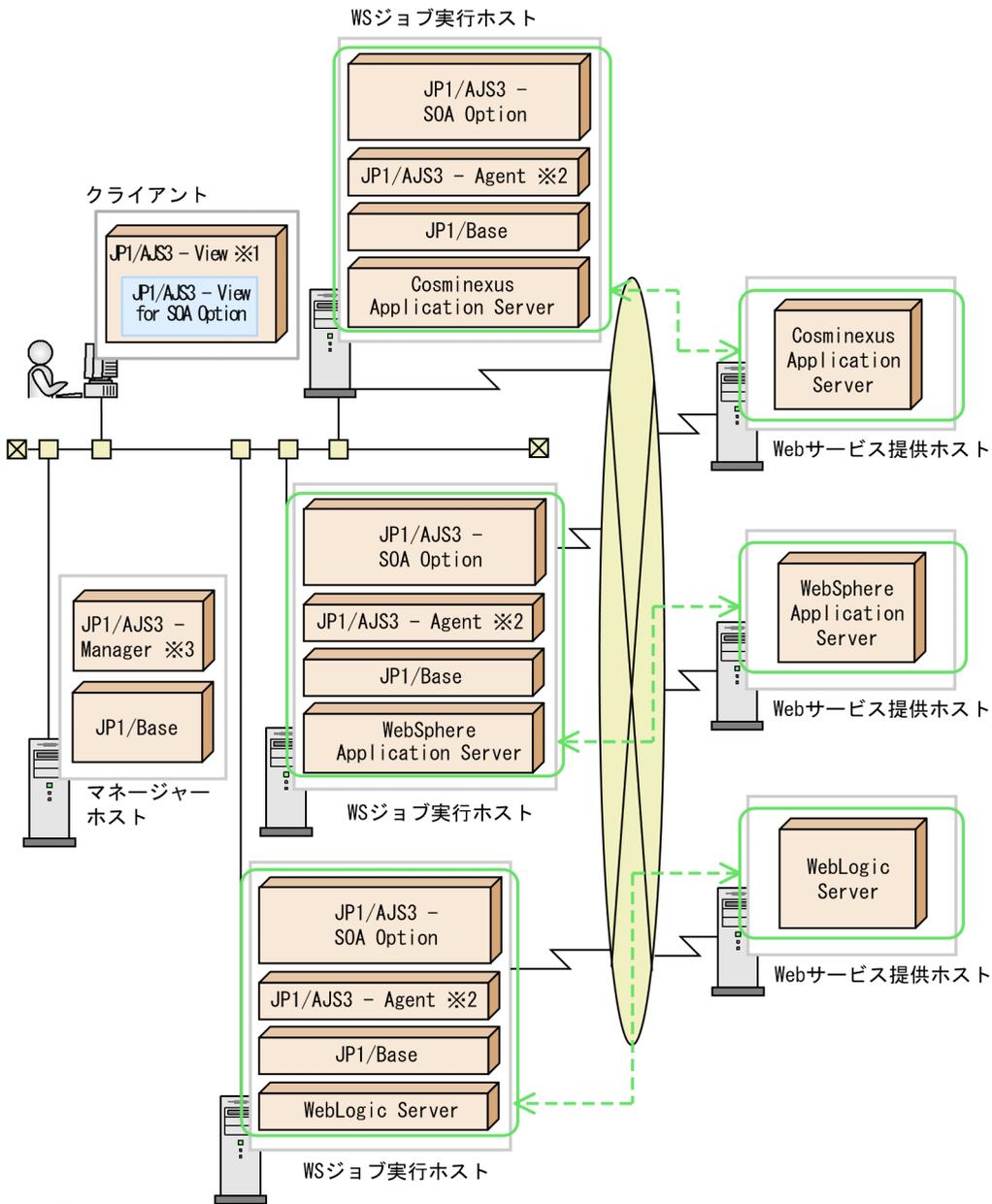
注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

#### (2) 最大構成例

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成例を次の図と表に示します。

図 3-15 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成例



(凡例)

 JP1/AJS3 - SOA Optionが接続できるWebアプリケーションサーバを示します。

- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。
- 注※2 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。
- 注※3 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

### 3. 設計

表 3-2 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最大構成

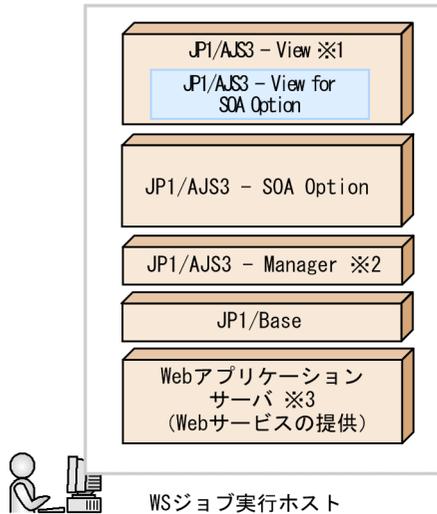
項目	管理対象の最大数
一つの WS ジョブ実行ホストに導入できる JP1/AJS3 - SOA Option の数	1
一つの JP1/AJS3 - SOA Option に対応する JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager の数	1
一つの JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に接続できる WS ジョブ実行ホストの数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。
システムに導入できる JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

なお、WS ジョブ実行ホストと Web サービス提供ホストの関係は n 対 m の関係を取ることができます。

#### (3) 最小構成

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最小構成を次に示します。

図 3-16 JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステムの最小構成



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。  
 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。  
 注※3 「Webアプリケーションサーバ」は、Cosminexus Application Server, WebSphere Application Server, またはWebLogic Serverを指します。

WS ジョブ実行ホストで、WS ジョブ定義、WS ジョブの実行、および Web サービスの提供を一括して処理・実行します。

### 3.2.3 メモリー所要量およびディスク占有量の見積もり

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のメモリー所要量、ディスク占有量の見積もりについては、JP1/AJS3 - SOA Option のリリースノートを参照してください。

## 3.3 JP1/AJS3 - SOA Option のアップグレード

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/AJS2 for Web Service からアップグレードできます。同様に、JP1/AJS3 - View for SOA Option は、JP1/AJS2 - View for Web Service からアップグレードできます。ここでは、アップグレードできる JP1/AJS2 for Web Service および JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョンと、バージョン互換について説明します。

### 3.3.1 JP1/AJS2 for Web Service から JP1/AJS3 - SOA Option へのアップグレード

JP1/AJS3 - SOA Option にアップグレードできる JP1/AJS2 for Web Service のバージョンを次の表に示します。

表 3-3 JP1/AJS3 - SOA Option にアップグレードできる JP1/AJS2 for Web Service のバージョン

		JP1/AJS3 - SOA Option へのアップグレード可否
JP1/AJS2 for Web Service	08-10	
	08-11	-
	08-12 以降	

(凡例)

: Windows 版の JP1/AJS2 for Web Service の場合だけアップグレードできます。

- : JP1/AJS2 for Web Service 08-11 では Windows 版を提供していません。

### 3.3.2 JP1/AJS2 - View for Web Service から JP1/AJS3 - View for SOA Option へのアップグレード

JP1/AJS3 - View for SOA Option にアップグレードできる JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョンを次の表に示します。

表 3-4 JP1/AJS3 - View for SOA Option にアップグレードできる JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョン

		JP1/AJS3 - View for SOA Option へのアップグレード可否
JP1/AJS2 - View for Web Service	08-10	
	08-11	
	08-12 以降	

(凡例)

: アップグレードできます。

### 3.3.3 バージョン互換

JP1/AJS3 - SOA Option をアップグレードする場合、次の互換性を考慮する必要があります。

- JP1/AJS2 for Web Service と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換
- JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョン互換
- JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換

#### (1) JP1/AJS2 for Web Service と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換

JP1/AJS2 for Web Service と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換を次の表に示します。

表 3-5 JP1/AJS2 for Web Service と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換

		JP1/AJS3 - View for SOA Option	
		09-00	09-50
JP1/AJS2 for Web Service	08-10		
	08-11		
	08-12		

( 凡例 )

: 接続できます。

: 複合型 を使用した標準 WS ジョブは実行できません。

注

JP1/AJS3 - SOA Option 09-50 では、標準 WS ジョブの定義で Web サービスに送信する入力パラメーターを定義するときに、複合型を使用できます。複合型については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する ( 標準 WS ジョブの定義 )」を参照してください。

#### (2) JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョン互換

JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョン互換を次の表に示します。

### 3. 設計

表 3-6 JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS2 - View for Web Service のバージョン互換

		JP1/AJS2 - View for Web Service		
		08-10	08-11	08-12
JP1/AJS3 - SOA Option	09-00	×		
	09-12	×		
	09-50	×		

(凡例)

- × : 接続できません。
- : 接続できない場合があります。
- : 接続できます。

注

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合、接続できません。

### (3) JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換

JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換を次の表に示します。

表 3-7 JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のバージョン互換

		JP1/AJS3 - View for SOA Option	
		09-00	09-50
JP1/AJS3 - SOA Option	09-00		
	09-12		
	09-50		

(凡例)

- : 複合型 を使用した標準 WS ジョブは実行できません。
- : 接続できます。

注

JP1/AJS3 - SOA Option 09-50 では、標準 WS ジョブの定義で Web サービスに送信する入力パラメーターを定義するときに、複合型を使用できます。複合型については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)」を参照してください。

## 4

## インストールとセットアップ (Windows の場合)

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合で、WS ジョブ実行ホストの OS が Windows のとき、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストール、セットアップ、およびアンインストールする方法について説明します。また、JP1/AJS3 - SOA Option に障害が発生したときの資料採取の設定についても説明します。

- 
- 4.1 インストールとセットアップの流れ

---

  - 4.2 前提アプリケーションのインストールとセットアップ

---

  - 4.3 JP1/AJS3 - SOA Option のインストール

---

  - 4.4 WebLogic Server 10 以降に必要な設定

---

  - 4.5 環境変数の設定

---

  - 4.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

---

  - 4.7 JP1/AJS での設定

---

  - 4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定

---

  - 4.9 運用環境に応じた設定

---

  - 4.10 JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール
-

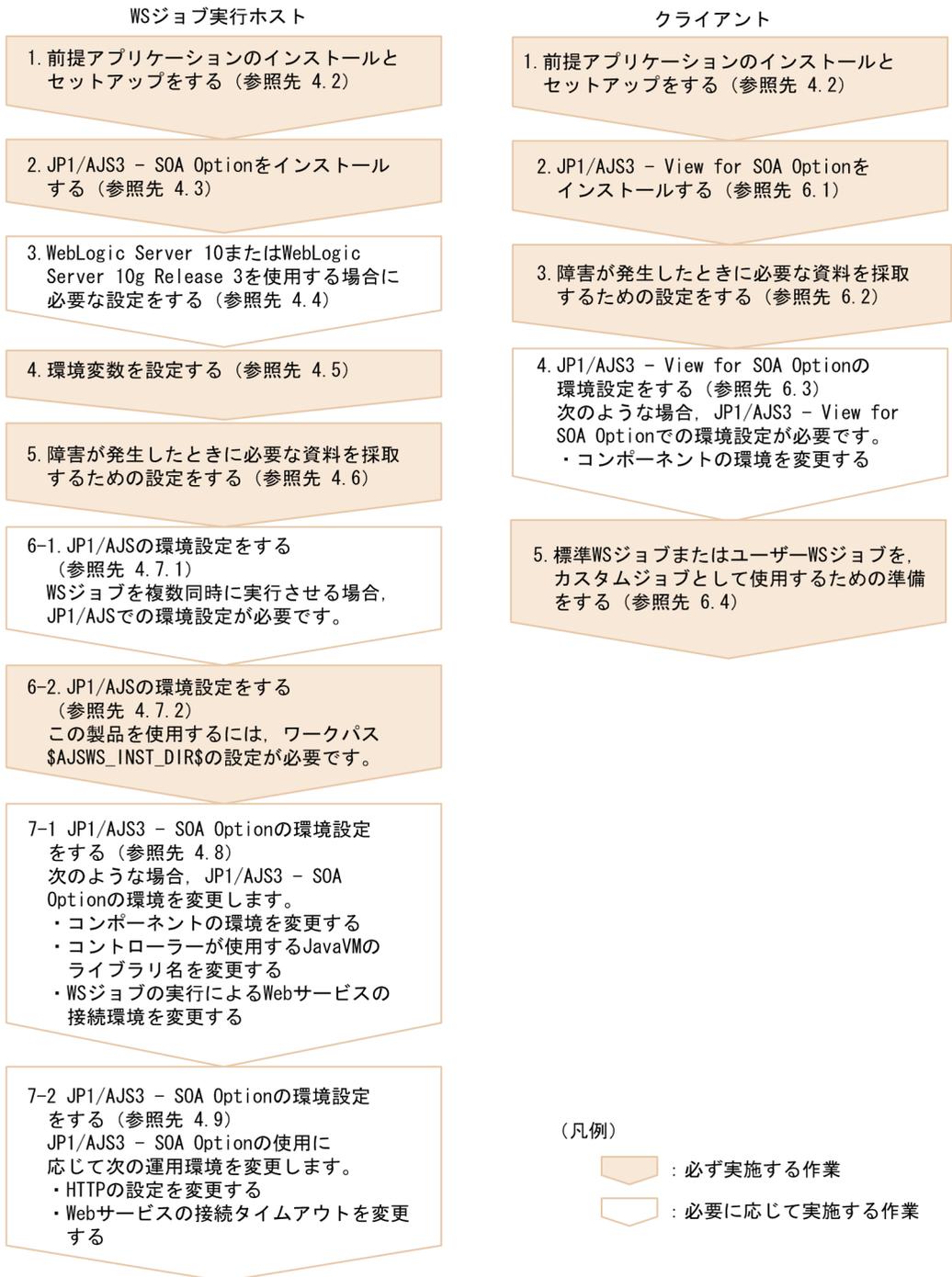
## 4.1 インストールとセットアップの流れ

---

JP1/AJS3 - SOA Option (インストール先: WS ジョブ実行ホスト) および JP1/AJS3 - View for SOA Option (インストール先: クライアント) のインストール, およびセットアップの流れについて説明します。JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップの詳細については、「6. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ」を参照してください。

次に, WS ジョブ実行ホストおよびクライアントの, インストールとセットアップの流れを図に示します。

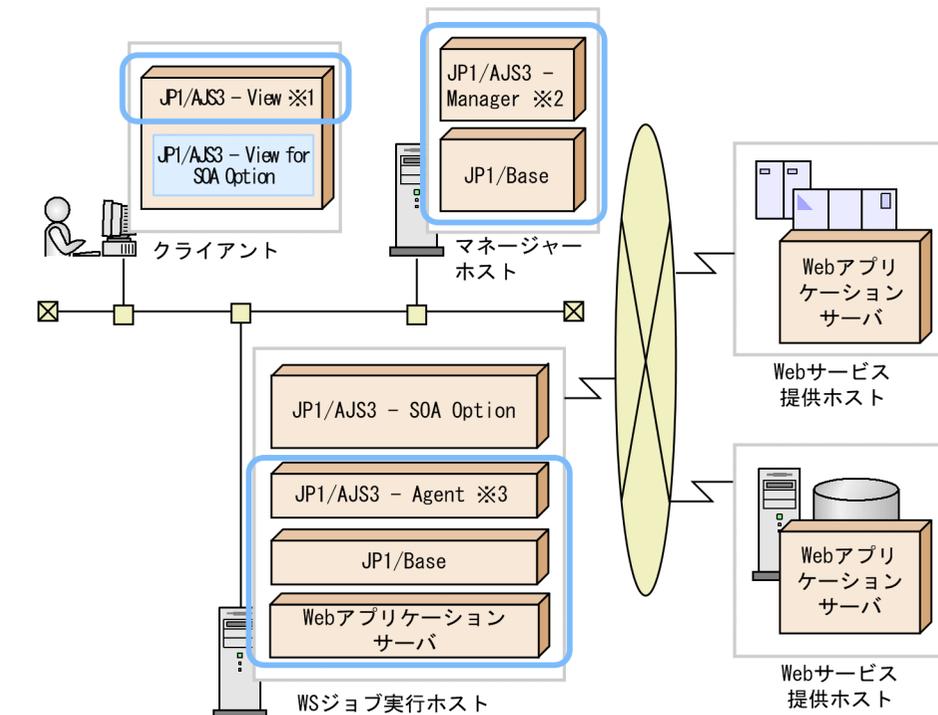
図 4-1 WS ジョブ実行ホストとクライアントの、インストールとセットアップの流れ



## 4.2 前提アプリケーションのインストールとセットアップ

WS ジョブ実行ホストまたはクライアントを使用する前に、前提アプリケーションのインストールとセットアップが必要です。WS ジョブ実行ホストおよびクライアントを使用するために必要なアプリケーションを次の図に示します。

図 4-2 WS ジョブ実行ホストおよびクライアントを使用するために必要なアプリケーション



(凡例)

 : JP1/AJS3 - SOA OptionおよびJP1/AJS3 - View for SOA Optionのインストール前にインストールしておくアプリケーション

注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

### (1) WS ジョブ実行ホストでの作業

WS ジョブ実行ホストでは、次に示す前提プログラムのインストールとセットアップが必要です。

- JP1/Base
- JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 -

Manager <sup>1</sup>

- Cosminexus Application Server <sup>2</sup>, WebSphere Application Server, または WebLogic Server

注 1

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で WS ジョブを実行する場合, WS ジョブ実行ホストにも JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が 必要です。

注 2

組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合, WS ジョブ実行ホスト に Cosminexus Application Server は不要です。組み込み SOAP クライアントラ イブラリについては,「2.4.3 組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み」を参照してください。

JP1/Base のインストールとセットアップについては, マニュアル「JP1/Base 運用ガイ ド」を参照してください。JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS3 - Manager のインストー ルとセットアップについては, マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2 - Agent または JP1/AJS2 - Manager の インストールとセットアップについては, マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。Cosminexus Application Server のインストールとセットアップについては, マニュアル 「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」またはマニユ アル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。WebSphere Application Server, または WebLogic Server のインストールとセットアップについては, それぞれ のマニュアルを参照してください。

## (2) クライアントでの作業

クライアントでは, 前提プログラムの JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のイン ストールとセットアップが必要です。

JP1/AJS3 - View のインストールとセットアップについては, マニュアル「JP1/ Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2 - View のインストールとセットアップについては, マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。

## (3) マネージャーホストでの作業

マネージャーホストでは, 次に示す前提プログラムのインストールとセットアップが必 要です。

- JP1/Base
- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

JP1/Base のインストールとセットアップについては、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。JP1/AJS3・Manager のインストールとセットアップについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2・Manager のインストールとセットアップについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。

#### (4) Web サービス提供ホストでの作業

Web サービス提供ホストでは、Cosminexus Application Server、WebSphere Application Server、または WebLogic Server のインストールとセットアップが必要です。

Cosminexus Application Server のインストールとセットアップについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」またはマニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

WebSphere Application Server、または WebLogic Server のインストールとセットアップについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

## 4.3 JP1/AJS3 - SOA Option のインストール

---

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール方法について説明します。JP1/AJS3 - SOA Option のインストールには、媒体からインストールする方法と JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。

### (1) 媒体から新規インストールする場合

JP1/AJS3 - SOA Option を媒体から新規にインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - SOA Option の媒体をセットする。  
日立総合インストーラの画面が表示されます。
4. 日立総合インストーラの指示に従って必要な情報を指定し、インストールする。  
インストール時に指定する情報を次に示します。
  - ユーザー情報  
ユーザー名などを指定します。
  - インストール先フォルダ  
JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするフォルダを指定します。
5. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

#### 注意事項

Windows Server 2008 で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合は、インストール時に管理者へ昇格させてください。

### (2) 媒体から上書きインストールする場合

1. JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - SOA Option の媒体をセットする。  
上書きインストールの確認のダイアログボックスが表示されます。
4. 上書きインストールの確認のダイアログボックスに回答する。  
必ず [ はい ] ボタンを選択してください。
5. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

##### 注意事項

Windows Server 2008 で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合は、インストール時に管理者へ昇格させてください。

#### (3) JP1/NETM/DM を使ったりリモートインストール (ソフトウェアの配布)

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/NETM/DM を使ってリモートインストールできます。

次のインストールができます。

- 新規インストール  
インストール対象ホストに、JP1/AJS3 - SOA Option を新規にインストールできます。
- 上書きインストール  
JP1/AJS3 - SOA Option がすでにインストールされたホストに、JP1/AJS3 - SOA Option を上書きでインストールできます。

JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

## 4.4 WebLogic Server 10 以降に必要な設定

---

Web アプリケーションサーバに WebLogic Server 10 , WebLogic Server 10g Release 3 , または WebLogic Server 11 を使用する場合 , WebLogic Server が提供する SOAP クライアントライブラリ ( wseeclient.jar ) を JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダに配置する必要があります。SOAP クライアントライブラリの格納先と配置先を次に示します。

SOAP クライアントライブラリの格納先

WSジョブ実行ホストのWebLogic Serverインストール先フォルダ  
¥server¥lib¥wseeclient.zip

SOAP クライアントライブラリの配置先

wseeclient.zip にある wseeclient.jar を次のフォルダに格納してください。

JP1/AJS3 - SOA Optionインストール先フォルダ¥base¥lib

WebLogic Server が提供する SOAP クライアントライブラリの詳細は , WebLogic Server のマニュアルを参照してください。

## 4.5 環境変数の設定

JP1/AJS3 - SOA Option を動作させるためには、WS ジョブ実行ホストのシステム環境変数を設定する必要があります。WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバや WS ジョブの種類によって、設定が必要な環境変数が次のように異なります。

表 4-1 環境変数の設定が必要な場面

WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバ	標準 WS ジョブを使用	ユーザー WS ジョブを使用
Cosminexus Application Server を使用	PATH 環境変数の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>PATH 環境変数の設定</li> <li>CLASSPATH 環境変数の設定</li> </ul>
WebSphere Application Server を使用	PATH 環境変数の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>PATH 環境変数の設定</li> <li>CLASSPATH 環境変数の設定</li> </ul>
WebLogic Server 9.2 を使用	PATH 環境変数の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>PATH 環境変数の設定</li> <li>CLASSPATH 環境変数の設定</li> </ul>
WebLogic Server 10 以降を使用	-	CLASSPATH 環境変数の設定
なし (組み込み SOAP クライアントライブラリを使用)	-	CLASSPATH 環境変数の設定

(凡例)

- : 環境変数の設定は不要です。

注

Windows Server 2008 の場合に設定が必要です。

PATH 環境変数および CLASSPATH 環境変数の設定について説明します。

### (1) PATH 環境変数の設定 (Cosminexus Application Server を使用する場合)

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server を使用する場合、PATH 環境変数に Cosminexus の設定が必要です。PATH 環境変数の設定例を次に示します。

```
PATH=C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus¥PRF¥bin
```

Cosminexus Application Server を使用する場合の環境変数 PATH の設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」のコマンドラインによる SOAP アプリケーションの利用について、説明している個所を参照してください。

## (2) PATH 環境変数の設定 (WebSphere Application Server を使用する場合)

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows Server 2008 の場合、PATH 環境変数に次のパスを設定してください。

WebSphere Application Serverインストール先フォルダ¥Java¥jre¥bin

## (3) PATH 環境変数の設定 (WebLogic Server 9.2 を使用する場合)

Web アプリケーションサーバに WebLogic Server 9.2 を使用する場合、PATH 環境変数に次に示す WebLogic Server 9.2 のパスを設定する必要があります。

BEAホームディレクトリ¥patch\_weblogic921¥profiles¥default¥native  
 WebLogic Serverインストール先フォルダ¥server¥native¥win¥32  
 WebLogic Serverインストール先フォルダ¥server¥bin  
 BEAホームディレクトリ¥jrockit90\_150\_06¥jre¥bin  
 BEAホームディレクトリ¥jrockit90\_150\_06¥bin  
 WebLogic Serverインストール先フォルダ¥server¥native¥win¥32¥oci920\_8

PATH 環境変数の設定例を次に示します。

```
PATH=C:¥bea¥patch_weblogic921¥profiles¥default¥native;C:¥bea¥webLogic92¥server¥native¥win¥32;C:¥bea¥webLogic92¥server¥bin;C:¥bea¥jrockit90_150_06¥jre¥bin;C:¥bea¥jrockit90_150_06¥bin;C:¥bea¥webLogic92¥server¥native¥win¥32¥oci920_8
```

パスとパスの間は、「;」(セミコロン)で区切ってください。

## (4) CLASSPATH 環境変数の設定

ユーザー WS ジョブを使用する場合には、CLASSPATH 環境変数の設定が必要です。

CLASSPATH 環境変数は、ユーザー WS プログラムを配置するフォルダ以外のフォルダにある jar ファイルを参照する場合に設定します。コントローラーが開始した時に、CLASSPATH 環境変数の設定値を JavaVM に指定します (-Djava.class.path)。CLASSPATH 環境変数の設定例を次に示します。

```
CLASSPATH=C:¥userwsp¥wspcommon.jar;C:¥userwsp¥wspcommon2.jar
```

次の点に注意して設定してください。

- jar ファイルの格納フォルダではなく、ファイル名を含む jar ファイルのパスを設定してください。
- 大文字・小文字に関係なく「JP1」または「AJS」から始まる環境変数を設定しないでください。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

- 複数のパスを設定する際は「;」(セミコロン)で区切ります。

## 4.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

障害が発生したときには、原因を特定するために必要な資料を採取する必要があります。資料採取が必要な製品を次に示します。

- JP1/AJS3 - SOA Option
- Cosminexus  
WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合だけ必要です。

次に、資料を採取するために必要な設定について説明します。

### (1) JP1/AJS3 - SOA Option での資料採取の設定

JP1/AJS3 - SOA Option の場合は、資料採取コマンド (ajsws\_log コマンド) を使用して資料を採取します。資料採取コマンドを使用するにはセットアップが必要です。資料採取コマンドのセットアップ方法を次に説明します。

1. 資料採取コマンドを任意の別のフォルダにコピーする。  
次の資料採取コマンドをコピーします。  
JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥tools¥ajsws\_log.bat
2. コピーした資料採取コマンドに書き込み権限を設定する。
3. コピーした資料採取コマンドをテキストエディターで編集する。  
バッチファイルに記述されている標準値を次に示します。この標準値と異なる場合、バッチファイルの記述を変更してください。

```
@set DIR_BACKLOG=%TEMP%¥jp1ajs2ws¥backlog
資料採取コマンドで採取した情報の退避先を設定します。
資料は DIR_BACKLOG に設定したフォルダの下にある JP1_DEFAULT に出力されます。DIR_BACKLOG は 100 バイト以内で設定してください。
```

```
@set INST_DIR=%SYSTEMDRIVE%¥Program Files¥hitachi¥JP1AJS2FORWS
JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダを設定します。
```

```
@set COSMINEXUS_DIR=%SYSTEMDRIVE%¥Program
Files¥hitachi¥Cosminexus
```

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、Cosminexus Application Server のインストール先フォルダを設定します。Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合は、値を削除してください。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

##### ! 注意事項

- %TEMP% および %SYSTEMDRIVE% は、Windows の環境変数の %TEMP% および %SYSTEMDRIVE% を示します。
- 資料採取コマンドは、必ず任意の別のフォルダにコピーしてご使用ください。別のフォルダにコピーしないで使用した場合、上書きインストールすると資料採取コマンドの編集内容が失われます。
- 64bit 版の Windows では、JP1/AJS3・SOA Option のインストール時に、インストール先のフォルダを変更していない場合、「Program Files」は「Program Files (x86)」となります。資料採取コマンドを編集する際は、インストール先フォルダの記述を修正してください。

##### 参考

64bit 版 Windows で資料を採取する場合に必要な設定

64bit 版の Windows を利用している場合、資料採取コマンドを次のように編集する必要があります。

編集前

```
@set REG_KEY=HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1AJS2FORWS
@set WS_LIBRARY_DIR=%ProgramFiles%¥hitachi¥JP1AJS2FORWS¥ucpsb
```

編集後

```
@set
REG_KEY=HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥JP1AJS2FORWS
@set WS_LIBRARY_DIR=%ProgramFiles (x86) %¥hitachi¥JP1AJS2FORWS¥ucpsb
```

## (2) Cosminexus での資料採取の設定

WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server がある場合、Cosminexus の資料を採取するための設定が必要となります。Cosminexus の資料採取は、トレースログと性能解析トレースを設定します。

### (a) トレースログの設定

障害解析の資料採取のために、Cosminexus の共通定義ファイルで「異常発生時のアプリケーションログ出力」オプションの値を「NONE」以外に設定してください。共通定義ファイルの設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

(b) 性能解析トレースの設定

Cosminexus が提供する性能解析トレースを設定することで、WS ジョブで実行された Web サービスの要求がどこまで処理されたかを確認できます。性能解析トレースの設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

## 4.7 JP1/AJS での設定

---

JP1/AJS で必要な設定について説明します。

### 4.7.1 WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定

複数の WS ジョブを同時に実行させる場合、JP1/AJS の環境設定で、ジョブの実行多重度を必要に応じて設定します。ジョブ実行多重度の設定方法については、次のマニュアルを参照してください。

JP1/AJS3 の場合

マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」

JP1/AJS2 の場合

マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」

JP1/AJS のジョブ実行多重度は、JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定パラメーター `maxwsp` (WS ジョブの最大同時実行数) 分の WS ジョブが実行できるように設定してください。JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定パラメーターについては、「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

### 4.7.2 WS ジョブ実行時のワークパスの設定

この製品を使用するには、ワークパス `$AJWSW_INST_DIR$` の設定が必要です。

ワークパス `$AJWSW_INST_DIR$` の変数の値には、JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダを設定してください。

WS ジョブ実行時のワークパスを変数として設定する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」の、ジョブ実行時のワークパスを変数として設定する方法について説明している個所を参照してください。

## 4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定では、JP1/AJS3 - SOA Option に関する定義項目を、インストールしたときの値から変更できます。

次の環境設定のファイルに設定します。

- 環境設定ファイル ajswscommon.conf  
JP1/AJS3 - SOA Option を構成するコンポーネントの環境設定を記述したファイルです。
- JavaVM 起動オプション設定ファイル ajswsjavavmoptions.conf  
コントローラーおよび WS プログラムを動作させる JavaVM の起動パラメーターを記述したファイルです。
- WS 接続環境設定ファイル ajsws\_ws.conf  
標準 WS ジョブによる Web サービスの接続環境を記述したファイルです。
- クライアント定義ファイル c4webcl.properties  
Cosminexus のクライアント定義ファイルです。Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合に必要ファイルです。組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合にも必要です。  
ユーザー WS ジョブによる Web サービスの接続環境を記述します。

次に、環境設定ファイルの定義手順および環境設定ファイルの定義項目について説明します。

### 4.8.1 環境設定ファイルの定義手順

環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルの定義内容を変更し、コントローラーに反映させる手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ファイルを編集する。  
環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルは、次のフォルダに格納されています。

JP1/AJS3 - SOA Optionインストール先フォルダ¥base¥conf

各ファイルをテキストエディターで開き、編集してください。文字コードは「Shift\_JIS」です。改行コードは「CR+LF」です。編集方法の詳細については、「4.8.2 環境設定ファイルの定義」、「4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」、および「4.8.4 Web サービス接続環境の定義」を参照してください。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

##### 3. コントローラーを開始する。

コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

### 4.8.2 環境設定ファイルの定義

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター、および定義時の注意事項について説明します。

#### (1) 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 4-2 `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター一覧

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>port</code>	ポート番号
<code>maxwsp</code>	WS ジョブの最大同時実行数
<code>log.file_size</code>	稼働ログファイルのサイズ
<code>log.num</code>	稼働ログの面数
<code>jvmlib</code>	コントローラーが使用する JavaVM のライブラリ名
<code>apserver_path</code>	使用する Web アプリケーションサーバのインストールパス
<code>stdout_enable</code>	ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にするかどうか
<code>apserver_kind</code>	使用する Web アプリケーションサーバの種類
<code>apserver_home</code> <sup>1</sup>	BEA ホームディレクトリ名
<code>keystore</code> <sup>2</sup>	キーストアファイルのパス
<code>keystore_password</code> <sup>2</sup>	キーストアのパスワード
<code>truststore</code> <sup>2</sup>	トラストストアファイルのパス
<code>truststore_password</code> <sup>2</sup>	トラストストアファイルのパスワード
<code>jaxws_enable</code> <sup>3</sup>	ユーザー WS プログラムで JAX-WS を利用するかどうか

注 1

WebLogic Server 9.2 を使用する場合だけ、このパラメーターに値を設定します。

注 2

WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

注 3

WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

次に、環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

#### port

JP1/AJS3 - SOA Option の内部処理の通信で使用するポート番号を設定します。

1,024 ~ 65,535 の範囲で設定します。

デフォルトでは、「20500」が設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### maxwsp

WS ジョブの最大同時実行数を設定します。

JP1/AJS の「ジョブ実行多重度」は、ここで設定した WS ジョブの最大同時実行数分の WS ジョブが実行できるように設定してください。

1 ~ 64 の範囲で設定します。

デフォルトでは、「10」が設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### log.file\_size

JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログのサイズを設定します。JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。

4,096 ~ 16,777,216 バイトの範囲で設定します。

デフォルトでは、「2097152」バイトが設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

### ! 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のフォルダの下にあるファイルとフォルダをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥log

#### log.num

JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログの面数を設定します。JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。

2 ~ 16 の範囲で設定します。

デフォルトでは、「2」が設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

##### ! 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のフォルダの下にあるファイルとフォルダをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥log

##### jvmlib

コントローラーが使用する JavaVM のライブラリ名を、511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定します。また、フルパスはドライブレターで始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークディレクトリは設定できません。デフォルトを次に示します。

```
C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus¥jdk¥jre¥bin¥server¥jvm.dll
```

使用する Web アプリケーションサーバに応じて変更してください。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

なお、組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合、設定を省略できます。

##### apserver\_path

WS ジョブ実行ホストにある Web アプリケーションサーバのインストールパスを、511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定します。また、フルパスはドライブレターで始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークディレクトリは設定できません。

デフォルトでは次の値が設定されます。

```
C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus
```

使用する Web アプリケーションサーバのインストールパスに変更してください。

このパラメーターの設定を省略した場合または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

なお、組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合、設定を省略できます。

##### stdout\_enable

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にするかどうかを設定します。

0

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を無効にします。

1

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にします。

デフォルトでは、「1」が設定されます。

「0」を設定すると、ユーザー WS プログラムに Java 標準の機能で標準出力するよ

うに実装しても、標準出力には出力されません。

「1」を設定すると、Java 標準の機能で標準出力に出力した内容と SOAP クライアントライブラリによって標準出力に出力された稼働情報が混在します。したがって、標準出力を使用してユーザー WS ジョブの結果を後続ジョブへ引き継ぐことが困難になる場合があります。必要に応じて `stdout_enable` の値を「0」に変更してください。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### `apserver_kind`

Web アプリケーションサーバの種類を次のように設定します。

- Cosminexus Application Server の場合 : 「COS」
- WebSphere Application Server の場合 : 「WAS」
- WebSphere Application Server (バージョン 7.0) の場合 : 「WAS7」
- WebLogic Server (バージョン 9.2) の場合 : 「WL」
- WebLogic Server (バージョン 10 以降) の場合 : 「WL10」
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合 : 空文字 (設定不要)

デフォルトでは、空文字が設定されています (組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する状態です)。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### `apserver_home`

Web アプリケーションサーバに WebLogic Server 9.2 を使用する場合、このパラメーターに BEA ホームディレクトリ名を設定します。511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定します。また、フルパスはドライブ文字で始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークディレクトリは設定できません。デフォルトでは、空文字が設定されています。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server, WebSphere Application Server, または WebLogic Server 10 以降を使用する場合は、デフォルト値のまま (空文字) にしてください。なお、設定しても無効となります。

#### `keystore`

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、キーストアファイルの格納先パスを設定します。このパラメーターは、次の場合に設定が必要です。

- WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

キーストアは、HTTPS 通信する際の暗号化に使用する鍵です。キーストアファイルは、WS ジョブの実行によって Web サービス提供ホストに接続する際、HTTPS 通

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

信を利用したクライアント認証で使用されます。

511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定します。フルパスはドライブレターで始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークディレクトリは設定できません。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.keyStore
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.keyStore については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している箇所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

keystore\_password

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、キーストアのパスワードを設定します。このパラメーターは、次の場合に設定が必要です。

- WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

6 ~ 511 バイトの範囲で設定します。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.keyStorePassword
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.keyStorePassword については、マニュアル

「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

truststore

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、トラストストアファイルの格納先パスを設定します。このパラメーターは、次の場合に設定が必要です。

- WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

トラストストアは、HTTPS 通信する際の電子証明書です。トラストストアファイルは、WS ジョブの実行による Web サービス提供ホストに接続する際、HTTPS 通信を利用してクライアント認証する場合に使用します。

511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定します。フルパスはドライブ文字で始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークディレクトリは設定できません。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.trustStore
```

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

`javax.net.ssl.trustStore` については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

`truststore_password`

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、トラストストアのパスワードを設定します。このパラメーターは、次の場合に設定が必要です。

- WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

6 ~ 511 バイトの範囲で設定します。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

`javax.net.ssl.trustStorePassword`

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

`javax.net.ssl.trustStorePassword` については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパ

ラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

jaxws\_enable

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server 08-00 以降を使用する場合、ユーザー WS プログラムで JAX-WS を利用するかどうかを設定します。

0

JAX-WS を利用しません。

1

JAX-WS を利用します。

デフォルトでは、「1」が設定されます。ただし、この環境設定パラメーター名がない場合 (JP1/AJS2 for Web Service からのアップグレードの場合) は、設定値を「0」として動作します。このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

なお、WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

## (2) 環境設定ファイルの設定例

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` の設定例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus¥jdk¥jre¥bin¥server¥jvm.dll
apserver_path=C:¥Program Files¥HITACHI¥Cosminexus
stdout_enable=1
apserver_kind=COS
apserver_home=
keystore=C:¥tmp¥1.keystore
keystore_password=password
truststore=C:¥tmp¥1.truststore
truststore_password=password
jaxws_enable=1
```

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=C:¥Program
Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer¥java¥jre¥bin¥classic¥jvm.dll
apserver_path=C:¥Program Files¥IBM¥WebSphere¥AppServer
stdout_enable=1
apserver_kind=WAS
apserver_home=
keystore=C:¥tmp¥1.keystore
keystore_password=password
truststore=C:¥tmp¥1.truststore
truststore_password=password
```

#### Web アプリケーションサーバが WebLogic Server 9.2 の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=C:¥bea¥jrockit90_150_03¥jre¥bin¥jrockit¥jvm.dll
apserver_path=C:¥bea¥weblogic92
stdout_enable=1
apserver_kind=WL
apserver_home=C:¥bea
```

#### Web アプリケーションサーバが WebLogic Server 10 の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=C:¥bea¥jrockit90_150_06¥jre¥bin¥jrockit¥jvm.dll
apserver_path=C:¥bea¥wlserver_10.0
stdout_enable=1
apserver_kind=WL10
apserver_home=
```

#### Web アプリケーションサーバが WebLogic Server 10g Release 3 の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=C:¥bea¥jrockit_160_05¥jre¥bin¥jrockit¥jvm.dll
apserver_path=C:¥bea¥wlserver_10.3
stdout_enable=1
apserver_kind=WL10
apserver_home=
```

#### 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

```
# コメント
port=22222
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
stdout_enable=1
```

### (3) 定義時の注意事項

定義時の注意事項を次に示します。

- キーストアのパスワードおよびトラストストアのパスワードを設定する場合、環境設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーターは、「環境設定パラメーター名=値」の形式で設定してください。
- 各環境設定パラメーターを改行で区切って設定してください。最終行には改行が必要です。
- 空行は設定しないでください。
- 「#」で始まる行はコメントと見なされます。
- 環境設定パラメーター名は、すべて小文字で設定してください。
- 環境設定パラメーター名には、スペースやタブなどの環境設定パラメーター名以外の文字を含めないでください。
- 「=」と改行の間の文字はすべて値として見なされます。
- 「(1) 環境設定ファイル ajswscommon.conf に定義できる環境設定パラメーター」に示すパラメーター以外のものが設定された場合、無視されます。
- 同じ環境設定パラメーター名が重複して設定されている場合、あとの行で設定された値が有効になります。

## 4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義

JavaVM 起動オプション設定ファイル ajswsjavavmoptions.conf に定義するオプション、および定義時の注意事項について説明します。

### (1) JavaVM 起動オプション設定ファイル ajswsjavavmoptions.conf に定義するオプション

JavaVM 起動オプション設定ファイルに定義するオプションを次に示します。

- コントローラーを開始する際のメモリー使用量を設定します。メモリー所要量の見積もりで算出した値を、メモリー関連のオプション (-Xms, -Xmx, または -Xss) に設定します。
- ユーザー WS プログラムの処理に必要なシステムプロパティがある場合、設定してください。
- Windows 版 JP1/AJS3 - SOA Option では、-Xrs オプションを必ず設定します。設定しなかった場合、ログオフ時にコントローラーが強制終了します。
- Windows Server 2008 で WebSphere Application Server v7.0 を使用する場合、次の

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

プロパティを設定してください。設定しなかった場合、サービスが異常終了します。  
-Djava.net.preferIPv4Stack=true

#### 参考

JavaVM 起動オプションの詳細は、JavaVM のドキュメントを参照してください。

### (2) JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義例

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義例を次に示します。

Windows Server 2008 で WebSphere Application Server v7.0 を使用する場合

```
-Xms256m
-Xmx512m
-Xrs

# example property for the User WS Program.
-Dproperty1=1
-Dproperty2=2
-Djava.net.preferIPv4Stack=true
```

この定義例では、ユーザー WS プログラムの処理に必要なシステムプロパティとして、`-Dproperty1=1` および `-Dproperty2=2` を設定しています。

上記以外の場合

```
-Xms256m
-Xmx512m
-Xrs

# example property for the User WS Program.
#-Dproperty1=1
#-Dproperty2=2
```

### (3) 定義時の注意事項

- 1 行の終わりは、必ず改行してください。最後の行も改行してください。
- 「#」で始まる行はコメントと見なされます。

## 4.8.4 Web サービス接続環境の定義

Web サービスの接続環境として、HTTP プロキシサーバを使用する場合の設定、タイムアウトの設定、およびリトライ回数を必要に応じて設定してください。

設定する方法は、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブで異なります。方法を次に示します。

標準 WS ジョブを使用する場合

JP1/AJS3 - SOA Option が提供する WS 接続環境設定ファイルに設定します。設定方法については、「(1)WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

#### ユーザー WS ジョブを使用する場合

使用する Web アプリケーションごとに、設定方法を説明します。

Cosminexus Application Server、または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

JP1/AJS3 - SOA Option が提供するクライアント定義ファイルに設定します。設定方法については、「(2) クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。

WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合  
ユーザー WS プログラムに実装してください。

ここでは、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルに定義できる項目と設定例について説明します。

なお、Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合で、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するときは、「(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」も参照してください。

### (1) WS 接続環境設定ファイルの定義

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター、WS 接続環境設定ファイルの定義例、および定義時の注意事項について説明します。

#### (a) WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 4-3 `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター一覧

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>proxy_host</code>	HTTP プロキシサーバのホスト名
<code>non_proxy_hosts</code>	HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群
<code>proxy_port</code>	HTTP プロキシサーバのポート番号
<code>proxy_user</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID
<code>proxy_password</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード
<code>socket_write_timeout</code>	クライアントのソケットの書き込みタイムアウト時間
<code>socket_read_timeout</code>	クライアントのソケットの読み込みタイムアウト時間
<code>socket_connect_timeou t</code>	クライアントのソケットの接続タイムアウト時間

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

環境設定パラメーター名	定義内容
retry_count	Web サービスの接続に失敗した場合のリトライ回数
retry_interval	Web サービスの接続に失敗した場合のリトライ間隔

#### 注

WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

次に、各環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

#### proxy\_host

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバのホスト名を設定します。  
255 バイト以内で設定します。

#### non\_proxy\_hosts

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由しないホストがある場合、そのホスト名を設定します。  
65,535 バイト以内で設定します。  
複数のホスト名を設定する場合は、「|」で区切って設定します。  
HTTP プロキシサーバのホスト名 (proxy\_host) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (proxy\_port) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視されます。

#### proxy\_port

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバのポート番号を設定します。  
1024 ~ 65535 の範囲で設定します。

#### proxy\_user

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID を設定します。  
255 バイト以内で設定します。  
HTTP プロキシサーバのホスト名 (proxy\_host) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (proxy\_port) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視されます。

#### proxy\_password

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定します。  
255 バイト以内で設定します。  
HTTP プロキシサーバのホスト名 (proxy\_host) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (proxy\_port) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視さ

れます。

#### `socket_write_timeout`

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの書き込みタイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「60」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、タイムアウトの監視はしません。

なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

#### `socket_read_timeout`

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの読み込みタイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「300」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、タイムアウトの監視はしません。

なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

#### `socket_connect_timeout`

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの接続タイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「60」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、接続タイムアウトの監視はしません。

なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

#### `retry_count`

Web サービスとの接続時の、リトライの回数を設定します。

0 ~ 9 の数値を設定します。

デフォルトでは、「3」が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合はリトライしません。

#### `retry_interval`

Web サービスとの接続時の、リトライの間隔を設定します。

0 ~ 60 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「10」秒が設定されます。

リトライ回数 (`retry_count`) が「0」の場合、このパラメーターに設定した値は無視されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、間隔を空けずにリトライします。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

##### 注

ジョブ定義時にジョブ打ち切り時間を設定する場合、リトライが終わらないうちにジョブの打ち切りが発生しないように考慮してタイムアウト時間、リトライ回数、およびリトライ間隔を設定してください。

##### (b) WS 接続環境設定ファイルの定義例

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の定義例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合

```
proxy_host=ProxyHostName
non_proxy_hosts=HostName1|HostName2
proxy_port=8080
proxy_user=user1
proxy_password=password
socket_write_timeout=12
socket_read_timeout=60
socket_connect_timeout=180
retry_count=1
retry_interval=5
```

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合

```
proxy_host=ProxyHostName
non_proxy_hosts=HostName1|HostName2
proxy_port=8080
proxy_user=user1
proxy_password=password
retry_count=1
retry_interval=5
```

##### (c) 定義時の注意事項

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定する場合、WS 接続環境設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。

#### (2) クライアント定義ファイルの定義

クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` に定義できる項目、クライアント定義ファイルの定義例、および定義時の注意事項について説明します。

##### (a) クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` に定義できる項目

Cosminexus のクライアント定義ファイルのうち、JP1/AJS3 - SOA Option で使用する定義項目を次の表に示します。

表 4-4 クライアント定義ファイルの定義項目

環境設定パラメーター名	定義内容
c4web.logger.log_file_prefix	トレースファイル, アプリケーションログのプレフィクス (「ajsws」固定)
c4web.application.proxy_host	HTTP プロキシサーバのホスト名
c4web.application.non_proxy_hosts	HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群
c4web.application.proxy_port	HTTP プロキシサーバのポート番号
c4web.application.proxy_user	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID
c4web.application.proxy_password	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード
c4web.application.socket_write_timeout	クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値
c4web.application.socket_read_timeout	クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値
c4web.application.socket_connect_timeout	クライアントのソケットの接続タイムアウト値

ファイルのフォーマット, 文字コード, および定義内容については, マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。

#### (b) クライアント定義ファイルの定義例

クライアント定義ファイル c4webcl.properties の定義例を次に示します。

```
c4web.logger.log_file_prefix=ajsws
```

#### (c) 定義時の注意事項

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定する場合, クライアント定義ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーター c4web.logger.log\_file\_prefix は, 「ajsws」固定です。変更しないでください。
- クライアント定義ファイルの定義は, コントローラー単位で定義します。したがって, 同一のコントローラーで複数のユーザー WS ジョブを実行する場合, すべてのユーザー

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

ザージョブの実行でクライアント定義ファイルの値を使用します。

### (3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

Cosminexus Application Server または組み込み SOAP クライアントライブラリを使用する場合で、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方を定義する必要があります。

両方のファイルを定義すると、WS ジョブの実行時は、次のようにファイルが参照されます。

表 4-5 WS ジョブの実行時に参照されるファイル

	WS 接続環境設定ファイル	クライアント定義ファイル
標準 WS ジョブの実行時		
ユーザー WS ジョブの実行時	-	

(凡例)

- : 優先して参照される
- : 優先するファイルがない場合に参照される
- : 参照されない

WS 接続環境設定ファイルに定義していない項目がクライアント定義ファイルに定義されていた場合、標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの値が参照されます。

標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの内容が参照されると問題がある場合は、WS 接続環境設定ファイルに必要な項目が定義されているかを必ず確認してください。

WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの環境設定パラメーター名の対応を次に示します。

表 4-6 環境設定パラメーター名の対応

定義内容	WS 接続環境設定ファイルの環境設定パラメーター名	クライアント定義ファイルの環境設定パラメーター名
HTTP プロキシサーバのホスト名	proxy_host	c4web.application.proxy_host
HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群	non_proxy_hosts	c4web.application.non_proxy_hosts
HTTP プロキシサーバのポート番号	proxy_port	c4web.application.proxy_port
HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID	proxy_user	c4web.application.proxy_user

定義内容	WS 接続環境設定ファイルの環境設定パラメーター名	クライアント定義ファイルの環境設定パラメーター名
HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード	proxy_password	c4web.application.proxy_password
クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値	socket_write_timeout	c4web.application.socket_write_timeout
クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値	socket_read_timeout	c4web.application.socket_read_timeout
クライアントのソケットの接続タイムアウト値	socket_connect_timeout	c4web.application.socket_connect_timeout
リトライ回数	retry_count	-
リトライ間隔	retry_interval	-

( 凡例 )

- : WS 接続環境設定ファイルに定義していない場合、参照されません。

注

non\_proxy\_hosts, proxy\_port, および proxy\_password は、WS 接続環境設定ファイルに値を設定しても、WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host または proxy\_port の設定が省略されていた場合、クライアント定義ファイルに設定した値が参照されます。例を次に示します。

( 例 )

- WS 接続環境設定ファイルに次の項目が設定されている場合  
non\_proxy\_hosts, proxy\_user, proxy\_password ( proxy\_host と proxy\_port の設定が省略されている )
  - クライアント定義ファイルに次の項目が設定されている場合  
c4web.application.proxy\_host, c4web.application.proxy\_port, c4web.application.non\_proxy\_hosts, c4web.application.proxy\_user, c4web.application.proxy\_password ( WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host と proxy\_port に対応する項目に値が設定されている )
1. と 2. の両方が該当する場合、次の値が参照されます。
- HTTP プロキシサーバのホスト名 : クライアント定義ファイルの c4web.application.proxy\_host
  - HTTP プロキシサーバのポート番号 : クライアント定義ファイルの c4web.application.proxy\_port
  - HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群 : クライアント定義ファイルの c4web.application.non\_proxy\_hosts<sup>1</sup>
  - HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID : クライアント定義ファイルの

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

`c4web.application.proxy_user` <sup>1</sup>

- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード：クライアント定義ファイルの `c4web.application.proxy_password` <sup>1</sup>

注 1 WS 接続環境設定ファイルの値は参照されません。

## 4.9 運用環境に応じた設定

JP1/AJS3 - SOA Option を使用する環境に応じた設定の方法について説明します。

### 4.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP 基本認証が行われている Web サービスと接続する場合の設定手順を次に示します。

#### (1) HTTP 基本認証を利用する場合の設定手順

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストに認証情報設定ファイルを配置する。  
認証情報設定ファイルに、HTTP 基本認証での ID、およびパスワードを設定し、WS ジョブ実行ホスト上のフォルダに配置してください。ファイル名は任意です。  
認証情報設定ファイルの設定内容については、「(2)HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容」を参照してください。
3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

#### ! 注意事項

- 標準 WS ジョブ定義時に、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブで次のように設定してください。
- [HTTP 基本認証] で [する] を選択する
  - [認証情報設定ファイル名 (ジョブ実行ホスト上)] に、手順 2 で認証情報設定ファイルを保存したフォルダを指定する

#### (2) HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容

認証情報設定ファイルで設定する内容を次の表に示します。

表 4-7 認証情報設定ファイルで設定する内容

環境設定パラメーター名	定義内容
id	HTTP 基本認証での ID
password	HTTP 基本認証でのパスワード

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

次に、環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

id

HTTP 基本認証での ID を 255 バイト以内で設定します。

このパラメーターの設定を省略した場合は、または不正な値を設定した場合は、HTTP 基本認証を行いません。

password

HTTP 基本認証でのパスワードを 255 バイト以内で設定します。

このパラメーターの設定を省略した場合は、値を空文字として扱います。不正な値を設定した場合は、HTTP 基本認証を行いません。

### (3) HTTP 基本認証を利用する場合の設定例

認証情報設定ファイルの設定例を次に示します。

```
id=id
password=password
```

### (4) 定義時の注意事項

定義時の注意事項を次に示します。

- HTTP 基本認証でのパスワードを設定するため、認証情報設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーターは、「環境設定パラメーター名 = 値」の形式で設定してください。
- 各環境設定パラメーターを改行で区切って設定してください。最終行には改行が必要です。
- 環境設定パラメーター名は、すべて小文字で設定してください。
- 環境設定パラメーター名には、スペースやタブなどの環境設定パラメーター名以外の文字を含めないでください。
- 「=」と改行の間の文字はすべて値として見なされます。
- 「(2)HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容」に示すパラメーター以外のものが設定された場合、無視されます。
- 同じ環境設定パラメーター名が重複して設定されている場合、あとの行で設定された値が有効になります。

## 4.9.2 HTTP プロキシサーバを利用する場合の設定

ここでは、標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由して接続する場合の設定について説明します。

HTTP プロキシサーバを利用するための設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての WS ジョブに、この設定が反映されま

す。

### (1) 標準 WS ジョブの場合の手順

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由する場合の設定手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
 コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、WS 接続環境設定ファイルを編集する。  
 WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の、次の項目を編集してください。
  - HTTP プロキシサーバのホスト名 (`proxy_host`)
  - HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群 (`non_proxy_hosts`)
  - HTTP プロキシサーバのポート番号 (`proxy_port`)
  - HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID (`proxy_user`)
  - HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード (`proxy_password`)
 各項目の定義内容については、「4.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。
3. コントローラーを開始する。  
 コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

### (2) ユーザー WS ジョブの場合の手順

ユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由する場合、次の方法で設定してください。

Cosminexus Application Server を使用する場合

JP1/AJS3 - SOA Option が提供するクライアント定義ファイルに設定します。設定方法については、「4.8.4(2) クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。

WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合

HTTP プロキシサーバ関連の設定をユーザー WS プログラムに実装してください。

### (3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

使用する Web アプリケーションサーバごとに注意事項を説明します。

Cosminexus Application Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方を定義する必要があります。

ただし、WS 接続環境設定ファイルの `non_proxy_hosts`、`proxy_port`、および

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

proxy\_password に値を設定しても、WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host または proxy\_port の設定が省略されていた場合、クライアント定義ファイルに設定した値が参照されます。詳細は、「4.8.4(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」を参照してください。

##### WebSphere Application Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、HTTP プロキシサーバ関連の設定を、WS 接続環境設定ファイルとユーザー WS プログラムの両方に設定する必要があります。

両方に設定する際、HTTP プロキシサーバ関連の設定のうち、「HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群」については、WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターの設定値とユーザー WS プログラムでの設定値とを合わせておき、WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターに設定してください。WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターに設定した値は、ユーザー WS プログラムでも有効になります。

WS 接続環境設定ファイルについては、「4.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

##### WebLogic Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、HTTP プロキシサーバ関連の設定を、WS 接続環境設定ファイルとユーザー WS プログラムの両方に設定する必要があります。

両方に設定する際、HTTP プロキシサーバ関連の次の設定については、WS 接続環境設定ファイルの設定値とユーザー WS プログラムでの設定値とを合わせておき、WS 接続環境設定ファイルに定義してください。

- 「HTTP プロキシサーバのホスト名」  
WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host に設定する値
- 「HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群」  
WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts に設定する値
- 「HTTP プロキシサーバのポート番号」  
WS 接続環境設定ファイルの proxy\_port に設定する値

WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host, non\_proxy\_hosts および proxy\_port 環境設定パラメーターに設定した値は、ユーザー WS プログラムでも有効になります。

WS 接続環境設定ファイルについては、「4.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

### 4.9.3 HTTPS 通信する場合の設定

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用する場合の設定

手順を次に示します。

HTTPS 通信の設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての標準 WS ジョブにこの設定が反映されます。

1. コントローラーを終了する。  
 コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. 接続先の Web サービスの電子証明書 (X.509 証明書) を入手する。
3. 入手した電子証明書を、Java のキーストアファイルに格納する。  
 キーストアファイルを作成していない場合は、新たにキーストアファイルを作成し、電子証明書を格納してください。  
 キーストアファイルの作成や、キーストアファイルへの電子証明書の格納は、JRE に付属されているコマンド `keytool` を用います。`keytool` の使い方については、JRE のマニュアルを参照してください。
4. WS ジョブ実行ホストにある環境設定ファイルに、キーストアファイルのパス情報を設定する。  
 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` については、「4.8.2 環境設定ファイルの定義」を参照してください。
5. コントローラーを開始する。  
 コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

#### 4.9.4 Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する場合の設定 (Cosminexus Application Server 限定)

ここでは、標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する手順について説明します。

タイムアウト時間の変更は、Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server を使用する場合だけ実施できます。

タイムアウト時間の設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての標準 WS ジョブにこの設定が反映されます。

##### (1) 標準 WS ジョブの場合の手順

1. コントローラーを終了する。  
 コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、WS 接続環境設定ファイルを編集する。  
 WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の、次の設定項目を編集してください。

#### 4. インストールとセットアップ (Windows の場合)

- クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値 ( `socket_write_timeout` )
- クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値 ( `socket_read_timeout` )
- クライアントのソケットの接続タイムアウト値 ( `socket_connect_timeout` )

各項目の定義内容については、「4.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

#### (2) ユーザー WS ジョブの場合の手順

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、クライアント定義ファイルを編集する。  
クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` の、次の設定項目を編集してください。
  - クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値  
( `c4web.application.socket_write_timeout` )
  - クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値  
( `c4web.application.socket_read_timeout` )
  - クライアントのソケットの接続タイムアウト値  
( `c4web.application.socket_connect_timeout` )各項目の定義内容については、「4.8.4(2) クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。
3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

#### (3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合、必ず、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方にタイムアウト時間の変更を定義してください。

WS 接続環境設定ファイルに定義していない項目がクライアント定義ファイルに定義されていた場合、標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの値が参照されます。詳細は、「4.8.4(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」を参照してください。

## 4.10 JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール

---

JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option をアンインストールするホストに Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. Windows の [ コントロールパネル ] で [ プログラムの追加と削除 ] を選択する。  
アンインストールするプログラムを選択するダイアログボックスが表示されます。
4. JP1/AJS3 - SOA Option を選択し、[ 削除 ] ボタンをクリックする。  
プログラムの削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
5. [ OK ] ボタンをクリックする。  
JP1/AJS3 - SOA Option がアンインストールされます。
6. 必要に応じて、インストール先フォルダの下にあるファイルを削除する。

### 注意事項

Windows Server 2008 で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合は、アンインストール時に管理者へ昇格させてください。



# 5

## インストールとセットアップ (UNIX の場合)

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合で、WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX のとき、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストール、セットアップ、およびアンインストールする方法について説明します。また、JP1/AJS3 - SOA Option に障害が発生したときの資料採取の設定についても説明します。

---

5.1 インストールとセットアップの流れ

---

5.2 前提アプリケーションのインストールとセットアップ

---

5.3 JP1/AJS3 - SOA Option のインストール

---

5.4 WebLogic Server 11g を使用する場合に必要な設定

---

5.5 環境変数の設定

---

5.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

---

5.7 JP1/AJS での設定

---

5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定

---

5.9 運用環境に応じた設定

---

5.10 JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール

---

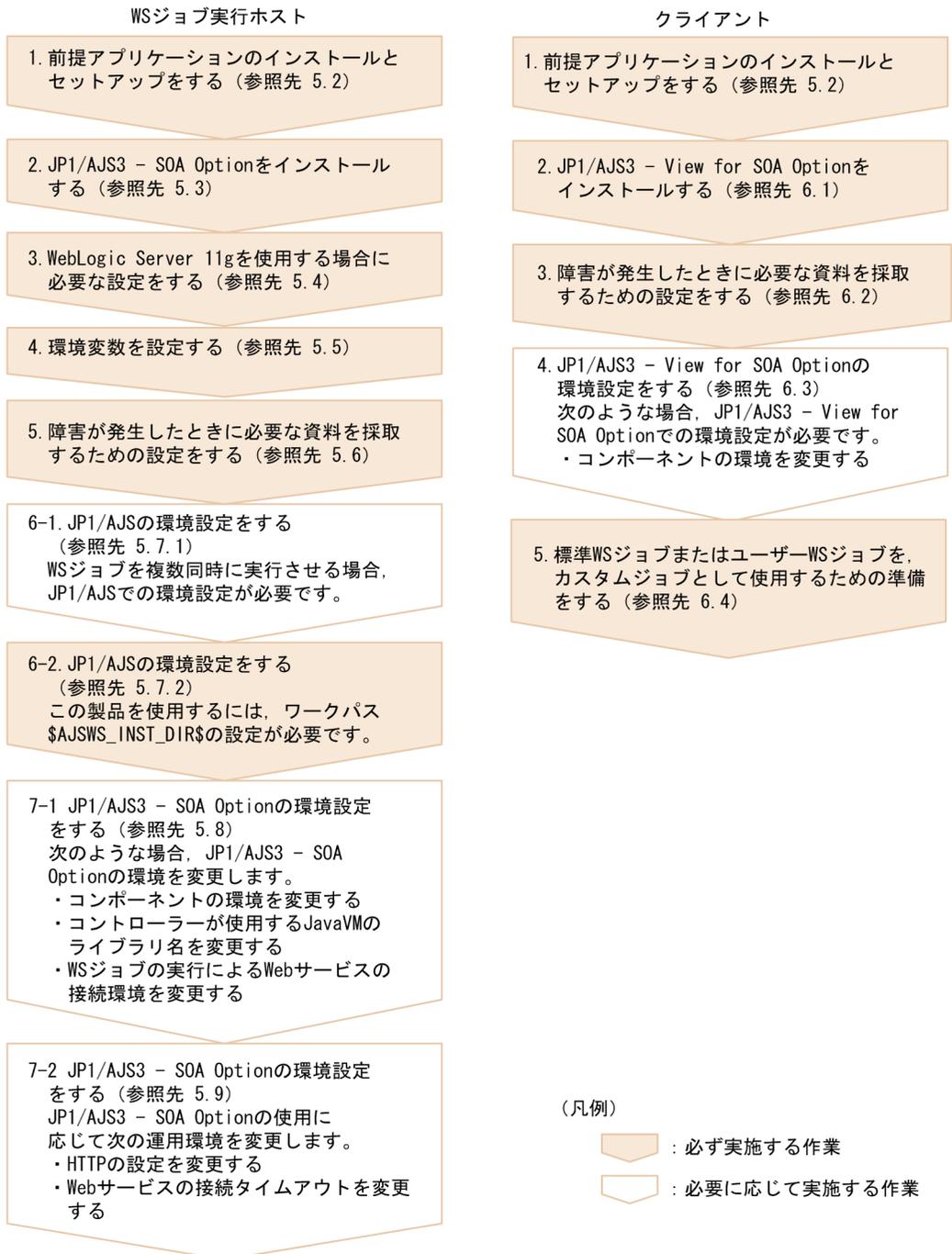
## 5.1 インストールとセットアップの流れ

---

JP1/AJS3 - SOA Option (インストール先: WS ジョブ実行ホスト) および JP1/AJS3 - View for SOA Option (インストール先: クライアント) のインストール, およびセットアップの流れについて説明します。JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップの詳細については、「6. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ」を参照してください。

次に, WS ジョブ実行ホストおよびクライアントの, インストールとセットアップの流れを図に示します。

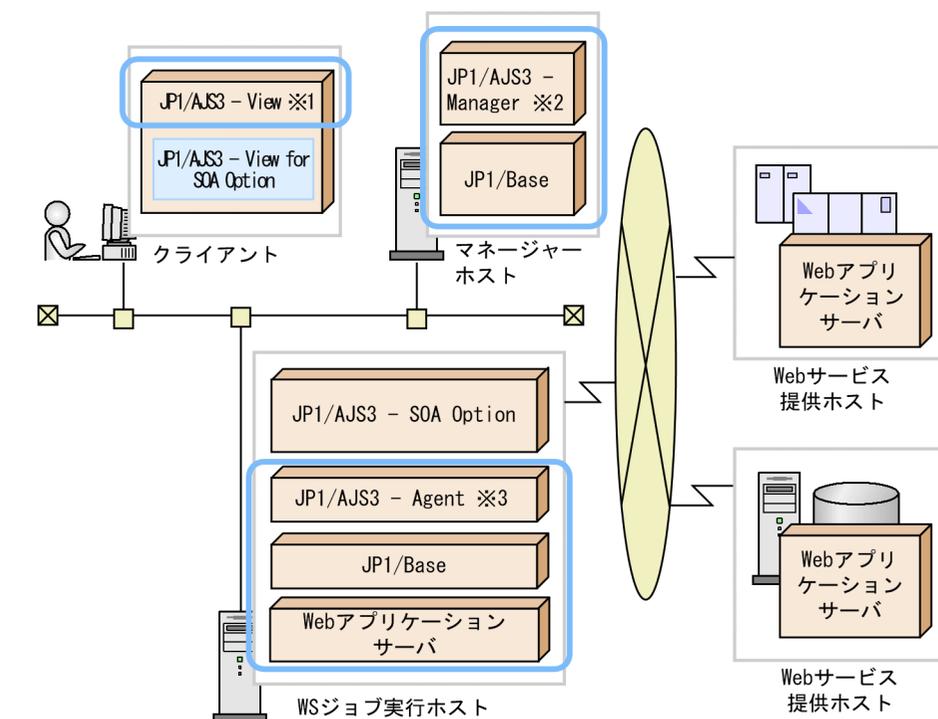
図 5-1 WS ジョブ実行ホストとクライアントの、インストールとセットアップの流れ



## 5.2 前提アプリケーションのインストールとセットアップ

WS ジョブ実行ホストまたはクライアントを使用する前に、前提アプリケーションのインストールとセットアップが必要です。WS ジョブ実行ホストおよびクライアントを使用するために必要なアプリケーションを次の図に示します。

図 5-2 WS ジョブ実行ホストおよびクライアントを使用するために必要なアプリケーション



(凡例)

 : JP1/AJS3 - SOA OptionおよびJP1/AJS3 - View for SOA Optionのインストール前にインストールしておくアプリケーション

注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。

注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。

### (1) WS ジョブ実行ホストでの作業

WS ジョブ実行ホストでは、次に示す前提プログラムのインストールとセットアップが必要です。

- JP1/Base
- JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 -

Manager

- Cosminexus Application Server , WebSphere Application Server , または WebLogic Server

注

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で WS ジョブを実行する場合 , WS ジョブ実行ホストにも JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が 必要です。

JP1/Base のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS3 - Manager のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2 - Agent または JP1/AJS2 - Manager のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。Cosminexus Application Server のインストールとセットアップについては , マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」を参照してください。WebSphere Application Server , または WebLogic Server のインストールとセットアップについては , それぞれのマニュアルを参照してください。

## (2) クライアントでの作業

クライアントでは , 前提プログラムの JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のインストールとセットアップが必要です。

JP1/AJS3 - View のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2 - View のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。

## (3) マネージャーホストでの作業

マネージャーホストでは , 次に示す前提プログラムのインストールとセットアップが必要です。

- JP1/Base
- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager

JP1/Base のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。JP1/AJS3 - Manager のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を参照してください。JP1/AJS2 - Manager のインストールとセットアップについては , マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」を参照してください。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

### (4) Web サービス提供ホストでの作業

Web サービス提供ホストでは、Cosminexus Application Server、WebSphere Application Server、または WebLogic Server のインストールとセットアップが必要です。

Cosminexus Application Server のインストールとセットアップについては、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」を参照してください。

WebSphere Application Server、または WebLogic Server のインストールとセットアップについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

## 5.3 JP1/AJS3 - SOA Option のインストール

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール方法について説明します。JP1/AJS3 - SOA Option のインストールには、媒体からインストールする方法と JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。

### (1) 媒体から新規インストールする場合

JP1/AJS3 - SOA Option を媒体から新規にインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストにスーパーユーザーでログインする。または、su コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - SOA Option の媒体をセットする。
4. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。

```
/cdrom/cdrom/LINUX/setup /cdrom/cdrom
```

Hitachi PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

#### 注

下線部には、使用する CD-ROM ディレクトリ名を指定してください。なお、CD-ROM 内のディレクトリ名やファイル名は、ハードウェアの機種によっては見え方が異なることがあります。ls コマンドで確認し、表示されたディレクトリ名やファイル名をそのまま入力してください。

5. 初期画面で「I」を入力する。  
インストールできるプログラムの一覧が表示されます。
6. JP1/AJS3 - SOA Option を選択し、「I」を入力する。  
プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースバーで選択します。「I」のあと「Y」を入力すると、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされます。
7. インストールが正常終了したら、「Q」を入力する。  
Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。  
「L」を入力し、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたことを確認してください。そのあと、「Q」を入力すると Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。さらに「Q」を入力すると、Hitachi PP Installer が終了します。  
新規インストール直後は、環境設定がすべてデフォルト値です。デフォルトから設定を変更する場合には、「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

## (2) 媒体から上書きインストールする場合

JP1/AJS3 - SOA Option がすでにインストールされているホストの状態を修復するために、媒体から上書きでインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option をインストールするホストにスーパーユーザーでログインする。または、su コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - SOA Option の媒体をセットする。
4. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。

```
/cdrom/cdrom/LINUX/setup /cdrom/cdrom
```

Hitachi PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

### 注

下線部には、使用する CD-ROM ディレクトリ名を指定してください。なお、CD-ROM 内のディレクトリ名やファイル名は、ハードウェアの機種によっては見え方が異なることがあります。ls コマンドで確認し、表示されたディレクトリ名やファイル名をそのまま入力してください。

5. 初期画面で「I」を入力する。  
インストールできるプログラムの一覧が表示されます。
6. JP1/AJS3 - SOA Option を選択し、「I」を入力する。  
プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースバーで選択します。「I」のあと「Y」を入力すると、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされます。
7. インストールが正常終了したら、「Q」を入力する。  
Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。  
「L」を入力し、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたことを確認してください。そのあと「Q」を入力すると、Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。さらに「Q」を入力すると、Hitachi PP Installer が終了します。  
上書きインストールした場合、上書きインストール前の環境設定をそのまま引き継ぎます。

## (3) JP1/NETM/DM を使ったりリモートインストール (ソフトウェアの配布)

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/NETM/DM を使ってリモートインストールをすることもできます。

次のインストールができます。

- 新規インストール  
インストール対象ホストに、JP1/AJS3 - SOA Option を新規にインストールできます。

- 上書きインストール

JP1/AJS3 - SOA Option インストール済みホストに、JP1/AJS3 - SOA Option を上書きでインストールできます。

JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM Client(UNIX(R) 用)」を参照してください。

## 5.4 WebLogic Server 11g を使用する場合に 必要な設定

---

Web アプリケーションサーバに WebLogic Server 11g を使用する場合、WebLogic Server 11g が提供する SOAP クライアントライブラリ (wseeclient.jar) を JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先ディレクトリに配置する必要があります。SOAP クライアントライブラリの格納先と配置先を次に示します。

SOAP クライアントライブラリの格納先

WSジョブ実行ホストのWebLogic Serverインストール先ディレクトリ/  
wlserver\_10.3/server/lib/wseeclient.zip

WS ジョブ実行ホストの WebLogic Server インストール先ディレクトリは、  
WebLogic Server のインストール先ディレクトリ名 (デフォルトでは "任意のディ  
レクトリ名 /Oracle/Middleware") を指します。

SOAP クライアントライブラリの配置先

wseeclient.zip にある wseeclient.jar を次のディレクトリに格納してください。

/opt/jp1ajs2forws/base/lib

WebLogic Server 11g が提供する SOAP クライアントライブラリの詳細は、WebLogic Server のマニュアルを参照してください。

## 5.5 環境変数の設定

JP1/AJS3 - SOA Option を動作させるためには、WS ジョブ実行ホストの環境変数を設定する必要があります。設定が必要な環境変数を次に示します。

- LANG
- CLASSPATH
- LD\_LIBRARY\_PATH

/etc/opt/jp1ajs2forws/base/ajsws\_start ファイル (自動開始用シェルスクリプト) に設定します。環境変数ごとに、詳細な設定内容を説明します。

### (1) LANG 環境変数の設定

LANG 環境変数の値には、「ja\_JP.UTF-8」または「C」のどちらかを設定します。JP1/AJS の言語環境と一致させてください。

### (2) CLASSPATH 環境変数の設定

CLASSPATH 環境変数には、次の値を設定します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合

ユーザー WS プログラムを配置するディレクトリ以外のディレクトリにある jar ファイルを参照する場合に、その jar ファイル名を設定します。コントローラーが開始したときに、CLASSPATH 環境変数の設定値を JavaVM に指定します (-Djava.class.path)。

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合

Web アプリケーションサーバが提供する jar ファイル名

次の点に注意して設定してください。

- jar ファイルの格納ディレクトリではなく、ファイル名を含む jar ファイルのパスを設定してください。
- 大文字・小文字に関係なく「JP1」または「AJS」から始まる環境変数を設定しないでください。
- 複数のパスを設定する際は「:」(コロン) で区切ります。

CLASSPATH 環境変数の設定例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合

```
CLASSPATH=/home/user1/test1.jar
```

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

注 1行で指定します。

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合

```
CLASSPATH=/home/user1/test1.jar: /home/Oracle/Middleware/wlserver_10.3/  
wlserver_10.3/server/lib/weblogic.jar
```

注 1行で指定します。

### (3) LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数の設定

設定する値を次の表に示します。

表 5-1 LD\_LIBRARY\_PATH に設定する値

設定する値	WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバ		
	Cosmine xus Applicati on Server	WebSph ere Applicati on Server	WebLogi c Server
JavaVM ライブラリのインストール先ディレクトリ名	-		
ユーザー WS プログラムから参照するライブラリの格納先ディレク トリ名			
Web アプリケーションサーバの格納先ディレクトリ名		-	-

(凡例)

: 設定が必要です。

- : 設定は不要です。

注

ユーザー WS プログラムで共有ライブラリ (拡張子が .so のファイル) を使用する場合に設定  
が必要です。

設定値ごとに詳細を説明します。

JavaVM ライブラリのインストール先ディレクトリ名

JavaVM ライブラリが参照するライブラリのパスを解決するために必要です。複数の  
パスを指定する際は、「:」(コロン) で区切ります。パスが設定されていない、ま  
たはパスの設定内容が不正の場合、コントローラーを開始できません。  
設定例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合

```
LD_LIBRARY_PATH=WSジョブ実行ホストのWebSphere Application Serverインストール先ディレクトリ  
/java/jre/lib/i386
```

注

1 行で指定します。

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合

```
LD_LIBRARY_PATH=WSジョブ実行ホストのWebLogic Serverインストール先ディレクトリ/
jrocket_160_17_R28.0.0-679/java/jre/lib/i386
```

注

1 行で指定します。

ユーザー WS プログラムから参照するライブラリの格納先ディレクトリ名

ユーザー WS プログラムで共有ライブラリ (拡張子が .so のファイル) を使用する  
場合、共有ライブラリの格納先ディレクトリ名を指定します。

例えば、libwspcommon.so という共有ライブラリを /home/user1/userwsp に格納し  
た場合、次のように設定します。

```
LD_LIBRARY_PATH=/home/user1/userwsp
```

Web アプリケーションサーバの格納先ディレクトリ名

Web アプリケーションサーバが Cosminexus の場合、Cosminexus Performance  
Tracer のライブラリの格納先を指定します。

設定例を次に示します。

```
LD_LIBRARY_PATH=/opt/Cosminexus/PRF/lib
```

#### (4) 環境変数の設定例

LANG, CLASSPATH, および LD\_LIBRARY\_PATH の設定例を、WS ジョブ実行ホストの  
Web アプリケーションサーバごとに次に示します。

Cosminexus Application Server の場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=/home/user1/test1.jar
LD_LIBRARY_PATH=/opt/Cosminexus/PRF/lib
```

WebSphere Application Server の場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=/home/user1/test1.jar
LD_LIBRARY_PATH=/opt/IBM/WebSphere/AppServer/java/jre/lib/i386
```

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

### WebLogic Server の場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=/home/user1/test1.jar: /home/Oracle/Middleware/wlserver_10.3/
wlserver_10.3/server/lib/web
logic.jar
LD_LIBRARY_PATH=/home/Oracle/Middleware/wlserver_10.3/jrockit_160_
17_R28.0.0-679/java/jre/lib/i386
```

## 5.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

---

障害が発生したときには、原因を特定するために必要な資料を採取する必要があります。資料採取が必要な製品を次に示します。

- JP1/AJS3 - SOA Option
- Cosminexus  
WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合だけ必要です。

次に、資料を採取するために必要な設定について説明します。

### (1) JP1/AJS3 - SOA Option での資料採取の設定

JP1/AJS3 - SOA Option に障害が発生したとき、原因を特定するために資料採取コマンド (ajsaws\_log コマンド) で資料を採取します。資料採取コマンドを使用するにはセットアップが必要です。資料採取コマンドのセットアップ方法を次に説明します。

1. 資料採取コマンドを任意の別のディレクトリにコピーする。  
次の資料採取コマンドをコピーします。

```
/opt/jp1ajs2forws/base/tools/ajsaws_log
```

2. コピーした資料採取コマンドに書き込み権限を設定する。
3. コピーした資料採取コマンドをテキストエディターで編集する。  
資料採取コマンドで採取する情報の退避先を指定します。

```
DIR_BACKLOG=/tmp/jp1ajs2forws/backlog
```

資料は、DIR\_BACKLOG に指定したディレクトリ下の JP1\_DEFAULT.tar.z に出力されます。

#### **!** 注意事項

資料採取コマンドは、必ず任意の別のディレクトリにコピーして使用してください。別のディレクトリにコピーしないで使用した場合、上書きインストールすると資料採取コマンドの編集内容が失われます。

### (2) Cosminexus での資料採取の設定

WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server がある場合、Cosminexus の資料を採取するための設定が必要となります。Cosminexus の資料採取は、トレースログと性能解析トレースを設定します。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

### (a) トレースログの設定

障害解析の資料採取のために、Cosminexus の共通定義ファイルで「異常発生時のアプリケーションログ出力」オプションの値を「NONE」以外に設定してください。共通定義ファイルの設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

### (b) 性能解析トレースの設定

Cosminexus が提供する性能解析トレースを設定することで、WS ジョブで実行された Web サービスの要求がどこまで処理されたかを確認できます。性能解析トレースの設定については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」またはマニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

## 5.7 JP1/AJS での設定

---

JP1/AJS で必要な設定について説明します。

### 5.7.1 WS ジョブを複数同時に実行する場合に必要な設定

複数の WS ジョブを同時に実行させる場合、JP1/AJS の環境設定で、ジョブの実行多重度を必要に応じて設定します。ジョブ実行多重度の設定方法については、次のマニュアルを参照してください。

JP1/AJS3 の場合

マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」

JP1/AJS2 の場合

マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」

JP1/AJS のジョブ実行多重度は、JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定パラメーター `maxwsp` (WS ジョブの最大同時実行数) 分の WS ジョブが実行できるように設定してください。JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定パラメーターについては、「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

### 5.7.2 WS ジョブ実行時のワークパスの設定

この製品を使用するには、ワークパス `$AJSWS_INST_DIR$` の設定が必要です。

ワークパス `$AJSWS_INST_DIR$` の変数の値には、JP1/AJS3 - SOA Option インストール先ディレクトリを設定してください。

WS ジョブ実行時のワークパスを変数として設定する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」の、ジョブ実行時のワークパスを変数として設定する方法について説明している個所を参照してください。

## 5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定

---

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定では、JP1/AJS3 - SOA Option に関する定義項目を、インストールしたときの値から変更できます。

次の環境設定のファイルに設定します。

- 環境設定ファイル `ajswscommon.conf`  
JP1/AJS3 - SOA Option を構成するコンポーネントの環境設定を記述したファイルです。
- JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf`  
コントローラーおよび WS プログラムを動作させる JavaVM の起動パラメーターを記述したファイルです。
- WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf`  
標準 WS ジョブによる Web サービスの接続環境を記述したファイルです。
- クライアント定義ファイル `c4webcl.properties`  
Cosminexus のクライアント定義ファイルです。Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合に必要なファイルです。ユーザー WS ジョブによる Web サービスの接続環境を記述します。

次に、環境設定ファイルの定義手順および環境設定ファイルの定義項目について説明します。

### 5.8.1 環境設定ファイルの定義手順

環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルの定義内容を変更し、コントローラーに反映させる手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ファイルを編集する。  
環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルは、次のディレクトリに格納されています。

```
/etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf
```

各ファイルをテキストエディターで開き、編集してください。文字コードは「UTF-8」です。改行コードは「LF」です。編集方法の詳細については、「5.8.2 環境設定ファイルの定義」、「5.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」、および「5.8.4 Web サービス接続環境の定義」を参照してください。

3. コントローラーを開始する。  
 コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

## 5.8.2 環境設定ファイルの定義

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター、および定義時の注意事項について説明します。

### (1) 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 5-2 `ajswscommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター一覧

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>port</code>	ポート番号
<code>maxwsp</code>	WS ジョブの最大同時実行数
<code>log.file_size</code>	稼働ログファイルのサイズ
<code>log.num</code>	稼働ログの面数
<code>jvmlib</code>	コントローラーが使用する JavaVM のライブラリ名
<code>apserver_path</code>	使用する Web アプリケーションサーバのインストールパス
<code>stdout_enable</code>	ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にするかどうか
<code>apserver_kind</code>	使用する Web アプリケーションサーバの種類
<code>apserver_home</code>	Linux の場合は、設定不要です。
<code>keystore</code> <sup>1</sup>	キーストアファイルのパス
<code>keystore_password</code> <sup>1</sup>	キーストアのパスワード
<code>truststore</code> <sup>1</sup>	トラストストアファイルのパス
<code>truststore_password</code> <sup>1</sup>	トラストストアファイルのパスワード
<code>jaxws_enable</code> <sup>2</sup>	ユーザー WS プログラムで JAX-WS を利用するかどうか

注 1

WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

注 2

WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

次に、環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

### port

JP1/AJS3 - SOA Option の内部処理の通信で使用するポート番号を設定します。  
1,024 ~ 65,535 の範囲で設定します。  
デフォルトでは、「20500」が設定されます。  
このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

### maxwsp

WS ジョブの最大同時実行数を設定します。  
JP1/AJS の「ジョブ実行多重度」は、ここで設定した WS ジョブの最大同時実行数分の WS ジョブが実行できるように設定してください。  
1 ~ 64 の範囲で設定します。  
デフォルトでは、「10」が設定されます。  
このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

### log.file\_size

JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログのサイズを設定します。JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。  
4,096 ~ 16,777,216 バイトの範囲で設定します。  
デフォルトでは、「2097152」バイトが設定されます。  
このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

### ! 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のディレクトリの下にあるファイルとディレクトリをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。  
`/var/opt/jp1ajs2forws/base/log`

### log.num

JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログの面数を設定します。JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。  
2 ~ 16 の範囲で設定します。  
デフォルトでは、「2」が設定されます。  
このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

**!** 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のディレクトリの下にあるファイルとディレクトリをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。

`/var/opt/jplajs2forws/base/log`

## jvmlib

使用する Web アプリケーションサーバが提供する JavaVM のライブラリ名をフルパスで設定します。

デフォルトを次に示します。

`/opt/Cosminexus/jdk/jre/lib/i386/server/libjvm.so`

下線部は、使用する Web アプリケーションサーバに応じて、次に示すライブラリ名を指定してください。

表 5-3 JavaVM ライブラリ名

項番	Web アプリケーションサーバ	JavaVM ライブラリ名
1	Cosminexus Application Server	<code>/opt/Cosminexus/jdk/jre/lib/i386/server/libjvm.so</code>
2	WebSphere Application Server	WS ジョブ実行ホストの WebSphere Application Server インストール先ディレクトリ <code>/java/jre/lib/i386/classic/libjvm.so</code>
3	WebLogic Server	WS ジョブ実行ホストの WebLogic Server インストール先ディレクトリ <code>/jrocket_160_17_R28.0.0-679/jre/lib/i386/jrocket/libjvm.so</code>

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

## apserver\_path

WS ジョブ実行ホストにある Web アプリケーションサーバのインストールパスをフルパスで設定します。

デフォルトでは次の値が設定されます。

`/opt/Cosminexus`

下線部は、使用する Web アプリケーションサーバに応じて変更してください。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

## stdout\_enable

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にするかどうかを設定します。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

0

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を無効にします。

1

ユーザー WS ジョブ実行時に標準出力を有効にします。

デフォルトでは、「1」が設定されます。

「0」を設定すると、ユーザー WS プログラムに Java 標準の機能で標準出力するように実装しても、標準出力には出力されません。

「1」を設定すると、Java 標準の機能で標準出力に出力した内容と SOAP クライアントライブラリによって標準出力に出力された稼働情報が混在します。したがって、標準出力を使用してユーザー WS ジョブの結果を後続ジョブへ引き継ぐことが困難になる場合があります。必要に応じて `stdout_enable` の値を「0」に変更してください。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

`apserver_kind`

Web アプリケーションサーバの種類を次のように設定します。

- Cosminexus Application Server の場合 : 「COS」
- WebSphere Application Server の場合 : 「WAS7」
- WebLogic Server の場合 : 「WL10」

デフォルトでは、「COS」が設定されています。

このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

`apserver_home`

Linux の場合は、設定不要です。

デフォルトで空文字が設定されています。デフォルト値のまま (空文字) にしてください。

`keystore`

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、キーストアファイルの格納先パスを設定します。このパラメーターは、WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合に設定が必要です。

キーストアは、HTTPS 通信する際の暗号化に使用する鍵です。キーストアファイルは、WS ジョブの実行によって Web サービス提供ホストに接続する際、HTTPS 通信を利用したクライアント認証で使用されます。

フルパスで設定してください。また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server を使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされ

ます。

```
javax.net.ssl.keyStore
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.keyStore については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

keystore\_password

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、キーストアのパスワードを設定します。このパラメーターは、WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合に設定が必要です。

6 ~ 511 バイトの範囲で設定します。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server を使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.keyStorePassword
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.keyStorePassword については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラ

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

ムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

### truststore

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、トラストストアファイルの格納先パスを設定します。このパラメーターは、WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合に設定が必要です。

トラストストアは、HTTPS 通信する際の電子証明書です。トラストストアファイルは、WS ジョブの実行による Web サービス提供ホストに接続する際、HTTPS 通信を利用してクライアント認証する場合に使用します。フルパスで設定してください。また、次の点に注意してください。

#### Cosminexus Application Server を使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.trustStore
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.trustStore については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

#### WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

### truststore\_password

WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信する場合に、トラストストアの

パスワードを設定します。このパラメーターは、WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server の場合に設定が必要です。

6 ~ 511 バイトの範囲で設定します。

また、次の点に注意してください。

Cosminexus Application Server を使用する場合

このパラメーターに設定した値は、次のシステムプロパティにマッピングされます。

```
javax.net.ssl.trustStorePassword
```

このため、ユーザー WS ジョブの実行でも有効になります。

javax.net.ssl.trustStorePassword については、マニュアル

「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」の FAQ の、SOAP クライアントから SSL を使用して SOAP サービスへの接続について記載している個所を参照してください。

WebSphere Application Server を使用する場合

ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続で HTTPS 通信する場合は、このパラメーターに値を設定しても HTTPS 通信できません。ユーザー WS プログラムの実装で設定してください。

なお、WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

このため、標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用できません。ただし、ユーザー WS ジョブでの Web サービス接続では、HTTPS 通信を利用できます。ユーザー WS プログラムに HTTPS 通信関連の設定を実装してください。

jaxws\_enable

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server 08-50 以降を使用する場合、ユーザー WS プログラムで JAX-WS を利用するかどうかを設定します。

0

JAX-WS を利用しません。

1

JAX-WS を利用します。

デフォルトでは、「1」が設定されます。ただし、この環境設定パラメーター名がない場合 (JP1/AJS3 - SOA Option からのアップグレードの場合) は、設定値を「0」として動作します。このパラメーターの設定を省略した場合、または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

なお、WebLogic Server または WebSphere Application Server を使用する場合、このパラメーターは利用できません。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

### (2) 環境設定ファイルの設定例

環境設定ファイル `ajswscommon.conf` の設定例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=/opt/Cosminexus/jdk/jre/lib/i386/server/libjvm.so
apserver_path=/opt/Cosminexus
stdout_enable=1
apserver_kind=COS
keystore=/home/user1/1.keystore
keystore_password=password
truststore=/home/user1/1.truststore
truststore_password=password
jaxws_enable=1
```

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=/usr/IBM/WebSphere/AppServer/java/jre/lib/i386/classic/
libjvm.so
apserver_path=/usr/IBM/WebSphere/AppServer
stdout_enable=1
apserver_kind=WAS7
keystore=/home/user1/1.keystore
keystore_password=password
truststore=/home/user1/1.truststore
truststore_password=password
```

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合

```
# コメント
port=20500
maxwsp=10
log.file_size=2097152
log.num=2
jvmlib=/usr/Oracle/Middleware/jrockit_160_17_R28.0.0-679/jre/lib
/i386/jrockit/libjvm.so
apserver_path=/usr/Oracle/Middleware/wlserver_10.3
stdout_enable=1
apserver_kind=WL10
```

### (3) 定義時の注意事項

定義時の注意事項を次に示します。

- キーストアのパスワードおよびトラストストアのパスワードを設定する場合、環境設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーターは、「環境設定パラメーター名 = 値」の形式で設定してください。
- 各環境設定パラメーターを改行で区切って設定してください。最終行には改行が必要です。
- 空行は設定しないでください。
- 「#」で始まる行はコメントと見なされます。
- 環境設定パラメーター名は、すべて小文字で設定してください。
- 環境設定パラメーター名には、スペースやタブなどの環境設定パラメーター名以外の文字を含めないでください。
- 「=」と改行の間の文字はすべて値として見なされます。
- 「(1) 環境設定ファイル ajswscommon.conf に定義できる環境設定パラメーター」に示すパラメーター以外のものが設定された場合、無視されます。
- 同じ環境設定パラメーター名が重複して設定されている場合、あとの行で設定された値が有効になります。

### 5.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義

JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` に定義するオプション、および定義時の注意事項について説明します。

#### (1) JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` に定義するオプション

JavaVM 起動オプション設定ファイルに定義するオプションを次に示します。

- コントローラーを開始する際のメモリー使用量を設定します。メモリー所要量の見積もりで算出した値を、メモリー関連のオプション (`-Xms`, `-Xmx`, または `-Xss`) に設定します。
- ユーザー WS プログラムの処理に必要なシステムプロパティがある場合、設定してください。
- Cosminexus Application Server でユーザー WS プログラムから JAX-WS を利用する場合、次のプロパティを設定してください。  
`-Dcosminexus.home=Cosminexusインストールパス`

参考

---

JavaVM 起動オプションの詳細は、JavaVM のドキュメントを参照してください。

---

#### (2) JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義例

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義例を次に示します。

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

```
-Xms256m  
-Xmx512m  
-Dproperty1=1  
-Dproperty2=2  
-Dcosminexus.home=Cosminexusインストールパス
```

この定義例では、ユーザー WS プログラムの処理に必要なシステムプロパティとして、  
-Dproperty1=1 および -Dproperty2=2 を設定しています。

### (3) 定義時の注意事項

- 1 行の終わりは、必ず改行してください。最後の行も改行してください。
- 空行は設定できません。

## 5.8.4 Web サービス接続環境の定義

Web サービスの接続環境として、HTTP プロキシサーバを使用する場合の設定、タイムアウトの設定、およびリトライ回数を必要に応じて設定してください。

設定する方法は、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブで異なります。方法を次に示します。

#### 標準 WS ジョブを使用する場合

JP1/AJS3 - SOA Option が提供する WS 接続環境設定ファイルに設定します。設定方法については、「(1)WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

#### ユーザー WS ジョブを使用する場合

使用する Web アプリケーションごとに、設定方法を説明します。

##### Cosminexus Application Server を使用する場合

JP1/AJS3 - SOA Option が提供するクライアント定義ファイルに設定します。設定方法については、「(2)クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。

##### WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合

ユーザー WS プログラムに実装してください。

ここでは、WS 接続環境設定ファイル、およびクライアント定義ファイルに定義できる項目と設定例について説明します。

なお、Cosminexus Application Server を使用する場合で、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するときは、「(3)標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」も参照してください。

### (1) WS 接続環境設定ファイルの定義

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター、WS 接続環境設定ファイルの定義例、および定義時の注意事項について説明します。

(a) WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーターを次の表に示します。

表 5-4 `ajsws_ws.conf` に定義できる環境設定パラメーター一覧

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>proxy_host</code>	HTTP プロキシサーバのホスト名
<code>non_proxy_hosts</code>	HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群
<code>proxy_port</code>	HTTP プロキシサーバのポート番号
<code>proxy_user</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID
<code>proxy_password</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード
<code>socket_write_timeout</code>	クライアントのソケットの書き込みタイムアウト時間
<code>socket_read_timeout</code>	クライアントのソケットの読み込みタイムアウト時間
<code>socket_connect_timeout</code>	クライアントのソケットの接続タイムアウト時間
<code>retry_count</code>	Web サービスの接続に失敗した場合のリトライ回数
<code>retry_interval</code>	Web サービスの接続に失敗した場合のリトライ間隔

## 注

WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

次に、各環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

`proxy_host`

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバのホスト名を設定します。  
255 バイト以内で設定します。

`non_proxy_hosts`

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由しないホストがある場合、そのホスト名を設定します。

65,535 バイト以内で設定します。

複数のホスト名を設定する場合は、「|」で区切って設定します。

HTTP プロキシサーバのホスト名 (`proxy_host`) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (`proxy_port`) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視されます。

`proxy_port`

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プ

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

ロキシサーバのポート番号を設定します。

1024 ~ 65535 の範囲で設定します。

### proxy\_user

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID を設定します。

255 バイト以内で設定します。

HTTP プロキシサーバのホスト名 (proxy\_host) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (proxy\_port) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視されます。

### proxy\_password

Web サービスとの HTTP 通信で HTTP プロキシサーバを経由する場合、HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定します。

255 バイト以内で設定します。

HTTP プロキシサーバのホスト名 (proxy\_host) および HTTP プロキシサーバのポート番号 (proxy\_port) が設定されていない場合、ここに設定した値は無視されます。

### socket\_write\_timeout

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの書き込みタイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「60」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、タイムアウトの監視はしません。

なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

### socket\_read\_timeout

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの読み込みタイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「300」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、タイムアウトの監視はしません。

なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

### socket\_connect\_timeout

Web サービスとの接続時の、クライアントのソケットの接続タイムアウト時間を設定します。

0 ~ 86,400 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「60」秒が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合は、接続タイムアウトの監視はしません。  
 なお、WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合、このパラメーターに値を設定しても無効になります。

#### retry\_count

Web サービスとの接続時の、リトライの回数を設定します。

0 ~ 9 の数値を設定します。

デフォルトでは、「3」が設定されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合はリトライしません。

#### retry\_interval

Web サービスとの接続時の、リトライの間隔を設定します。

0 ~ 60 秒の範囲で設定します。

デフォルトでは、「10」秒が設定されます。

リトライ回数 (retry\_count) が「0」の場合、このパラメーターに設定した値は無視されます。

このパラメーターに「0」を設定した場合、間隔を空けないでリトライします。

#### 注

ジョブ定義時にジョブ打ち切り時間を設定する場合、リトライが終わらないうちにジョブの打ち切りが発生しないように考慮してタイムアウト時間、リトライ回数、およびリトライ間隔を設定してください。

#### (b) WS 接続環境設定ファイルの定義例

WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の定義例を次に示します。

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合

```
proxy_host=ProxyHostName
non_proxy_hosts=HostName1|HostName2
proxy_port=8080
proxy_user=user1
proxy_password=password
socket_write_timeout=12
socket_read_timeout=60
socket_connect_timeout=180
retry_count=1
retry_interval=5
```

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

```
proxy_host=ProxyHostName
non_proxy_hosts=HostName1|HostName2
proxy_port=8080
proxy_user=user1
proxy_password=password
retry_count=1
retry_interval=5
```

### (c) 定義時の注意事項

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定する場合、WS 接続環境設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。

## (2) クライアント定義ファイルの定義

クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` に定義できる項目、クライアント定義ファイルの定義例、および定義時の注意事項について説明します。

### (a) クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` に定義できる項目

Cosminexus のクライアント定義ファイルのうち、JP1/AJS3・SOA Option で使用する定義項目を次の表に示します。

表 5-5 クライアント定義ファイルの定義項目

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>c4web.logger.log_file_prefix</code>	トレースファイル、アプリケーションログのプレフィクス (「ajsws」固定)
<code>c4web.application.proxy_host</code>	HTTP プロキシサーバのホスト名
<code>c4web.application.non_proxy_hosts</code>	HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群
<code>c4web.application.proxy_port</code>	HTTP プロキシサーバのポート番号
<code>c4web.application.proxy_user</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID
<code>c4web.application.proxy_password</code>	HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード
<code>c4web.application.socket_write_timeout</code>	クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値
<code>c4web.application.socket_read_timeout</code>	クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値
<code>c4web.application.socket_connect_timeout</code>	クライアントのソケットの接続タイムアウト値

ファイルのフォーマット、文字コード、および定義内容については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。

(b) クライアント定義ファイルの定義例

クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` の定義例を次に示します。

```
c4web.logger.log_file_prefix=ajsws
```

(c) 定義時の注意事項

- マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引」のクライアント定義ファイルの設定について記載している個所を参照してください。
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワードを設定する場合、クライアント定義ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーター `c4web.logger.log_file_prefix` は、「ajsws」固定です。変更しないでください。
- クライアント定義ファイルの定義は、コントローラー単位で定義します。したがって、同一のコントローラーで複数のユーザー WS ジョブを実行する場合、すべてのユーザージョブの実行でクライアント定義ファイルの値を使用します。

(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

Cosminexus Application Server を使用する場合で、標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方を定義する必要があります。

両方のファイルを定義すると、WS ジョブの実行時は、次のようにファイルが参照されます。

表 5-6 WS ジョブの実行時に参照されるファイル

	WS 接続環境設定ファイル	クライアント定義ファイル
標準 WS ジョブの実行時		
ユーザー WS ジョブの実行時	-	

(凡例)

- : 優先して参照される
- : 優先するファイルがない場合に参照される
- : 参照されない

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

WS 接続環境設定ファイルに定義していない項目がクライアント定義ファイルに定義されていた場合、標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの値が参照されます。

標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの内容が参照されると問題がある場合は、WS 接続環境設定ファイルに必要な項目が定義されているかを必ず確認してください。

WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの環境設定パラメーター名の対応を次に示します。

表 5-7 環境設定パラメーター名の対応

定義内容	WS 接続環境設定ファイルの環境設定パラメーター名	クライアント定義ファイルの環境設定パラメーター名
HTTP プロキシサーバのホスト名	proxy_host	c4web.application.proxy_host
HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群	non_proxy_hosts	c4web.application.non_proxy_hosts
HTTP プロキシサーバのポート番号	proxy_port	c4web.application.proxy_port
HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID	proxy_user	c4web.application.proxy_user
HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード	proxy_password	c4web.application.proxy_password
クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値	socket_write_timeout	c4web.application.socket_write_timeout
クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値	socket_read_timeout	c4web.application.socket_read_timeout
クライアントのソケットの接続タイムアウト値	socket_connect_timeout	c4web.application.socket_connect_timeout
リトライ回数	retry_count	-
リトライ間隔	retry_interval	-

(凡例)

- : WS 接続環境設定ファイルに定義していない場合、参照されません。

注

non\_proxy\_hosts, proxy\_port, および proxy\_password は、WS 接続環境設定ファイルに値を設定しても、WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host または proxy\_port の設定が省略されていた場合、クライアント定義ファイルに設定した値が参照されます。例を次に示します。

(例)

1. WS 接続環境設定ファイルに次の項目が設定されている場合

`non_proxy_hosts` , `proxy_user` , `proxy_password` ( `proxy_host` と `proxy_port` の設定が省略されている )

2. クライアント定義ファイルに次の項目が設定されている場合

`c4web.application.proxy_host` , `c4web.application.proxy_port` ,  
`c4web.application.non_proxy_hosts` ,  
`c4web.application.proxy_user` ,  
`c4web.application.proxy_password` ( WS 接続環境設定ファイルの `proxy_host` と `proxy_port` に対応する項目に値が設定されている )

1. と 2. の両方が該当する場合、次の値が参照されます。

- HTTP プロキシサーバのホスト名 : クライアント定義ファイルの `c4web.application.proxy_host`
- HTTP プロキシサーバのポート番号 : クライアント定義ファイルの `c4web.application.proxy_port`
- HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群 : クライアント定義ファイルの `c4web.application.non_proxy_hosts` <sup>1</sup>
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID : クライアント定義ファイルの `c4web.application.proxy_user` <sup>1</sup>
- HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード : クライアント定義ファイルの `c4web.application.proxy_password` <sup>1</sup>

注 1 WS 接続環境設定ファイルの値は参照されません。

## 5.9 運用環境に応じた設定

JP1/AJS3 - SOA Option を使用する環境に応じた設定の方法について説明します。

### 5.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP 基本認証が行われている Web サービスと接続する場合の設定手順を次に示します。

#### (1) HTTP 基本認証を利用する場合の設定手順

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストに認証情報設定ファイルを配置する。  
認証情報設定ファイルに、HTTP 基本認証での ID、およびパスワードを設定し、WS ジョブ実行ホスト上のディレクトリに配置してください。ファイル名は任意です。  
認証情報設定ファイルの設定内容については、「(2) HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容」を参照してください。
3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

#### ! 注意事項

標準 WS ジョブ定義時に、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブで次のように設定してください。

- [HTTP 基本認証] で [する] を選択する
- [認証情報設定ファイル名 (ジョブ実行ホスト上)] に、手順 2 で認証情報設定ファイルを保存したディレクトリを指定する

#### (2) HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容

認証情報設定ファイルで設定する内容を次の表に示します。

表 5-8 認証情報設定ファイルで設定する内容

環境設定パラメーター名	定義内容
id	HTTP 基本認証での ID
password	HTTP 基本認証でのパスワード

次に、環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

id

HTTP 基本認証での ID を 255 バイト以内で設定します。  
このパラメーターの設定を省略した場合は、または不正な値を設定した場合は、HTTP 基本認証を行いません。

password

HTTP 基本認証でのパスワードを 255 バイト以内で設定します。  
このパラメーターの設定を省略した場合は、値を空文字として扱います。不正な値を設定した場合は、HTTP 基本認証を行いません。

### (3) HTTP 基本認証を利用する場合の設定例

認証情報設定ファイルの設定例を次に示します。

```
id=id
password=password
```

### (4) 定義時の注意事項

定義時の注意事項を次に示します。

- HTTP 基本認証でのパスワードを設定するため、認証情報設定ファイルが第三者から不正にアクセスされないように注意してください。
- 環境設定パラメーターは、「環境設定パラメーター名 = 値」の形式で設定してください。
- 各環境設定パラメーターを改行で区切って設定してください。最終行には改行が必要です。
- 環境設定パラメーター名は、すべて小文字で設定してください。
- 環境設定パラメーター名には、スペースやタブなどの環境設定パラメーター名以外の文字を含めないでください。
- 「=」と改行の間の文字はすべて値として見なされます。
- 「(2)HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容」に示すパラメーター以外のものが設定された場合、無視されます。
- 同じ環境設定パラメーター名が重複して設定されている場合、あとの行で設定された値が有効になります。

## 5.9.2 HTTP プロキシサーバを利用する場合の設定

ここでは、標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由して接続する場合の設定について説明します。

HTTP プロキシサーバを利用するための設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての WS ジョブに、この設定が反映されま

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

す。

### (1) 標準 WS ジョブの場合の手順

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由する場合の設定手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、WS 接続環境設定ファイルを編集する。  
WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の、次の項目を編集してください。
  - HTTP プロキシサーバのホスト名 (`proxy_host`)
  - HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群 (`non_proxy_hosts`)
  - HTTP プロキシサーバのポート番号 (`proxy_port`)
  - HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID (`proxy_user`)
  - HTTP プロキシサーバの認証ユーザー ID に対応するパスワード (`proxy_password`)

各項目の定義内容については、「5.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

### (2) ユーザー WS ジョブの場合の手順

ユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを経由する場合、次の方法で設定してください。

Cosminexus Application Server を使用する場合

JP1/AJS3・SOA Option が提供するクライアント定義ファイルに設定します。設定方法については、「5.8.4(2) クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。

WebSphere Application Server または WebLogic Server を使用する場合

HTTP プロキシサーバ関連の設定をユーザー WS プログラムに実装してください。

### (3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

使用する Web アプリケーションサーバごとに注意事項を説明します。

Cosminexus Application Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方を定義する必要があります。

ただし、WS 接続環境設定ファイルの `non_proxy_hosts`、`proxy_port`、および

proxy\_password に値を設定しても、WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host または proxy\_port の設定が省略されていた場合、クライアント定義ファイルに設定した値が参照されます。詳細は、「5.8.4(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」を参照してください。

#### WebSphere Application Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、HTTP プロキシサーバ関連の設定を、WS 接続環境設定ファイルとユーザー WS プログラムの両方に設定する必要があります。

両方に設定する際、HTTP プロキシサーバ関連の設定のうち、「HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群」については、WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターの設定値とユーザー WS プログラムでの設定値とを合わせておき、WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターに設定してください。WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts 環境設定パラメーターに設定した値は、ユーザー WS プログラムでも有効になります。

WS 接続環境設定ファイルについては、「5.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

#### WebLogic Server を使用する場合

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用するとき、HTTP プロキシサーバ関連の設定を、WS 接続環境設定ファイルとユーザー WS プログラムの両方に設定する必要があります。

両方に設定する際、HTTP プロキシサーバ関連の次の設定については、WS 接続環境設定ファイルの設定値とユーザー WS プログラムでの設定値とを合わせておき、WS 接続環境設定ファイルに定義してください。

- 「HTTP プロキシサーバのホスト名」  
WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host に設定する値
- 「HTTP プロキシサーバを使用しないホスト名群」  
WS 接続環境設定ファイルの non\_proxy\_hosts に設定する値
- 「HTTP プロキシサーバのポート番号」  
WS 接続環境設定ファイルの proxy\_port に設定する値

WS 接続環境設定ファイルの proxy\_host、non\_proxy\_hosts および proxy\_port 環境設定パラメーターに設定した値は、ユーザー WS プログラムでも有効になります。

WS 接続環境設定ファイルについては、「5.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

### 5.9.3 HTTPS 通信する場合の設定

標準 WS ジョブの実行による Web サービス接続で、HTTPS 通信を利用する場合の設定

## 5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)

手順を次に示します。

HTTPS 通信の設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての標準 WS ジョブにこの設定が反映されます。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. 接続先の Web サービスの電子証明書 (X.509 証明書) を入手する。
3. 入手した電子証明書を、Java のキーストアファイルに格納する。  
キーストアファイルを作成していない場合は、新たにキーストアファイルを作成し、電子証明書を格納してください。  
キーストアファイルの作成や、キーストアファイルへの電子証明書の格納は、JRE に付属されているコマンド `keytool` を用います。 `keytool` の使い方については、JRE のマニュアルを参照してください。
4. WS ジョブ実行ホストにある環境設定ファイルに、キーストアファイルのパス情報を設定する。  
環境設定ファイル `ajswscommon.conf` については、「5.8.2 環境設定ファイルの定義」を参照してください。
5. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

### 5.9.4 Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する場合の設定 (Cosminexus Application Server 限定)

ここでは、標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブの実行による Web サービス接続で、Web サービス接続のタイムアウト時間を変更する手順について説明します。

タイムアウト時間の変更は、Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server を使用する場合だけ実施できます。

タイムアウト時間の設定は、コントローラー単位で設定します。したがって、同一のコントローラーで動くすべての標準 WS ジョブにこの設定が反映されます。

#### (1) 標準 WS ジョブの場合の手順

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、WS 接続環境設定ファイルを編集する。  
WS 接続環境設定ファイル `ajsws_ws.conf` の、次の設定項目を編集してください。

- クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値 ( `socket_write_timeout` )
- クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値 ( `socket_read_timeout` )
- クライアントのソケットの接続タイムアウト値 ( `socket_connect_timeout` )

各項目の定義内容については、「5.8.4(1) WS 接続環境設定ファイルの定義」を参照してください。

3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

## (2) ユーザー WS ジョブの場合の手順

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーを終了する方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ジョブ実行ホストにある、クライアント定義ファイルを編集する。  
クライアント定義ファイル `c4webcl.properties` の、次の設定項目を編集してください。
  - クライアントのソケットの書き込みタイムアウト値  
( `c4web.application.socket_write_timeout` )
  - クライアントのソケットの読み込みタイムアウト値  
( `c4web.application.socket_read_timeout` )
  - クライアントのソケットの接続タイムアウト値  
( `c4web.application.socket_connect_timeout` )各項目の定義内容については、「5.8.4(2) クライアント定義ファイルの定義」を参照してください。
3. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、「11.4.1 コントローラーの開始」を参照してください。

## (3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合、必ず、WS 接続環境設定ファイルとクライアント定義ファイルの両方にタイムアウト時間の変更を定義してください。

WS 接続環境設定ファイルに定義していない項目がクライアント定義ファイルに定義されていた場合、標準 WS ジョブの実行時に、クライアント定義ファイルの値が参照されます。詳細は、「5.8.4(3) 標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブを併用する場合の注意事項」を参照してください。

## 5.10 JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール

---

JP1/AJS3 - SOA Option のアンインストール手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option をアンインストールするホストにスーパーユーザーでログインするか、または su コマンドでユーザーをスーパーユーザーに変更する。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. 次のコマンドを実行して、Hitachi PP Installer を起動する。

```
/etc/hitachi_setup
```

Hitachi PP Installer が起動され、初期画面が表示されます。

4. 初期画面で「D」を入力する。  
アンインストールできるプログラムの一覧が表示されます。
5. JP1/AJS3 - SOA Option を選択し、「D」のあと「y」を入力する。  
選択したプログラムがアンインストールされます。なお、プログラムを選択するには、カーソルを移動させ、スペースバーで選択します。
6. アンインストールが正常終了したら、「Q」を入力する。  
Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。  
「L」を入力し、JP1/AJS2 for Web Service がアンインストールされたことを確認してください。そのあと「Q」を入力すると、Hitachi PP Installer の初期画面に戻ります。さらに「Q」を入力すると、Hitachi PP Installer が終了します。
7. 必要に応じて、インストール先ディレクトリ下のファイルを削除する。

# 6

## JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合の、JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール、セットアップ、およびアンインストールについて説明します。また、JP1/AJS3 - View for SOA Option の障害が発生したときの資料採取の設定についても説明します。

- 
- 6.1 JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール
  - 6.2 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定 (JP1/AJS3 - View for SOA Option の場合)
  - 6.3 JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定
  - 6.4 カスタムジョブを使用するための準備
  - 6.5 アンインストール
-

## 6.1 JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール

---

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールは、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたホストから、JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを取得して実行します。

次に、JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール方法について説明します。

### 6.1.1 Windows 7 , Windows Server 2008 , および Windows Vista でのインストール

Windows 7 , Windows Server 2008 , および Windows Vista でのインストール方法を説明します。

#### (1) 新規インストールの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Option を新規にインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを取得する。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムは、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたホストに格納されています。インストールプログラムのパスを次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ  
¥base¥view¥ajswsviewforwspkg\_w2k8.exe

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/view/ajswsviewforwspkg\_w2k8.exe

4. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムをクライアントへ転送する。
5. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを起動する。
6. [ 展開 ] ボタンをクリックする。
7. Windows の [ スタート ] メニューの [ コマンドプロンプト ] を右クリックし、[ 管理者として実行 ] を選択する。

8. 次のコマンドを実行する。

```
msiexec /i AJS3SOAV.msi
```

9. インストーラーの指示に従って必要な情報を指定し、インストールする。  
インストール時に指定する情報を次に示します。
  - ユーザー情報  
ユーザー名などを指定します。
  - インストール先フォルダ  
JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするフォルダを指定します。
10. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

## (2) 上書きインストールの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Option をバージョンアップしたり、すでにインストールしたホストの状態を修復したりするために、上書きでインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを取得する。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムは、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたホストに格納されています。インストールプログラムのパスを次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ

```
¥base¥view¥ajswsviewforwspkg_w2k8.exe
```

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

```
/opt/jp1ajs2forws/base/view/ajswsviewforwspkg_w2k8.exe
```

4. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムをクライアントへ転送する。
5. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを起動する。
6. [ 展開 ] ボタンをクリックする。
7. Windows の [ スタート ] メニューの [ コマンドプロンプト ] を右クリックし、[ 管理者として実行 ] を選択する。
8. 次のコマンドを実行する。

```
msiexec /i AJS3SOAV.msi
```

## 6. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ

9. 上書きインストールの確認のダイアログボックスに回答する。  
必ず [ はい ] ボタンを選択してください。
10. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

### 6.1.2 Windows Server 2003 および Windows XP Professional でのインストール

Windows Server 2003 および Windows XP Professional でのインストール方法を説明します。

#### (1) 新規インストールの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Option を新規にインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを取得する。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムは、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたホストに格納されています。インストールプログラムのパスを次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ

¥base¥view¥ajswsviewforwspkg.exe

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/view/ajswsviewforwspkg.exe

4. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムをクライアントへ転送する。
5. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを起動する。
6. [ インストール実行 ] ボタンをクリックする。
7. インストーラーの指示に従って必要な情報を指定し、インストールする。  
インストール時に指定する情報を次に示します。
  - ユーザー情報  
ユーザー名などを指定します。
  - インストール先フォルダ  
JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするフォルダを指定します。
8. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

## (2) 上書きインストールの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Option をバージョンアップしたり、すでにインストールしたホストの状態を修復したりするために、上書きでインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View for SOA Option をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを取得する。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムは、JP1/AJS3 - SOA Option がインストールされたホストに格納されています。インストールプログラムのパスを次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ

¥base¥view¥ajswsviewforwspkg.exe

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/view/ajswsviewforwspkg.exe

4. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムをクライアントへ転送する。
5. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールプログラムを起動する。
6. [ インストール実行 ] ボタンをクリックする。
7. 上書きインストールの確認のダイアログボックスに回答する。  
必ず [ はい ] ボタンを選択してください。
8. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

## 6.2 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定 ( JP1/AJS3 - View for SOA Option の場合 )

JP1/AJS3 - View for SOA Option に障害が発生したときには、原因を特定するために、JP1/AJS3 - View for SOA Option に関する資料を採取する必要があります。

JP1/AJS3 - View for SOA Option に関する資料は、資料採取コマンド ( ajswsv\_log ) で採取します。資料採取コマンドを使用するにはセットアップが必要です。資料採取コマンドのセットアップ方法を次に説明します。

1. 資料採取コマンドを任意の別のフォルダにコピーする。  
次の資料採取コマンドをコピーします。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ %tools%\ajswsv\_log.bat
2. 資料採取コマンドを編集する。  
手順 1 でコピーした資料採取コマンドを、テキストエディターを使用して編集します。編集するときは、資料採取コマンドに書き込み権限を設定してください。次に、バッチファイルに記述されている標準値を示します。この標準値と異なる場合、バッチファイルの記述を変更してください。

```
@set DIR_BACKLOG=%TEMP%\%jplajs2wsv%\backlog
```

資料採取コマンドで採取した情報の退避先を設定します。  
資料は DIR\_BACKLOG に設定したフォルダの下にある JP1\_DEFAULT に出力されます。DIR\_BACKLOG は 100 バイト以内で設定してください。

```
@set INST_DIR=%SYSTEMDRIVE%\Program Files\hitachi\JP1AJS2FORWSV
```

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダを設定します。

### ! 注意事項

- %TEMP% および %SYSTEMDRIVE% は、Windows の環境変数の %TEMP% および %SYSTEMDRIVE% を示します。
- 資料採取コマンドは、必ず任意の別のフォルダにコピーしてご使用ください。別のフォルダにコピーしないで使用した場合、上書きインストールすると資料採取コマンドの編集内容が失われます。
- 64bit 版の Windows では、JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール時に、インストール先のフォルダを変更していない場合、「Program Files」は「Program Files(x86)」となります。資料採取コマンドを編集する際は、インストール先フォルダの記述を修正してください。

参考

---

64bit 版 Windows で資料を採取する場合に必要な設定

64bit 版の Windows を利用している場合、資料採取コマンドを次のように編集する必要があります。

編集前

```
@set REG_KEY=HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1AJS2FORWSV
```

編集後

```
@set  
REG_KEY=HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥HITACHI¥JP1AJS2FORWSV
```

## 6.3 JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定

JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定では、JP1/AJS3 - View for SOA Option に関する定義項目を、インストールしたときの値から変更できます。

環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` に定義します。JP1/AJS3 - View for SOA Option 製品を構成するコンポーネントの環境設定を記述したファイルです。

次に、環境設定ファイルの定義手順および環境設定ファイルの定義項目について説明します。

### 6.3.1 環境設定手順

環境設定ファイルの定義内容を変更する手順を次に示します。

1. `wsdl4j.jar` をコピーする。

JP1/AJS3 - SOA Option に添付されている `wsdl4j.jar` ファイルを、次のフォルダにコピーしてください。

Windows 7、32 ビット版の Windows Server 2008、Windows Vista、32 ビット版の Windows Server 2003 または Windows XP Professional の場合

```
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストールドライブ ¥Program
Files¥HITACHI¥JP1AJS2FORWSV¥ucpsb¥c4web¥lib
```

64 ビット版の Windows Server 2008 または Windows Server 2003 (x64) の場合

```
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストールドライブ ¥Program
Files (x86) ¥HITACHI¥JP1AJS2FORWSV¥ucpsb¥c4web¥lib
```

2. 環境設定ファイルの設定内容を変更する。

環境設定ファイルは次のフォルダに格納されています。

JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ ¥conf

ファイルをテキストエディターで開き、編集してください。

文字コードは「Shift\_JIS」です。改行コードは「CR+LF」です。

編集方法の詳細については、「6.3.2 環境設定ファイルの定義」を参照してください。

3. WS ジョブをカスタムジョブとして JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View に登録する。

標準 WS ジョブとユーザー WS ジョブをカスタムジョブとして登録してください。

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View にカスタムジョブを登録する手順については、「6.4 カスタムジョブを使用するための準備」を参照してください。

## 6.3.2 環境設定ファイルの定義

環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` に定義できる項目、環境設定ファイルの設定例、および定義時の注意事項について説明します。

### (1) 環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` に定義できる項目

環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` に定義できる項目を次の表に示します。

表 6-1 `ajswsvcommon.conf` に定義できる環境設定パラメーター一覧

環境設定パラメーター名	定義内容
<code>log.file_size</code>	稼働ログファイルのサイズ
<code>log.num</code>	稼働ログの面数

次に、環境設定パラメーターの定義内容について説明します。

#### `log.file_size`

JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力する稼働ログのサイズを設定します。JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。

4,096 ~ 16,777,216 バイトの範囲で設定します。

デフォルトでは、「2097152」バイトが設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

#### ! 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のフォルダの下にあるファイルとフォルダをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。

JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ `¥log`

#### `log.num`

JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力する稼働ログの面数を設定します。JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイルには、幾つかの種類がありますが、すべてのログファイルに対して共通の設定項目です。

2 ~ 16 の範囲で設定します。

デフォルトでは、「2」が設定されます。

このパラメーターの設定を省略した場合または不正な値を設定した場合、デフォルト値が設定されます。

**!** 注意事項

現在の値よりも小さい値に変更する場合、次のフォルダの下にあるファイルとフォルダをすべて削除してください。なお、削除前にバックアップを採ってください。

JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ ¥log

## (2) 環境設定ファイルの設定例

環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` の設定例を次に示します。

```
log.file_size=2097152
log.num=2
```

## (3) 定義時の注意事項

定義時の注意事項を次に示します。

- 環境設定パラメーターは、「環境設定パラメーター名 = 値」の形式で設定してください。
- 各環境設定パラメーターを改行で区切って設定してください。最終行には改行が必要です。
- 「#」で始まる行はコメントと見なされます。
- 環境設定パラメーター名は、すべて小文字で設定してください。
- 環境設定パラメーター名には、スペースやタブなどの環境設定パラメーター名以外の文字を含めないでください。
- 「=」と改行の間の文字はすべて値として見なされます。
- 「(1) 環境設定ファイル `ajswsvcommon.conf` に定義できる項目」に示すパラメーター以外のものが設定された場合、無視されます。
- 同じ環境設定パラメーター名が重複して設定されている場合、あとの行で設定された値が有効になります。

## 6.4 カスタムジョブを使用するための準備

WS ジョブを使用するには、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View へカスタムジョブとして登録する必要があります。ここでは、カスタムジョブとして登録する方法について説明します。

### 6.4.1 カスタムジョブ登録の手順

標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブを、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View へカスタムジョブとして登録する手順を次に示します。

1. [カスタムジョブ登録] ダイアログボックスを起動する。  
Windows のスタートメニューから、[すべてのプログラム] - [JP1\_Automatic Job Management System 3 - View] (または [JP1\_Automatic Job Management System 2 - View]) - [カスタムジョブ登録] を選択すると、[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスが表示されます。
2. カスタムジョブを新規登録する。  
[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスの [新規登録] ボタンをクリックすると、[カスタムジョブ登録情報] ダイアログボックスが表示されます。  
登録する内容については、「6.4.2 カスタムジョブ登録で指定する内容」を参照してください。
3. WS ジョブ用アイコンをコピーする。  
標準 WS ジョブ用またはユーザー WS ジョブ用のアイコンをコピーする必要があります。次のコピー元ファイルを、コピー先フォルダへコピーしてください。

コピー元ファイル：

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

- ・標準 WS ジョブ用アイコン  
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ  
¥view¥CUSTOM\_PC\_WS\_PC.gif
- ・ユーザー WS ジョブ用アイコン  
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ  
¥view¥CUSTOM\_PC\_WSUSR\_PC.gif

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

- ・標準 WS ジョブ用アイコン  
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ  
¥view¥CUSTOM\_PC\_WS\_UX.gif
- ・ユーザー WS ジョブ用アイコン  
JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ  
¥view¥CUSTOM\_PC\_WSUSR\_UX.gif

コピー先フォルダ :

JP1/AJS3 - View インストール先フォルダまたは JP1/AJS2 - View インストール先フォルダ ¥image¥custom

4. 登録した WS ジョブの登録を確認する。

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のジョブネットエディタを起動して、[カスタムジョブ] タブを選択します。登録した WS ジョブのアイコンが表示されていることを確認してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

- ・標準 WS ジョブのアイコン (  )
- ・ユーザー WS ジョブのアイコン (  )

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

- ・標準 WS ジョブのアイコン (  )
- ・ユーザー WS ジョブのアイコン (  )

## 6.4.2 カスタムジョブ登録で指定する内容

Windows 版の標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブを JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View へカスタムジョブとして登録する場合に指定する項目について説明します。また、UNIX 版の標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブを JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View へカスタムジョブとして登録する場合に指定する項目についても説明します。

### (1) WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、カスタムジョブ登録で指定する内容を次に説明します。

[名前]

標準 WS ジョブの場合

「WS\_PC」を指定します。

ユーザー WS ジョブの場合

「WSUSR\_PC」を指定します。

[コメント]

任意のコメントを指定します。

[定義プログラム]

次のファイルを指定します。

## 標準 WS ジョブの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ  
 ¥bin¥ajsws\_wsjobdialog.exe

## ユーザー WS ジョブの場合

JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ  
 ¥bin¥ajsws\_userwsjobdialog.exe

## [ 実行プログラム ]

WS ジョブ実行ホストの次のファイルを指定します。

```
$AJSWS_INST_DIR$¥base¥bin¥ajswsjobstart.exe
```

## 注

事前に、WS ジョブ実行ホストでワークパス \$AJSWS\_INST\_DIR\$ を変数として設定する必要があります。ワークパスの定義については、「4.7.2 WS ジョブ実行時のワークパスの設定」を参照してください。

## [ バージョン ]

「0600」を指定します。

## [ クラス名 ]

標準 WS ジョブの場合

「WS\_PC」を指定します。

ユーザー WS ジョブの場合

「WSUSR\_PC」を指定します。

## [ ジョブ種別 ]

[ PC ジョブ ] を選択します。

## (2) WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合、カスタムジョブ登録で指定する内容を次に説明します。

## [ 名前 ]

標準 WS ジョブの場合

「WS\_UX」を指定します。

ユーザー WS ジョブの場合

「WSUSR\_UX」を指定します。

## [ コメント ]

## 6. JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストールとセットアップ

任意のコメントを指定します。

### [ 定義プログラム ]

次のファイルを指定します。

標準 WS ジョブの場合

```
JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ  
¥bin¥ajsWS_wsjobdialog_unix.exe
```

ユーザー WS ジョブの場合

```
JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ  
¥bin¥ajsWS_userwsjobdialog_unix.exe
```

### [ 実行プログラム ]

WS ジョブ実行ホストの次のファイルを指定します。

```
¥AJSWS_INST_DIR$/base/bin/ajsWSjobstart
```

注

事前に、WS ジョブ実行ホストでワークパス \$AJSWS\_INST\_DIR\$ を変数として設定する必要があります。ワークパスの定義については、「5.7.2 WS ジョブ実行時のワークパスの設定」を参照してください。

### [ バージョン ]

「0600」を指定します。

### [ クラス名 ]

標準 WS ジョブの場合

「WS\_UX」を指定します。

ユーザー WS ジョブの場合

「WSUSR\_UX」を指定します。

### [ ジョブ種別 ]

[ PC ジョブ ] を選択します。

## 6.5 アンインストール

---

JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のアンインストール方法について説明します。

### 6.5.1 JP1/AJS3 - View for SOA Option のアンインストール

JP1/AJS3 - View for SOA Option のアンインストール手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View for SOA Option をアンインストールするホストに Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。  
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. Windows の [コントロールパネル] で [プログラムの追加と削除] を選択する。  
アンインストールするプログラムを選択するダイアログボックスが表示されます。
4. JP1/AJS3 - View for SOA Option を選択し、[削除] ボタンをクリックする。  
プログラムの削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
5. [OK] ボタンをクリックする。  
JP1/AJS3 - View for SOA Option がアンインストールされます。
6. 必要に応じて、インストール先フォルダの下にあるファイルを削除する。

#### 注意事項

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合は、アンインストール時に管理者へ昇格させてください。



# 7

## クラスタシステムでの運用 と環境構築

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合で、JP1/AJS3 - SOA Option をクラスタシステム運用するときの、JP1/AJS3 - SOA Option の環境構築について説明します。

---

### 7.1 クラスタシステムでの環境構築

### 7.2 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り 替え時の動作

---

## 7.1 クラスタシステムでの環境構築

この節では、クラスタシステム運用に対応するための JP1/AJS3 - SOA Option の前提条件および環境構築について説明します。

### (1) 前提条件

JP1/AJS3 - SOA Option をクラスタシステムで運用するための前提条件を次に示します。

表 7-1 JP1/AJS3 - SOA Option をクラスタシステムで運用するための前提条件

項目	前提条件
システム構成	アクティブ・スタンバイ構成
ホスト環境	物理ホスト環境
クラスタソフト	JP1/AJS3 - SOA Option がサポートするクラスタソフトおよびバージョンであること

そのほかの前提条件は、JP1/AJS に従います。JP1/AJS の前提条件については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のクラスタシステムでの運用の章を参照してください。

### (2) インストール

JP1/AJS3 - SOA Option は、物理ホストごとにインストールします。Windows 版のインストールについては、「4. インストールとセットアップ (Windows の場合)」を参照してください。

UNIX 版のインストールについては、「5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)」を参照してください。

#### ! 注意事項

共有ディスクにはインストールしないでください。

### (3) セットアップ

Windows 版の JP1/AJS3 - SOA Option のセットアップについては、「4. インストールとセットアップ (Windows の場合)」を参照してください。

UNIX 版の JP1/AJS3 - SOA Option のセットアップについては、「5. インストールとセットアップ (UNIX の場合)」を参照してください。

ユーザー WS プログラムは、実行系システムおよび待機系システムの両方のローカルディスク上に配置します。

#### (4) 環境設定

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイルの内容は、クラスタシステムの物理ホストごとに一致させてください。また、入力パラメーターファイルおよび認証情報設定ファイルについても、クラスタシステムの物理ホストごとに一致させてください。

Windows 版の環境設定ファイルについては、「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。入力パラメーターファイルおよび認証情報設定ファイルについては、「4.9 運用環境に応じた設定」を参照してください。

UNIX 版の環境設定ファイルについては、「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。入力パラメーターファイルおよび認証情報設定ファイルについては、「5.9 運用環境に応じた設定」を参照してください。

#### (5) クラスタソフトへの登録

クラスタソフトに JP1/AJS3 - SOA Option を登録する方法について説明します。

##### (a) WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option に障害が発生し、フェールオーバーが実行された場合、JP1/AJS3 - SOA Option のサービスが自動起動されるようにするため、クラスタソフトに JP1/AJS3 - SOA Option のサービス名「JP1\_AJS3\_SOA\_Controller」を登録します。次の点に注意して登録してください。

- WS ジョブ実行ホストの JP1/AJS3 - Agent, JP1/AJS3 - Manager, JP1/AJS2 - Agent, または JP1/AJS2 - Manager のフェールオーバーに伴って JP1/AJS3 - SOA Option がフェールオーバーするように登録してください。
- 起動順序については、リソースグループの起動時に、コントローラーが JP1/AJS3 - Agent, JP1/AJS3 - Manager, JP1/AJS2 - Agent, または JP1/AJS2 - Manager よりも先に開始されるように設定してください。
- 停止順序については、リソースグループの終了時に、コントローラーが JP1/AJS3 - Agent, JP1/AJS3 - Manager, JP1/AJS2 - Agent, または JP1/AJS2 - Manager よりもあとに終了されるように設定してください。

##### (b) WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

次のスクリプトを作成して、クラスタソフトに登録します。

- 起動スクリプト
- 停止スクリプト
- 監視スクリプト

各スクリプトの説明と例を次に示します。

##### 起動スクリプト

コントローラーを開始するスクリプトです。スクリプトには、JP1/AJS3 - SOA

## 7. クラスタシステムでの運用と環境構築

Option が動作するために必要な環境変数の設定と、コントローラーを開始するための `ajswsstart` コマンドを記述します。また、必要に応じてコントローラーの開始結果を `ajswsstart` コマンドの戻り値で判定し、クラスタソフトで規定されたコードを返すように設定します。  
起動スクリプトの例を次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合

```
#!/bin/sh
# 環境変数の設定
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=$CLASSPATH
LD_LIBRARY_PATH=/opt/Cosminexus/PRF/lib
export LANG
export CLASSPATH
export LD_LIBRARY_PATH
# コントローラーの開始
/opt/jplajs2forws/base/bin/ajswsstart

# 必要に応じて開始コマンドの戻り値を
# クラスタソフトに対応したコードに変換する
```

### 停止スクリプト

コントローラーを終了するスクリプトです。スクリプトには、JP1/AJS3 - SOA Option が動作するために必要な環境変数の設定と、コントローラーを終了するための `ajswsstop` コマンドを記述します。また、必要に応じてコントローラーの終了結果を `ajswsstop` コマンドの戻り値で判定し、クラスタソフトで規定されたコードを返すように設定します。  
停止スクリプトの例を次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合

```
#!/bin/sh
# 環境変数の設定
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=$CLASSPATH
LD_LIBRARY_PATH=/opt/Cosminexus/PRF/lib
export LANG
export CLASSPATH
export LD_LIBRARY_PATH
# コントローラーの終了
/opt/jplajs2forws/base/bin/ajswsstop

# 必要に応じて終了コマンドの戻り値を
# クラスタソフトに対応したコードに変換する
```

### 監視スクリプト

コントローラーの状態を監視するスクリプトです。スクリプトには、JP1/AJS3 - SOA Option が動作するために必要な環境変数の設定と、コントローラーの状態を取得するための `ajswsstatus` コマンドを記述します。また、必要に応じてコントローラーの状態を `ajswsstatus` コマンドの戻り値で判定し、クラスタソフトで規

定されたコードを返すように設定します。  
監視スクリプトの例を次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合

```
#!/bin/sh
# 環境変数の設定
LANG=ja_JP.UTF-8
CLASSPATH=$CLASSPATH
LD_LIBRARY_PATH=/opt/Cosminexus/PRF/lib
export LANG
export CLASSPATH
export LD_LIBRARY_PATH
#コントローラーの状態を取得
/opt/jplajs2forws/base/bin/ajswsstatus

# 必要に応じて状態表示コマンドの戻り値を
# クラスタソフトに対応したコードに変換する
```

クラスタソフトに登録する際、次の点に注意してください。

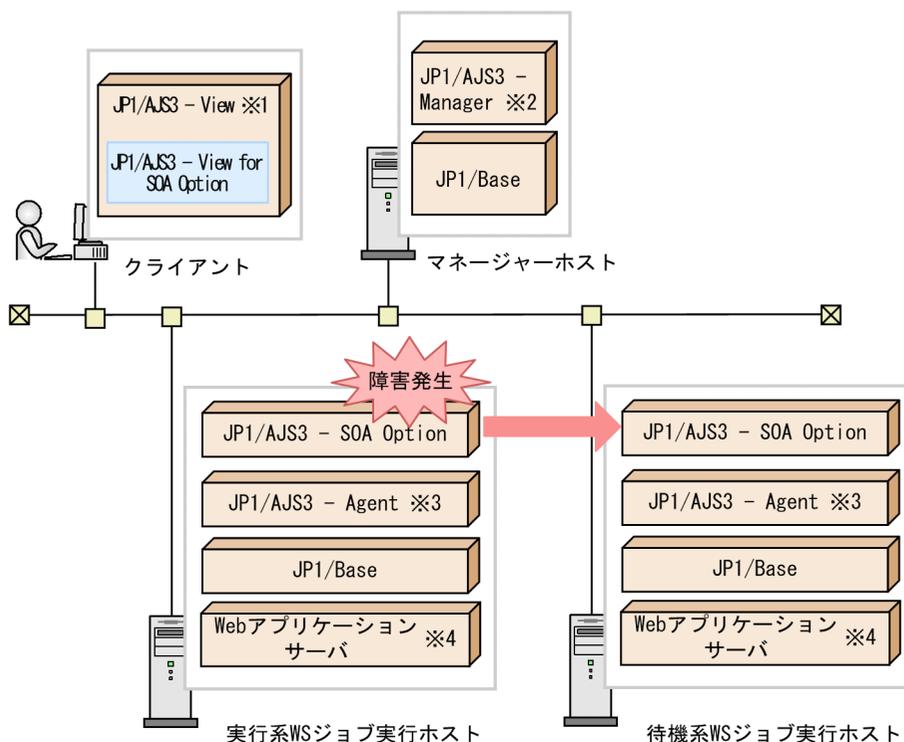
- WS ジョブ実行ホストの JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager のフェールオーバーに伴って JP1/AJS3 - SOA Option がフェールオーバーするように登録してください。
- 起動順序については、リソースグループの起動時に、コントローラーが JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager よりも先に開始されるように設定してください。
- 停止順序については、リソースグループの終了時に、コントローラーが JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager よりもあとに終了されるように設定してください。

## 7.2 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の動作

実行系ホストに障害が発生すると、系切り替えが実行され、処理が待機系ホストに移ります。

業務運用中の JP1/AJS3 - SOA Option にフェールオーバーが発生した場合の処理を次の図に示します。

図 7-1 JP1/AJS3 - SOA Option にフェールオーバーが発生した場合の処理



- 注※1 JP1/AJS2 - Viewでも可能です。
- 注※2 JP1/AJS2 - Managerでも可能です。
- 注※3 JP1/AJS2 - Agentでも可能です。
- 注※4 Windowsの場合で、組み込みSOAPクライアントライブラリを使用するとき、WSジョブ実行ホストの実行系、待機系ともにCosminexus Application Serverは不要です。

**!** 注意事項

- JP1/AJS3 - SOA Option では、フェールオーバー時に待機系ホストへ切り替わる際、実行中の WS ジョブの状態は引き継がれません。実行系ホストで実行されていた WS ジョブは強制終了状態となります。
  - 系切り替え後に WS ジョブが再実行されると、WS ジョブは、障害発生前の状態は引き継がれないで最初から実行されます。ユーザー WS プログラムで状態を管理しているような場合は、系切り替え時の動作を考慮してプログラムを作成してください。
-



# 8

## 運用編の読み方

この章では、運用編の読み方について説明します。

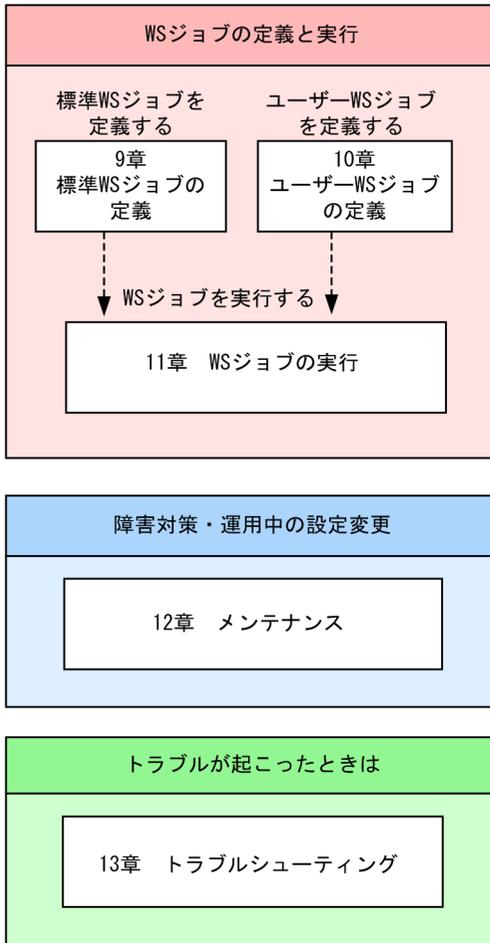
---

### 8.1 運用編の読み方

## 8.1 運用編の読み方

運用編は、標準 WS ジョブを定義・実行する場合と、ユーザー WS ジョブを定義・実行する場合で、読む個所が異なります。次のようにお読みいただくことをお勧めします。

図 8-1 運用編の読み方



# 9

## 標準 WS ジョブの定義

この章では、標準 WS ジョブを定義する方法について説明します。

---

9.1 標準 WS ジョブ定義の流れ

---

9.2 WSDL ファイルの取得

---

9.3 標準 WS ジョブの定義手順

---

9.4 入力メッセージにセットするパラメーターの値をファイルに設定する

---

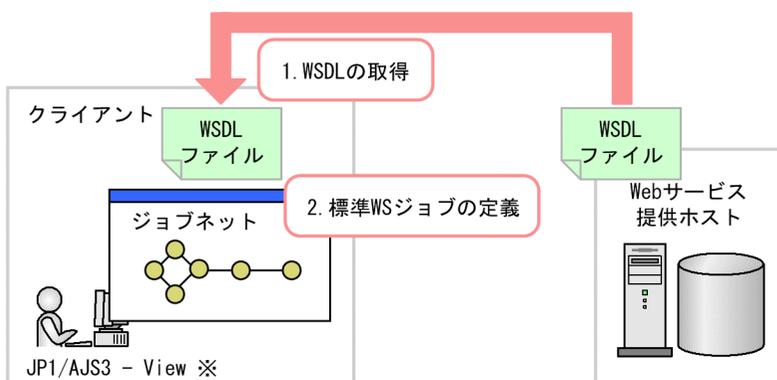
## 9.1 標準 WS ジョブ定義の流れ

標準 WS ジョブを定義する流れと、定義を変更する流れについて説明します。JP1/AJS2 for Web Service を使用していて、かつ WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 for Web Service Web システム 呼び出し機能編」を参照してください。

### (1) 標準 WS ジョブを定義する流れ

標準 WS ジョブを定義する流れを次の図に示します。

図 9-1 標準 WS ジョブを定義する流れ



注※

JP1/AJS2 - Viewでも可能です。

1. 【クライアントでの作業】接続する Web サービスの WSDL ファイルを取得し、クライアントに配置します。  
配置先は任意です。取得した WSDL ファイルはクライアントで保管します。  
WSDL ファイルの取得については、「9.2 WSDL ファイルの取得」を参照してください。
2. 【クライアントでの作業】JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で、標準 WS ジョブをジョブネットに定義します。  
標準 WS ジョブを定義する操作については、「9.3 標準 WS ジョブの定義手順」を参照してください。

### (2) 標準 WS ジョブの定義を変更する流れ

標準 WS ジョブの定義を変更する流れを次に示します。

1. 【クライアントでの作業】接続する Web サービスの WSDL ファイルを取得します。  
ただし、次の場合は、この手順は不要です。
  - クライアントに保存している WSDL ファイルが、Web サービス側で更新されてい

ない場合

- Web サービス接続で利用するオペレーションを変更しないで、オペレーションの入力パラメーター情報、または出力ファイル指定だけを変更する場合
- Web サービス接続の内容を変更しない場合

WSDL ファイルの取得については、「9.2 WSDL ファイルの取得」を参照してください。

2. 【クライアントでの作業】JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で、標準 WS ジョブの定義を変更します。

標準 WS ジョブの定義を変更する操作については、「9.3 標準 WS ジョブの定義手順」を参照してください。

## 9.2 WSDL ファイルの取得

---

標準 WS ジョブの定義では、接続する Web サービスの WSDL ファイルを取得する必要があります。Web アプリケーションサーバが提供する機能で WSDL ファイルを取得し、取得した WSDL ファイルは、クライアントマシンに配置してください。

WSDL ファイルの配置先は任意です。

### **!** 注意事項

標準 WS ジョブに定義できる WSDL ファイルのサイズは、512 キロバイトです。512 キロバイトを超えるサイズの WSDL ファイルを定義した場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーメッセージが表示され、定義が中止されます。

---

## 9.3 標準 WS ジョブの定義手順

ここでは、標準 WS ジョブを定義する操作を、次の順に説明します。

表 9-1 標準 WS ジョブの定義操作の説明箇所

	記載箇所	内容
9.3.1	標準 WS ジョブを定義する	ユーザー WS ジョブの実行に必要な項目を定義する方法について説明しています。
9.3.2	標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ	標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブ引き継ぐ定義方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

### 9.3.1 標準 WS ジョブを定義する

標準 WS ジョブを定義する方法について説明します。

1. JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動する。
2. JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager にログインする。  
[ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウが表示されます。
3. [ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウのリストエリアで、標準 WS ジョブを管理するジョブネットを定義する。  
ジョブネットの定義方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」の、ジョブネットの定義について説明している章を参照してください。
4. [ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウのリストエリアで、作成したジョブネットをダブルクリックする。  
[ ジョブネットエディタ ] ウィンドウが表示されます。
5. アイコンリストで、[ カスタムジョブ ] タブを選択する。
6. [ 排他編集 ] にチェックを入れる。
7. アイコンリストから、標準 WS ジョブのアイコンをドラッグし、マップエリアにドロップする。

WS ジョブ実行ホストが Windows の場合は [  ] を、UNIX の場合は

[  ] をマップエリアにドロップしてください。

[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスが表示されます。「ユニット名」の部分には、選択したジョブネットワーク要素のユニット名が表示されます。

## 9. 標準 WS ジョブの定義

8. [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの共通項目を定義する。  
次の表に従って定義してください。

表 9-2 標準 WS ジョブの定義（共通項目の定義方法）

項目名	定義方法	指定
[ ユニット名 ]	標準 WS ジョブのユニット名を 30 バイト以内で指定します。	
[ コメント ]	標準 WS ジョブのコメントを 80 バイト以内で指定します。	
[ 実行エージェント ]	標準 WS ジョブを実行する WS ジョブ実行ホスト名を 255 バイト以内で指定します。	

（凡例）

- : 必ず指定します。
- : 任意で指定します。

注

JP1/AJS2 - View の場合、項目名は [ 実行ホスト ] です。

9. [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブで、必要な項目を定義する。  
次の表に従って定義してください。

表 9-3 標準 WS ジョブの定義 ([ 定義 ] タブの定義方法)

項目名	定義方法	指定
[ 実行優先順位 ]	標準 WS ジョブの実行優先順位を選択します。 JP1/AJS から実行するジョブのデフォルトの実行優先順位は低く設定されていますので、必要に応じてジョブの実行優先順位を変更してください。 ジョブの実行優先順位の変更については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド(業務設計編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のジョブの実行優先順位に関する注意事項を参照してください。	
[ 標準出力ファイル名 ]	指定しないでください。 標準 WS ジョブからは、標準出力に出力されません。	×
[ 標準エラー出力ファイル名 ]	標準エラー出力ファイル名を 511 バイト以内で指定します。 標準 WS ジョブの実行でエラーが発生すると、エラーメッセージが標準エラー出力に出力されます。また、コントローラーでエラーが発生した場合も、エラーメッセージが標準エラー出力に出力されます。 ただし、標準 WS ジョブを JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View から強制終了しても、標準エラー出力に出力されません。	
終了判定 [ 判定結果 ]	終了判定条件を選択します。	
終了判定 [ ファイル名 ]	終了判定 [ 判定結果 ] で [ ファイルが存在すれば正常 ] または [ ファイルが更新されれば正常 ] を選択した場合に、監視するファイル名を指定します。	
終了判定 [ 警告しきい値 ]	終了判定 [ 判定結果 ] で [ しきい値による判定 ] を選択した場合に、しきい値を指定します。	
終了判定 [ 異常しきい値 ]		
[ 実行時のユーザー ]	WS ジョブ実行ホストの OS のユーザー名を 63 バイト以内で指定します。 このユーザーは、Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有し、かつ、実行ユーザー種別の登録ユーザーまたは所有ユーザーにマッピングしておく必要があります。また、この項目を省略するとユーザーマッピングのプライマリユーザーで実行します。 プライマリユーザーは、実行ホストの Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有するユーザーにしてください。	
[ 詳細 ] ボタン	[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスが表示されます。[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスでは、利用する Web サービスのオペレーションの入出力パラメーターや HTTP 認証を指定します。	

## ( 凡例 )

- : 必ず指定します。
- : 任意で指定します。
- × : 指定しないでください。

## 9. 標準 WS ジョブの定義

10.[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 属性 ] タブで、必要な項目を定義する。

次の表に従って定義してください。

表 9-4 標準 WS ジョブの定義 ([ 属性 ] タブの定義方法)

項目名	定義方法	指定
[ 保留 ]	ユニットの状態をあらかじめ保留状態にするかどうかを指定します。	
[ 種別 ]	ユニットの種別をリカバリーにするかどうかを指定します。	
[ 打ち切り時間指定 ]	ジョブの実行を打ち切る時間を指定するかどうかを選択します。	
[ 打ち切り時間 ]	[ 打ち切り時間指定 ] ラジオボタンで [ する ] を選択した場合、打ち切り時間を分で指定します。指定できる値は、1 ~ 1,440 分です。	
[ 所有者 ]	ユニットの所有者を 31 バイト以内で指定します。	
[ JP1 資源グループ ]	JP1 資源グループ名を 63 バイト以内で指定します。指定できる文字は、英数字、および「_ (アンダーバー)」です。空白の場合は、アクセス権限の対象になりません。	
[ 実行ユーザー種別 ]	<p>必要に応じて、実行ユーザーの種類を選択します。選択できる種類を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 登録ユーザー ] 標準 WS ジョブを登録した JP1 ユーザーでユーザーマッピングします。</li> <li>• [ 所有ユーザー ] 標準 WS ジョブを所有している JP1 ユーザーでユーザーマッピングします。</li> </ul> <p>登録ユーザーまたは所有ユーザーは、実行ホストの Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有するユーザーにマッピングしておく必要があります。</p>	

( 凡例 )

: 任意で指定します。

11.[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブの [ 詳細 ] ボタンをクリックする。

[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスが表示されます。



12.[ 基本 ] タブの [ 選択 ] ボタンをクリックする。

[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスが表示されます。



13.[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスで、接続する Web サービスの WSDL ファイルを指定する。

## 9. 標準 WS ジョブの定義

[ 参照 ] ボタンをクリックして、クライアントで保管している WSDL ファイルを指定してください。

14[ 次へ ] ボタンをクリックする。

[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスが表示されます。



[ オペレーション ] には、WSDL に記述されたオペレーションが表示されています。

15[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスで、[ オペレーション ] のリストから、利用するオペレーションを選択する。

選択したオペレーションの引数または戻り値のデータ型が、単純型の場合と複合型の場合で、ダイアログボックスの内容が異なります。

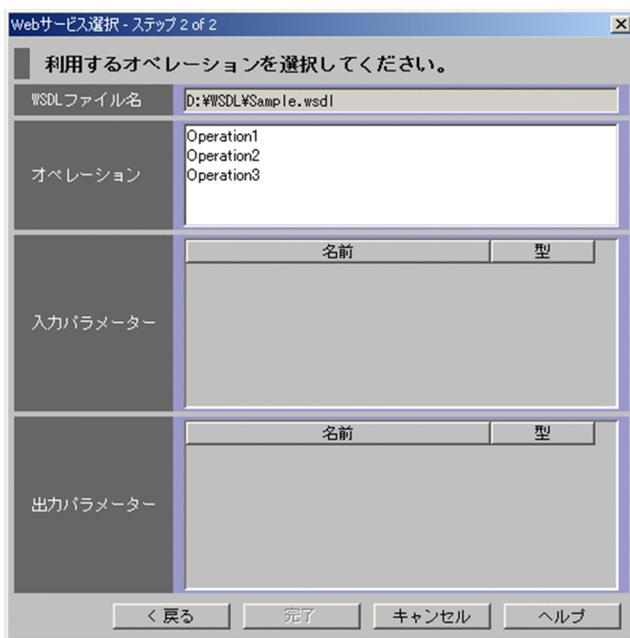
---

### 参考

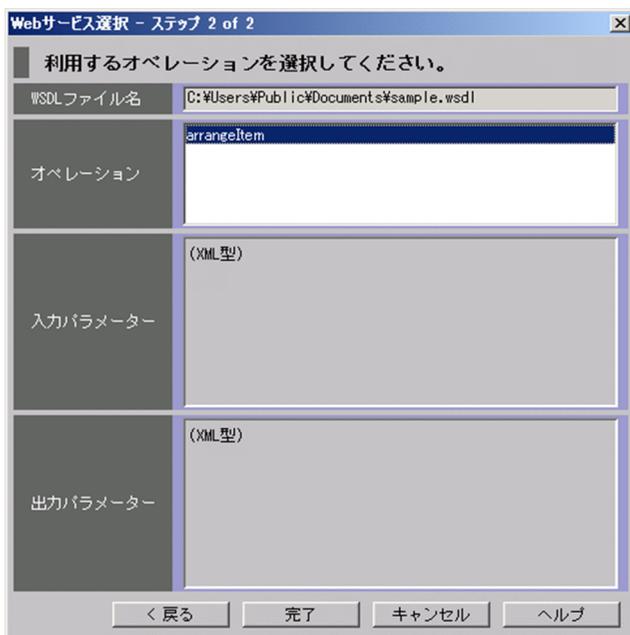
単純型と複合型については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)」を参照してください。

---

#### 単純型の場合



#### 複合型の場合



[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.3 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス」を参照してください。

## 9. 標準 WS ジョブの定義

16[完了] ボタンをクリックする。

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスに戻ります。

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスには、「入力パラメーター」と「出力パラメーター」項目が追加されています。

WSDL に記述された入力パラメーターのデータ型が単純型の場合と複合型の場合で、ダイアログボックスの内容が次のように異なります。

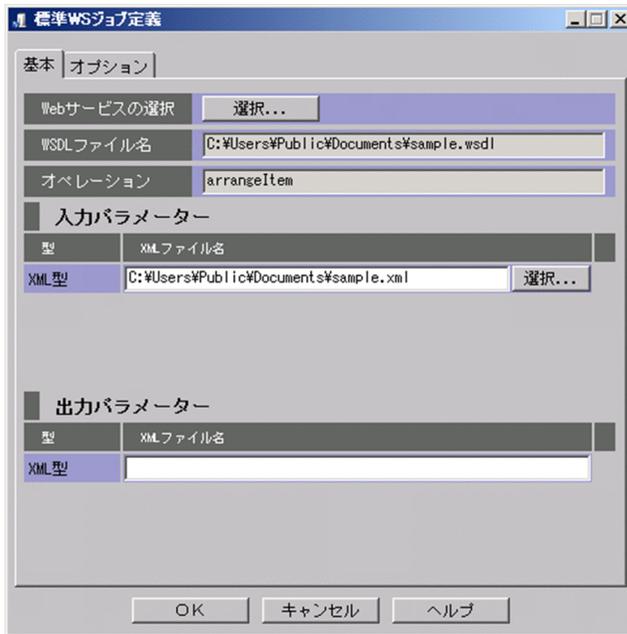
単純型の場合

名前	型	値を入力	ファイル名または値
in1	int	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
in2	string	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>
in3	boolean	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/>

名前	型	ファイル名
out1	int	<input type="text"/>
out2	string	<input type="text"/>
out3	boolean	<input type="text"/>

複合型の場合



17.[標準WSジョブ定義]ダイアログボックスの[基本]タブにある,[入力パラメーター]および[出力パラメーター]に,Webサービスのオペレーションに対応する入力パラメーターおよび出力パラメーターを指定する。

単純型の場合,入力パラメーターの値は,次のどちらかの方法で指定します。

- ダイアログボックスに直接値を指定  
[値]チェックボックスにチェックし,「ファイル名または値」に各パラメーターの値を入力します。
- 入力パラメーターファイルを作成して,ファイルのパスを指定  
パラメーターごとに入力パラメーターファイルを作成し,ファイルに値を記述します。そして,「ファイル名または値」に入力パラメーターファイルのパスを入力します。[値]チェックボックスにはチェックしません。  
入力パラメーターファイルの作成については,「9.4.1 入力パラメーターファイルの作成(単純型の場合)」を参照してください。

複合型の場合,入力パラメーターの値は,XML文書に記述します。そして,作成したXML文書のファイルパスを「XMLファイル名」に指定します。

XML文書の作成については,「9.4.2 XML文書の作成(複合型の場合)」を参照してください。

出力パラメーター,およびそのほかの指定方法の詳細については,「15.1 [標準WSジョブ定義]ダイアログボックス」を参照してください。

18.[標準WSジョブ定義]ダイアログボックスの[オプション]タブで,必要な項目を

## 9. 標準 WS ジョブの定義

指定する。

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス」を参照してください。

19.[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックする。

[詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスに戻ります。

20.指定した内容を確認し,[詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックする。

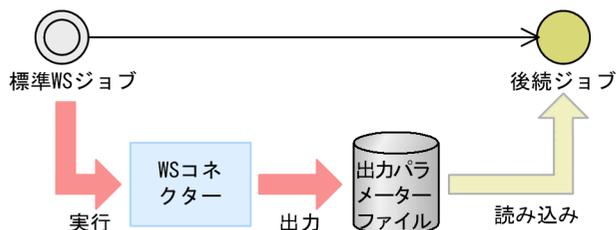
[ジョブネットエディタ] ウィンドウに、標準 WS ジョブが定義されます。

### 9.3.2 標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ

標準 WS ジョブの処理結果を、後続ジョブに引き継ぐことができます。

次の図のように、WS コネクターの処理結果を出力パラメーターファイルに出力するよう、標準 WS ジョブに定義します。次に、後続ジョブに出力パラメーターファイルを読み込むように定義することで、標準 WS ジョブの処理結果を引き継げます。

図 9-2 標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ仕組み



(凡例)

 : 出力パラメーターファイルが出力される流れを示します。

 : 後続ジョブが出力パラメーターファイルを読み込む流れを示します。

1. [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [基本] タブで、「出力パラメーター」の [ファイル名] に引き継ぎ情報を保存する出力パラメーターファイル名を指定する。

出力パラメーターファイルは、WSDL に記述されたパラメーターのデータ型によって形式が異なります。単純型の場合は、次のように指定します。

指定例 (WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合)

```
C:¥users¥ajs2ws¥wssample1_outparam1.txt
```

指定例 (WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合)

```
/export/home/ajs2ws/wssample1_outparam1.txt
```

複合型の場合は、XML 形式で出力されます。

標準 WS ジョブの定義については、「9.3.1 標準 WS ジョブを定義する」を参照してください。

2. 後続ジョブに、出力パラメーターファイルを読み込むように定義する。  
例えば、後続ジョブが標準 WS ジョブの場合は、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ 基本 ] タブの「入力パラメーター」に、手順 1 で指定した出力パラメーターファイルを指定します。

指定例 ( WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合 )

```
C:¥users¥ajs2ws¥wssample1_outparam1.txt
```

指定例 ( WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合 )

```
/export/home/ajs2ws/wssample1_outparam1.txt
```

なお、複合型の場合は XML 形式で出力されるので、後続ジョブでは XML ファイルの内容を解析して引き継ぎ情報を取り出してください。

標準 WS ジョブの定義については、「9.3.1 標準 WS ジョブを定義する」を参照してください。

#### **!** 注意事項

引き継ぎ情報は、同じ WS ジョブ実行ホストで実行されるジョブ間でだけ引き継ぎます。ジョブ実行ホストが異なるジョブに引き継ぐ場合、引き継ぎ情報を出力した出力パラメーターファイルを、引き継ぐジョブがあるジョブ実行ホストに転送するように、ジョブネットを構成してください。

## 9.4 入力メッセージにセットするパラメーターの値をファイルに設定する

---

標準 WS ジョブによる Web サービス接続では、オペレーションで入力メッセージにセットするパラメーターの値をファイルから読み込むことができます。

入力パラメーターのデータ型が単純型の場合と複合型の場合で、作成するファイルが異なります。各データ型に対応するファイルの作成方法を説明します。

なお、標準 WS ジョブがサポートするデータ型については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)」を参照してください。

### 9.4.1 入力パラメーターファイルの作成 (単純型の場合)

ここでは、単純型の場合について説明します。

WSDL で定義されているデータ型が単純型の場合、各パラメーターの値をファイルに定義できます。このファイルを「入力パラメーターファイル」と呼びます。

標準 WS ジョブ定義時に、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [基本] タブで、[値を入力] にチェックを入れないで [ファイル名または値] でファイルを設定する場合に入力パラメーターファイルを使用します。

次に、入力パラメーターファイルの設定方法、設定例、および注意事項について説明します。

#### (1) 入力パラメーターファイルの設定方法

入力パラメーターファイルの型が string 以外の場合および string の場合の設定方法を次に示します。

パラメーターの型が string 以外の型の場合

- パラメーターの値は一行に記載してください。
- 設定できる値は、パラメーターの型に依存します。設定できる値については、「15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス」にある [ファイル名または値] の説明を参照してください。
- ファイル中の改行コードは無視されます。
- integer 型など、サイズに制限がないパラメーターについては、1 メガバイトまで設定できます。
- base64Binary, hexBinary 型のパラメーターの値は、バイナリデータをエンコードした文字列を設定してください。

パラメーターの型が string の場合

- パラメーターの値を、そのままファイルに記載してください。
- ファイル中の改行コードは、改行コードの種別 (CR, LF, CRLF) も含めてその

- まま値として評価されます。
- サイズは、1 メガバイトまで設定できます。

## (2) 入力パラメーターファイルの設定例

入力パラメーターファイルの設定例を次に示します。

パラメーターが int 型の場合

```
1024
```

値は「1024」として評価されます。

パラメーターが string 型の場合

```
あああ  
いいい  
ううう
```

値は「あああ いいい ううう 」として評価されます。「 」は、改行コード (CRLF) です。

## (3) 入力パラメーターファイル設定時の注意事項

入力パラメーターファイルの注意事項を次に示します。

- SOAP 通信での文字コードは、ファイルの文字コードと関係なく UTF-8 となります。
- 文字コードと改行コードは、Windows の文字コード体系に合わせてください。
- 値の設定に誤りがある場合や入力パラメーターファイルに問題がある場合は、Web サービスと接続できません。
- 標準 WS ジョブの定義で、複数のパラメーターに入力パラメーターファイルを指定した場合、入力パラメーターファイルの合計サイズを 1 メガバイト以内にしてください。

### 9.4.2 XML 文書の作成 (複合型の場合)

ここでは、複合型の場合について説明します。

#### ! 注意事項

複合型は、次の場合にだけ使用できます。

- JP1/AJS3 - SOA Option 09-50 以降の場合
- WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server を置き、Cosminexus の SOAP クライアントライブラリを使用している場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用している場合

## (1) 複合型を使用した入力パラメーターの設定方法

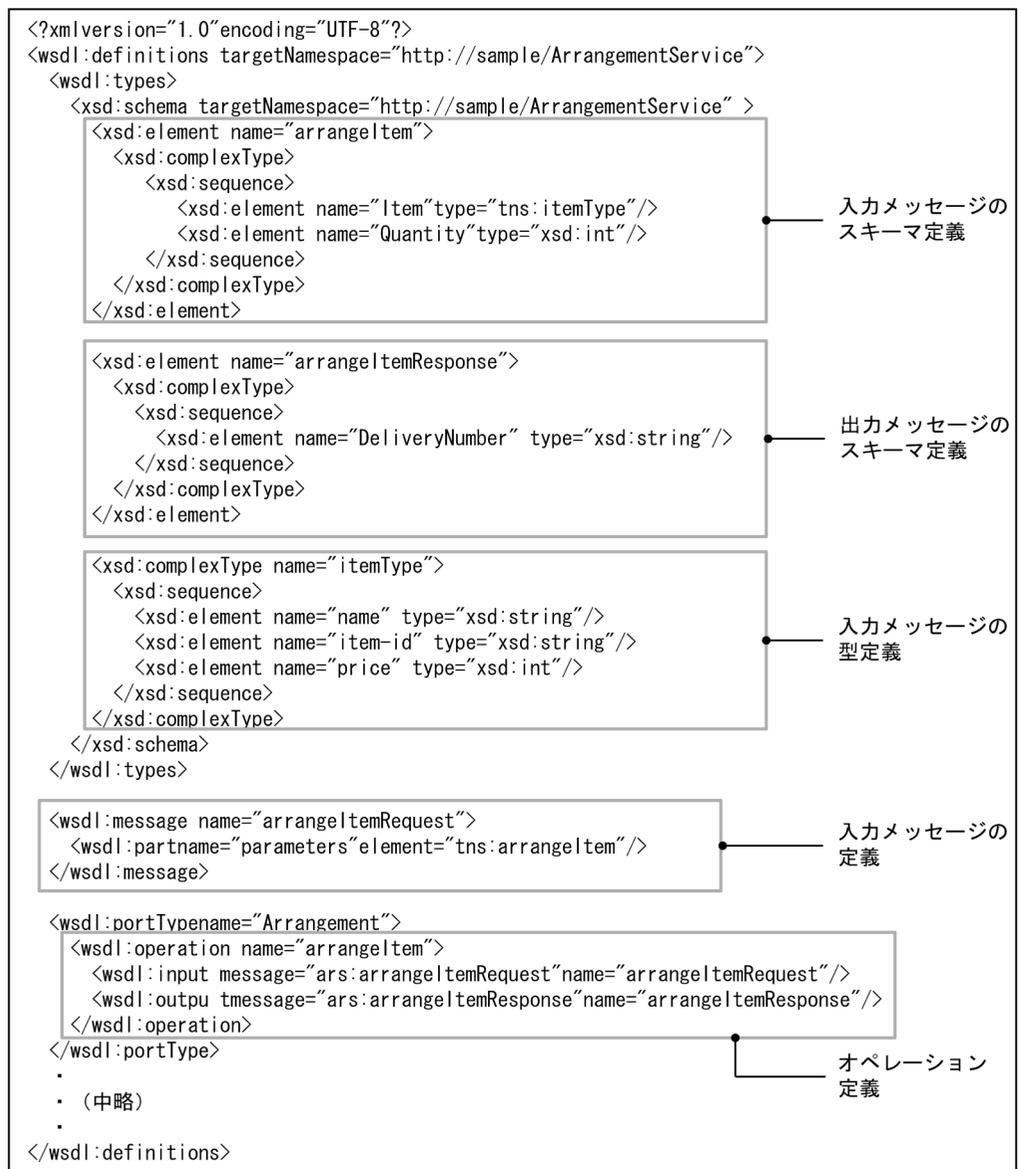
標準 WS ジョブで複合型を利用するには、次の流れで入力パラメーターを設定します。

1. WSDL に定義されている複合型のデータ構造を XML 文書の形式で作成しておく。  
利用するオペレーションの WSDL 定義を参照し、オペレーションの入力パラメーター要素に指定されたスキーマ定義に対応する XML 文書（スキーマインスタンス文書）を定義してください。  
XML 文書の作成方法は任意です。  
XML 文書の作成例は、「(2) XML 文書の作成例」を参照してください。  
なお、XML 文書のサイズには制限があります。制限を超えると標準 WS ジョブの実行時にエラーになります。XML 文書のサイズの制限については、「(4) XML 文書のサイズ制限」を参照してください。
2. XML 文書をクライアントに保存する。  
作成した XML 文書は、標準 WS ジョブ定義で使用するため、JP1/AJS3 - View for SOA Option があるクライアントに保存します。
3. 標準 WS ジョブ定義時に、作成した XML 文書を指定する。  
標準 WS ジョブの定義操作については、「9.3.1 標準 WS ジョブを定義する」を参照してください。

標準 WS ジョブが実行されると、XML 文書が SOAP メッセージに変換され、入力パラメーターが Web サービスへ送信されます。

## (2) XML 文書の作成例

ここでは、次の WSDL に対応する XML 文書の作成例を紹介します。



WSDL では、オペレーション `arrangeItem` の入力メッセージのスキーマ定義は、「`arrangeItem`」という名前の `element` 要素で定義されています。

「`arrangeItem`」のスキーマ定義に従った XML 文書は次のようになります。

## 9. 標準 WS ジョブの定義

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ars:arrangeItem xmlns:ars="http://sample/ArrangementService"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <ars:Item>
    <ars:name>電子レンジ</ars:name>
    <ars:item-id>ITEM001</ars:item-id>
    <ars:price>20000</ars:price>
  </ars:Item>
  <ars:Quantity>1</ars:Quantity>
</ars:arrangeItem>
```

### (3) 先行ジョブの引き継ぎ情報を XML 文書に指定する

XML 文書に、JP1/AJS で実行された先行ジョブの引き継ぎ情報（マクロ変数名）を指定することができます。マクロ変数名は、標準 WS ジョブの実行時に引き継ぎ情報の値に置換されます。

マクロ変数を使用することで、オペレーションの入力パラメーターの内容を自動的に変更し、Web サービスを呼び出すことができます。

マクロ変数の指定方法は、「?AJS2xxxx?」の形式です。

マクロ変数を使用した XML 文書の記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ars:arrangeItem xmlns:ars="http://sample/ArrangementService"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <ars:Item>
    <ars:name>?AJS2VALUE1?</ars:name>
    <ars:item-id>ITEM001</ars:item-id>
    <ars:price>20000</ars:price>
  </ars:Item>
  <ars:Quantity>1</ars:Quantity>
</ars:arrangeItem>
```

例では、<name> 要素に「?AJS2VALUE1?」を指定しています。この場合、標準ジョブを実行したときに、「?AJS2VALUE1?」の内容がジョブ登録時の引き継ぎ情報で指定された値に置換されます。

引き継ぎ情報に指定していないマクロ変数名を XML 文書に指定した場合や、引き継ぎ情報の値がない場合、値は置換されないで「?AJS2xxxx?」という文字列のまま Web サービスの入力パラメーターとして使用されます。

#### マクロ変数記述時の注意事項

マクロ変数は、XML 文書のテキストノードの部分にだけ指定できます。要素名には指定できません。指定した場合は標準 WS ジョブ定義でエラーになります。

### (4) XML 文書のサイズ制限

XML 文書には、サイズの制限があります。ここでは、適切なサイズの計算方法、および

計算例を説明します。

(a) XML 文書サイズの計算方法

XML 文書のサイズは、次の計算式を満たす必要があります。

**!** 注意事項

XML 文書サイズが計算式を満たしていない場合、標準 WS ジョブ実行時にエラーとなります。

XML文書サイズ <  
 20,479 - (WSDLファイル名の長さ +  
 オペレーション名の長さ+  
 WSDLファイル名の長さ (WSジョブ実行ホスト名の長さ) <sup>1</sup> +  
 認証情報設定ファイル名の長さ <sup>2</sup> +  
 WebサービスロケーションURL <sup>3</sup> +  
 オペレーションのSOAPAction値の長さ <sup>4</sup> +  
 XML文書ファイル名の長さ +  
 出力パラメーターXMLファイル名の長さ <sup>5</sup> + 200)

(凡例)

XML 文書サイズは、次の式で算出します。

XML 文書サイズ =

XML 文書内に入力した電文のサイズ (要素間の空白文字および改行コードを  
 除く) + マクロ変数値の合計サイズ

注

サイズおよび長さの単位はバイトです。

注 1

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブで、[ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法] に「事前にジョブ実行ホストへ配置する」を選択した場合に、[WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上)] に指定した WSDL ファイルの名称のバイト数です。「実行時にジョブ実行ホストへ転送する」を選択した場合は、計算する必要はありません。[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス」を参照してください。

注 2

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブで、[HTTP 基本認証] に「する」を指定した場合に、[認証情報設定ファイル名] に指定した認証情報設定ファイルの名称のバイト数です。[HTTP 基本認証] に「しない」を選択した場合は、計算する必要はありません。[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス」を参照してください。

注 3

Web サービスロケーション (WSDL ファイルに記述された service 要素の子要素 soap:address 要素の location 属性値) のバイト数です。

注 4

## 9. 標準 WS ジョブの定義

[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスで,[ オペレーション ] のリストから選択したオペレーションの SOAPAction 値 ( WSDL ファイルに記述された binding 要素の子要素 soap:operation の soapAction 属性値 ) のバイト数です。soapAction 属性値を持たない場合は、計算する必要はありません。

[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.3 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス」を参照してください。

### 注 5

[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ 基本 ] タブで,[ 出力パラメーター ] に指定した XML ファイル名のバイト数です。出力パラメーターを指定していない場合は、計算する必要はありません。

[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの項目の詳細は、「15.1 [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックス」を参照してください。

---

計算式について説明します。

XML 文書のサイズを、右辺の計算式で算出したサイズ未満に抑えます。例えば、ファイル名の長さ、XML 文書のサイズなどを調節して抑えます。

なお、XML 文書にマルチバイト文字を使用する場合は、XML 文書サイズを XML 文書の文字数より大きめの値で見積もることをお勧めします。全角文字などのマルチバイト文字のバイト数は、WS ジョブ実行ホストが稼働するホストの文字コード体系によって異なるためです。

### (b) XML 文書サイズの計算例

次の内容で標準 WS ジョブを定義するものとして、XML 文書のサイズを計算します ( 括弧内の数値はバイト数を示します )。

1. 使用する WSDL ファイルの内容：

```

<?xml:version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<wsdl:definitions targetNamespace=http://sample/ArrangementService
  xmlns:soap=http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/soap/
  xmlns:wsdl=http://schemas.xmlsoap.org/wsdl/
  xmlns:xsd=http://www.w3.org/2001/XMLSchema
  xmlns:ars="http://sample/ArrangementService">
  <wsdl:types>
    <xsd:schema targetNamespace=http://sample/ArrangementService elementFormDefault="qualified">
      <xsd:element name="arrangeItem">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="Item" type="itemType"/>
            <xsd:element name="Quantity" type="xsd:int"/>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
      <xsd:element name="arrangeItemResponse">
        <xsd:complexType>
          <xsd:sequence>
            <xsd:element name="DeliveryNumber" type="xsd:string"/>
          </xsd:sequence>
        </xsd:complexType>
      </xsd:element>
      <xsd:complexType name="itemType">
        <xsd:sequence>
          <xsd:element name="name" type="xsd:string"/>
          <xsd:element name="item-id" type="xsd:string"/>
          <xsd:element name="price" type="xsd:int"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
    </xsd:schema>
  </wsdl:types>
  <wsdl:message name="arrangeItemRequest">
    <wsdl:part name="parameters" element="ars:arrangeItem"/>
  </wsdl:message>
  <wsdl:message name="arrangeItemResponse">
    <wsdl:part name="parameters" element="ars:arrangeItemResponse"/>
  </wsdl:message>
  <wsdl:portType name="Arrangement">
    <wsdl:operation name="arrangeItem">
      <wsdl:input message="ars:arrangeItemRequest" name="arrangeItemRequest"/>
      <wsdl:output message="ars:arrangeItemResponse" name="arrangeItemResponse"/>
    </wsdl:operation>
  </wsdl:portType>

```

続く

## 9. 標準 WS ジョブの定義

続き

```
<wsdl:binding name="ArrangementSoapBinding" type="ars:Arrangement">
  <soap:binding style="document" transport="http://schemas.xmlsoap.org/soap/http"/>
  <wsdl:operation name="arrangeItem">
    <soap:operation soapAction="urn:arrangeItem"/>
    <wsdl:input name="arrangeItemRequest">
      <soap:body use="literal"/>
    </wsdl:input>
    <wsdl:output name="arrangeItemResponse">
      <soap:body use="literal"/>
    </wsdl:output>
  </wsdl:operation>
</wsdl:binding>
<wsdl:service name="ArrangementService">
  <wsdl:port binding="ars:ArrangementSoapBinding" name="Arrangement">
    <soap:address location="http://localhost/rcpl/services/CSCMsgUserDefinedReception"/>
  </wsdl:port>
</wsdl:service>
</wsdl:definitions>
```

(凡例)

■ : 計算式に文字列の長さを代入する部分を示します。

- WSDL ファイル名 : " C:¥Sample¥Sample.wsdl "( 21 )
- オペレーション名 : " arrangeItem "( 11 )  
「1. 使用する WSDL ファイルの内容 : 」内にある「オペレーション名」の部分です。
- WSDL ファイル名の長さ (WS ジョブ実行ホスト名の長さ) : ( 0 )  
[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブで , [ ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法 ] に「実行時にジョブ実行ホストへ転送する」を選択したものとします。この場合 , 計算する必要がないため , 0 バイトになります。
- 認証情報設定ファイル名 : " C:¥Sample¥Auth.txt "( 18 )
- Web サービスロケーション URL :  
" http://localhost/rcpl/services/CSCMsgUserDefinedReception "( 57 )  
「1. 使用する WSDL ファイルの内容 : 」内にある「Web サービスロケーション URL」の部分です。
- オペレーションの SOAPAction 値 : " urn:arrangeItem "( 15 )  
「1. 使用する WSDL ファイルの内容 : 」内にある「SOAPAction 値」の部分です。
- XML 文書ファイル名 : " C:¥Sample¥input.xml "( 19 )
- 出力パラメーター XML ファイル名 : 使用しないものとします。( 0 )
- XML 文書サイズ : ( 316 )  
「1. 使用する WSDL ファイルの内容 : 」で示す WSDL の「arrangeItem」のスキーマ定義に従った XML 文書の例は次のようになります。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ars:arrangeItem xmlns:ars="http://sample/ArrangementService"
                 xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <ars:Item>
    <ars:name>電子レンジ</ars:name>
    <ars:item-id>ITEM001</ars:item-id>
    <ars:price>20000</ars:price>
  </ars:Item>
  <ars:Quantity>1</ars:Quantity>
</ars:arrangeItem>

```

全角文字を 1 文字 2 バイトとして計算すると、XML 文書サイズは 316 バイト（要素間の空白および改行コードを除く）となります。

以上、項番 2 ~ 10 のサイズを「(a) XML 文書サイズの計算方法」で説明した計算式に代入します。

$$316 < 20,479 - (21 + 11 + 0 + 18 + 57 + 15 + 19 + 0 + 200) = 20,138$$

右辺の値は 20,138 で計算式が成立しています。したがって、XML 文書のサイズは適切であるといえます。



# 10 ユーザー WS ジョブの定義

この章では、ユーザー WS ジョブを定義する方法について説明します。

---

10.1 ユーザー WS ジョブ定義の流れ

---

10.2 ユーザー WS プログラムの開発

---

10.3 ユーザー WS ジョブの定義手順

---

## 10.1 ユーザー WS ジョブ定義の流れ

---

ユーザー WS ジョブを定義する流れについて説明します。

1. 【開発環境での作業】ユーザー WS プログラムを開発します。  
ユーザー WS プログラムの開発手順については、「10.2 ユーザー WS プログラムの開発」を参照してください。
2. 【クライアントでの作業】JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で、ユーザー WS ジョブをジョブネットに定義します。  
ユーザー WS ジョブを定義する操作については、「10.3 ユーザー WS ジョブの定義手順」を参照してください。

なお、JP1/AJS2 for Web Service を使用していて、かつ WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 for Web Service Web システム呼び出し機能編」を参照してください。

## 10.2 ユーザー WS プログラムの開発

ユーザー WS プログラムの開発について説明します。

### 10.2.1 ユーザー WS プログラムの開発環境

ユーザー WS プログラムは、次の環境で開発します。Web アプリケーションサーバごとに開発環境、および開発環境の OS を表に示します。

表 10-1 Web アプリケーションサーバと、開発環境および対応 OS 一覧

Web アプリケーションサーバ	開発環境	開発環境の OS
Cosminexus	Cosminexus Developer	次のどれかの OS 上で開発します。
WebSphere Application Server	WebSphere Application Server が提供する開発環境	WS ジョブ実行ホストが Windows の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows 7</li> <li>• Windows Server 2008</li> <li>• Windows Vista</li> <li>• Windows Server 2003</li> <li>• Windows XP Professional</li> </ul>
WebLogic Server	WebLogic Server が提供する開発環境	WS ジョブ実行ホストが Linux の場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Linux 5 (AMD/Intel 64)</li> <li>• Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)</li> <li>• Linux 5 (x86)</li> <li>• Linux 5 Advanced Platform (x86)</li> </ul>

### 10.2.2 ユーザー WS プログラムの開発手順

ユーザー WS プログラムを開発する手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - SOA Option が提供するユーザー WS プログラム作成用 jar ファイルを、ユーザー WS プログラムを開発するホストの任意の場所にコピーする。  
ユーザー WS プログラム作成用 jar ファイルのコピー元のファイルパスを次に示します。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥lib¥ajsws\_wsp.jar

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/lib/ajsws\_wsp.jar

FTP を使用してファイルを転送する場合は、バイナリモードで転送してください。

2. ユーザー WS プログラムを実装する。

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

ユーザー WS プログラムの実装は、WS プログラム提供インターフェースに従ってください。

WS プログラム提供インターフェースの詳細については、「10.2.3 WS プログラム提供インターフェース」を参照してください。

なお、ユーザー WS プログラムには、環境変数やシステムプロパティの変更など、ほかのユーザー WS プログラムに影響がある処理は実装しないよう、注意が必要です。詳細は、「10.2.6 ユーザー WS プログラムの注意事項と制限事項」を参照してください。

3. ユーザー WS プログラム実装ファイル (.java ファイル) をコンパイルする。  
コンパイルでは、次のコマンドを実行します。

```
javac -classpath ajsws_wsp.jarファイルパス;ほかのクラスパス情報 実装ファイル名
```

ajsws\_wsp.jar ファイルパス

手順 1 でコピーした ajsws\_wsp.jar ファイルのパスを指定します。

;ほかのクラスパス情報

コンパイルに必要なクラスパスがほかにある場合、指定します。  
省略することもできます。

実装ファイル名

手順 2 で実装したファイル名を指定します。

4. コンパイルした Java クラス (.class ファイル) を jar ファイル形式にアーカイブする。
5. 作成した jar ファイルを、WS ジョブ実行ホスト上の任意のフォルダに配置する。  
ユーザー WS プログラムで Java の標準ライブラリ以外のライブラリを使用する場合は、そのライブラリも jar ファイル形式で、ユーザー WS プログラムと同じフォルダに配置してください。ユーザー WS プログラムとは異なるフォルダに配置した jar ファイルを使用する場合は、CLASSPATH 環境変数にその jar ファイルのパスを設定してください。  
Administrators 権限またはスーパーユーザー権限のユーザーが参照できるフォルダに配置してください。  
CLASSPATH 環境変数については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.5 環境変数の設定」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.5 環境変数の設定」を参照してください。

6. 環境設定ファイルに JAX-WS を利用するための設定をする。  
この手順は、ユーザー WS プログラムで JAX-WS を利用する場合だけ必要です。  
環境設定ファイル ajswscommon.conf で、環境設定パラメーター jaxws\_enable

の値を「1」に設定します。環境設定ファイルの定義については、「4.8.2 環境設定ファイルの定義」を参照してください。

#### 注意事項

- JAX-WS は、使用している Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server 08-00 の場合にだけ利用できます。それ以外の Web アプリケーションサーバを使用している場合に JAX-WS を利用すると、エラーメッセージ「KNAW9206-E WS プログラムの例外を検出しました。」が出力され、ユーザー WS プログラムが異常終了します。
- JAX-WS を利用する場合は、JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` に次の行を指定しておいてください。

```
-Dcosminexus.home=Cosminexus インストールパス
```

この指定をしなかった場合、または Cosminexus インストールパスに不正な値を指定した場合、JAX-WS を利用したユーザー WS プログラムの呼び出しで異常終了するおそれがあります。

JavaVM 起動オプション設定ファイルについては、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合：

「4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合：

「5.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」

- 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` で環境設定パラメーター `jaxws_enable` の値を「1」に設定している場合、JAX-WS を呼び出すユーザー WS ジョブと標準 WS ジョブを同じ WS ジョブ実行ホスト上で同時に実行できません。同時に実行すると、エラーメッセージ「KNAW9010-E 環境設定ファイル (`ajswscommon.conf`) の内容が不正です。(エラー情報="エラー情報")」が出力され、標準 WS ジョブが異常終了します。
- 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` で環境設定パラメーター `jaxws_enable` の値を「1」に設定しないで JAX-WS を利用したユーザー WS ジョブを実行すると、エラーメッセージ「KNAW9213-E WS ジョブの初期化に失敗しました。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報="エラー情報")」が出力され、ユーザー WS ジョブが異常終了します。

### 10.2.3 WS プログラム提供インターフェース

ここでは、JP1/AJS3・SOA Option が提供する次のインターフェースについて説明します。

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

表 10-2 JP1/AJS3 - SOA Option が提供するインターフェース

WS プログラム提供インターフェース	説明	実装
WS プログラム実行インターフェース	ユーザー WS プログラムの実行処理を実装するためのインターフェースです。	
引き継ぎ情報出力インターフェース	ユーザー WS プログラムの処理結果をユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルに出力するためのインターフェースです。	

(凡例)

: 必ず実装することを示します。

: 必要に応じて実装することを示します。

### (1) WS プログラム実行インターフェース

JP1/AJS3 - SOA Option が提供する WS プログラム実行インターフェースについて説明します。

WS プログラム実行インターフェースは、ユーザー WS ジョブの実行時にコントローラーがユーザー WS プログラムを呼び出すためのインターフェースです。ユーザー WS プログラムは、この WS プログラム実行インターフェースに従って必ず実装してください。

WS プログラム実行インターフェースの詳細を次に示します。

クラス定義

```
public interface AjsWsInvoker
```

パッケージ名

```
jp.co.Hitachi.soft.ajs2.ws.wspif
```

メソッド名

```
ajsexecute
```

機能

ユーザー WS プログラムのメイン処理を実行します。ユーザー WS ジョブの実行時にコントローラーが、このメソッドを呼び出します。

形式

```
public int ajsexecute(java.lang.String[] args)
```

引数

```
args
```

[ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [パラメーター] に指定した値が設定されます。設定される順番も、[パラメーター] への指定どおりです。

(例)

```
111
222
444
```

(凡例) : 改行を示します。

上記のように [ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [パラメーター] に指定した場合、次のように設定されます。

```
argsの1番目の要素 : 111
argsの2番目の要素 : 222
argsの3番目の要素 :
argsの4番目の要素 : 444
```

args の 3 番目の要素には、空文字列が設定されます。

#### 戻り値

ユーザー WS プログラムの実行結果を設定します。この値が、ユーザー WS ジョブの終了コードになります。

戻り値には、0 または 2 ~ 128 の範囲で値を設定します。ユーザー WS プログラムが正常終了する場合は、通常は 0 の値を設定します。終了状態を区別する必要がある場合は、2 ~ 128 の値を設定してください。

0 または 2 ~ 128 の範囲で戻り値を設定することで、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View でしきい値による終了判定ができます。

範囲外の値を戻り値に設定した場合、エラーとなりユーザー WS ジョブが異常終了します。

#### 注意事項

- ユーザー WS プログラムで `ajsexecute` メソッド以外のメソッドを実装する場合、メソッド名に「ajs」で始まる文字列を使用しないでください。
- ユーザー WS プログラムの `ajsexecute` メソッドでは Runtime Error を含むすべての例外を発生させないでください。ajsexecute メソッドで例外を発生させた場合、ユーザー WS ジョブが異常終了します。

## (2) 引き継ぎ情報出力インターフェース

JP1/AJS3 - SOA Option が提供する引き継ぎ情報出力インターフェースについて説明します。

引き継ぎ情報出力インターフェースは、ユーザー WS プログラムの処理結果をユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルに出力するためのインターフェースです。ユーザー WS ジョブの後続ジョブに、ユーザー WS プログラムの処理結果を引き継いだ

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

い場合に実装してください。

引き継ぎ情報出力インターフェースの詳細を次に示します。

クラス定義

```
public final class AjsWsStdout
```

パッケージ名

```
jp.co.Hitachi.soft.ajs2.ws.util.io
```

メソッド名

メソッドを次の表に示します。

表 10-3 引き継ぎ情報出力インターフェースのメソッド

メソッド名	機能
print	引き継ぎ情報をユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルに出力します。引き継ぎ情報の終わりに改行は付与されません。
println	引き継ぎ情報をユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルに出力します。引き継ぎ情報の終わりに改行が付与されます。

print メソッドの形式

```
public static void print(java.lang.String arg)
```

print メソッドの引数

arg

引き継ぎ情報を文字列で指定します。null を指定した場合、文字列「null」が出力されます。指定した文字列は、WS ジョブ実行ホストの OS のデフォルト文字コードで出力されます。

println メソッドの形式

```
public static void println(java.lang.String arg)
```

println メソッドの引数

arg

引き継ぎ情報を文字列で指定します。null を指定した場合、文字列「null」が出力されます。指定した文字列は、WS ジョブ実行ホストの OS のデフォルト文字コードで出力されます。

### 10.2.4 ユーザー WS プログラムの実装例

ユーザー WS プログラムの実装例を次に示します。

図 10-1 ユーザー WS プログラムの実装例

```

import jp.co.Hitachi.soft.ajs2.ws.wspif.AjsWsInvoker;
import jp.co.Hitachi.soft.ajs2.ws.wspim.AjsWsStdout;

/**
 * ユーザーWSプログラムサンプル<br>
 *
 */
public class WSSample1 implements AjsWsInvoker {

    public int ajsexecute(java.lang.String[] args) {
        //ユーザーWSプログラムの実行処理
        AjsWsStdout.println("WSSample1");
        return 0;
    }
}

```

(凡例)

  : WSプログラム実行インターフェースの実装に必要なコードを示します。

  : 引き継ぎ情報出カインターフェースの実装に必要なコードを示します。

この実装例では、「WSSample1」という文字列が、ユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルへ出力されます。次のように出力されます。

WSSample1

(凡例)  : 改行を示します。

## 10.2.5 ユーザー WS プログラムのインスタンス生成タイミング，インスタンス破棄タイミング，およびメソッド実行タイミング

ユーザー WS プログラム（WS プログラム提供インターフェースに従って実装したクラス）のインスタンスの生成，ajsexecute メソッドの実行タイミング，および破棄のタイミングについて説明します。

### (1) ユーザー WS プログラムのインスタンス生成タイミング

ユーザー WS ジョブの実行を受け付けた直後に，ユーザー WS プログラムのインスタンスが，ユーザー WS ジョブの実行ごとに生成されます。

### (2) ajsexecute メソッドの実行タイミング

(1)のユーザー WS プログラムのインスタンス生成直後に ajsexecute メソッドがスレッドで実行されます。

### (3) ユーザー WS プログラムのインスタンス破棄タイミング

`ajsexecute` メソッドの終了直後にユーザー WS プログラムのインスタンスが破棄されます。

## 10.2.6 ユーザー WS プログラムの注意事項と制限事項

ユーザー WS プログラムを実装する際の注意事項とユーザー WS プログラムの制限事項について説明します。

### (1) 実装時の注意事項

ユーザー WS プログラムを実装する際の注意事項について説明します。

ユーザー WS プログラムは、コントローラー上でスレッドとして実行されます。環境変数やシステムプロパティの変更など、ほかのユーザー WS プログラムに影響がある処理は実装しないでください。

次の処理は実装しないでください。

- セキュリティマネージャーの設定
- 新しいセキュリティマネージャーの作成
- セキュリティポリシーの設定
- JavaVM の停止
- JavaVM のシャットダウンフックの登録と解除
- `System.out` , `System.in` , および `System.err` の設定

### (2) 制限事項

ユーザー WS プログラムの制限事項を次の表に示します。

表 10-4 ユーザー WS プログラムの制限事項

項目	内容
実行ユーザー	ユーザー WS プログラムは、コントローラー上でスレッドとして実行されます。そのため、実行ユーザーは、常にコントローラーの実行ユーザー（Administrators またはスーパーユーザー）となります。

項目	内容
利用する SOAP クライアントライブラリ	<p>ユーザー WS プログラムで利用できる SOAP クライアントライブラリは、Web アプリケーションサーバが提供する SOAP クライアントライブラリです。Web アプリケーションサーバが提供する SOAP クライアントライブラリ以外を使用した場合は、予期しないエラーが発生するおそれがあります。</p> <p>Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合  Cosminexus の SOAP クライアントライブラリを利用してください。</p> <p>Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合  WebSphere Application Server の SOAP クライアントライブラリを利用してください。</p> <p>Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合  WebLogic Server の SOAP クライアントライブラリを利用してください。</p>

## 10.3 ユーザー WS ジョブの定義手順

ここでは、ユーザー WS ジョブを定義する操作を、次の順に説明します。

表 10-5 ユーザー WS ジョブの定義操作の説明箇所

	記載箇所	内容
10.3.1	ユーザー WS ジョブを定義する	ユーザー WS ジョブの実行に必要な項目を定義する方法について説明しています。
10.3.2	ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ	ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ定義方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

### 10.3.1 ユーザー WS ジョブを定義する

ユーザー WS ジョブを定義する手順を次に示します。

1. JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動する。
2. JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager にログインする。  
[ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウが表示され  
ます。
3. [ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウのリストエリ  
アで、これから定義するユーザー WS ジョブを管理するジョブネットを定義する。  
ジョブネットの定義方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management  
System 3 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System  
2 操作ガイド」の、ジョブネットの定義について説明している章を参照してくださ  
い。
4. [ JP1/AJS3 - View ] ウィンドウまたは [ JP1/AJS2 - View ] ウィンドウのリストエリ  
アで、作成したジョブネットをダブルクリックする。  
[ ジョブネットエディタ ] ウィンドウが表示されます。
5. アイコンリストで、[ カスタムジョブ ] タブを選択する。
6. [ 排他編集 ] にチェックを入れる。
7. アイコンリストから、ユーザー WS ジョブのアイコンをドラッグし、マップエリアに  
ドロップする。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合は [  ] を、UNIX の場合は

[  ] をマップエリアにドロップしてください。

[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスが表示されます。「ユニット名」の  
部分には、選択したジョブネットワーク要素のユニット名が表示されます。

8. [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの共通項目を定義する。  
次の表に従って定義してください。

表 10-6 ユーザー WS ジョブの定義（共通項目の定義方法）

項目名	定義方法	指定
[ ユニット名 ]	ユーザー WS ジョブのユニット名を 30 バイト以内の文字列で指定します。	
[ コメント ]	ユーザー WS ジョブのコメントを 80 バイト以内の文字列で指定します。	
[ 実行エージェント ]	ユーザー WS ジョブを実行する WS ジョブ実行ホスト名を 255 バイト以内の文字列で指定します。	

（凡例）

- ：必ず指定します。
- ：任意で指定します。

注

JP1/AJS2 - View の場合、項目名は [ 実行ホスト ] です。

9. [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブで、必要な項目を定義する。  
次の表に従って定義してください。

10. ユーザー WS ジョブの定義

表 10-7 ユーザー WS ジョブの定義 ([ 定義 ] タブの定義方法)

項目名	定義方法	指定
[ 実行優先順位 ]	<p>ユーザー WS ジョブの実行優先順位を選択します。                      JP1/AJS から実行するジョブのデフォルトの実行優先順位は低く設定されていますので、必要に応じてジョブの実行優先順位を変更してください。                      ジョブの実行優先順位の変更については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のジョブの実行優先順位に関する注意事項を参照してください。</p>	
[ 標準出力ファイル名 ]	<p>ユーザー WS プログラムで標準出力に出力した内容を保存したい場合、標準出力ファイル名を 511 バイト以内で指定します。                      ただし、ユーザー WS ジョブについては、JP1/AJS3・View または JP1/AJS2・View から強制終了しても、標準出力に出力されません。                      ユーザー WS プログラムの処理結果を標準出力ファイルに出力し、後続ジョブに引き継ぐこともできます。                      引き継ぎの詳しい手順については、「10.3.2 ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ」を参照してください。</p>	
[ 標準エラー出力ファイル名 ]	<p>ユーザー WS プログラムで標準エラー出力に出力した内容を保存したい場合、またはコントローラーで発生したエラーのメッセージを保存したい場合、標準エラー出力ファイル名を 511 バイト以内で指定します。                      ただし、ユーザー WS ジョブについては、JP1/AJS3・View または JP1/AJS2・View から強制終了しても、標準エラー出力に出力されません。</p>	
終了判定 [ 判定結果 ]	<p>終了判定条件を選択してください。</p>	
終了判定 [ ファイル名 ]	<p>終了判定 [ 判定結果 ] で [ ファイルが存在すれば正常 ] または [ ファイルが更新されれば正常 ] を選択した場合に、監視するファイル名を指定してください。</p>	
終了判定 [ 警告しきい値 ]	<p>終了判定 [ 判定結果 ] で [ しきい値による判定 ] を選択した場合に、終了値を指定します。</p>	
終了判定 [ 異常しきい値 ]	<p>ユーザー WS ジョブの終了値は、通常ではユーザー WS プログラムの実行結果が返却されます。ただし、JP1/AJS3・SOA Option の機能でエラーが発生した場合は、JP1/AJS3・SOA Option の終了値 (エラーコード) が返却されます。                      しきい値で判定する場合、ユーザー WS プログラムが規定する実行結果に応じて、警告しきい値と異常しきい値に 2 ~ 128 の値を指定してください。</p>	

項目名	定義方法	指定
[ 実行時のユーザー ]	WS ジョブ実行ホストの OS のユーザー名を 63 バイト以内で指定してください。 このユーザーは、Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有し、かつ、実行ユーザー種別の登録ユーザーまたは所有ユーザーにマッピングしておく必要があります。また、この項目を省略するとユーザーマッピングのプライマリユーザーで実行します。プライマリユーザーは、実行ホストの Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有するユーザーにしてください。	
[ 詳細 ] ボタン	[ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスが表示されます。[ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスでは、ユーザー WS プログラムの配置パス、実行クラス名、ユーザー WS プログラムへ渡すパラメーターなどを定義します。	

( 凡例 )

: 必ず指定します。

: 任意で指定します。

10.[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 属性 ] タブで、必要な項目を定義する。

次の表に従って定義してください。

表 10-8 ユーザー WS ジョブの定義 ([ 属性 ] タブの定義方法)

項目名	定義方法	指定
[ 保留 ]	ユニットの状態をあらかじめ保留状態にするかどうかを指定します。	
[ 種別 ]	ユニットの種別をリカバリーにするかどうかを指定します。	
[ 打ち切り時間指定 ]	ジョブの実行を打ち切る時間を指定するかどうかを選択します。	
[ 打ち切り時間 ]	[ 打ち切り時間指定 ] ラジオボタンで [ する ] を選択した場合、打ち切り時間を分で指定します。指定できる値は、1 ~ 1,440 分です。	
[ 所有者 ]	ユニットの所有者を 31 バイト以内で指定します。	
[ JP1 資源グループ ]	JP1 資源グループ名を 63 バイト以内で指定します。指定できる文字は、英数字、および「_(アンダーバー)」です。空白の場合は、アクセス権限の対象になりません。	

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

項目名	定義方法	指定
[ 実行ユーザー種別 ]	<p>必要に応じて、実行ユーザーの種類を選択します。選択できる種類を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ 登録ユーザー ] ユーザー WS ジョブを登録した JP1 ユーザーでユーザーマッピングします。</li> <li>• [ 所有ユーザー ] ユーザー WS ジョブを所有している JP1 ユーザーでユーザーマッピングします。</li> </ul> <p>登録ユーザーまたは所有ユーザーは、実行ホストの Administrators 権限またはスーパーユーザー権限を所有するユーザーにマッピングしておく必要があります。</p>	

( 凡例 )

: 任意で指定します。

11. [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブの, [ 詳細 ] ボタンをクリックする。

[ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスが表示されます。



12. [ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスで、ユーザー WS プログラムのファイル配置パス、実行クラス名、およびユーザー WS プログラムへ渡すパラメーターを指定する。

指定方法については、「15.4 [ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックス」を参照してください。

13. [ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ OK ] ボタンをクリックする。

[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスに戻ります。

14. 定義した内容を確認し、[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ OK ] ボタンをクリックする。

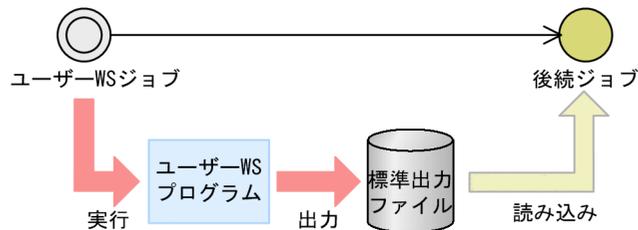
[ ジョブネットエディタ ] ウィンドウに、ユーザー WS ジョブが定義されます。

### 10.3.2 ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ

ユーザー WS プログラムの処理結果を、後続ジョブに引き継ぐことができます。

次の図のように、ユーザー WS プログラムの処理結果を標準出力ファイルに出力するよう、ユーザー WS ジョブに定義します。次に、後続ジョブに、標準出力ファイルを読み込むように定義することで、ユーザー WS プログラムの処理結果を引き継げます。

図 10-2 ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ仕組み



(凡例)

-  : 標準出力ファイルが出力される流れを示します。
-  : 後続ジョブが標準出力ファイルを読み込む流れを示します。

ここでは、ユーザー WS プログラムの処理結果をユーザー WS ジョブに定義した標準出力ファイルに出力する定義手順について説明します。なお、使用する Web アプリケーションサーバによって定義手順が異なります。Web アプリケーションサーバごとに定義手順を説明します。

#### (1) Cosminexus Application Server または WebLogic Server の場合

手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
 コントローラーを終了する方法については、「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. ユーザー WS プログラムに、Java 標準の機能で、標準出力ファイルへの出力を実装する。
3. ユーザー WS ジョブの定義で、次のように定義する。
  - [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブで、[ 標準出力ファイル名 ] に引き継ぎ情報を保存する標準出力ファイル名を指定します。  
 指定例を次に示します。  
 Windows の場合：C:\¥jpl¥ajs2ws¥wssample1\_stdout.txt  
 UNIX の場合：/home/user/wssample1\_stdout.txt

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

- [ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [パラメーター] に、[標準出力ファイル名] に指定した標準出力ファイル名を指定します。

指定例を次に示します。

Windows の場合：C:\¥jpl¥ajs2ws¥wssample1\_stdout.txt

UNIX の場合：/home/user/wssample1\_stdout.txt

ユーザー WS ジョブの定義については、「10.3.1 ユーザー WS ジョブを定義する」を参照してください。

### ! 注意事項

- 複数のユーザー WS ジョブに、同じ標準出力ファイル名を指定しないでください。標準出力ファイルの内容は、各ユーザー WS ジョブの実行開始時に初期化されるためです。
- 引き継ぎ情報は、同じ WS ジョブ実行ホストで実行されるジョブ間でだけ引き継ぎます。ジョブ実行ホストが異なるジョブに引き継ぐ場合、引き継ぎ情報を出力した標準出力ファイルを、引き継ぐジョブがあるジョブ実行ホストに転送するように、ジョブネットを構成してください。

4. 後続ジョブに、標準出力ファイルを読み込むように定義する。

5. コントローラーを開始する。

コントローラーを開始する方法については、「11.3.1 コントローラーの開始」を参照してください。

## (2) WebSphere Application Server の場合

使用する Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合、ジョブ定義の前に、引き継ぎ情報を標準出力ファイルに出力するための環境設定、およびユーザー WS プログラムの実装が必要です。環境設定からジョブ定義までの手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。

コントローラーを終了する方法については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「11.3.2 コントローラーの終了」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「11.4.2 コントローラーの終了」

2. ジョブ実行ホストにある、環境設定ファイルの stdout\_enable に「0」（標準出力を無効にする）を設定する。

環境設定ファイルについては、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.8.2 環境設定ファイルの定義」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

## 「5.8.2 環境設定ファイルの定義」

## 参考

stdout\_enable に「0」を設定しなかった場合、ユーザー WS ジョブの標準出力ファイルに SOAP クライアントライブラリの情報も出力されることがあるため、引き継ぎ情報が正しく読み込まれないおそれがあります。

3. ユーザー WS プログラムに、「引き継ぎ情報出力インターフェース」を実装する。  
「引き継ぎ情報出力インターフェース」は、後続ジョブに引き継ぐ情報を標準出力ファイルに出力するインターフェースです。実装方法については、「10.2.3(2) 引き継ぎ情報出力インターフェース」を参照してください。
4. ユーザー WS ジョブの定義で、次のように定義する。
  - [ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 定義 ] タブで、[ 標準出力ファイル名 ] に引き継ぎ情報を保存する標準出力ファイル名を指定します。  
指定例を次に示します。  
Windows の場合：C:\¥jpl¥ajs2ws¥wssample1\_stdout.txt  
UNIX の場合：/home/user/wssample1\_stdout.txt
  - [ ユーザー WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ パラメーター ] に、[ 標準出力ファイル名 ] に指定した標準出力ファイル名を指定します。  
指定例を次に示します。  
Windows の場合：C:\¥jpl¥ajs2ws¥wssample1\_stdout.txt  
UNIX の場合：/home/user/wssample1\_stdout.txt

ユーザー WS ジョブの定義については、「10.3.1 ユーザー WS ジョブを定義する」を参照してください。

**!** 注意事項

- 複数のユーザー WS ジョブに、同じ標準出力ファイル名を指定しないでください。標準出力ファイルの内容は、各ユーザー WS ジョブの実行開始時に初期化されるためです。
- 引き継ぎ情報は、同じ WS ジョブ実行ホストで実行されるジョブ間でだけ引き継ぎます。ジョブ実行ホストが異なるジョブに引き継ぐ場合、引き継ぎ情報を出力した標準出力ファイルを、引き継ぐジョブがあるジョブ実行ホストに転送するように、ジョブネットを構成してください。

5. 後続ジョブに、標準出力ファイルを読み込むように定義する。
6. コントローラーを開始する。  
コントローラーを開始する方法については、次の個所を参照してください。  
WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合  
「11.3.1 コントローラーの開始」  
WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

## 10. ユーザー WS ジョブの定義

「11.4.1 コントローラーの開始」

# 11 WS ジョブの実行

この章では、定義した WS ジョブを実行する操作、および WS ジョブの実行中にできる操作について説明します。

---

11.1 WS ジョブ実行の流れ

---

11.2 WS ジョブ実行前の準備

---

11.3 コントローラーの開始と終了 (Windows の場合)

---

11.4 コントローラーの開始と終了 (UNIX の場合)

---

11.5 WS ジョブの実行登録

---

11.6 WS ジョブ実行中の操作

---

11.7 WS ジョブの実行結果の確認

---

## 11.1 WS ジョブ実行の流れ

---

WS ジョブおよび WS ジョブを組み込んだジョブネットを定義したら、ジョブネットを実行します。

WS ジョブの実行は、次の流れで実施します。

1. WS ジョブの実行前に、次の項目を準備する。

- Web アプリケーションサーバの起動
- 各種ファイルの確認

WS ジョブ実行前の準備については、「11.2 WS ジョブ実行前の準備」を参照してください。

2. コントローラーを開始する。

操作方法については、次の個所を参照してください。

Windows の場合

操作方法については、「11.3 コントローラーの開始と終了 (Windows の場合)」を参照してください。

UNIX の場合

操作方法については、「11.4 コントローラーの開始と終了 (UNIX の場合)」を参照してください。

3. JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で、WS ジョブを実行登録する。

実行登録の操作については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」を参照してください。

4. WS ジョブの実行状況を確認したり、必要に応じて強制終了したりする。

WS ジョブ実行中の操作については、「11.6 WS ジョブ実行中の操作」を参照してください。

次の節から、それぞれの操作方法について説明します。

## 11.2 WS ジョブ実行前の準備

WS ジョブの実行の前に必要な作業について説明します。

### 11.2.1 Web アプリケーションサーバの起動

WS ジョブを実行する前に、Web サービス提供ホストである Cosminexus Application Server、WebSphere Application Server、または WebLogic Server を起動します。

Cosminexus の起動方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド」またはマニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。WebSphere Application Server または WebLogic Server の起動については、対応するマニュアルを参照してください。

### 11.2.2 各種ファイルの確認

次のファイルを利用することを定義しているときは、正しく定義されているか、または正しい配置先に格納されているかを確認してください。

表 11-1 ファイルの配置確認

ファイル名	どのような場合に必要か	配置先
WSDL ファイル	標準 WS ジョブを実行する場合、ジョブ実行ホストへの WSDL ファイルの配置方法で、事前に WSDL ファイルをジョブ実行ホスト上に配置させるときに必要です。	標準 WS ジョブの定義で、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブの [WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上)] に指定した WSDL ファイルの配置先に配置します。
認証情報設定ファイル	標準 WS ジョブを実行する場合で、Web サービスとの HTTP 通信で HTTP 基本認証を利用するときに必要です。 認証情報設定ファイルについては、次の個所を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合：           「4.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定」</li> <li>WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合：           「5.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定」</li> </ul>	標準 WS ジョブの定義で、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [オプション] タブの [認証情報設定ファイル名 (ジョブ実行ホスト上)] に指定した認証情報設定ファイルの配置先に配置します。

## 11. WS ジョブの実行

ファイル名	どのような場合に必要か	配置先
入力パラメータファイル	<p>標準 WS ジョブを実行する場合で、オペレーションの入力パラメータの値を入力パラメータファイルから読み込ませるときに必要です。</p> <p>入力パラメータファイルについては、「9.4.1 入力パラメータファイルの作成（単純型の場合）」を参照してください。</p>	<p>標準 WS ジョブの定義で、[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの「入力パラメータ」にある [ファイル名または値] に指定した入力パラメータファイルの配置先に配置します。</p>
WS 接続環境設定ファイル	<p>標準 WS ジョブを実行する場合で、次のときに定義が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HTTP プロキシサーバを利用した Web サービスと接続する場合</li> <li>• Web サービス接続のタイムアウト時間を変更したい場合（Cosminexus Application Server 限定）</li> </ul> <p>WS 接続環境設定ファイルについては、次の個所を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合： 「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」</li> <li>• WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合： 「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」</li> </ul>	<p>WS 接続環境設定ファイルは、JP1/AJS3 - SOA Option のインストール時に、次のフォルダに格納されます。</p> <p>WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf</p> <p>WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合 /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf</p>
クライアント定義ファイル	<p>Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server を使用している場合で、ユーザー WS ジョブを実行するときが必要です。</p> <p>クライアント定義ファイルについては、次の個所を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合： 「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。</li> <li>• WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合： 「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。</li> </ul>	<p>クライアント定義ファイルは、JP1/AJS3 - SOA Option のインストール時に、次のフォルダに格納されます。</p> <p>WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf</p> <p>WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合 /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf</p>

## 11.3 コントローラーの開始と終了 (Windows の場合)

コントローラーの開始と終了について説明します。

### 11.3.1 コントローラーの開始

WS ジョブを実行するためには、コントローラーを開始しておく必要があります。開始する方法を次に示します。

1. Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、WS ジョブ 実行ホストで、PRF デーモン (Cosminexus Performance Tracer のデーモン) が起動しているか確認する。

PRF デーモンの起動方法については、次のマニュアルを参照してください。

Cosminexus Application Server のバージョンが 08-00 未満の場合

「Cosminexus システム運用ガイド」の、PRF デーモンの起動方法について記載している箇所

Cosminexus Application Server のバージョンが 08-00 以降の場合

マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」の、PRF デーモンの起動方法について記載している箇所を参照してください。

次の場合、この手順は不要です。

- Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合
  - 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用している場合
2. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択して、JP1/AJS3 - SOA Controller Service を開始する。

#### 注意事項

Windows Server 2008 で WebSphere Application Server V7.0 を使用する場合、コントローラーを開始する前に JavaVM 起動オプション設定ファイルに次の行を指定してください。

```
-Djava.net.preferIPv4Stack=true
```

この指定をしなかった場合、コントローラーの起動で異常終了するおそれがあります。JavaVM 起動オプション設定ファイルについては、「4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」を参照してください。

### 11.3.2 コントローラーの終了

コントローラーを終了する方法を次に示します。

## 11. WS ジョブの実行

1. JP1/AJS で WS ジョブの実行を抑止する。
2. WS ジョブ実行ホストで `ajswsstatus` コマンドを実行して、実行中の WS プログラムがないかを確認する。  
表示された実行結果の中で、「実行中の WS プログラム数」の値が「0」になっているかどうかを確認してください。  
`ajswsstatus` コマンドの詳細については、「14. コマンド `ajswsstatus`」を参照してください。
3. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択して、JP1/AJS3 - SOA Controller Service を終了する。
4. Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、必要に応じて、WS ジョブ実行ホストで PRF デーモンを終了する。

### 11.3.3 コントローラーを自動で開始または終了する

システム起動時またはシステム終了時、自動でコントローラーも開始したり、終了したりするように設定できます。設定手順を次に示します。

1. Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、WS ジョブ実行ホストで、PRF デーモン (Cosminexus Performance Tracer のデーモン) の自動起動を設定する。  
Cosminexus の Management Server を起動する時に、[論理サーバの一括起動] というオプションを設定すると、PRF デーモンが自動起動します。詳細については、次のマニュアルを参照してください。  
Cosminexus Application Server のバージョンが 08-00 未満の場合  
「Cosminexus 運用管理操作ガイド」の、開始時の設定について説明している箇所  
Cosminexus Application Server のバージョンが 08-00 以降の場合  
「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド」の、開始時の設定について説明している箇所  
次の場合、この手順は不要です。
  - Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合
  - 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用している場合
2. [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択して、JP1/AJS3 - SOA Controller Service のスタートアップの種類を「自動」にする。  
これで設定は完了です。

#### 注意事項

Windows Server 2008 で WebSphere Application Server V7.0 を使用する場合、コントローラーを開始する前に JavaVM 起動オプション設定ファイルに次の行を指定してください。

```
-Djava.net.preferIPv4Stack=true
```

この指定をしなかった場合、コントローラーの起動で異常終了するおそれがあります。JavaVM 起動オプション設定ファイルについては、「4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」を参照してください。

## 11.4 コントローラーの開始と終了 (UNIX の場合)

---

コントローラーの開始と終了について説明します。

### 11.4.1 コントローラーの開始

WS ジョブを実行するためには、コントローラーを開始しておく必要があります。開始する方法を次に示します。

1. Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合、WS ジョブ 実行ホストで、PRF デーモンが起動しているか確認する。  
PRF デーモン (Cosminexus Performance Tracer のデーモン) の起動方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編」の、PRF デーモンの起動方法について記載している個所を参照してください。  
Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合、この手順は不要です。
2. コントローラーを開始する。  
コントローラーは、`ajswsstart` コマンドで開始します。`ajswsstart` コマンドの詳細については、「14. コマンド `ajswsstart` (UNIX 限定)」を参照してください。

### 11.4.2 コントローラーの終了

コントローラーを終了する方法を次に示します。

1. JP1/AJS2 で WS ジョブの実行を抑止する。
2. WS ジョブ実行ホストで `ajswsstatus` コマンドを実行し、実行中の WS プログラムがないか確認する。  
表示された実行結果の中で、「実行中の WS プログラム数」の値が「0」になっているかどうか確認してください。  
`ajswsstatus` コマンドの詳細については、「14. コマンド `ajswsstatus`」を参照してください。
3. `ajswsstop` コマンドを実行する。  
`ajswsstop` コマンドの詳細については、「14. コマンド `ajswsstop` (UNIX 限定)」を参照してください。

### 11.4.3 コントローラーを自動で開始または終了する

システム起動時またはシステム終了時、自動でコントローラーも開始したり、終了したりするように設定できます。設定手順を次に示します。

## (1) コントローラーの自動開始

システム起動時にコントローラーも自動的に開始させる手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーの終了方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. /etc/opt/jp1ajs2forws/base/ajsws\_start のファイルをテキストエディターで開く。
3. ファイル（自動開始用シェルスクリプト）に記述されている、次の環境変数の設定部分を必要に応じて変更する。

```
LANG=ja_JP.UTF-8
#LD_LIBRARY_PATH=
CLASSPATH=$CLASSPATH
```

LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数を設定する場合は、コメント部分（行頭の#）を削除してください。

環境変数の設定方法や設定例については、「5.5 環境変数の設定」を参照してください。

4. ファイル（自動開始用シェルスクリプト）に記載されている、次のコメント部分（行頭の#）を削除する。

```
#/opt/jp1ajs2forws/base/bin/ajswsstart 1>/dev/null 2>&1
```

### ! 注意事項

コントローラーの開始が、JP1/AJS3-Agent, JP1/AJS3-Manager, JP1/AJS2-Agent, または JP1/AJS2-Manager の開始よりも先になるように設定してください。

## (2) コントローラーの自動終了

システムの終了時に、コントローラーも自動的に終了させる手順を次に示します。

1. コントローラーを終了する。  
コントローラーの終了方法については、「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。
2. /etc/opt/jp1ajs2forws/base/ajsws\_stop のファイルをテキストエディターで開く。
3. ファイル（自動終了用シェルスクリプト）に記述されている、次の環境変数の設定部分を必要に応じて変更する。

## 11. WS ジョブの実行

```
LANG=ja_JP.UTF-8
#LD_LIBRARY_PATH=
CLASSPATH=$CLASSPATH
```

LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数を設定する場合は、コメント部分（行頭の #）を削除してください。

環境変数の設定方法や設定例については、「5.5 環境変数の設定」を参照してください。

4. ファイル（自動終了用シェルスクリプト）に記載されている、次のコメント部分（行頭の #）を削除する。

```
#/opt/jp1ajs2forws/base/bin/ajsstop 1>/dev/null 2>&1
```

### ! 注意事項

コントローラーの開始が、JP1/AJS3 - Agent , JP1/AJS3 - Manager , JP1/AJS2 - Agent , または JP1/AJS2 - Manager の開始よりも先になるように設定してください。

---

## 11.5 WS ジョブの実行登録

---

WS ジョブ, および WS ジョブを含むジョブネットの定義が終了したら, JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View でジョブネットを実行登録します。

実行登録の操作については, マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」を参照してください。

## 11.6 WS ジョブ実行中の操作

---

WS ジョブの実行状況の確認方法と WS ジョブの強制終了方法について説明します。

### 11.6.1 WS ジョブの実行状況の確認

WS ジョブの実行状況の確認方法は、カスタムジョブの実行状況の確認方法と同様です。カスタムジョブの実行状況の確認方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」の、運用について説明している章を参照してください。

### 11.6.2 WS ジョブの強制終了

WS ジョブを強制終了する方法について説明します。

WS ジョブを強制終了する方法には、次の三とおりあります。

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で WS ジョブを強制終了する  
JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で WS ジョブを強制終了すると、WS ジョブの実行プログラムである WS プログラムも強制終了されます。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View で WS ジョブを強制終了する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」を参照してください。

WS ジョブの定義に打ち切り時間を定義している場合、打ち切り時間が経過したときに WS ジョブは自動的に強制終了され、WS ジョブの実行プログラムである WS プログラムも強制終了されます。

JP1/AJS の `ajskill` コマンドで WS ジョブを強制終了する  
JP1/AJS の `ajskill` コマンドで WS ジョブを強制終了すると、WS ジョブの実行プログラムである WS プログラムも強制終了されます。JP1/AJS の `ajskill` コマンドで WS ジョブを強制終了する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス」の、`ajskill` コマンドの説明を参照してください。

JP1/AJS3 - SOA Option の `ajswskillwsp` コマンドで、WS プログラムを強制終了する

WS プログラムを直接強制終了する方法を次に示します。WS プログラムを強制終了すると WS ジョブが強制終了します。

次の手順で実行します。

1. `ajswsstatus` コマンドを実行し、WS プログラム実行 ID を確認する。

ajswsstatus コマンドについては、「14. コマンド ajswsstatus」を参照してください。

2. ajswskillwsp コマンドを実行する。

引数には、WS プログラム実行 ID を指定します。指定例を次に示します。

(例) WS プログラム実行 ID が 30866251173077426131 の場合

```
ajswskillwsp 30866251173077426131
```

ajswskillwsp コマンドについては、「14. コマンド ajswskillwsp」を参照してください。

## 11.7 WS ジョブの実行結果の確認

標準 WS ジョブ、およびユーザー WS ジョブの実行結果について説明します。

### (1) 標準 WS ジョブの実行結果の確認

標準 WS ジョブの実行が完了すると、次の表に示したコードを返します。コード内容に従って対処してください。

表 11-2 標準 WS ジョブの終了コード

項番	終了コード	コードの意味	対処
1	-1	次のどちらかの状態であることを意味します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>JP1/AJS でエラーが発生しました。</li> <li>JP1/AJS からジョブを強制終了しました。</li> </ul>	ユーザーの運用に従って、対処してください。
2	0	標準 WS ジョブの実行が正常に終了しました。	なし。
3	11	認証情報設定ファイルの読み込みでエラーが発生しました。	認証情報設定ファイルが、標準 WS ジョブの定義で指定した場所に配置されているか確認してください。
4	12	認証情報設定ファイルの内容が不正です。	認証情報設定ファイルの内容が正しいか確認してください。
5	13	出力パラメーターファイルの書き込みでエラーが発生しました。	出力パラメーターファイルに書き込み権限があるか、WS ジョブ実行ホストのディスクに空きがあるか確認してください。
6	51	WSDL ファイルの読み込みでエラーが発生しました。	WSDL ファイルが、標準 WS ジョブの定義で指定した場所に配置されているか確認してください。
7	52	入力パラメーターファイルの読み込みでエラーが発生しました。	入力パラメーターファイルが、標準 WS ジョブの定義で指定した場所に配置されているか確認してください。

項番	終了コード	コードの意味	対処
8	53	WSDL ファイルまたは WSDL データの形式が不正です。	次のことを確認してください。 1. 標準 WS ジョブの定義で、事前にジョブ実行ホストへ WSDL ファイルを配置するように指定している場合、ジョブ実行ホストに配置された WSDL ファイルの内容が正しいか確認してください。 2. 1. に該当しない場合、または標準 WS ジョブの定義で WSDL ファイルを WS ジョブ実行ホストへ転送するように指定している場合、トラブルシューティングに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシューティングに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。

## 11. WS ジョブの実行

項番	終了コード	コードの意味	対処
9	55	SOAP 通信でエラーが発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>WSDL ファイルに定義されている Web サービスの URL が正しいか、または接続先の Web サービスが起動しているかを確認してください。</li> <li>標準 WS ジョブの定義で、事前に WS ジョブ実行ホストへ WSDL ファイルを配置するように指定している場合、標準 WS ジョブの定義で指定された WSDL ファイルと WS ジョブ実行ホストに配置された WSDL ファイルが、同じファイルであるかを確認してください。</li> <li>Web サービスとの HTTP 通信でプロキシを経由する場合、WS 接続環境設定ファイル、またはクライアント定義ファイルの内容が正しいか確認してください。</li> <li>Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server を使用している場合、Web サービスと HTTPS 通信するとき、環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の keystore, keystore_password, truststore, および truststore_password の設定値が正しいか確認してください。</li> <li>認証情報設定ファイルの内容が正しいか確認してください。</li> <li>標準 WS ジョブの定義で複合型を使用している場合は、Web サービスで例外が発生している恐れがあります。Web サービスで例外が発生すると、Web サービスの応答は、出力パラメーターファイル (XML 形式) に出力されます。出力パラメーターファイルの内容を解析し、エラーの詳細を確認してください。</li> </ul>
10	56	環境設定ファイル ajswscommon.conf の内容が不正です。	環境設定ファイル ajswscommon.conf の環境設定パラメーター jaxws_enable の値が「0」になっているか確認してください。

項番	終了コード	コードの意味	対処
11	182	コントローラーが開始していないため、標準 WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>コントローラーが開始していることを確認してください。コントローラーは開始していたが、エラーとなった場合は、次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コントローラーの開始後に、環境設定ファイルのポート番号の設定を変更している場合、再度コントローラーを開始してください。</li> <li>2. WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ソケットの状態を確認し、TIME_WAIT 状態のソケットが少なくなるまで待ってください。または、OS が管理する TIME_WAIT ポートの回復時間を早めることによって、通信エラーを抑制します。対処方法については、「13.4.3 標準 WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処」を参照してください。</li> <li>3. 1. および 2. に該当しない場合、トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。</li> </ol>
12	183	通信エラーによって、標準 WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。</p>
13	213	実行中の WS ジョブ数が上限に達しているため、標準 WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>環境設定ファイルの WS ジョブの最大同時実行数を見直してください。</p>
14	215	ajswskillwsp コマンドによって WS コネクターを強制終了しました。	<p>ユーザーの運用に従って、対処してください。</p>
15	217	WS コネクターの実行に失敗しました。	<p>環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の apserver_path が正しく設定されているか確認してください。</p>
16	221	ユーザー WS プログラムの実行が始まる前に、JP1/AJS2 からユーザー WS ジョブが強制終了されました。	-

## 11. WS ジョブの実行

項番	終了コード	コードの意味	対処
17	その他	項番 1 ~ 15 以外の原因によって標準 WS ジョブの実行に失敗しました。	トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。

(凡例) - : 対処はありません。

### (2) ユーザー WS ジョブの実行結果の確認

ユーザー WS ジョブの実行が完了すると、次の表に示したコードを返します。コード内容に従って対処してください。

表 11-3 ユーザー WS ジョブの終了コード

項番	終了コード	コードの意味	対処
1	-1	次のどちらかの状態であることを意味します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>JP1/AJS でエラーが発生しました。</li> <li>JP1/AJS からジョブを強制終了しました。</li> </ul>	ユーザーの運用に従って、対処してください。
2	0	ユーザー WS ジョブの実行が正常に終了しました。	なし。
3	2 ~ 128	ユーザー WS ジョブの実行が終了しました (WS プログラムの <code>ajsexecute</code> メソッドの戻り値)。	ユーザーの運用に従って、対処してください。

項番	終了コード	コードの意味	対処
4	182	コントローラーが開始していないため、ユーザー WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>コントローラーが開始していることを確認してください。コントローラーは開始していたが、エラーとなった場合は、次のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コントローラーの開始後、環境設定ファイルのポート番号の設定を変更していた場合、再度コントローラーを開始してください。</li> <li>2. WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ソケットの状態を確認し、TIME_WAIT 状態のソケットが少なくなるまで待ってください。または、OS が管理する TIME_WAIT ポートの回復時間を早めることによって、通信エラーを抑制します。対処方法については、「13.4.4 ユーザー WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処」を参照してください。</li> <li>3. 1. および 2. に該当しない場合、トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。</li> </ol>
5	183	通信エラーによって、ユーザー WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。</p>
6	212	ユーザー WS プログラムが正しく配置されていないため、ユーザー WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー WS プログラムの配置パスが正しいか。</li> <li>• ユーザー WS プログラムの実行クラス名が正しいか。</li> <li>• ユーザー WS プログラムが規定のインターフェースに従って実装されているか。</li> </ul>
7	213	実行中の WS ジョブ数が上限に達しているため、ユーザー WS ジョブの実行に失敗しました。	<p>環境設定ファイルの WS ジョブの最大同時実行数を見直してください。</p>
8	214	ユーザー WS プログラムで例外が発生したため、ユーザー WS ジョブが異常終了しました。	<p>稼働ログおよびユーザー WS プログラムのエラー情報から原因を調査し、対処してください。</p>
9	215	ajswwskillwsp コマンドによって WS プログラムを強制終了しました。	<p>ユーザーの運用に従って、対処してください。</p>

## 11. WS ジョブの実行

項番	終了コード	コードの意味	対処
10	216	ユーザー WS プログラムから不正な戻り値が返却されました。	ユーザー WS プログラムの実装を確認してください。
11	217	ユーザー WS プログラムの初期化に失敗しました。	CLASSPATH 環境変数に、ユーザー WS プログラムで使用している jar ファイルパスが設定されているか、ユーザー WS プログラムが jar ファイル形式かどうか確認してください。
12	221	ユーザー WS プログラムの実行が始まる前に、JP1/AJS からユーザー WS ジョブが強制終了されました。	-
13	その他	項番 1 ~ 12 以外の原因によってユーザー WS ジョブの実行に失敗しました。	トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。

(凡例) - : 対処はありません。

# 12 メンテナンス

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合の、JP1/AJS3 - SOA Option 運用中の WS ジョブの実行抑止、バックアップとリカバリー、および JP1/AJS3 - SOA Option が動作するホストの設定変更について説明します。

---

12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止

---

12.2 バックアップとリカバリー

---

12.3 JP1/AJS3 - SOA Option が動作するホストの設定変更

---

## 12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止

---

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定、メンテナンス、またはホストの設定を変更するには、WS ジョブの実行を抑止し、コントローラーを終了します。

WS ジョブの実行を抑止してコントローラーを終了する手順については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「11.3.2 コントローラーの終了」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「11.4.2 コントローラーの終了」を参照してください。

## 12.2 バックアップとリカバリー

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option を導入したシステムでのバックアップと、リカバリーについて説明します。

バックアップが必要なデータを次に示します。

- WS ジョブの定義情報
- WS プログラム
- JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイル
- JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定ファイル

それぞれのバックアップとリカバリー方法を次に示します。

### (1) WS ジョブ定義情報のバックアップとリカバリー

JP1/AJS のジョブネットの退避・回復機能で、WS ジョブや WS ジョブが組み込まれたジョブネットのバックアップとリカバリーができます。

JP1/AJS のジョブネットの退避・回復機能については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」の、ジョブネットの退避・回復について説明している章を参照してください。

### (2) ユーザー WS プログラムのバックアップとリカバリー

ユーザー WS ジョブを使用している場合、ユーザー WS プログラムの仕様に従って、手動でバックアップおよびリカバリーをしてください。

### (3) JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイルのバックアップとリカバリー

JP1/AJS3 - SOA Option の次の環境設定ファイルを、手動でバックアップとリカバリーをしてください。

`ajswscommon.conf` (環境設定ファイル)

Windows の場合

格納先: JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf

UNIX の場合

格納先: /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf

`ajswsjavavmoptions.conf` (JavaVM 起動オプション設定ファイル)

Windows の場合

格納先: JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf

UNIX の場合

## 12. メンテナンス

格納先： /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf

ajsws\_ws.conf (WS 接続環境設定ファイル)

Windows の場合

格納先： JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf

UNIX の場合

格納先： /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf

c4webcl.properties (クライアント定義ファイル)

Windows の場合

格納先： JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf

UNIX の場合

格納先： /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf

認証情報設定ファイル

格納先：

標準 WS ジョブの定義で、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブの [ 認証情報設定ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) ] に指定した認証情報設定ファイルの配置先

入力パラメーターファイル

格納先：

標準 WS ジョブの定義で、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの「入力パラメーター」にある [ ファイル名または値 ] に指定した入力パラメーターファイルの配置先

WSDL ファイル

格納先：

標準 WS ジョブの定義で、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブの [ WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) ] に指定した WSDL ファイルの配置先

キーストアファイル

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server を使用していて、かつ、標準 WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信を利用する場合、バックアップが必要です。格納先は次のとおりです。

格納先：環境設定ファイルの keystore に設定した格納先

トラストストアファイル

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server または WebSphere Application Server を使用していて、かつ、標準 WS ジョブによる Web サービス接続で HTTPS 通信を利用する場合、バックアップが必要です。格納先は次のとおりです。

格納先：環境設定ファイルの truststore に設定した格納先

#### (4) JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定ファイルのバックアップとリカバリー

JP1/AJS3 - View for SOA Option の次の環境設定ファイルを、手動でバックアップとリカバリーをしてください。

ajswsvcommon.conf (環境設定ファイル)

格納先：JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ ¥conf

WSDL ファイル

格納先：

標準 WS ジョブの定義で、[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスの [ WSDL ファイル名 ] に指定した WSDL ファイルの格納先

## 12.3 JP1/AJS3 - SOA Option が動作するホストの設定変更

---

JP1/AJS3 - SOA Option の運用中に、JP1/AJS3 - SOA Option が動作するホストの各種設定を変更する場合に必要な対応について説明します。

### 12.3.1 JP1/AJS3 - SOA Option が使用するポート番号を変更する

コントローラーの内部処理の通信で使用するポート番号は、JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイル (`ajswscommon.conf`) で変更します。

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定を変更する方法については、次の個所を参照してください。

Windows の場合

「4.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

UNIX の場合

「5.8 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定」を参照してください。

### 12.3.2 ユーザー WS プログラムを変更 / 削除する

「12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止」に示した手順で運用中の WS ジョブの実行を抑止したあと、ユーザー WS プログラムの変更、削除を行ってください。

なお、ユーザー WS プログラムを配置しているフォルダを変更したら、WS ジョブに定義した WS プログラム配置パスを必ず変更してください。

### 12.3.3 WS ジョブ実行ホストのホスト名を変更する

「12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止」に示した手順によって、運用中の WS ジョブの実行を抑止したあと、WS ジョブ実行ホストのホスト名を変更してください。

WS ジョブ実行ホストのホスト名の変更は、WS ジョブの実行に影響します。

WS ジョブ実行ホストのホスト名を変更したら、WS ジョブに定義してあるジョブ実行ホストを必ず変更してください。

### 12.3.4 WS ジョブ実行ホストの IP アドレスを変更する

「12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止」に示した手順によって、運用中の WS ジョブの

実行を抑止したあと、WS ジョブ実行ホストの IP アドレスを変更してください。

### 12.3.5 WS ジョブ実行ホストの日時を変更する

「12.1 運用中の WS ジョブの実行抑止」に示した手順によって、運用中の WS ジョブの実行を抑止したあと、WS ジョブ実行ホストの日時を変更してください。



# 13

## トラブルシューティング

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合に、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用中にトラブルが発生したときの対処方法について説明します。

---

13.1 対処の手順

---

13.2 ログ情報

---

13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法

---

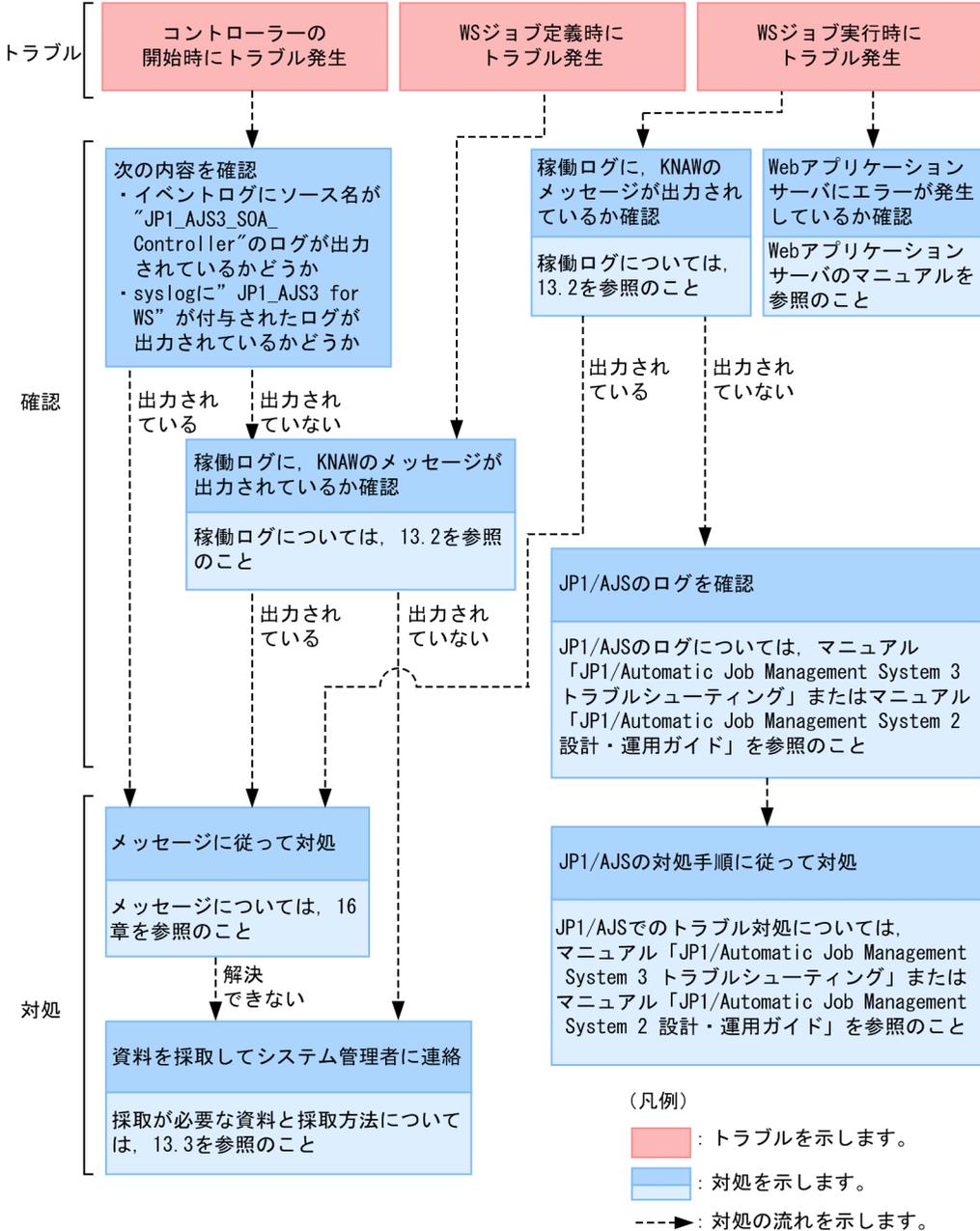
13.4 トラブルへの対処方法

---

# 13.1 対処の手順

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option でトラブルが起きた場合、次の流れで対処します。

図 13-1 対処の流れ



**!** 注意事項

Web アプリケーションサーバで発生したトラブルについては、Web アプリケーションサーバのマニュアルを参照して対処してください。

---

## 13.2 ログ情報

---

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用に出力されるログ情報について説明します。

### 13.2.1 ログ情報の種類

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するログ情報には、次の種類があります。

- システム障害通知ログ
- 稼働ログ

各ログの内容を次に示します。

#### (1) システム障害通知ログ

システム障害通知ログは、システム側のトラブルを通知する、システム管理者向けのログ情報です。

Windows の場合

イベントログが、システム障害通知ログに当たります。

UNIX の場合

syslog が、システム障害通知ログに当たります。

#### (2) 稼働ログ

稼働ログは、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働状態やトラブルの内容を記録する、システム管理者向けのログ情報です。

稼働ログには、エラーメッセージ、コントローラーの開始 / 終了のメッセージなどが記録されます。

### 13.2.2 稼働ログファイルおよびフォルダー一覧

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力する稼働ログファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 13-1 JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルおよびフォルダ一覧 (Windows の場合)

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	出力される情報	デフォルトのディスク占有量(単位:バイト) <sup>1</sup>	最大ディスク占有量(単位:バイト) <sup>2</sup>	ファイル切り替え時期 <sup>3</sup>
コントローラー稼働ログ	¥base¥log¥ ajswscontroller- {n}.log 4, 5	コントローラーが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
サービスマネージャー稼働ログ	¥base¥log¥ ajswsservice-{n} .log 4, 5	サービスマネージャーが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
スターター稼働ログ	Windows Server 2003 の場合 ¥base¥log¥ ajswsjobstar t-{n}.log 4, 5  Windows Server 2008 の場合 ¥Hitachi¥jpl ¥jpl_default ¥JP1AJS2FORW S¥base¥log¥a jswsstarter- {n}.log 4, 6, 7	スターターが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
コマンド稼働ログ	Windows Server 2003 の場合 ¥base¥log¥ ajswscommand- {n}.log 4, 5  Windows Server 2008 の場合 ¥Hitachi¥jpl ¥jpl_default ¥JP1AJS2FORW S¥base¥log¥a jswscommand- {n}.log 4, 6, 7	JP1/AJS3 - SOA Option の運用コマンドが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド

注 1

環境設定の値をデフォルトの状態で運用した場合のディスク占有量を示します。

注 2

### 13. トラブルシューティング

ログファイルの最大のディスク占有量を示します。

注 3

JP1/AJS3 - SOA Option が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを示します。

注 4

n には、1 ~ 16 の数値が入ります。

注 5

「JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ」の下になります。

注 6

「システムドライブ ¥ProgramData」の下になります。

注 7

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% 以外の場合、出力するファイル名は Windows Server 2003 の場合と同じです。

表 13-2 JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルおよびディレクトリ一覧 (UNIX の場合)

ログの種類	ファイル名・ディレクトリ名	出力される情報	デフォルトのディスク占有量 (単位: バイト) <sup>1</sup>	最大ディスク占有量 (単位: バイト) <sup>2</sup>	ファイル切り替え時期 <sup>3</sup>
コントローラー稼働ログ	/var/opt/ jplajs2forws/ base/log/ ajswscontroller- {n}.log <sub>4</sub>	コントローラーが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
スターター稼働ログ	/var/opt/ jplajs2forws/ base/log/ ajswsjobstart- {n}.log <sub>4</sub>	スターターが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
コマンド稼働ログ	/var/opt/ jplajs2forws/ base/log/ ajswscommand- {n}.log <sub>4</sub>	JP1/AJS3 - SOA Option の運用コマンドが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド

注 1

環境設定の値をデフォルトの状態に運用した場合のディスク占有量を示します。

注 2

ログファイルの最大のディスク占有量を示します。

注 3

JP1/AJS3 - SOA Option が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを示します。

注 4

n には, 1 ~ 16 の数値が入ります。

表 13-3 JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイルおよびフォルダ一覧

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	出力される情報	デフォルトのディスク占有量 (単位: バイト) <sup>1</sup>	最大ディスク占有量 (単位: バイト) <sup>2</sup>	ファイル切り替え時期 <sup>3</sup>
WS 定義 GUI 稼働ログ	Windows Server 2003 および Windows XP Professional の場合 ¥log¥ajswsv- {n}.log 4, 5  Windows 7 , Windows Server 2008 および Windows Vista の場合 ¥Hitachi¥jpl ¥jpl_default ¥JP1AJS2FORW SV¥log¥ajswsv- {n}.log 4, 6, 7	JP1/AJS3 - View for SOA Option の GUI が出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド
JP1/AJS3 - SOA Option 運用コマンド稼働ログ	Windows Server 2003 および Windows XP Professional の場合 ¥log¥ajswsvcommand- {n}.log 4, 5  Windows 7 , Windows Server 2008 および Windows Vista の場合 ¥jpl¥jpl_default¥JP1AJS2FORWSV¥log¥ajswsvcommand- {n}.log 4, 6, 7	JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用コマンドが出力する稼働ログ	4,194,304	268,435,456	ラップアラウンド

注 1

環境設定の値をデフォルトの状態 で運用した場合のディスク占有量を示します。

注 2

ログファイルの最大のディスク占有量を示します。

### 13. トラブルシューティング

注 3

JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを示します。

注 4

n には、1 ~ 16 の数値が入ります。

注 5

「JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダ」の下になります。

注 6

「システムドライブ¥ProgramData」の下になります。

注 7

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% 以外の場合、出力するファイル名は Windows Server 2003 および Windows XP Professional の場合と同じです。

## 13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法

---

JP1/AJS3 - SOA Option または JP1/AJS3 - View for SOA Option のトラブル発生時に採取が必要な資料について説明します。また、資料の採取方法についても説明します。

### (1) JP1/AJS3 - SOA Option の障害情報

ajsws\_log コマンドで採取する資料が必要です。

#### 資料の採取方法

ajsws\_log コマンドを実行して採取します。

ajsws\_log コマンドの詳細については、「14. コマンド ajsws\_log」を参照してください。

### (2) JP1/AJS3 - View for SOA Option の障害情報

ajswsv\_log コマンドで採取する資料が必要です。

#### 資料の採取方法

ajswsv\_log コマンドを実行して採取します。

ajswsv\_log コマンドの詳細については、「14. コマンド ajswsv\_log (Windows 限定)」を参照してください。

### (3) WS ジョブを定義したジョブネットの定義内容

トラブルの要因である WS ジョブを定義したジョブネットの定義内容を採取してください。

#### ジョブネットの定義内容の採取方法

JP1/AJS の ajspprint コマンドを実行し、出力される内容をテキストファイルに保存してください。

ajspprint コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス」を参照してください。

### (4) 標準 WS ジョブ定義時に指定した WSDL ファイル

トラブルの要因であるジョブが標準 WS ジョブの場合は、標準 WS ジョブを定義するときに指定した WSDL ファイルが必要です。

#### 資料の採取方法

標準 WS ジョブ定義時に、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブにある [ ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法 ] で選択した内容

## 13. トラブルシューティング

によって、採取方法が異なります。

- 「実行時にジョブ実行ホストへ転送する」を選択した場合  
ajswsvgetWSDL コマンドを実行して採取します。  
ajswsvgetWSDL コマンドの詳細については、「14. コマンド ajswsvgetWSDL  
(Windows 限定)」を参照してください。
- 「事前にジョブ実行ホストへ配置する」を選択した場合  
WS ジョブ実行ホストに配置した WSDL ファイルを手動で採取します。

### (5) JP1/AJS の運用でトラブルが発生した場合に採取する情報

JP1/AJS の運用でトラブルが発生した場合に採取する情報が必要です。

JP1/AJS の運用でトラブルが発生した場合に採取する情報については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のトラブルシューティングについて説明している章を参照してください。

## 13.4 トラブルへの対処方法

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option で発生したトラブルに対処する方法について説明します。

### 13.4.1 コントローラーが開始しない場合の対処

コントローラーが開始しない場合、次の事項が原因と考えられます。

- 環境設定ファイル `ajswscommon.conf` の `jvmlib` の設定値に誤りがある (Windows と UNIX に共通)
- JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` の設定値に誤りがある (Windows と UNIX に共通)
- `LD_LIBRARY_PATH` 環境変数の設定値に誤りがある (Linux 限定)

(凡例)

- (Windows と UNIX に共通): WS ジョブ実行ホストの OS が Windows でも UNIX でも考えられる原因を指します。
- (Linux 限定): WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合に考えられる原因を指します。

各原因の確認方法と対処方法について説明します。

#### (1) 環境設定ファイルの `jvmlib` の設定値に誤りがある (Windows と UNIX に共通)

次のような環境で、環境設定ファイル `ajswscommon.conf` の `jvmlib` の設定値を変更していない、または設定値に誤りがあることが原因と考えられます。

- WS ジョブ実行ホストの Cosminexus Application Server, WebSphere Application Server または WebLogic Server をデフォルトのインストール先フォルダ以外にインストールしている
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合で、システムドライブが C ドライブ以外のとき、Cosminexus Application Server, WebSphere Application Server または WebLogic Server をデフォルトのインストール先フォルダにインストールしている

`jvmlib` の値を確認し、誤りがある場合は修正してください。環境設定ファイル `ajswscommon.conf` の詳細については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.8.2 環境設定ファイルの定義」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.8.2 環境設定ファイルの定義」

## (2) JavaVM 起動オプション設定ファイルの設定値に誤りがある (Windows と UNIX に共通)

JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` の内容を確認し、誤りがある場合は修正してください。JavaVM 起動オプション設定ファイル `ajswsjavavmoptions.conf` の詳細については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.8.3 JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義」

## (3) LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数の設定値に誤りがある (Linux 限定)

JavaVM ライブラリが参照するライブラリのパスを、`LD_LIBRARY_PATH` 環境変数に設定していないか、または設定値に誤りがあることが原因と考えられます。

`LD_LIBRARY_PATH` 環境変数の値を確認し、誤りがある場合は修正してください。環境変数 `LD_LIBRARY_PATH` の詳細については、「5.5 環境変数の設定」を参照してください。

## 13.4.2 標準 WS ジョブの定義がエラーになった場合の対処 (Windows と UNIX に共通)

標準 WS ジョブの定義がエラーになった場合、`wSDL4j.jar` ファイルが正しく配置されていないおそれがあります。

[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスの [ 次へ ] ボタンをクリックして、KNAW4906-E のメッセージが表示されたら、JP1/AJS3 - View for SOA Option に添付されている `wSDL4j.jar` ファイルを正しい位置に配置してください。詳細は、「6.3 JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定」を参照してください。

## 13.4.3 標準 WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処

標準 WS ジョブの実行がエラーになった場合、次の事項が原因と考えられます。

- WS コネクターが異常終了している (Windows と UNIX に共通)
- システム全体で使用できるソケットポートが枯渇している (Windows 限定)

(凡例)

- (Windows と UNIX に共通): WS ジョブ実行ホストの OS が Windows でも UNIX でも考えられる原因を指します。
- (Windows 限定): WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合に考えられる

原因を指します。

各原因の確認方法と対処方法について説明します。

### (1) WS コネクタが異常終了している (Windows と UNIX に共通)

エラーメッセージ「KNAW9206-E WS プログラムの例外を検出しました。」が出力された場合、WS コネクタが異常終了しています。次のように対処してください。

1. Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合に、複合型を使用した標準 WS ジョブを実行していないか確認してください。  
複合型を使用した標準 WS ジョブは、Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server または WebLogic Server の場合、実行できません。
2. Web アプリケーションサーバが WebLogic Server 10 以降の場合、WebLogic Server が提供する SOAP クライアントライブラリ (`wseclient.jar`) を JP1/AJS3・SOA Option のインストール先フォルダに配置しているか確認してください。詳細は、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.4 WebLogic Server 10 以降に必要な設定」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.4 WebLogic Server 11g を使用する場合に必要な設定」

3. 1. および 2. に該当しない場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### (2) システム全体で使用できるソケットポートが枯渇している (Windows 限定)

標準 WS ジョブが終了コード 182 で終了し、エラーメッセージ「KNAW8101-E コントローラーが開始していないため、WS ジョブを実行できません。または、コントローラーとの通信でエラーが発生しました。(エラー情報 =20000050,00002740)」が出力された場合、システム全体で使用できるソケットポートが枯渇しているおそれがあります。

`netstat -a` コマンドを実行してシステムのソケットの状態を調べて、`TIME_WAIT` 状態のソケットが多数あるかどうかを確認します。`TIME_WAIT` 状態のソケットが多数ある場合は、一時的に空いているソケットポートが不足しているおそれがあります。通信エラーメッセージが出力される場合は、ソケット接続できないため、標準 WS ジョブの実行や標準 WS ジョブの状態確認に失敗しているおそれがあります。このような場合は、`TIME_WAIT` 状態のソケットが少なくなってから、標準 WS ジョブを再実行してください。

なお、Windows が管理する `TIME_WAIT` ポートの回復時間を早めることで、通信エラー

## 13. トラブルシューティング

を抑止する方法もあります。TIME\_WAIT ポートの回復時間を早める手順を次に示します。

1. 次のコマンドを実行して、レジストリエディタを起動する。

```
C:¥> regedt32.exe
```

2. 次に示す TCP/IP のキーを開く。

```
¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
```

3. 次に示すレジストリ値を追加する。

名前: TcpTimedWaitDelay

データ型: REG\_DWORD

データ: 任意の値 (10 進数の値)

4. Windows を再起動する。

TcpTimedWaitDelay パラメーターに指定する値は任意です。運用環境に適した値を設定してください。なお、標準値は 240 秒、最小値は 30 秒です。

### 13.4.4 ユーザー WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処

ユーザー WS ジョブの実行がエラーになった場合、次の事項が原因と考えられます。

- CLASSPATH 環境変数の設定に誤りがある (Windows と UNIX に共通)
- ユーザー WS プログラム配置パスまたは実行クラス名に誤りがある (Windows と UNIX に共通)
- ユーザー WS プログラムが異常終了している (Windows と UNIX に共通)
- システム全体で使用できるソケットポートが枯渇している (Windows 限定)

(凡例)

- (Windows と UNIX に共通): WS ジョブ実行ホストの OS が Windows でも UNIX でも考えられる原因を指します。
- (Windows 限定): WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合に考えられる原因を指します。

各原因の確認方法と対処方法について説明します。

#### (1) CLASSPATH 環境変数の設定に誤りがある (Windows と UNIX に共通)

ユーザー WS プログラムが参照する jar ファイルを、ユーザー WS プログラムとは異なる格納先に格納している場合に、jar ファイルのパスを CLASSPATH 環境変数に設定していないか、または設定値に誤りがあることが考えられます。

CLASSPATH 環境変数の値を確認し、誤りがある場合は修正してください。

環境変数の詳細については、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.5 環境変数の設定」を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.5 環境変数の設定」を参照してください。

## (2) ユーザー WS プログラム配置パスまたは実行クラス名に誤りがある (Windows と UNIX に共通)

ユーザー WS ジョブの定義で指定したユーザー WS プログラム配置パスまたは実行クラス名に誤りがあることが考えられます。

ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、誤りがある場合は修正してください。

ユーザー WS ジョブの定義方法については、「10.3 ユーザー WS ジョブの定義手順」を参照してください。

## (3) ユーザー WS プログラムが異常終了している (Windows と UNIX に共通)

エラーメッセージ「KNAW9206-E WS プログラムの例外を検出しました。」が出力された場合、ユーザー WS プログラムが異常終了しています。次の手順で対処してください。

1. ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムのエラー情報から原因を特定し、ユーザー WS ジョブの再実行やユーザー WS プログラムの入れ替えなどの対策をしてください。
2. Web アプリケーションサーバが WebLogic Server 10 以降の場合は、WebLogic Server が提供する SOAP クライアントライブラリ (wseeclient.jar) を JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダに配置しているか確認してください。詳細は、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.4 WebLogic Server 10 以降に必要な設定」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.4 WebLogic Server 11g を使用する場合に必要な設定」

3. 1. および 2. に該当しない場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

## (4) システム全体で使用できるソケットポートが枯渇している (Windows 限定)

ユーザー WS ジョブが終了コード 182 で終了し、エラーメッセージ「KNAW8101-E コントローラーが開始していないため、WS ジョブを実行できません。または、コント

## 13. トラブルシューティング

ローラーとの通信でエラーが発生しました。(エラー情報 =20000050,00002740)」が出力された場合、システム全体で使用できるソケットポートが枯渇しているおそれがあります。

netstat -a コマンドを実行してシステムのソケットの状態を調べて、TIME\_WAIT 状態のソケットが多数あるかどうかを確認します。TIME\_WAIT 状態のソケットが多数ある場合は、一時的に空いているソケットポートが不足しているおそれがあります。通信エラーメッセージが出力される場合は、ソケット接続できないため、WS ジョブの実行やジョブの状態確認に失敗しているおそれがあります。このような場合は、TIME\_WAIT 状態のソケットが少なくなってから、WS ジョブを再実行してください。

なお、Windows が管理する TIME\_WAIT ポートの回復時間を早めることで、通信エラーを抑止する方法もあります。TIME\_WAIT ポートの回復時間を早める手順を次に示します。

1. 次のコマンドを実行して、レジストリエディタを起動する。

```
C:¥> regedt32.exe
```

2. 次に示す TCP/IP のキーを開く。

```
¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Tcpip¥Parameters
```

3. 次に示すレジストリ値を追加する。

名前: TcpTimedWaitDelay

データ型: REG\_DWORD

データ: 任意の値 (10 進数の値)

4. Windows を再起動する。

TcpTimedWaitDelay パラメーターに指定する値は任意です。運用環境に適した値を設定してください。なお、標準値は 240 秒、最小値は 30 秒です。

# 14 コマンド

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能が提供する、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のコマンドについて説明します。

---

コマンドの記述形式

---

コマンド一覧

---

ajswskillwsp

---

ajswsstart ( UNIX 限定 )

---

ajswsstatus

---

ajswsstop ( UNIX 限定 )

---

ajswsvgetWSDL ( Windows 限定 )

---

ajsws\_log

---

ajswsv\_log ( Windows 限定 )

---



## コマンド一覧

ここでは、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のコマンドを一覧で示します。

表 14-1 コマンドの一覧

コマンド名	機能	コマンドを実行する OS	
		Windows	UNIX
ajswskillwsp	実行中の WS プログラムを強制終了する		
ajswsstart	コントローラーを起動する	×	
ajswsstatus	WS プログラムの実行情報、およびコントローラーの情報を出力する		
ajswsstop	コントローラーを終了する	×	
ajswsvgetWSDL	WSDL ファイルの内容を取得する		×
ajsws_log	JP1/AJS3 - SOA Option の障害情報を採取する		
ajswsv_log	JP1/AJS3 - View for SOA Option の障害情報を採取する		×

( 凡例 )

：実行できます。

×：実行できません。

# ajswskillwsp

---

## 形式

ajswskillwsp WSプログラム実行ID

## 機能

実行中の WS プログラム実行 ID に該当する WS プログラムを強制終了します。

ajswskillwsp コマンドを使用する際は、事前に ajswsstatus コマンドを使用して強制終了する WS プログラムの WS プログラム実行 ID を調べておく必要があります。

## 実行権限

Windows の場合

Administrators 権限

UNIX の場合

スーパーユーザー権限

## 格納先フォルダ

Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Optionインストール先フォルダ¥base¥bin

UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/bin

## 引数

WS プログラム実行 ID

ajswsstatus コマンドで調べた WS プログラム実行 ID を指定します。

## 戻り値

戻り値	内容
0	WS プログラムが正常に強制終了されたことを示します。
10	次のどれかの状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数の指定に誤りがあった</li> <li>コントローラーとの通信開始時に接続できなかった</li> <li>コントローラーとの通信中にエラーが発生した</li> <li>コントローラーとの通信でタイムアウトが発生した</li> <li>指定した実行中の WS プログラムが存在しなかった</li> </ul>
24 (Windows 限定)	このコマンドを実行するユーザーが Administrators 権限を持っていないことを示します。

戻り値	内容
120	内部エラー（通信エラー、権限エラー以外のエラー）が発生したことを示します。

#### 注

ajswskillwsp コマンドとコントローラーの通信タイムアウト時間は 300 秒です。

## コマンドの出力メッセージ

コマンドの出力メッセージを次の表に示します。

メッセージ ID	現象
KNAW6000-I	コマンドが正常に終了しました。
KNAW6001-E	引数の指定に誤りがあります。
KNAW6002-E	コマンドの実行権限がありません。
KNAW6003-E	コントローラーとの通信開始時に接続できませんでした。
KNAW6004-E	コントローラーとの通信中にエラーが発生しました。
KNAW6005-W	コントローラーとの通信でタイムアウトが発生しました。
KNAW6101-W	該当する WS プログラムが存在しません。または該当する WS プログラムがすでに終了しています。
KNAW6999-E	コマンドの実行中にエラーが発生しました。

対処方法については、「16.5 メッセージ一覧」から対応するメッセージ ID を参照してください。

## 使用例

WS プログラム実行 ID が「30866251173077426131」の WS プログラムを強制終了させる場合の例を次に示します。

```
ajswskillwsp 30866251173077426131
```

## 注意事項

Windows Server 2008 で、ユーザーアカウント制御（UAC）が有効な環境で管理者（Administrator）以外のユーザーを使用している場合、管理者（Administrator）でコマンドプロンプトを起動してからコマンドを実行してください。

# ajswsstart ( UNIX 限定 )

---

## 形式

ajswsstart

## 機能

コントローラーを起動します。

コントローラーが開始している場合、何もしないで正常に終了します。

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1ajs2forws/base/bin

## 引数

なし

## 戻り値

戻り値	内容
0	コマンドの実行が正常に終了したことを示します。
10	次の状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数の指定に誤りがあった</li> <li>コントローラーの開始に失敗した</li> </ul>
120	このコマンドの実行中に内部エラーが発生したことを示します。

## コマンドの出力メッセージ

コマンドの出力メッセージを次の表に示します。

メッセージ ID	内容
KNAW6000-I	コマンドが正常に終了しました。
KNAW6001-E	引数の指定に誤りがあります。
KNAW6105-E KNAW7104-E	コントローラーの開始に失敗しました。
KNAW7001-I	コントローラーを開始しました。
KNAW6999-E KNAW7104-E	コマンドの実行に失敗しました。

対処方法については、「16.5 メッセージ一覧」から対応するメッセージ ID を参照してください。

## 使用例

コントローラーを起動する場合の例を示します。

```
ajswsstart
```

# ajswsstatus

---

## 形式

```
ajswsstatus
```

## 機能

WS プログラムの実行情報とコントローラーの情報を出力します。

ajswskillwsp コマンドで WS プログラムを強制終了する前に、強制終了する WS プログラムの実行 ID を得るために使用します。

なお、このコマンドは、実行中の WS プログラムの情報を確認するためのものであり、ジョブネットに登録された WS ジョブの状態を確認するためのコマンドではありません。WS ジョブの状態は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のジョブネットモニタまたは ajsshow コマンドで確認します。

## 実行権限

Windows の場合

Administrators 権限

UNIX の場合

スーパーユーザー権限

## 格納先フォルダ

Windows の場合

JP1/AJS3 - SOA Optionインストール先フォルダ¥base¥bin

UNIX の場合

/opt/jp1ajs2forws/base/bin

## 引数

なし

## 戻り値

戻り値	内容
0	次の状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準出力への出力が正常に終了した</li> <li>コントローラーが開始している</li> <li>実行中の WS プログラムが存在しない</li> </ul>

戻り値	内容
1	次の状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準出力への出力が正常に終了した</li> <li>コントローラーが開始している</li> <li>実行中の WS プログラムが存在する</li> </ul>
2	次の状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>標準出力への出力が正常に終了した</li> <li>コントローラーが終了している</li> </ul>
10	次のどれかの状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数の指定に誤りがあった</li> <li>コントローラーとの通信中にエラーが発生した</li> <li>コントローラーとの通信でタイムアウトが発生した</li> </ul>
24 (Windows 限定)	このコマンドを実行するユーザーが Administrators 権限を持っていないことを示します。
120	内部エラー（通信エラー、権限エラー以外のエラー）が発生したことを示します。

## 注

ajswsstatus コマンドとコントローラーの通信タイムアウト時間は 300 秒です。

## コマンドの出力メッセージ

コマンドの出力メッセージを次の表に示します。

メッセージ ID	現象
KNAW6000-I	コマンドが正常に終了しました。
KNAW6001-E	引数の指定に誤りがあります。
KNAW6002-E	コマンドの実行権限がありません。
KNAW6003-E	コントローラーとの通信開始時に接続できませんでした。
KNAW6004-E	コントローラーとの通信中にエラーが発生しました。
KNAW6005-W	コントローラーとの通信でタイムアウトが発生しました。
KNAW6999-E	コマンドの実行中にエラーが発生しました。

対処方法については、「16.5 メッセージ一覧」から対応するメッセージ ID を参照してください。

## 出力形式

出力形式を次に示します。

図 14-1 ajswsstatus コマンドの出力形式

```

コマンド実行時刻△:△XXXX/YY/ZZ△HH:MM:SS↓   1.
コントローラー△状態△:△状態↓                 2.
コントローラー△開始時刻△:△XXXX/YY/ZZ△HH:MM:SS↓   3.
実行中のWSプログラム数△:△N↓                   4.
↓
WSプログラム実行情報△:↓                          5.
WSプログラム実行ID, ジョブ実行依頼元ホスト名, ジョブ名, ジョブ実行ID, 実行状態, 開始時刻, 実行クラス名↓
AAAAA, BBBBB, CCCCC:/DDDDD/EEEE, FFFFF, GGGGG, XXXX/YY/ZZ△HH:MM:SS, xxxxxxxxxxxxxxxxxxx↓
      :
      :

```

(凡例)

△：半角スペースを示します。

↓：改行を示します。

斜体文字：可変項目を示します。

出力内容を出力形式中の番号ごとに説明します。

#### 1. コマンド実行時刻

ajswsstatus コマンドを実行した日時が、「XXXX/YY/ZZ HH:MM:SS」の形式で出力されます。

#### 2. コントローラー状態

コントローラーの状態が出力されます。開始している場合は「開始」、終了している場合は「終了」と出力されます。

#### 3. コントローラー 開始時刻

コントローラーを開始した日時が、「XXXX/YY/ZZ HH:MM:SS」の形式で出力されます。コントローラーが開始していない場合は、何も出力されません。

#### 4. 実行中の WS プログラム数

実行中の WS プログラム数が出力されます。実行中の WS プログラムがない場合、値は「0」と出力されます。コントローラーが開始していない場合は、何も出力されません。

#### 5. WS プログラム実行情報

WS プログラムの実行情報が出力されます。実行中の WS プログラムがない場合、またはコントローラーが開始していない場合は、何も出力されません。

WS プログラム実行情報の詳細を次に示します。

```

AAAAA, BBBBB, CCCCC:/DDDDD/EEEE, FFFFF, GGGGG, XXXX/YY/ZZ△HH:MM:SS, xxxxxxxxxxxxxxxxxxx↓
  1.   2.   3.         4.   5.         6.         7.

```

(凡例)

△：半角スペースを示します。

↓：改行を示します。

斜体文字：可変項目を示します。

各情報は「,(コンマ)」で区切られます。WS プログラム実行情報の詳細を図中の番

号ごとに説明します。

1. WS プログラム実行 ID

WS プログラム実行 ID です。

2. ジョブ実行依頼元ホスト名

ジョブを登録したマネージャーホストの名前です。

3. ジョブ名

WS ジョブ名です。「スケジューラーサービス名 / ジョブネット名 / ジョブのユニット名」で構成されます。詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2」、またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス」の環境変数一覧を記載している個所を参照してください。

4. WS ジョブ実行 ID

WS ジョブ実行 ID は、ジョブの実行時に JP1/AJS が発行する ID です。詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1」、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2」、またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス」の環境変数一覧を記載している個所を参照してください。

5. 実行状態

WS プログラムの実行状態です。WS プログラムの `ajsexecute` メソッドが実行されている場合「実行中」と出力されます。

6. 開始時刻

WS プログラムの実行を開始した日時です。「XXXX/YY/ZZ HH:MM:SS」の形式で出力されます。

7. 実行クラス名

WS プログラムの実行クラス名です。WS コネクタを実行中の場合、「WSConnector」と出力されます。

## 使用例

WS プログラムの実行情報、およびコントローラーの情報を表示する例を次に示します。

```
ajswsstatus
```

## 出力例

出力例を次に示します。

図 14-2 ajswsstatus コマンドの出力例

コマンド実行時刻 : 2007/05/15 19:40:59  
コントローラー 状態 : 開始  
コントローラー 開始時刻 : 2007/05/15 19:31:43  
実行中のWSプログラム数 : 5

WSプログラム実行情報 :

WSプログラム実行ID, ジョブ実行依頼元ホスト名, ジョブ名, ジョブ実行ID, 実行状態, 開始時刻, 実行クラス名  
30866251179225203753, Manager1, ./Sample1/UserWSJOB1, @A315, 実行中, 2007/05/15 19:33:23, test.Sample1  
28644041179225202080, Manager1, ./Sample2/UserWSJOB2, @A315, 実行中, 2007/05/15 19:33:22, test.Sample2  
95769931179225201810, Manager1, ./Sample3/UserWSJOB3, @A315, 実行中, 2007/05/15 19:33:22, test.Sample3  
167429421179225639559, Manager1, ./Sample4/WSJOB1, @A316, 実行中, 2007/05/15 19:40:39, WSCconnector  
2300571179225643265, Manager1, ./Sample5/WSJOB2, @A316, 実行中, 2007/05/15 19:40:43, WSCconnector  
KNAW6000-I コマンドが正常に終了しました。(コマンド名=ajswsstatus)

### 注意事項

- Linux で実行する場合, LANG 環境変数に「ja\_JP.UTF-8」を設定してください。
- Windows Server 2008 で, ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合, 管理者 (Administrator) でコマンドプロンプトを起動してからコマンドを実行してください。

# ajswsstop ( UNIX 限定 )

## 形式

ajswsstop

## 機能

コントローラーを終了します。

コントローラーが終了している場合、何もしないで正常に終了します。

## 実行権限

スーパーユーザー権限

## 格納先ディレクトリ

/opt/jp1ajs2forws/base/bin

## 引数

なし

## 戻り値

戻り値	内容
0	コマンドの実行が正常に終了したことを示します。
10	次の状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数の指定に誤りがあった</li> <li>コントローラーとの通信中にエラーが発生した</li> <li>コントローラーとの通信でタイムアウトが発生した</li> <li>コントローラーの終了に失敗した</li> </ul>
120	このコマンドの実行中に内部エラーが発生したことを示します。

## 注

ajswsstop コマンドとコントローラーの通信タイムアウト時間は 300 秒です。

## コマンドの出力メッセージ

メッセージ ID	内容
KNAW6000-I	コマンドが正常に終了しました。
KNAW6001-E	引数の指定に誤りがあります。
KNAW6004-E	コントローラーとの通信中にエラーが発生しました。
KNAW6005-W	コントローラーとの通信でタイムアウトが発生しました。
KNAW6106-E	コントローラーの終了に失敗しました。

メッセージ ID	内容
KNAW6999-E	コマンドの実行中にエラーが発生しました。
KNAW7002-I	コントローラーが終了しました。

対処方法については、「16.5 メッセージ一覧」から対応するメッセージ ID を参照してください。

## 使用例

コントローラーを終了する場合の例を次に示します。

```
ajswsstop
```

# ajswsvgetWSDL ( Windows 限定 )

## 形式

ajswsvgetWSDL ユニット定義ファイル名

## 機能

標準 WS ジョブの定義画面で指定した WSDL ファイルの内容を、標準 WS ジョブのユニット定義ファイルから抽出し、標準出力に出力します。

ユニット定義ファイルは、JP1/AJS の `ajsprint` コマンドで出力し、このコマンドを実行するマシンにコピーしておく必要があります。

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先フォルダ

JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ¥bin

## 引数

ユニット定義ファイル名

JP1/AJS の `ajsprint` コマンドで出力した標準 WS ジョブのユニット定義ファイル名を、完全名で指定します。

## 戻り値

戻り値	内容
0	標準出力への出力が正常に終了したことを示します。
10	次のどちらかの状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数が省略された</li> <li>引数の指定に誤りがあった</li> </ul>
24	このコマンドを実行するユーザーが Administrators 権限を持っていないことを示します。
28	ユニット定義ファイルに標準 WS ジョブ定義が存在しない、または標準 WS ジョブ定義に WSDL のデータが存在しないことを示します。
32	WSDL のデータの抽出に失敗したことを示します。
36	引数で指定したユニット定義ファイルが存在しない、または読み取り権限がないことを示します。
120	そのほかのエラーが発生したことを示します。

## コマンドの出力メッセージ

コマンドの出力メッセージを次の表に示します。

メッセージ ID	現象
KNAW3001-E	引数の指定に誤りがあります。
KNAW3002-E	コマンドの実行権限がありません。
KNAW3101-E	ユニット定義ファイル中に標準 WS ジョブの定義がありません。または、標準 WS ジョブの定義中に WSDL データがありません。
KNAW3102-E	ユニット定義ファイルの読み込みに失敗しました。
KNAW3103-E	ユニット定義ファイル中の WSDL データの解析に失敗しました。
KNAW3999-E	コマンドの実行に失敗しました。

対処方法については、「16.5 メッセージ一覧」から対応するメッセージ ID を参照してください。

## 使用例

標準 WS ジョブ定義中の WSDL データの内容を標準出力に出力する場合の例を次に示します。なお、JP1/AJS の `ajsprint` コマンドでユニット定義ファイルを採取したあと、ユニット定義ファイルを `C:¥temp¥wsjob.txt` としてコピーしているものとします。

```
ajswsvgetWSDL C:¥temp¥wsjob.txt
```

## 注意事項

- 標準 WS ジョブ定義時に、[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブにある [ ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法 ] で「事前にジョブ実行ホストへ配置する」を選択した場合は、ユニット定義ファイルに WSDL ファイルの内容は含まれないため WSDL データを抽出できません。この場合は、ジョブ実行ホストに配置した WSDL データを参照してください。
- Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合、管理者 (Administrator) でコマンドプロンプトを起動してからコマンドを実行してください。

# ajsws\_log

## 形式

ajsws\_log

## 機能

障害が発生したときに必要な、JP1/AJS3 - SOA Option の資料を採取します。採取する情報は次のとおりです。

### Windows の場合

- JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダに格納されているすべてのファイル
- JP1/AJS3 - SOA Option のレジストリ情報 ( reg.txt )
- OS のプロセスリスト ( taslist.txt )
- OS のシステム情報 ( systeminfo.txt )
- OS のサービスリスト ( servicelist.txt )
- 資料採取コマンドのログ ( geterror.log )
- Web サービスとの通信ログ
- JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイル
- 組み込み SOAP クライアントライブラリが出力する、Web サービスとの通信ログ

ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 14-2 ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダ一覧 ( Windows の場合 )

ファイルおよびフォルダ	内容
file¥	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダの下にあるファイルをすべてコピーして格納するフォルダです。
reg.txt	JP1/AJS3 - SOA Option のレジストリ情報です。
tasklist.txt	OS のプロセスリストです。
systeminfo.txt	OS のシステム情報です。
servicelist.txt	OS のサービスリストです。
geterror.log	ajsws_log コマンドのログです。
cosmi¥	Web サービスとの通信ログを格納するフォルダです。
log¥	JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルを格納するフォルダです。
ws	組み込み SOAP クライアントライブラリが出力する、Web サービスとの通信ログを格納するフォルダです。

## 注

Windows Server 2008 で、JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% の場合は、次に示すフォルダ以下の稼働ログファイルを格納します。  
システムドライブ¥ProgramData¥Hitachi¥jpl¥jpl\_dafault¥JP1AJS2FORWS¥base¥log

## UNIX の場合

JP1/AJS3 - SOA Option インストール先ディレクトリの下全ファイルが採取されます。  
ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびディレクトリを次の表に示します。

表 14-3 ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびディレクトリ一覧 (UNIX の場合)

ファイルおよびディレクトリ	内容
/opt/jplajs2forws	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先ディレクトリ / opt/jplajs2forws の下の全ファイルです。
/var/opt/jplajs2forws	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先ディレクトリ / var/opt/jplajs2forws の下の全ファイルです。
/etc/opt/jplajs2forws	JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先ディレクトリ / etc/opt/jplajs2forws の下の全ファイルです。
geterror.log	ajsws_log コマンドのログです。

このコマンドは、使用する前にセットアップが必要です。セットアップについては、次の個所を参照してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合

「4.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」

WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合

「5.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」

また、資料を採取したら、それらの資料をバックアップしておくことをお勧めします。

## 実行権限

Windows の場合

Administrators 権限

UNIX の場合

スーパーユーザー権限

## 格納先フォルダ

Windows の場合

```
JP1/AJS3 - SOA Optionインストール先フォルダ¥base¥tools
```

UNIX の場合

```
/opt/jplajs2forws/base/tools
```

## 引数

なし

## 戻り値

戻り値	内容
0	資料を正常に採取できたことを示します。
1	採取した資料を格納したフォルダがすでにある場合、フォルダを削除するかどうか確認されます。この確認に対する応答で、コマンドの実行を中止したことを示します。
10	次のどれかの状態であることを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引数の指定に誤りがあった</li> <li>情報の採取に失敗した</li> </ul>

## 採取した資料の格納先

ajsws\_log コマンドで採取した資料は、次のフォルダに出力されます。

Windows の場合

```
%TEMP%¥jplajs2ws¥backlog¥JP1_DEFAULT
```

「%TEMP%」は、Windows の環境変数 %TEMP% を示します。

UNIX の場合

```
/tmp/jplajs2forws/backlog/JP1_DEFAULT.tar.Z
```

資料の格納先は、変更できます。資料の格納先を変更する方法については、Windows 版の場合は、「4.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」を参照してください。UNIX 版の場合は、「5.6 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」を参照してください。

## 使用例

JP1/AJS3 - SOA Option の資料を採取する例を次に示します。

```
ajsws_log
```

## 注意事項

- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ajsws\_log コマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、次のエラーメッセージが出力されることがあります。
  - プロセスはファイルにアクセスできません。別のプロセスが使用中です。
  - アクセスが拒否されました。
  - 指定されたパスが見つかりません。
- Windows Server 2008 で、ユーザーアカウント制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合、管理者 (Administrator) でコマンドプロンプトを起動してからコマンドを実行してください。

## ajswsv\_log ( Windows 限定 )

### 形式

ajswsv\_log

### 機能

障害が発生したときに必要な、JP1/AJS3 - View for SOA Option の資料を採取します。採取する情報は次のとおりです。

- JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダに格納されているすべてのファイル
- JP1/AJS3 - View for SOA Option のレジストリ情報 ( reg.txt )
- OS のシステム情報 ( systeminfo.txt )
- JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイル

ajswsv\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 14-4 ajswsv\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダ一覧

項番	ファイルおよびフォルダ	内容
1	file¥	JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダの下にあるファイルをすべてコピーして格納するフォルダです。
2	reg.txt	JP1/AJS3 - View for SOA Option のレジストリ情報です。
3	systeminfo.txt	OS のシステム情報です。
4	geterror.log	ajswsv_log コマンドのログです。
5	log¥	JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイルを格納するフォルダです。

### 注

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista で、JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% の場合は、次に示すフォルダ以下の稼働ログファイルを格納します。

システムドライブ ¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1\_default¥JP1AJS2FORWSV¥log

このコマンドは、使用する前にセットアップが必要です。セットアップについては、「6.2 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定 ( JP1/AJS3 - View for SOA Option の場合 )」を参照してください。

資料を採取したら、それらの資料をバックアップしておくことをお勧めします。

## 実行権限

Administrators 権限

## 格納先フォルダ

JP1/AJS3 - View for SOA Optionインストール先フォルダ¥tools

## 引数

なし

## 戻り値

戻り値	内容
0	資料を正常に採取できたことを示します。
1	採取した資料を格納したフォルダがすでにある場合、フォルダを削除するかどうか確認されます。この確認に対する応答で、コマンドの実行を中止したことを示します。
10	資料の採取に失敗したことを示します。

## 採取した資料の格納先

ajswsv\_log コマンドで採取した資料は、次のフォルダに出力されます。

```
%TEMP%¥jp1ajs2wsv¥backlog¥JP1_DEFAULT
```

「%TEMP%」は、Windows の環境変数 %TEMP% を示します。

資料の格納先は、変更できます。資料の格納先を変更する方法については、「6.2 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定 (JP1/AJS3 - View for SOA Option の場合)」を参照してください。

## 使用例

JP1/AJS3 - View for SOA Option の資料を採取する例を次に示します。

```
ajswsv_log
```

## 注意事項

- ajswsv\_log コマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、次のエラーメッセージが出力されることがあります。
  - プロセスはファイルにアクセスできません。別のプロセスが使用中です。
  - アクセスが拒否されました。
  - 指定されたパスが見つかりません。
- Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista で、ユーザーアカウント

制御 (UAC) が有効な環境で管理者 (Administrator) 以外のユーザーを使用している場合、管理者 (Administrator) でコマンドプロンプトを起動してからコマンドを実行してください。



# 15 ウィンドウとダイアログボックス

この章では、JP1/AJS3 - View for SOA Option のウィンドウとダイアログボックスについて説明します。

---

15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス

---

15.2 [Web サービス選択 - ステップ 1 of 2] ダイアログボックス

---

15.3 [Web サービス選択 - ステップ 2 of 2] ダイアログボックス

---

15.4 [ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックス

---

## 15.1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックス

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスでは、標準 WS ジョブの動作を定義します。

このダイアログボックスには、次のタブがあります。

- [基本] タブ
- [オプション] タブ

### (1) [基本] タブ

[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [基本] タブを次の図に示します。

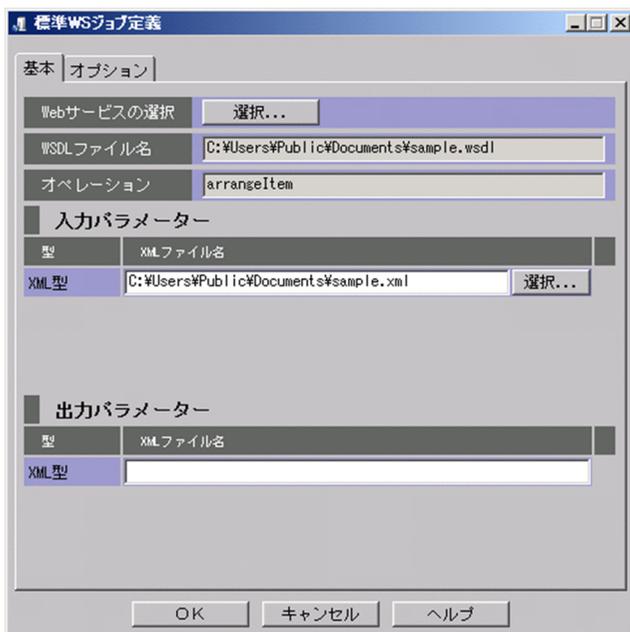
図 15-1 [標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスの [基本] タブ (Web サービス選択前)



図 15-2 [標準WSジョブ定義] ダイアログボックスの[基本]タブ (Web サービス選択後・単純型の場合)



図 15-3 [標準WSジョブ定義] ダイアログボックスの[基本]タブ (Web サービス選択後・複合型の場合)



## 15. ウィンドウとダイアログボックス

表示項目について説明します。

### [ Web サービスの選択 ]( 指定必須 )

接続する Web サービスの WSDL ファイルを指定します。

[ 選択 ] ボタンをクリックして、[ Web サービス選択 ] ダイアログボックスから WSDL ファイルを指定してください。

### [ WSDL ファイル名 ]

[ Web サービスの選択 ] で指定した WSDL ファイル名がフルパスで表示されます。

### [ オペレーション ]

[ Web サービスの選択 ] で指定した Web サービスのオペレーション名が表示されます。

### 入力パラメーター ( 単純型の場合 ) ( 指定必須 )

[ Web サービス選択 ] ダイアログボックスで選択した、Web サービスのオペレーションに対応する入力パラメーターが表示されます。

#### [ 名前 ]

入力パラメーターの名前が表示されます。

名前は、WSDL ファイルにある <wsdl:part> 要素の name 属性の値を指します。

#### [ 型 ]

入力パラメーターの型が表示されます。

型は、WSDL ファイルにある <wsdl:part> 要素の type 属性の値を指します。

#### [ 値を入力 ]

入力パラメーターの値を直接指定する場合は、チェックボックスにチェックを入れて、[ ファイル名または値 ] に値を指定します。

ジョブ実行ホスト上のファイル ( 入力パラメーターファイル ) から値を読み込む場合は、チェックボックスにチェックを入れないで、[ ファイル名または値 ] に入力パラメーターファイル名を指定します。

次のケースに該当するときは、入力パラメーターファイルを指定します。

- 1,023 バイトを超える値を利用したい場合
- string 型のパラメーターに改行を含む値を指定したい場合
- 標準 WS ジョブ全体での定義内容が許容サイズ ( 20,479 バイト ) を超える場合

入力パラメーターファイルについては、「9.4.1 入力パラメーターファイルの作成 ( 単純型の場合 )」を参照してください。

#### [ ファイル名または値 ]

入力パラメーターの値を次のどちらかの方法で指定します。

- ジョブ実行ホスト上のファイル ( 入力パラメーターファイル ) から値を読み込む
- 値を直接指定する

WS ジョブ実行ホスト上のファイル（入力パラメーターファイル）から値を読み込む場合は、[ 値を入力 ] にチェックを入れしないで、この項目に入力パラメーターファイル名を指定します。入力パラメーターファイル名は、フルパスで 511 バイト以内の文字列 で指定します。入力パラメーターファイルから値を読み込む場合、ファイルの合計サイズを 1 メガバイト以内にしてください。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まる、ローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

なお、入力パラメーターファイルに設定できる文字コードは次のとおりです。

- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合：Shift\_JIS
- WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合：UTF-8

入力パラメーターファイルについては、「9.4.1 入力パラメーターファイルの作成（単純型の場合）」を参照してください。

入力パラメーターの値を直接指定する場合は、[ 値を入力 ] にチェックを入れて、この項目に値を指定します。入力パラメーターの値は、1 ~ 1,023 バイトの範囲で入力してください。指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。

入力パラメーター値の入力方法をデータ型ごとに次の表に示します。

表 15-1 データ型別 入力パラメーター値欄の入力方法

項番	データ型	入力内容	指定必須
1	base64Binary	base64Binary 変換前の値を入力します。Binary データを直接扱いたい場合は、値を直接入力するのではなく、次のファイル指定方式を利用します。 1. Binary データをファイルに保存します。 2. ジョブ定義で、パラメーターの値を指定する際に、[ 値を入力 ] チェックボックスにチェックしないで、入力パラメーターファイル名を指定します。 3. 入力パラメーターファイルを WS ジョブ実行ホストに配置します。	
2	boolean	“ true ” または “ false ” を指定します。	
3	byte	-128 ~ 127 の整数を半角で指定します。	
4	date	「YYYY/MM/DD」（西暦年 / 月 / 日）の形式で年月日を指定します。 「4 けた /2 けた /2 けた」になるように、0 詰めで入力してください。	

15. ウィンドウとダイアログボックス

項番	データ型	入力内容	指定必須
5	dateTime	<p>「YYYY/MM/DD hh:mm:ssZZ」(西暦年/月/日 (半角スペース)時間:分:秒 タイムゾーン)の形式で指定してください。</p> <p>「4けた/2けた/2けた 2けた:2けた:2けた タイムゾーン」になるように、0 詰めで入力してください。</p> <p>タイムゾーンは、+hhmm,-hhmm のどちらかの形式で指定してください。なお、タイムゾーンは省略できます。タイムゾーンを省略した場合、WS ジョブ実行ホストのデフォルトのタイムゾーンが仮定されます。</p> <p>なお、0001/01/01 23:59:00 ~ 9999/12/31 00:00:59 の範囲で指定してください。範囲外の値を指定すると、標準 WS ジョブの実行結果がエラーとなります。</p>	
6	decimal	数値を半角で指定してください。	
7	double	<p>倍精度浮動小数点数の数値を半角で指定してください。</p> <p>指数形式では指定(例: 1.00e+10)できません。</p> <p>倍精度浮動小数点数の精度(有効けた数 16 けた)以上の数値を指定した場合、値はジョブ実行時に近似値に変換されます。</p>	
8	float	<p>単精度浮動小数点数の数値を半角で指定してください。</p> <p>指数形式では指定(例: 1.00e+10)できません。</p> <p>単精度浮動小数点数の精度(有効けた数 8 けた)以上の数値を指定した場合、値はジョブ実行時に近似値に変換されます。</p>	
9	hexBinary	<p>hexBinary 変換前の値を入力する。</p> <p>Binary データを直接扱いたい場合は、値を直接入力するのではなく、次のファイル指定方式を利用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Binary データをファイルに保存します。</li> <li>2. ジョブ定義で、パラメーターの値を指定する際に、[値を入力]にチェックしないで、入力パラメーターファイル名を指定します。</li> <li>3. 入力パラメーターファイルを WS ジョブ実行ホストに配置します。</li> </ol>	
10	int	-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 の整数を半角で指定します。	
11	integer	整数値を半角で指定する。	
12	long	-9,223,372,036,854,775,808 ~ 9,223,372,036,854,775,807 の整数を半角で指定します。	

項番	データ型	入力内容	指定必須
13	QName	「{名前空間 URI} ローカル部分」の形式で指定します。 例 名前空間: " http://aaa/bbb ", ローカル部分: " data " の場合 「{http://aaa/bbb}data」 と指定します。 ローカル部分および名前空間は省略できます。名前空間を省略する場合, " { " と " } " もあわせて省略します。	
14	short	-32,768 ~ 32,767 の整数を半角で指定します。	
15	string	任意の文字列を指定します。ただし、改行は入力できません。入力がない場合、空文字として扱われます。改行を含む値を利用したい場合、入力パラメーターファイルを指定する方法に変更してください。	

(凡例)

: 指定必須です。

: 指定は任意です。

[値を入力] にチェックを入れているが, [ファイルまたは値] の指定を省略した場合, 次のように値がセットされます。

表 15-2 [ファイルまたは値] の指定を省略した場合の仮定値

データ型	セットされる値
string または QName の場合	空文字がセットされます。
base64Binary または hexBinary の場合	0 バイトのデータがセットされます。
上記以外の場合	何もセットされないため, エラーメッセージが表示されます。

入力パラメーター (複合型の場合) (指定必須)

[型]

「XML 型」が表示されます。

[XML ファイル名]

XML ファイル名を 511 バイト以内で指定します。

[選択] ボタンをクリックして, [ファイルを開く] ダイアログボックスから XML ファイルを選択することもできます。

出力パラメーター (単純型の場合)

[Web サービス選択] ダイアログボックスで選択した Web サービスの, オペレーションに対応する出力パラメーターが表示されます。

[名前]

## 15. ウィンドウとダイアログボックス

出力パラメーターの名前が表示されます。

名前は、WSDL ファイルにある <wsdl:part> 要素の name 属性の値を指します。

### [ 型 ]

出力パラメーターの型が表示されます。

型は、WSDL ファイルにある <wsdl:part> 要素の type 属性の値を指します。

### [ ファイル名 ]

この項目にファイル名を指定すると、オペレーションの出力メッセージを出力パラメーターファイルに保存できます。

出力パラメーターファイルを出力すると、後続のジョブへの引き継ぎとして利用することもできます。後続ジョブへの引き継ぎについては、「9.3.2 標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ」を参照してください。

出力パラメーターファイル名は、フルパスで 511 バイト以内の文字列で指定します。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まるローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

保存先は、WS ジョブ実行ホスト内を指定してください。指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。入力がない場合、出力パラメーターファイルは出力されません。出力パラメーターファイルの内容は、次の文字コードで出力されます。

- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合：Shift\_JIS
- WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合：UTF-8

出力パラメーターファイルの出力形式を次に示します。

- パラメーターの型が string 以外の型の場合

パラメーターの値は一行に出力されます。ファイルに改行コードは出力されません。出力フォーマットは、XML Schema データ型に対応する Java のデータ型 Object の toString() メソッドを用いた値です。

integer 型のとき、サイズに制限がないパラメーターについては、1 メガバイトまで出力できます。1 メガバイトを超えるパラメーターの場合、出力パラメーターファイルは作成されません。

base64Binary, hexBinary 型のパラメーターのとき、バイナリデータをエンコードした文字列が出力されます。

(出力例 1) パラメーターは int 型、値が 1,024 の場合

1024
------

- パラメーターの型が string の場合

パラメーターの値が、そのままファイルに出力されます。改行コードについてもそのまま出力されます。1メガバイトを超えるパラメーターの場合、出力パラメーターファイルは作成されません。

(出力例 2) パラメーターは string 型、値が “ あああ いいい ううう ” の場合 ( : 改行コード)

```
あああ
いいい
ううう
```

- パラメーターの型が dateTime の場合

パラメーターの値が「YYYY/MM/DD hh:mm:ssZZ」(西暦年/月/日(半角スペース)時間:分:秒 タイムゾーン)の形式で出力されます。

(出力例 3) パラメーターは dateTime 型、値が日本時間で 2007/05/22 12:00:00 の場合

```
2007/05/22 12:00:00+0900
```

出力メッセージのデータ内容と、出力パラメーターファイルに出力するデータの関係を表に示します。

表 15-3 出力メッセージのデータとファイル出力内容

データ型	出力メッセージのデータの内容	
	null	空文字
xsd:string	-	空の出力パラメーターファイルが作成されます
string 以外の XML スキーマ型	-	-

(凡例) - : 出力パラメーターファイルは作成されません。

出力パラメーター (複合型の場合)

[ 型 ]

「XML 型」が表示されます。

[ XML ファイル名 ]

この項目にファイル名を指定すると、オペレーションの出力メッセージを出力

## 15. ウィンドウとダイアログボックス

パラメーターファイルに保存できます。複合型の場合、出力パラメーターファイルは XML 形式で出力されます。

出力パラメーターファイルを出力すると、後続のジョブへの引き継ぎとして利用することもできます。後続ジョブへの引き継ぎについては、「9.3.2 標準 WS ジョブの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ」を参照してください。

出力パラメーターファイル名は、フルパスで 511 バイト以内の文字列 で指定します。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まるローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

保存先は、WS ジョブ実行ホスト内を指定してください。指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。入力がない場合、出力パラメーターファイルは出力されません。出力パラメーターファイルの内容は、次の文字コードで出力されます。

- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合：Shift\_JIS
- WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合：UTF-8

### (2) [ オプション ] タブ

[ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブを次の図に示します。

図 15-4 [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスの [ オプション ] タブ



表示項目について説明します。

#### 通信設定

##### [ HTTP 基本認証 ]

HTTP 基本認証を実施するかどうかを選択します。

##### [ 認証情報設定ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) ]

認証情報設定ファイルは、標準 WS ジョブによる Web サービスの接続で、HTTP 基本認証を利用する場合に作成しておくファイルです。ここでは、認証情報設定ファイル名を指定します。認証情報設定ファイル名は、フルパスで 511 バイト以内の文字列 で指定します。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まる、ローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。

認証情報設定ファイルについては、次の個所を参照してください。

- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合「4.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定」を参照してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が UNIX の場合「5.9.1 HTTP 基本認証を利用する場合の設定」を参照してください。

#### その他の設定

##### [ ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法 ]

標準 WS ジョブの実行時に、WSDL ファイルをジョブ実行ホストへ転送するか、事前に WS ジョブ実行ホストへ配置するかを選択します。「実行時にジョブ実行ホストへ転送する」を選択する場合、次の点に注意してください。

- 標準 WS ジョブの実行時、WSDL ファイルの転送に時間が掛かります。標準 WS ジョブをより高速に実行したい場合は、事前に WS ジョブ実行ホストへ WSDL ファイルを配置することをお勧めします。

##### [ WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) ]

[ ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法 ] で、「事前にジョブ実行ホストへ配置する」を選択している場合に、WS ジョブ実行ホストに配置する WSDL ファイル名を指定します。WSDL ファイル名は、フルパスで 511 バイト以内の文字列 で指定します。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まるローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

## 15. ウィンドウとダイアログボックス

指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。

## 15.2 [ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックス

---

[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスでは、WSDL ファイルを指定します。

[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスを次の図に示します。

図 15-5 [ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックス



表示項目について説明します。

[ WSDL ファイル名 ] (指定必須)

クライアントにある WSDL ファイル名を指定します。

## 15.3 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス

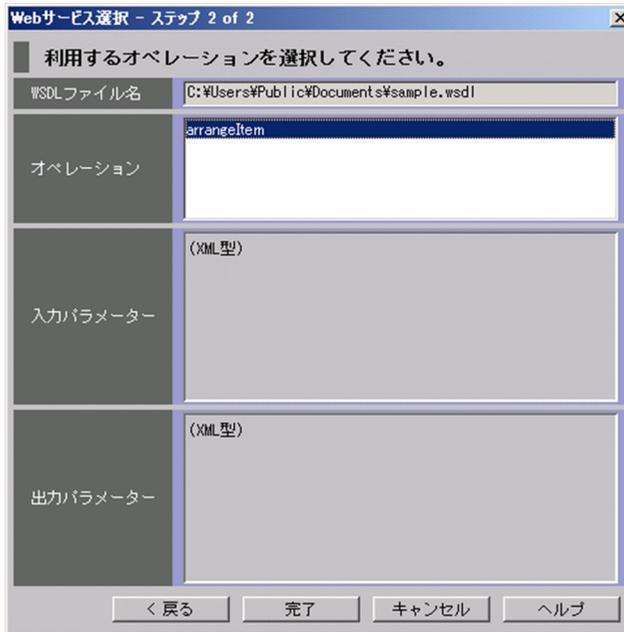
[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスでは、利用するオペレーションを選択します。

[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスを次の図に示します。

図 15-6 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス ( 単純型の場合 )



図 15-7 [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックス ( 複合型の場合 )



表示項目について説明します。

[ WSDL ファイル名 ]

[ Web サービス選択 - ステップ 1 of 2 ] ダイアログボックスで指定した WSDL ファイル名が表示されます。

[ オペレーション ]

利用するオペレーションを選択します。このリストの要素は、WSDL ファイルにあるオペレーションです。選択すると、[ 入力パラメーター ] および [ 出力パラメーター ] が、対応する内容に変更されます。

[ 入力パラメーター ]

オペレーションの入力パラメーターが表示されます。  
 パラメーターを持たない場合、空のテーブルが表示されます。  
 複合型の場合、「(XML 型)」が表示されます。

[ 出力パラメーター ]

オペレーションの出力パラメーターが表示されます。  
 パラメーターを持たない場合、空のテーブルが表示されます。  
 複合型の場合、「(XML 型)」が表示されます。

## 15.4 [ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックス

[ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックスでは、ユーザー WS ジョブを定義します。

[ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックスを次の図に示します。

図 15-8 [ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボックス



表示項目について説明します。

### [ WS プログラム配置パス ](指定必須)

WS ジョブ実行ホスト上の、ユーザー WS プログラムを格納しているフォルダをフルパスで 511 バイト以内の文字列 で指定します。

注

- 255 文字以内で指定してください。
- WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ドライブレターで始まるローカルフォルダを指定してください。ネットワークフォルダは指定できません。

指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。

### [ 実行クラス名 ](指定必須)

ユーザー WS プログラムの実行クラス名を指定します。Java パッケージ名を含む完全クラス名を指定してください。1 ~ 511 バイトの範囲で指定してください。指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。指定する実行クラスは、WS プログラム実行インターフェースに従って実装する必要があります。WS プログラム実行インターフェースについては、「10.2.3(1) WS プログラム実行インターフェース」を参照してください。

### [ パラメーター ]

ユーザー WS プログラムのパラメーターを指定します。次の規則に従って指定してください。

- パラメーターが複数ある場合、改行で値を区切ってください。

- 制御文字（改行文字およびタブ文字を含む）は、指定できません。
- 指定できる文字コードは、制御コードを除くすべての Shift\_JIS です。
- 値を「"（ダブルクォーテーション）」で囲む必要はありません。ダブルクォーテーションで囲んだ場合、ダブルクォーテーションも値として扱われます。
- 改行だけの行がある場合、値は空文字と見なされます。
- 指定できるパラメーターの数は 500 個までです。
- パラメーターに指定できるサイズは 10,000 バイトまでです。
- 指定された順番で実行されます。

ユーザー WS プログラムの処理結果を標準出力ファイルに出力し、後続ジョブに引き継ぐことができます。[ 詳細定義 - [ Custom Job ] ] ダイアログボックスの [ 標準出力ファイル名 ] に指定した標準出力ファイル名を、この項目に指定します。引き継ぎの詳しい手順については、「10.3.2 ユーザー WS プログラムの処理結果を後続ジョブに引き継ぐ」を参照してください。



# 16 メッセージ

この章では、JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を利用する場合に、JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージについて説明します。

- 
- 16.1 メッセージの分類

---

  - 16.2 メッセージの形式

---

  - 16.3 メッセージの記載形式

---

  - 16.4 メッセージの出力先

---

  - 16.5 メッセージ一覧
-

## 16.1 メッセージの分類

運用中、JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のメッセージだけでなく、前提プログラムである JP1/Base や JP1/AJS のメッセージも出力されます。

JP1/AJS3 - SOA Option , JP1/AJS3 - View for SOA Option , JP1/Base , および JP1/AJS のそれぞれが出力するメッセージの説明が、どこに記載されているかをメッセージ ID ごとに次の表に示します。

表 16-1 メッセージの記載先

メッセージ ID	メッセージが記載されている個所
KNAW で始まるメッセージ	「16.5 メッセージ一覧」
KAJP で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Base メッセージ」
KAVA で始まるメッセージ	
KAVB で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ」
KAVC で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ」
KAVS で始まるメッセージ	
KAVT で始まるメッセージ	
KAVU で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ」
KAVV で始まるメッセージ	
KFP で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2」
KNAC で始まるメッセージ	
KNAD で始まるメッセージ	

## 16.2 メッセージの形式

---

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージの形式について説明します。

メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。次に、メッセージの形式を示します。

KNAWnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージ ID は次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

NAW

JP1/AJS3 - SOA Option または JP1/AJS3 - View for SOA Option のメッセージであることを示します。

nnnn

メッセージの通し番号を示します。

Z

メッセージの種類を示します。

- E: エラー  
処理は中止されます。ただし、コマンドで複数の任意名を指定した場合、それぞれの任意名の処理に対して出力されて、コマンドの処理は続行されます。
- W: 警告  
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I: 通知  
ユーザーに情報を知らせます。
- Q: 応答要求  
ユーザーに応答を促します。

## 16.3 メッセージの記載形式

---

このマニュアルでのメッセージの記載形式について説明します。

「**」**で囲まれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる個所を示しています。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。

記載形式を次に示します。

### メッセージ ID

---

英文のメッセージテキスト

和文のメッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターの取る処置を示します。

## 16.4 メッセージの出力先

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージの種類ごとに、出力先を一覧で示します。メッセージの種類によって出力先が異なるため、注意してください。

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

( 凡例 )

イベントログ : Windows イベントログ ( Windows 限定 )

syslog : syslog ( UNIX 限定 )

stdout : 標準出力

stderr : 標準エラー出力

ログ : JP1/AJS3 - SOA Option または JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログ  
ファイル

ダイアログ : メッセージダイアログボックス

  : 出力する

- : 出力しない

注

JP1/AJS3 - SOA Option の稼働ログファイルの出力先とファイル名を次に示します。

Windows Server 2003 の場合

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ

¥base¥log¥ajswsXXXXX- {n} .log

Windows Server 2008 の場合

システムドライブ

¥ProgramData¥Hitachi¥jp1¥jp1\_default¥JP1AJS2FORWS¥base¥log¥ajswsXXXXX- {n} .log

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダは、デフォルトでは「システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORWS」です。なお、Windows Server 2008 の場合でも、JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% 以外であれば、稼働ログファイルの出力先およびファイル名は Windows Server 2003 の場合と同じです。

UNIX の場合

/var/opt/jp1ajs2forws/base/log/ajswsXXXXX- {n} .log

「XXXXX」には、次に示す稼働ログの名称が表示されます。また、「n」には 1 ~ 16 の数値が表示されます。

- ajswscontroller : JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントであるコントローラーが出力する稼働ログ

## 16. メッセージ

- ajswsservice : JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントであるサービスマネージャが出力する稼働ログ (Windows 限定)
- ajswsjobstart : JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントであるスターターが出力する稼働ログ
- ajswscommand : JP1/AJS3 - SOA Option の運用コマンドが出力する稼働ログ

なお, ajswscontroller および ajswsservice は, Windows Server 2008 の場合でも JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ ¥base¥log 以下に出力されます。

JP1/AJS3 - View for SOA Option の稼働ログファイルの出力先とファイル名を次に示します。

Windows Server 2003 および Windows XP Professional の場合

JP1/AJS3 - View for SOA Optionのインストール先フォルダ  
¥log¥ajswsvXXXXX- {n} .log

Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合

システムドライブ  
¥ProgramData¥Hitachi¥jpl¥jpl\_default¥JP1AJS2FORWSV¥log¥ajswsvXXXXX- {n} .log

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダは, デフォルトでは「システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORWSV」です。なお, Windows 7, Windows Server 2008, および Windows Vista の場合でも, JP1/AJS3 - View for SOA Option のインストール先フォルダが %ProgramFiles% または %SystemRoot% 以外であれば, 稼働ログファイルの出力先およびファイル名は Windows Server 2003 および Windows XP Professional の場合と同じです。「XXXXX」には, 次に示す稼働ログの名称が表示されます。また, 「n」には 1 ~ 16 の数値が表示されます。

- ajswsv : JP1/AJS3 - View for SOA Option の GUI が出力する稼働ログ
- ajswsvcommand : JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用コマンドが出力する稼働ログ

表 16-2 メッセージの出力先一覧

メッセージ ID	出力先					
	イベントログ	syslog	stdout	stderr	ログ	ダイアログ
KNAW3000-I	-	-		-		-
KNAW3001-E ~ KNAW3002-E	-	-	-			-

メッセージ ID	出力先					
	イベントロ グ	syslog	stdout	stderr	ログ	ダイアログ
KNAW3101-E ~ KNAW3103-E	-	-	-			-
KNAW3999-E	-	-	-			-
KNAW4001-I ~ KNAW4003-I	-	-	-	-		
KNAW4101-E ~ KNAW4104-E	-	-	-	-		
KNAW4151-W ~ KNAW4153-W	-	-	-	-		-
KNAW4203-E ~ KNAW4223-E	-	-	-	-		
KNAW4301-W, KNAW4303-W ~ KNAW4313-W , KNAW4315-W ~ KNAW4327-W	-	-	-	-		-
KNAW4402-E ~ KNAW4406-E	-	-	-	-		
KNAW4501-E ~ KNAW4504-E	-	-	-	-		
KNAW4505-W , KNAW4506-W	-	-	-	-		-
KNAW4507-W	-	-	-	-	-	
KNAW4508-E	-	-	-	-		
KNAW4901-E	-	-	-	-		-
KNAW4902-E , KNAW4903-E	-	-	-	-		
KNAW4904-W	-	-	-	-	-	
KNAW4905-W	-	-	-	-		-
KNAW4906-E	-	-	-	-		
KNAW4999-E	-	-	-	-		

## 16. メッセージ

メッセージ ID	出力先					
	イベントロ グ	syslog	stdout	stderr	ログ	ダイアログ
KNAW5000-W ~ KNAW5004-W	-	-	-			-
KNAW5500-E ~ KNAW5507-E	-	-	-			-
KNAW5531-E ~ KNAW5532-E	-	-	-			-
KNAW6000-I	-	-		-		-
KNAW6001-E ~ KNAW6004-E	-	-	-			-
KNAW6005-W , KNAW6101-W	-	-	-			-
KNAW6105-E , KNAW6106-E	-	-	-			-
KNAW6999-E	-	-	-			-
KNAW7001-I , KNAW7002-I			-	-		-
KNAW7103-E , KNAW7104-E		-	-	-		-
KNAW7201-E , KNAW7999-E			-	-		-
KNAW8001-E ~ KNAW8009-E	-	-	-			-
KNAW8101-E ~ KNAW8105-E	-	-	-			-
KNAW8201-E ~ KNAW8230-E	-	-	-			-
KNAW8235-E ~ KNAW8237-E	-	-	-			-
KNAW8239-E ~ KNAW8267-E	-	-	-			-
KNAW8999-E	-	-	-			-

メッセージ ID	出力先					
	イベントロ グ	syslog	stdout	stderr	ログ	ダイアログ
KNAW9000-I , KNAW9001-I	-	-	-	-		-
KNAW9002-W , KNAW9003-W	-	-	-	-		-
KNAW9004-E ~ KNAW9007-E	-	-	-	-		-
KNAW9009-W , KNAW9010-E	-	-	-	-		-
KNAW9101-E	-	-	-	-		-
KNAW9201-E	-	-	-	-		-
KNAW9202-E ~ KNAW9210-E	-	-	-	-		-
KNAW9211-E , KNAW9213-E	-	-	-	-		-
KNAW9214-I ~ KNAW9215-I	-	-	-	-		-
KNAW9301-W	-	-	-	-		-
KNAW9309-W	-	-	-	-		-
KNAW9999-E	-	-	-	-		-

## 16.5 メッセージ一覧

---

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option が出力するメッセージと対処方法について説明します。

### **KNAW3000-I**

---

コマンドが正常に終了しました。(コマンド名="コマンド名")

### **KNAW3001-E**

---

引数の指定に誤りがあります。(コマンド名="コマンド名")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンド引数の指定方法を確認し、再度コマンドを実行してください。

### **KNAW3002-E**

---

実行権限がありません。(コマンド名="コマンド名")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーでコマンドを実行してください。

### **KNAW3101-E**

---

ユニット定義ファイル中に標準 WS ジョブの定義が存在しません。または標準 WS ジョブの定義中に WSDL データが存在しません。(コマンド名="コマンド名")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の問題が考えられます。指定したユニット定義ファイルの内容を確認してください。

- ユニット定義ファイルではないファイルを指定している。
- 標準 WS ジョブ以外のユニットについてのユニット定義ファイルを指定している。
- 標準 WS ジョブの定義に WSDL データが存在しない。

WS ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として、[ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択していた場合、標準 WS ジョブの定義に WSDL データは存在しません。

**KNAW3102-E**

---

ユニット定義ファイルの読み込みに失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユニット定義ファイルが存在するか確認してください。存在する場合は、読み取り権限があるかどうか確認してください。

**KNAW3103-E**

---

ユニット定義ファイル中の WSDL データの解析に失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ユニット定義ファイルが壊れている、または不正なユニット定義ファイルを指定しているおそれがあります。指定したユニット定義ファイルが `ajsprint` を利用して出力された内容かどうか確認してください。

**KNAW3999-E**

---

コマンドの実行に失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW4001-I**

---

"`ダイアログ名`" ダイアログを開きました。

(S)

"`ダイアログ名`" を開いたことをログに出力しました。

**KNAW4002-I**

---

"`ダイアログ名`" ダイアログを閉じました。

(S)

"`ダイアログ名`" を閉じたことをログに出力しました。

**KNAW4003-I**

---

"`ダイアログ名`" ダイアログで [`ボタン名`] ボタンが押されました。

## 16. メッセージ

(S)

「"ダイアログ名"」で["ボタン名"] ボタンがクリックされたことをログに出力しました。

### **KNAW4101-E**

---

WS プログラム配置パスを入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

WS プログラム配置パスの値を入力してください。

### **KNAW4102-E**

---

実行クラス名を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

実行クラス名の値を入力してください。

### **KNAW4103-E**

---

パラメーターは 500 個以内で入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

パラメーターは 500 個以内で入力してください。

### **KNAW4104-E**

---

パラメーターの合計サイズが 10000Byte 以内となるよう入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

パラメーターの値の合計サイズが 10,000 バイト以内となるように指定してください。

### **KNAW4151-W**

---

ユーザー WS ジョブ : WS プログラム配置パス (AJSWSJARDIR) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値を初期化して画面に表示します。

(O)

ユーザー WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作してユーザー WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4152-W**

---

ユーザー WS ジョブ：実行クラス名 (AJSWSCLASS) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値を初期化して画面に表示します。

(O)

ユーザー WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作してユーザー WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4153-W**

---

ユーザー WS ジョブ：パラメーター (AJSWSPARAMn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値を初期化して画面に表示します。

(O)

ユーザー WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作してユーザー WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4203-E**

---

Web サービスを選択してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

[ 選択 ] ボタンで、Web サービスを選択してください。

### **KNAW4204-E**

---

入力パラメーター (" パラメーター名 ") にファイル名を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

入力パラメーターの [ ファイル名または値 ] にファイル名を入力してください。

### **KNAW4205-E**

---

入力パラメーター ("パラメーター名") のファイル名は 511Byte 以内で入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

入力パラメーターのファイル名は 511 バイト以内 (255 文字以内) のフルパスで設定してください。

WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、フルパスはドライブレターで始まるローカルフォルダを設定してください。ネットワークフォルダは設定できません。

### **KNAW4206-E**

---

入力パラメーター ("パラメーター名") を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

入力パラメーターの [ファイル名または値] に値を入力してください。

### **KNAW4207-E**

---

boolean 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には true または false を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

boolean 型の入力パラメーターの値には、" true " または " false " を入力してください。

### **KNAW4208-E**

---

byte 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には型で認められた範囲内の整数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

byte 型の入力パラメーターの値は、-128 ~ 127 の整数を入力してください。

### **KNAW4209-E**

---

date 型の入力パラメーター ("パラメーター名") の入力内容が不正です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

date 型の入力パラメーターの指定が不正です。正しい形式で入力してください。

### **KNAW4210-E**

---

date 型の入力パラメーター ("パラメーター名") は実在しない日付です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

date 型の入力パラメーターの値は実在する日付を入力してください。

### **KNAW4211-E**

---

dateTime 型の入力パラメーター ("パラメーター名") の入力内容が不正です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

dateTime 型の入力パラメーターの指定が不正です。正しい形式で入力してください。

### **KNAW4212-E**

---

dateTime 型の入力パラメーター ("パラメーター名") は実在しない日時です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

dateTime 型の入力パラメーターの値は実在する日時を入力してください。

### **KNAW4213-E**

---

decimal 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には数値を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

decimal 型の入力パラメーターの値は数値で入力してください。

### **KNAW4214-E**

---

double 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には倍精度浮動小数点数を入力してください。

(S)

## 16. メッセージ

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

double 型の入力パラメーターの値は倍精度浮動小数点数で入力してください。

### **KNAW4215-E**

---

float 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には単精度浮動小数点数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

float 型の入力パラメーターの値は単精度浮動小数点数で入力してください。

### **KNAW4216-E**

---

int 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には型で認められた範囲内の整数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

int 型の入力パラメーターの値は、-2147483648 ~ 2147483647 の整数を入力してください。

### **KNAW4217-E**

---

integer 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には整数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

integer 型の入力パラメーターの値は整数を入力してください。

### **KNAW4218-E**

---

long 型の入力パラメーター ("パラメーター名") には型で認められた範囲内の整数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

long 型の入力パラメーターの値は、-9223372036854775808 ~ 9223372036854775807 の整数を入力してください。

**KNAW4219-E**

---

QName 型の入力パラメーター ("パラメーター名") の入力内容が不正です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

QName 型の入力パラメーターの指定が不正です。正しい形式で入力してください。

**KNAW4220-E**

---

short 型の入力パラメーター ("パラメーター名") の値は型で認められた範囲内の整数を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

short 型の入力パラメーターの値は、-32,768 ~ 32,767 の整数を入力してください。

**KNAW4221-E**

---

入力パラメーターの XML ファイル名を指定してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

正しい XML ファイル名を指定してください。

**KNAW4222-E**

---

入力パラメーターの XML ファイルの読み込みでエラーが発生しました。(原因 =" エラーとなった原因 (例外のメッセージ)")

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

XML ファイル名の指定内容を確認し、再度実行してください。

**KNAW4223-E**

---

入力パラメーターの XML ファイルの検証でエラーが発生しました。(原因 =" エラーとなった原因 (例外のメッセージ)")

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

XML ファイルの内容を確認し、再度実行してください。

### **KNAW4301-W**

---

標準 WS ジョブ：基本タブの WSDL ファイル名 (AJSWSWSDLVIEW) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4303-W**

---

標準 WS ジョブ：オペレーション (AJSWSOPERATIONNAME) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4304-W**

---

標準 WS ジョブ：入力パラメーターの名前 (AJSWSIPNAME<sub>n</sub>) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4305-W**

---

標準 WS ジョブ：入力パラメーターの型 (AJSWSIPTYPE<sub>n</sub>) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

**KNAW4306-W**

---

標準 WS ジョブ：値を入力チェックボックス (AJSWSIPISVALUEn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

**KNAW4307-W**

---

標準 WS ジョブ：入力パラメーターのファイル名または値 (AJSWSIPVALUEn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

**KNAW4308-W**

---

標準 WS ジョブ：出力パラメーターの名前 (AJSWSOPNAMEEn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

**KNAW4309-W**

---

標準 WS ジョブ：出力パラメーターの型 (AJSWSOPTYPEEn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4310-W**

---

標準 WS ジョブ：出力パラメーターのファイル名 (AJSWSOPFILEn) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4311-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSRTNNAME の値が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4312-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSRTNTYPE の値が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4313-W**

---

標準 WS ジョブ：オプションタブの WSDL ファイル名 (AJSWSWSDLPATH) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4315-W**

---

標準 WS ジョブ：認証情報設定ファイル (AJSWSBAFILE) の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)  
該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)  
標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4316-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSSERVICENAME の値が不正です。

(S)  
該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)  
標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4317-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSPORTNAME の値が不正です。

(S)  
該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)  
標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4318-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSWSDL の値が不正です。

(S)  
該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)  
標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4319-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSSIPMODEn の値が不正です。

(S)  
該当する値、および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)  
標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4320-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSOPMODEn の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4321-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSOPERATIONSTYLE の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4322-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSSOAPACTIONUSE の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4323-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSSOAPACTION の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4324-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSLOCATION の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4325-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSWSDLTNS の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4326-W**

---

標準 WS ジョブ：ジョブ定義内容：AJSWSWSDLSCHEMATNS の値が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4327-W**

---

標準 WS ジョブ：入力パラメーターまたは出力パラメーターの環境変数の内容（環境変数名）の値が表示できません。ジョブ定義が不正です。

(S)

該当する値，および関連する項目の値を初期化して画面に表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に不正な値がありました。画面を操作して標準 WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4402-E**

---

認証情報設定ファイル名を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

HTTP 基本認証を行う場合，認証情報設定ファイル名を入力してください。

### **KNAW4403-E**

---

WSDL ファイル名を入力してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択する場合、WSDL ファイル名を入力してください。

### **KNAW4404-E**

---

標準 WS ジョブの定義内容のサイズが制限を超えています。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容のサイズが制限を超えるため、ジョブを定義できません。定義内容のサイズを減らすため、次のことを行ってください。

1. ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択してください。
2. 入力パラメーターの値にサイズが大きいパラメーター値を指定している場合、入力パラメーター指定をファイル名での指定に変更してください。

### **KNAW4405-E**

---

ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 実行時にジョブ実行ホストへ転送する ] を選択する場合、Web サービスを再度選択し直してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 実行時にジョブ実行ホストへ転送する ] を選択する場合、Web サービスを選択し直してください。

### **KNAW4406-E**

---

指定した WSDL ファイルのサイズが大きいため、WSDL ファイルを実行時にジョブ実行ホストへ転送することができません。ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択してください。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

指定した WSDL ファイルのファイルサイズが大きいため、WSDL ファイルを実行

時にジョブ実行ホストへ転送することができません。WS ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法として [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択してください。

### **KNAW4501-E**

---

指定した WSDL ファイルは存在しません。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

指定した WSDL ファイルが存在するかどうか確認してください。存在する場合は、読み取り権限があるかどうか確認してください。

### **KNAW4502-E**

---

WSDL ファイル名の指定に誤りがあります。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

WSDL ファイル名の指定形式が不正です。次のような内容を指定していないか確認してください。

- ファイル名が 255 文字を超えている
- ファイル名の先頭がドライブレターでない ( WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合 )
- ネットワークフォルダ上のファイルを指定している ( WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合 )

### **KNAW4503-E**

---

指定した WSDL ファイルの形式が不正です。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

指定した WSDL ファイルの形式に誤りがあります。WSDL ファイルを確認してください。

### **KNAW4504-E**

---

指定した WSDL はサポート対象外です。( 詳細 =" 詳細情報 ")

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

## 16. メッセージ

(O)

指定した WSDL ファイルを JP1/AJS3 - SOA Option では扱うことができません。  
サポート対象の WSDL ファイルを指定してください。

### **KNAW4505-W**

---

指定した WSDL のオペレーション数が 100 個を超えています。100 個まで取り扱います。

(S)

オペレーションを 100 個まで取り扱います。

(O)

画面に表示されていないオペレーションを利用したい場合、指定した WSDL ファイル中の <wsdl:portType> 要素内の <wsdl:operation> 要素の数が 100 個以内になるよう WSDL ファイルを修正してください。

### **KNAW4506-W**

---

指定した WSDL にサポート対象外のオペレーションが存在します。(オペレーション名="オペレーション名" 詳細="エラー情報")

(S)

サポート対象のオペレーションだけ画面に表示します。

### **KNAW4507-W**

---

指定した WSDL にサポート対象外のオペレーションが存在しているか、またはオペレーションの数が 100 個を超えています。取り扱い可能なオペレーションのみ表示します。

(S)

取り扱い可能なオペレーションだけ画面に表示します。

(O)

サポート対象外のオペレーションは、画面のオペレーション一覧に表示されません。また、WSDL ファイル中のオペレーションが 100 個を超えている場合、100 個までしか取り扱いません。除外されたオペレーションの、サポート対象外となった原因を知りたい場合は、稼働ログを参照してください。

### **KNAW4508-E**

---

指定した WSDL ファイルのサイズが制限を超えています。

(S)

入力エラーが発生した画面を表示します。

(O)

指定した WSDL ファイルのサイズを 512 キロバイト以下になるように編集し直してください。

**KNAW4901-E**

---

プログラムを直接起動しないでください。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

処理を中止します。

(O)

プログラムを直接起動することはできません。プログラムを JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View にカスタムジョブ定義プログラムとして登録して利用してください。

**KNAW4902-E**

---

一時ファイルの操作が不可能になったため、ダイアログを終了します。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

処理を中止して、ダイアログを終了します。

(O)

WS ジョブ定義中に利用する一時ファイルが操作できなくなりました。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の設定を見直してください。

**KNAW4903-E**

---

ヘルプファイルの起動に失敗しました。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

処理を中止します。

(O)

拡張子が「htm」のファイルとブラウザが正しく関連づけられているかを確認してください。また、JP1/AJS3 - View for SOA Option が正しくインストールされているかを確認してください。

**KNAW4904-W**

---

ジョブ定義に不正な内容がありました。不正な定義内容を持つ項目の値を初期化して表示します。

(S)

不正な定義内容を持つ項目の値を初期化して表示します。

(O)

ジョブに不正な定義内容がありました。画面を操作して WS ジョブの定義内容を修正してください。

### **KNAW4905-W**

---

環境設定ファイル (ajswsvcommon.conf) の読み込みに失敗しました。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

デフォルト値を仮定してダイアログを表示します。

(O)

デフォルト値を仮定していることに問題がある場合、環境設定ファイルを正しく設定し、再度ダイアログボックスを開いてください。

### **KNAW4906-E**

---

環境設定が不正であるため、WSDL を解析できません。標準 WS ジョブ定義ダイアログを終了し、環境設定を正しく行ってください。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

処理を中止します。

(O)

wsd14j.jar が正しくインストールされていません。[標準 WS ジョブ定義] ダイアログボックスを閉じたあと、JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール後の環境設定手順を確認し、wsd14j.jar をインストールしてください。

wsd14j.jar のインストールについては、「6.3.1 環境設定手順」を参照してください。

### **KNAW4999-E**

---

操作を続行できません。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

処理を中止して、ダイアログを終了します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW5000-W**

---

An attempt to read the authentication information settings file failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Error information = " エラー情報 ")

認証情報設定ファイルの読み込みに失敗しました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

HTTP 基本認証情報を使用しないで標準 WS ジョブを実行します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した認証情報設定ファイルがジョブ実行ホストに存在するか、またファイルの読み取り権限があるかどうかを確認してください。

### **KNAW5001-W**

---

The content of the authentication information settings file is invalid. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

認証情報設定ファイルの内容が不正です。(ジョブ実行ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

HTTP 基本認証情報を使用しないで標準 WS ジョブを実行します。

(O)

認証情報設定ファイルの設定内容に誤りがないかを確認してください。

### **KNAW5002-W**

---

An attempt to write the output parameter file failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 " Job execution requesting manager host name = ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

出力パラメーターファイルの書き込みに失敗しました。(ジョブ実行ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

出力パラメーターファイルへの書き込みを行わずに標準 WS ジョブを実行します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した出力パラメーターファイルが書き込み可能かどうか確認してください。

### **KNAW5003-W**

---

An attempt to read the WS connection environment settings file (ajsws\_ws.conf) failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS 接続環境設定ファイル (ajsws\_ws.conf) の読み込みに失敗しました。(ジョブ実行ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS 接続環境設定ファイルを使用しないで標準 WS ジョブを実行します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した WS 接続環境設定ファイルがジョブ実行ホストに存在するか、またファイルの読み取り権限があるかどうかを確認してください。

### **KNAW5004-W**

---

The content of the WS connection environment settings file (ajsws\_ws.conf) is invalid. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS 接続環境設定ファイル (ajsws\_ws.conf) の内容が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS 接続環境設定ファイルを使用しないで標準 WS ジョブを実行します。

(O)

WS 接続環境設定ファイルの設定内容に誤りがないかを確認してください。

### **KNAW5500-E**

---

An attempt to read the WSDL file failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WSDL ファイルの読み込みに失敗しました。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した WSDL ファイルがジョブ実行ホストに存在するか、また WSDL ファイルの読み取り権限があるかどうかを確認してください。

### **KNAW5501-E**

---

An attempt to restore the WSDL data failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WSDL データの復元に失敗しました。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容が不正です。標準 WS ジョブを定義し直してください。

### **KNAW5502-E**

---

The format of the WSDL file or WSDL data is invalid. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WSDL ファイルまたは WSDL データの形式が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

WS ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法に [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を指定している場合、配置した WSDL ファイルが、標準 WS ジョブの定義で指定した WSDL ファイルと同じ内容かどうか確認してください。

WS ジョブ実行ホストへの WSDL ファイル配置方法に [ 実行時にジョブ実行ホストへ転送する ] を指定している場合は、標準 WS ジョブの定義内容が不正であることが考えられます。標準 WS ジョブを定義し直してください。

### **KNAW5503-E**

---

An attempt to read the input parameter file failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

入力パラメーターファイルの読み込みに失敗しました。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した入力パラメーターファイルがジョブ実行ホストに存在するか、またファイルの読み取り権限があるかどうかを確認してください。

### **KNAW5504-E**

---

The value and type of the input parameter for the operation do not match. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

オペレーションの入力パラメーターの値と型が一致しません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定したオペレーションの入力パラメーターの値と型が一致しているかどうか、または入力パラメーターファイルに記述した値と型が一致しているかどうかを確認してください。

### **KNAW5505-E**

---

The definition of the WS job contains an error. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS ジョブの定義内容に誤りがあります。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブの定義内容を確認してください。

### **KNAW5506-E**

---

The size of the WSDL file has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WSDL ファイルのサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの定義で指定した WSDL ファイルのサイズを 512 キロバイト以下に編集してください。また、標準 WS ジョブを再度定義し直して WS ジョブを実行してください。

WSDL ファイルの配置方法として [ 事前にジョブ実行ホストへ配置する ] を選択している場合、編集した WSDL ファイルを配置し直してください。

### **KNAW5507-E**

---

HTTPS communication is not available. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

HTTPS 通信は利用できません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

利用している Web アプリケーションサーバでは、標準 WS ジョブによる HTTPS 通信は利用できません。ユーザー WS ジョブの実装で HTTPS 通信を利用するようにしてください。

### **KNAW5531-E**

---

An attempt to call the Web service failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ", Error message = "SOAP クライアントライブラリのメッセージ ")

Web サービスの呼び出しに失敗しました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ", エラーメッセージ="SOAP クライアントライブラリのメッセージ ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

次の内容を見直して、WS ジョブを再度実行してください。

- WSDL ファイルに定義されている Web サービスの URL が正しいか、または接続先の Web サービスが起動しているか
- 標準 WS ジョブの定義で、事前に WS ジョブ実行ホストへ WSDL ファイルを配置するように指定している場合、標準 WS ジョブの定義で指定された WSDL ファイルと WS ジョブ実行ホストに配置された WSDL ファイルが、同じファイルであるか

## 16. メッセージ

- Web サービスとの HTTP 通信でプロキシを経由する場合、WS 接続環境設定ファイル、またはクライアント定義ファイルの内容が正しいか
- Web サービスと HTTPS 通信する場合、環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の keystore, keystore\_password, truststore, および truststore\_password の設定値が正しいか、または認証情報設定ファイルの内容が正しいか
- Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合、標準 WS ジョブの定義内容が正しいか

### **KNAW5532-E**

---

Connection to the Web service was denied. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Error information = " エラー情報 ")

Web サービスへの接続が拒否されました。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報="エラー情報")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

次の内容を見直して、WS ジョブを再度実行してください。

- Web サービス実行ホストが稼働していない
- 標準 WS ジョブの定義で指定した WSDL ファイル中の <wsdl:port> 要素に指定した Web サービスのロケーション URL の指定に誤りがある (ホスト名、ポート番号)

### **KNAW6000-I**

---

The command finished successfully. (Command name = " コマンド名 ")

コマンドが正常に終了しました。(コマンド名="コマンド名")

### **KNAW6001-E**

---

An argument is incorrectly specified. (Command name = " コマンド名 ")

引数の指定に誤りがあります。(コマンド名="コマンド名")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コマンド引数の指定方法を確認し、再度コマンドを実行してください。

**KNAW6002-E**

---

Execution permissions have not been granted. (Command name = " コマンド名 ")

実行権限がありません。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

Administrators 権限を持つユーザーでコマンドを実行してください。

**KNAW6003-E**

---

The controller has not started, or an error occurred in communication with the controller. (Command name = " コマンド名 ", Error information = " エラー情報 ")

コントローラーが開始していません。または、コントローラーとの通信でエラーが発生しました。(コマンド名=" コマンド名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コントローラーが開始していることを確認し、再度コマンドを実行してください。  
コントローラーがすでに開始している場合は、次のことを確認してください。

1. コントローラーの開始後に、環境設定ファイルのポート番号の設定を変更している場合は、再度コントローラーを開始してください。
2. 1. に該当しない場合は、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW6004-E**

---

An error occurred in communication with the controller. (Command name = " コマンド名 ", Error information = " エラー情報 ")

コントローラーとの通信でエラーが発生しました。(コマンド名=" コマンド名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW6005-W**

---

Communication with the controller timed out. (Command name = " コマンド名 ")

コントローラーとの通信でタイムアウトが発生しました。(コマンド名=" コマンド名 ")

## 16. メッセージ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コントローラー側の処理が込み合っているおそれがあります。時間を置いたあと、再度コマンドを実行してください。

### **KNAW6101-W**

---

The relevant WS program does not exist, or the relevant WS program has already ended.

(Command name = " コマンド名 ")

該当する WS プログラムが存在しないか、または該当する WS プログラムが既に終了していません。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

該当するユーザー WS プログラムが存在しないか、または該当するユーザー WS プログラムの実行がすでに終了しています。実行中のユーザー WS プログラムを確認したい場合は、ajswsstatus コマンドを使用してください。

ajswsstatus コマンドの詳細については、「14. コマンド ajswsstatus」を参照してください。

### **KNAW6105-E**

---

An attempt to start the controller failed. (Command name = " コマンド名 ")

コントローラーの開始に失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次のことを確認してください。

- WS ジョブ実行ホストの OS が Linux の場合、LD\_LIBRARY\_PATH の設定が正しいか確認してください。
- 上記に該当しない場合、コントローラーの開始に時間が掛かっていることが考えられます。時間を置いたあと、コントローラーが開始しているかを確認してください。コントローラーが終了している場合は、再度コマンドを実行してください。

### **KNAW6106-E**

---

An attempt to end the controller failed. (Command name = " コマンド名 ")

コントローラーの終了に失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

コントローラーの終了に時間が掛かっています。時間を置いたあと、コントローラーが終了しているかどうかを確認してください。

---

**KNAW6999-E**

---

Command execution failed. (Command name = " コマンド名 ", Error information = " エラー情報 ")

コマンドの実行に失敗しました。(コマンド名=" コマンド名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

---

**KNAW7001-I**

---

Controller has started.

(S)

コントローラーを開始します。

---

**KNAW7002-I**

---

Controller has stopped.

(S)

コントローラーを終了します。

---

**KNAW7103-E**

---

An attempt to start the controller failed. Required information could not be found in the registry.

(Error information = " エラー情報 ")

コントローラーの開始に失敗しました。レジストリから必要な情報を参照することができませんでした。(エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

コントローラーの開始を中止します。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option が正しくインストールされていない、またはレジストリ情報が壊れています。JP1/AJS3 - SOA Option をインストールし直してください。

---

**KNAW7104-E**

---

An attempt to start controller has failed. (error information=" エラー情報 ")

(S)

## 16. メッセージ

コントローラーの開始を中止します。

(O)

JP1/AJS3・SOA Option が正しくインストールされていません。JP1/AJS3・SOA Option をインストールし直してください。

### **KNAW7201-E**

---

The end of the controller process was detected. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーのプロセス終了を検知しました。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

JP1/AJS3・SOA Controller Service を終了します。

(O)

再度コントローラーを開始してください。

### **KNAW7999-E**

---

An attempt to control the controller service failed. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーのサービス制御に失敗しました。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

コントローラーの開始または終了処理を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW8001-E**

---

" 実行プログラム名 " has not been executed as a JP1/AJS job.

" 実行プログラム名 " が JP1/AJS のジョブとして実行されていません。

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

AJSWSJOBSTART.exe または ajswsjobstart は JP1/AJS のジョブとしてだけ実行できます。直接実行や、JP1/AJS 以外のプログラムからの実行はしないでください。

### **KNAW8002-E**

---

The WS program placement path for the WS job (AJSWSJOBDIR) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WS プログラム配置パス (AJSWSJOBDIR) が設定されていません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの WS プログラム配置パスの定義内容が正しくありません。

ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8003-E**

---

The size of the WS program placement path for the WS job (AJSWSJOBDIR) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WS プログラム配置パス (AJSWSJOBDIR) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの WS プログラム配置パスの定義内容が正しくありません。

ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8004-E**

---

The execution class name for the WS job (AJSWSCLASS) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの実行クラス名 (AJSWSCLASS) が設定されていません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの実行クラス名の定義内容が正しくありません。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8005-E**

---

The size of the execution class name for the WS job (AJSWSCLASS) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの実行クラス名 (AJSWSCLASS) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの実行クラス名の定義内容が正しくありません。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8006-E**

---

The total size of the parameters for the WS job (AJSWSPARAMn) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのパラメーター (AJSWSPARAMn) の合計サイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブのパラメーターの定義内容が正しくありません。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8007-E**

---

The WS program placement path for the WS job (AJSWSJOBDIR) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WS プログラム配置パス (AJSWSJOBDIR) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの WS プログラム配置パスの定義内容が正しくありません。

ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8008-E**

---

The serial number of the parameter for the WS job (AJSWSPARAMn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのパラメーター (AJSWSPARAMn) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

ユーザー WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブのパラメーターの連番指定が正しくありません。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8009-E**

---

The specified execution program type for the WS job (AJSWSJOBKIND) is invalid. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの実行プログラムの種別 (AJSWSJOBKIND) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

WS ジョブの定義内容が正しくありません。WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8101-E**

---

The WS job cannot be executed because the controller has not started, or an error occurred in communication with the controller. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーが開始していないため、WS ジョブを実行できません。または、コントローラーとの通信でエラーが発生しました。( エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

コントローラーが開始していることを確認してください。コントローラーは開始し

ていたが、エラーとなった場合は、次のことを確認してください。

1. コントローラーの開始後、環境設定ファイルのポート番号の設定を変更していた場合、再度コントローラーを開始してください。
2. WS ジョブ実行ホストの OS が Windows の場合、ソケットの状態を確認し、TIME\_WAIT 状態のソケットが少なくなるまで待ってください。また、OS が管理する TIME\_WAIT ポートの回復時間を早めることによって、通信エラーを抑止します。対処方法については、標準 WS ジョブの場合は「13.4.3 標準 WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処」を、ユーザー WS ジョブの場合は「13.4.4 ユーザー WS ジョブの実行がエラーになった場合の対処」を参照してください。
3. 1. および 2. に該当しない場合、トラブルシュートに必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブルシュートに必要な資料については、「13.3 トラブル発生時に採取が必要な資料と資料の採取方法」を参照してください。

### **KNAW8102-E**

---

The controller ended while the WS job was being executed, or an error occurred in communication with the controller. (Error information = " エラー情報 ")

WS ジョブ実行中にコントローラーが終了しました。または、コントローラーとの通信でエラーが発生しました。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

コントローラーの状態を確認し、コントローラーが終了している場合は、コントローラーを開始してください。

コントローラーが終了していないにもかかわらず問題が発生した場合は、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW8103-E**

---

Acquisition of standard output from the WS program failed. (Error information = " エラー情報 ")

WS プログラムが出力した標準出力内容の取得に失敗しました。(エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS プログラムでの標準出力の内容を取得できません。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option をインストールしたドライブの容量が十分でないおそれがあります。容量を確認してください。容量に問題がない場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW8104-E**

---

Acquisition of standard error output from the WS program failed. (Error information = " エラー情報 ")

WS プログラムが出力した標準エラー出力内容の取得に失敗しました。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS プログラムでの標準エラー出力の内容を取得できません。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option をインストールしたドライブの容量が十分でないおそれがあります。容量を確認してください。容量に問題がない場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW8105-E**

---

A file I/O error occurred in the controller. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーでファイル入出力エラーが発生しました。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

コントローラーでのエラー内容を取得できません。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option をインストールしたドライブの容量が十分でないおそれがあります。容量を確認してください。容量に問題がない場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

**KNAW8201-E**

---

The service name for the WS job (AJSSWSSERVICENAME) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのサービス名 (AJSSWSSERVICENAME) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのサービス名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8202-E**

---

The size of the service name for the WS job (AJSWSSERVICENAME) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのサービス名 (AJSWSSERVICENAME) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのサービス名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8203-E**

---

The port name for the WS job (AJSWSPORTNAME) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのポート名 (AJSWSPORTNAME) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのポート名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8204-E**

---

The size of the port name for the WS job (AJSWSPORTNAME) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのポート名 (AJSWSPORTNAME) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのポート名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8205-E**

---

The operation name for the WS job (AJSWSOPERATIONNAME) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのオペレーション名 (AJSWSOPERATIONNAME) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのオペレーション名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8206-E**

---

The size of the operation name for the WS job (AJSWSOPERATIONNAME) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのオペレーション名 (AJSWSOPERATIONNAME) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのオペレーション名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8207-E**

---

The flag to use the input parameter value for the WS job (AJSWSIPISVALUEn) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

## 16. メッセージ

WS ジョブの入力パラメーター：値を使用フラグ (AJSWSIPISVALUEn) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーター：値を使用フラグの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8208-E**

---

The serial number of the flag to use the input parameter value for the WS job (AJSWSIPISVALUEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター：値を使用フラグ (AJSWSIPISVALUEn) の連番の指定に誤りがあります。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーター：値を使用フラグの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8209-E**

---

The input parameter name for the WS job (AJSWSIPNAMEn) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター名 (AJSWSIPNAMEn) が設定されていません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

**KNAW8210-E**

---

The size of the input parameter name for the WS job (AJSWSIPNAME) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター名 (AJSWSIPNAME) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

**KNAW8211-E**

---

The serial number of the input parameter name for the WS job (AJSWSIPNAME) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター名 (AJSWSIPNAME) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

**KNAW8212-E**

---

The input parameter type for the WS job (AJSWSIPTYPE) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーターの型 (AJSWSIPTYPE) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、入力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準

WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8213-E**

---

The size of the input parameter type for the WS job (AJSWSIPTYPEn) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーターの型 (AJSWSIPTYPEn) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、入力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8214-E**

---

The serial number of the input parameter type for the WS job (AJSWSIPTYPEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーターの型 (AJSWSIPTYPEn) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、入力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8215-E**

---

The size of the input parameter file name for the WS job (AJSWSIPVALUEn) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーターファイル名 (AJSWSIPVALUEn) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8216-E**

---

The input parameter file name for the WS job (AJWSIPVALUEn) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーターファイル名 (AJWSIPVALUEn) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8217-E**

---

The size of the input parameter for the WS job (AJWSIPVALUEn) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター (AJWSIPVALUEn) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8218-E**

---

The serial number of the input parameter for the WS job (AJWSIPVALUEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの入力パラメーター (AJWSIPVALUEn) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

## 16. メッセージ

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8219-E**

---

The output parameter name for the WS job (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーター名 (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8220-E**

---

The size of the output parameter name for the WS job (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーター名 (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8221-E**

---

The serial number of the output parameter name for the WS job (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーター名 (AJSWSOPNAME<sub>n</sub>) の連番の指定に誤りがあります。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8222-E**

---

The output parameter type for the WS job (AJSWSOPTYPE<sub>n</sub>) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの出力パラメーターの型 (AJSWSOPTYPE<sub>n</sub>) が設定されていません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、出力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8223-E**

---

The size of the output parameter type for the WS job (AJSWSOPTYPE<sub>n</sub>) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの出力パラメーターの型 (AJSWSOPTYPE<sub>n</sub>) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、出力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8224-E**

---

The serial number of the output parameter type for the WS job (AJSWSOPTYPEEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターの型 (AJSWSOPTYPEEn) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、出力パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8225-E**

---

The size of the output parameter file name for the WS job (AJSWSOPFILEEn) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターファイル名 (AJSWSOPFILEEn) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8226-E**

---

The output parameter file name for the WS job (AJSWSOPFILEEn) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターファイル名 (AJSWSOPFILEEn) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターファイル名の定義内容が正しくありません。標

標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8227-E**

---

The selected option for whether to place the WSDL file for the WS job on the job-executing host in advance is invalid. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL ファイルを事前にジョブ実行ホストへ配置するかどうかの選択内容が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL ファイルを事前にジョブ実行ホストへ配置するかどうかの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8228-E**

---

The size of the WSDL data for the WS job (AJSWSWSDL) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL データ (AJSWSWSDL) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL データの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8229-E**

---

The size of the WSDL file name for the WS job (on the job-executing host) (AJSWSWSDLPATH) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) (AJSWSWSDLPATH) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

## 16. メッセージ

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8230-E**

---

The WSDL file name for the WS job (on the job-executing host) (AJSWSWSDLPATH) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) (AJSWSWSDLPATH) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL ファイル名 (ジョブ実行ホスト上) の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8235-E**

---

The size of the authentication information settings file name for the WS job (AJSWSBAFILE) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの認証情報設定ファイル名 (AJSWSBAFILE) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの認証情報設定ファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8236-E**

---

The authentication information settings file name for the WS job (AJSWSBAFILE) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの認証情報設定ファイル名 (AJSWSBAFILE) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの認証情報設定ファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8237-E**

---

The input parameter for the WS job (AJSWSIPVALUEn) is not specified. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの入力パラメーター (AJSWSIPVALUEn) が設定されていません。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8239-E**

---

The return parameter name for the WS job (AJSWSRTNNAME) is not specified. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの返却パラメーター名 (AJSWSRTNNAME) が設定されていません。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの返却パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8240-E**

---

The size of the return parameter name for the WS job (AJSWSRTNNAME) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの返却パラメーター名 (AJSWSRTNNAME) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの返却パラメーター名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8241-E**

---

The return parameter type for the WS job (AJSWSRTNTYPE) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの返却パラメーターの型 (AJSWSRTNTYPE) が設定されていません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、返却パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8242-E**

---

The size of the return parameter type for the WS job (AJSWSRTNTYPE) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの返却パラメーターの型 (AJSWSRTNTYPE) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの、返却パラメーターの型の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8243-E**

---

The serial number of the output parameter file name for the WS job (AJSWSOPFILEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターファイル名 (AJSWSOPFILEn) の連番の指定に誤りがあります。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターファイル名の定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8244-E**

---

The input parameter for the WS job has been specified incorrectly.

WS ジョブの入力パラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8245-E**

---

The output parameter for the WS job has been specified incorrectly.

WS ジョブの出力パラメーターの指定に誤りがあります。

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義し直してください。

### **KNAW8246-E**

---

The operation style for the WS job (AJSWSOPERATIONSTYLE) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのオペレーションスタイル (AJSWSOPERATIONSTYLE) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのオペレーションスタイルの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8247-E**

---

The operation style for the WS job (AJSWSOPERATIONSTYLE) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブのオペレーションスタイル (AJSWSOPERATIONSTYLE) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブのオペレーションスタイルの定義内容に誤りがあります。JP1/AJS3 - View for SOA Option の [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスから、標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義をやり直してください。

### **KNAW8248-E**

---

The SOAPAction use for the WS job (AJSWSSOAPACTIONUSE) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの SOAPAction 使用 (AJSWSSOAPACTIONUSE) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの SOAPAction 使用の定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8249-E**

---

The SOAPAction use for the WS job (AJSWSSOAPACTIONUSE) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの SOAPAction 使用 (AJSWSSOAPACTIONUSE) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの SOAPAction 使用の定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8250-E**

---

The SOAPAction for the WS job (AJSWSSOAPACTION) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの SOAPAction (AJSWSSOAPACTION) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの SOAPAction の定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8251-E**

---

The size of the SOAPAction for the WS job (AJSWSSOAPACTION) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの SOAPAction (AJSWSSOAPACTION) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの SOAPAction の定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8252-E**

The Web service location for the WS job (AJSWSLOCATION) is not specified. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの Web サービスロケーション (AJSWSLOCATION) が設定されていません。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの Web サービスロケーションの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8253-E**

The size of the Web service location for the WS job (AJSWSLOCATION) has exceeded the limit. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの Web サービスロケーション (AJSWSLOCATION) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの Web サービスロケーションの定義内容が正しくありません。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

**KNAW8254-E**

---

The input parameter mode for the WS job (AJSWSIPMODEn) is not specified. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの入力パラメーターモード (AJSWSIPMODEn) が設定されていません。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

**KNAW8255-E**

---

The input parameter mode for the WS job (AJSWSIPMODEn) has been specified incorrectly. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの入力パラメーターモード (AJSWSIPMODEn) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

**KNAW8256-E**

---

The serial number of the input parameter mode for the WS job (AJSWSIPMODEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの入力パラメーターモード (AJSWSIPMODEn) の連番の指定に誤りがあります。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8257-E**

---

The output parameter mode for the WS job (AJSWSOPMODEn) is not specified. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターモード (AJSWSOPMODEn) が設定されていません。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8258-E**

---

The output parameter mode for the WS job (AJSWSOPMODEn) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターモード (AJSWSOPMODEn) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8259-E**

---

The serial number of the output parameter mode for the WS job (AJSWSOPMODEn) has been assigned incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの出力パラメーターモード (AJSWSOPMODEn) の連番の指定に誤りがあります。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターモードの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8260-E**

---

The View version for the WS job (AJSWS\_VIEW\_VER) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの View バージョン (AJSWS\_VIEW\_VER) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブまたはユーザー WS ジョブの定義内容に誤りがあります。JP1/AJS3 - View for SOA Option の [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスから、WS ジョブの定義内容を確認し、定義をやり直してください。

### **KNAW8261-E**

---

The WSDL namespace for the WS job (AJSWSWSDLTNS) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL ネームスペース (AJSWSWSDLTNS) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL ネームスペースの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8262-E**

---

The size of the WSDL namespace for the WS job (AJSWSWSDLTNS) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL ネームスペース (AJSWSWSDLTNS) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL ネームスペースの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8263-E**

---

The WSDL schema namespace for the WS job (AJSWSWSDLSCHEMATNS) has been specified incorrectly. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL スキーマネームスペース (AJSWSWSDLSCHEMATNS) の指定が不正です。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL スキーマネームスペースの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8264-E**

---

The size of the WSDL schema namespace for the WS job (AJSWSWSDLSCHEMATNS) has exceeded the limit. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

WS ジョブの WSDL スキーマネームスペース (AJSWSWSDLSCHEMATNS) のサイズが制限を超えています。( ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの WSDL スキーマネームスペースの定義内容に誤りがあります。標準 WS ジョブを GUI で定義し直してください。GUI で定義する方法については、「9. 標準 WS ジョブの定義」を参照してください。

### **KNAW8265-E**

---

The input parameter for the WS job (AJSWSIPXMLVALUE) is not specified. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの入力パラメーター (AJSWSIPXMLVALUE) が設定されていません。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの入力パラメーターの定義内容に誤りがあります。JP1/AJS3 - View for SOA Option の [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスから、標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義をやり直してください。

### **KNAW8266-E**

---

The size of the output parameter file name for the WS job (AJSWSOPXMLFILE) has exceeded the limit. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

WS ジョブの出力パラメーターファイル名 (AJSWSOPXMLFILE) のサイズが制限を超えています。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターファイル名の定義内容に誤りがあります。JP1/AJS3 - View for SOA Option の [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスから、標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義をやり直してください。

### **KNAW8267-E**

---

The output parameter file name for the WS job (AJSWSOPXMLFILE) has been specified incorrectly. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

## 16. メッセージ

WS ジョブの出力パラメーターファイル名 (AJSWSOPXMLFILE) の指定が不正です。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名")

(S)

標準 WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの出力パラメーターファイル名の定義内容に誤りがあります。JP1/AJS3 - View for SOA Option の [ 標準 WS ジョブ定義 ] ダイアログボックスから、標準 WS ジョブの定義内容を確認し、定義をやり直してください。

---

### **KNAW8999-E**

An attempt to execute the WS job failed. (Error information = " エラー情報 ")

WS ジョブの実行に失敗しました。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

---

### **KNAW9000-I**

The controller has started.

コントローラーを開始しました。

(S)

コントローラーを開始します。

---

### **KNAW9001-I**

The controller has ended.

コントローラーを終了しました。

(S)

コントローラーを終了します。

---

### **KNAW9002-W**

The environment settings file (ajswscommon.conf) cannot be read. (Error information = " エラー情報 ")

環境設定ファイル (ajswscommon.conf) を読み込めません。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

デフォルト値を仮定してコントローラーを開始します。

(O)

デフォルト値を仮定していることに問題がある場合、環境設定ファイルの内容を確認したあと、再度コントローラーを開始してください。

### **KNAW9003-W**

---

The JavaVM startup option settings file (ajswsjavavmoptions.conf) cannot be read. (Error information = " エラー情報 ")

JavaVM 起動オプション設定ファイル (ajswsjavavmoptions.conf) を読み込めません。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

デフォルト値を仮定して JavaVM を起動します。

(O)

デフォルト値を仮定していることに問題がある場合、JavaVM 起動オプション設定ファイルの内容を確認したあと、再度コントローラーを開始してください。

### **KNAW9004-E**

---

An attempt to start the controller failed. The controller is incorrectly installed. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーの開始に失敗しました。正しくインストールされていません。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

コントローラーの開始を中止します。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option が正しくインストールされていません。JP1/AJS3 - SOA Option を正しくインストールし直してください。

### **KNAW9005-E**

---

An attempt to start the controller failed. JavaVM could not be started. (Error information = " エラー情報 ")

コントローラーの開始に失敗しました。JavaVM を起動できませんでした。( エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

コントローラーの開始を中止します。

(O)

「13.4.1 コントローラーが開始しない場合の対処」を参照して対処したあと、再度コントローラーを開始してください。

### **KNAW9006-E**

---

An attempt to start the controller failed. The port is already being used. (Port number = "ポート番号", Error information = "エラー情報")

コントローラーの開始に失敗しました。ポートが既に利用されています。(ポート番号="ポート番号", エラー情報="エラー情報")

(S)

コントローラーの開始を中止します。

(O)

ほかのアプリケーションが"ポート番号"を利用しています。ポート番号が重複しないように、ほかのアプリケーションまたはJP1/AJS3 - SOA Option の設定を変更して、再度コントローラーを開始してください。

### **KNAW9007-E**

---

An attempt to start the controller failed. (Error information = "エラー情報")

コントローラーの開始に失敗しました。(エラー情報="エラー情報")

(S)

コントローラーの開始を中止します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW9009-W**

---

An attempt to delete temporary files failed when the controller started. (Error information = "エラー情報")

コントローラーの開始時、一時ファイルの削除に失敗しました。(エラー情報="エラー情報")

(S)

一時ファイル出力先のファイルを削除できませんでした。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option が利用する一時ファイル出力先に、不正なファイル、またはほかのアプリケーションが利用しているファイルが存在しているおそれがあります。一時ファイル出力先を確認してください。

一時ファイルの出力先は次のとおりです。

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ  $\%base\%pool\%tmp$

### **KNAW9010-E**

---

The content of the environment settings file (ajswscommon.conf) is invalid. (Error information = "エラー情報")

環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の内容が不正です。(エラー情報="エラー情報")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

次の点を確認してください。

- 環境設定パラメーター jaxws\_enable に「1」を指定しているか
- 標準 WS ジョブを実行していないか

### **KNAW9101-E**

---

The communication text is invalid. (Error information = "エラー情報")

通信電文が不正です。(エラー情報="エラー情報")

(S)

不正な通信電文を破棄し、処理を続行します。

(O)

外部のアプリケーションからコントローラーに対して通信が行われているおそれがあります。コントローラーが利用しているポート番号を確認し、該当するポート番号にアクセスする外部アプリケーションがないかどうかを確認してください。

### **KNAW9201-E**

---

Execution of the WS job was stopped because the processing to end the controller was in progress. (Error information = "エラー情報")

コントローラーが終了処理中のため、WS ジョブの実行が中止されました。(エラー情報="エラー情報")

(S)

実行中の WS ジョブを中止し、コントローラーを終了します。

(O)

コントローラーの開始後、WS ジョブを再実行してください。

### **KNAW9202-E**

---

An attempt to read the WS program failed. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Path = WS プログラムのパス, Error information = "エラー情報")

WS プログラムの読み込みに失敗しました。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", パス="WS プログラムのパス", エラー情報="エラー情報")

(S)

WS プログラムの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムの配置フォルダが存在しない、実行ファイル (jar ファイル) が配置されていないなどのおそれがあります。ユーザー WS プログラムのパス情報や、エラー情報から原因を特定し、対策してください。

また、標準 WS ジョブの場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW9203-E**

---

Execution of the WS job failed because the maximum number of running WS jobs has been reached. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

実行中の WS ジョブ数が上限に達したため、WS ジョブを実行できませんでした。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

WS ジョブの同時実行数が上限を超えないようにジョブネットを定義し、スケジューリングをしてください。また、該当の WS ジョブが中止されたままで問題がある場合、ジョブを再実行してください。

### **KNAW9204-E**

---

The execution class does not exist. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Execution class name = " 実行クラス名 ", Error information = " エラー情報 ")

実行クラスが存在しません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", 実行クラス名=" 実行クラス名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムの実行ファイル (jar ファイル) が配置されていないか、または、ユーザー WS ジョブの定義で指定した実行クラス名が誤っているおそれがあります。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認してください。

また、標準 WS ジョブの場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管

理者に連絡してください。

### **KNAW9205-E**

---

The ajsexecute method does not exist in the execution class. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Execution class name = " 実行クラス名 ", Error information = " エラー情報 ")

実行クラスに ajsexecute メソッドが存在しません。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", 実行クラス名=" 実行クラス名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムの実行ファイル (jar ファイル) が配置されていないか、または、ユーザー WS ジョブの定義で指定した実行クラス名が誤っているおそれがあります。ユーザー WS ジョブの定義内容を確認してください。

また、標準 WS ジョブの場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW9206-E**

---

A WS program exception was detected. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS プログラムの例外を検出しました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブを異常終了します。

(O)

WS プログラムが異常終了しました。次のように対処してください。

標準 WS ジョブの実行で WS コネクターが異常終了した場合

対処方法については、「13.4.3(1) WS コネクターが異常終了している (Windows と UNIX に共通)」を参照してください。

ユーザー WS ジョブの実行でユーザー WS プログラムが異常終了した場合

対処方法については、「13.4.4(3) ユーザー WS プログラムが異常終了している (Windows と UNIX に共通)」を参照してください。

### **KNAW9207-E**

---

A WS program security exception was detected. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS プログラムのセキュリティ例外を検出しました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブを異常終了します。

(O)

ユーザー WS プログラムが、セキュリティ違反によって異常終了しました。ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムのエラー情報からセキュリティ違反の原因を特定し、ユーザー WS プログラムの入れ替えなどの対策をしてください。また、標準 WS ジョブの場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW9208-E**

---

The WS program was killed because the WS job was canceled by JP1/AJS. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

JP1/AJS より WS ジョブが打ち切られたため、WS プログラムを強制終了しました。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

JP1/AJS によって WS ジョブが打ち切られたため、WS プログラムを強制終了しました。

(O)

JP1/AJS から WS ジョブが打ち切られたため、WS プログラムを強制終了しました。WS プログラムの強制終了に問題がある場合、WS ジョブを再実行してください。

### **KNAW9209-E**

---

The WS program was killed because the ajswskillwsp command was executed. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

ajswskillwsp コマンドが実行されたため、WS プログラムを強制終了しました。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

WS プログラムを強制終了しました。

(O)

ajswskillwsp コマンドが実行されたため、WS プログラムを強制終了しました。WS プログラムの強制終了に問題がある場合、WS ジョブを再実行してください。

### **KNAW9210-E**

---

The result of WS program execution is invalid. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Execution result = "WS プログラムの実行結果 ")

WS プログラムの実行結果が不正です。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名=" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名=" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", 実行結果 ="WS プログラムの実行結果 ")

(S)

WS ジョブを異常終了します。

(O)

ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムから不正な実行結果を受け取ったことが考えられます。ユーザー WS プログラムの ajsexecute メソッドの実装を確認してください。

また、標準 WS ジョブの場合、トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

### **KNAW9211-E**

---

An attempt to output the temporary file failed. (Temporary file name = " 一時ファイル名 ", Error information = " エラー情報 ")

一時ファイルの出力に失敗しました。(一時ファイル名=" 一時ファイル名 ", エラー情報=" エラー情報 ")

(S)

後続処理は続行します。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option の一時ファイル出力先に不正なファイル、またはほかのアプリケーションが利用しているファイルが存在しているおそれがあります。一時

ファイル出力先を確認してください。

また、出力先の容量が不足しているおそれがあります。JP1/AJS3 - SOA Option のインストール領域に十分な容量が割り当てられているか確認してください。

一時ファイルの出力先は次のとおりです。

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ ¥base¥spool¥tmp

### **KNAW9212-E**

---

An attempt to output the temporary file failed. (Temporary file name = "一時ファイル名", WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Error information = "エラー情報")

一時ファイルの出力に失敗しました。(一時ファイル名="一時ファイル名", WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報="エラー情報")

(S)

後続処理は続行します。

(O)

JP1/AJS3 - SOA Option の一時ファイル出力先に不正なファイル、またはほかのアプリケーションが利用しているファイルが存在しているおそれがあります。一時ファイル出力先を確認してください。

また、出力先の容量が不足しているおそれがあります。JP1/AJS3 - SOA Option のインストール領域に十分な容量が割り当てられているか確認してください。

一時ファイルの出力先は次のとおりです。

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール先フォルダ ¥base¥spool¥tmp

### **KNAW9213-E**

---

An attempt to initialize the WS job failed. (Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Error information = "エラー情報")

WS ジョブの初期化に失敗しました。(ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", エラー情報="エラー情報")

(S)

WS ジョブの実行を中止します。

(O)

標準 WS ジョブの場合、次の点を確認してください。

- WS ジョブ実行ホストに Web アプリケーションサーバがインストールされている

か

- Web アプリケーションサーバをデフォルトと異なるフォルダにインストールしている場合、環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の apserver\_path パラメーターに Web アプリケーションサーバのインストール先フォルダ名を正しく指定しているか

ユーザー WS ジョブの場合、ユーザー WS プログラムが参照する jar ファイルが見つからないか、jar ファイルが壊れているおそれがあります。次の点を確認してください。

- CLASSPATH 環境変数にユーザー WS プログラムが参照する jar ファイル名を指定しているか
- ユーザー WS プログラムが参照する jar ファイルが、WS ジョブ実行ホスト上にあるか
- ユーザー WS プログラム、およびユーザー WS プログラムが参照する jar ファイルの内容が正しいか

ユーザー WS ジョブで JAX-WS を利用している場合は、環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の jaxws\_enable パラメーターの指定が「1」になっているかどうか確認してください。ユーザー WS ジョブで JAX-WS を利用していない場合は、環境設定ファイル (ajswscommon.conf) の jaxws\_enable パラメーターの指定が「0」になっているかどうか確認してください。

### **KNAW9214-I**

---

WS program execution ended. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Execution result = "WS プログラムの実行結果")

WS プログラムの実行が終了しました。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", 実行結果="WS プログラムの実行結果")

(S)

実行結果に示す終了コードで WS ジョブを終了します。

### **KNAW9215-I**

---

WS connector execution ended. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Job execution ID = "ジョブ実行 ID", Job name = "ジョブ名", Job execution requesting manager host name = "ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", Execution result = "内部コード")

WS コネクターの実行が終了しました。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", ジョブ実行 ID="ジョブ実行 ID", ジョブ名="ジョブ名", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名="ジョブ実行依頼マネージャーホスト名", 実行結果="内部コード")

## 16. メッセージ

(S)

標準 WS ジョブを終了します。

### **KNAW9301-W**

---

There is no WS job corresponding to the specified WS program execution ID. (WS program execution ID = "WS プログラム実行 ID", Error information = " エラー情報 ")

指定した WS プログラム実行 ID に該当する WS ジョブが存在しません。(WS プログラム実行 ID="WS プログラム実行 ID", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブの強制終了を中止します。

### **KNAW9309-W**

---

The WS job was canceled by JP1/AJS before the WS program was executed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS プログラムの実行前に、JP1/AJS より WS ジョブが打ち切られました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

ユーザー WS プログラムを実行しないで、ユーザー WS ジョブを強制終了しました。

### **KNAW9999-E**

---

An attempt to execute the WS job failed. (Job execution ID = " ジョブ実行 ID", Job name = " ジョブ名 ", Job execution requesting manager host name = " ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", Error information = " エラー情報 ")

WS ジョブの実行に失敗しました。(ジョブ実行 ID=" ジョブ実行 ID", ジョブ名 =" ジョブ名 ", ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 =" ジョブ実行依頼マネージャーホスト名 ", エラー情報 =" エラー情報 ")

(S)

WS ジョブを異常終了します。

(O)

トラブルシュート資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。

# 付録

---

付録 A ファイルおよびフォルダー一覧

---

付録 B プロセス一覧

---

付録 C ポート番号一覧

---

付録 D 制限値一覧

---

付録 E WSDL のサポート範囲 (Cosminexus Application Server の場合)

---

付録 F WSDL のサポート範囲 (WebSphere Application Server の場合)

---

付録 G WSDL のサポート範囲 (WebLogic Server の場合)

---

付録 H 用語解説

---

## 付録 A ファイルおよびフォルダー一覧

JP1/AJS3 - SOA Option と JP1/AJS3 - View for SOA Option のファイル，およびフォルダー一覧について記載します。

### (1) JP1/AJS3 - SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧

JP1/AJS3 - SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧を次の表に示します。

#### 補足事項

ログのファイルおよびフォルダー一覧については、「13.2.2 稼働ログファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。

表 A-1 JP1/AJS3 - SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧

内容	ファイル名
環境設定ファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajswwscommon.conf UNIX の場合 /etc/opt/jplajs2forws/base/conf/ajswwscommon.conf
環境設定モデルファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajswwscommon.conf.model UNIX の場合 /etc/opt/jplajs2forws/base/conf/ ajswwscommon.conf.model
JavaVM 起動オプション設定ファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajswwsjavavmoptions.conf UNIX の場合 /etc/opt/jplajs2forws/base/conf/ ajswwsjavavmoptions.conf
JavaVM 起動オプション設定モデルファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajswwsjavavmoptions.conf.model UNIX の場合 /etc/opt/jplajs2forws/base/conf/ ajswwsjavavmoptions.conf.model
WS 接続環境設定ファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajswws_ws.conf UNIX の場合 /etc/opt/jplajs2forws/base/conf/ajswws_ws.conf

内容	ファイル名
WS 接続環境設定モデルファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥ajsaws_ws.conf.model UNIX の場合 /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf/ ajsaws_ws.conf.model
クライアント定義ファイル	Windows の場合 JP1/AJS3 - SOA Option インストール先フォルダ ¥base¥conf¥c4webcl.properties UNIX の場合 /etc/opt/jp1ajs2forws/base/conf/c4webcl.properties

## 注

モデルファイルを削除したり、モデルファイルの内容を変更したりしないでください。モデルファイルは、環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、および WS 接続環境設定ファイルの初期状態の内容が記述されたファイルです。環境設定ファイル、JavaVM 起動オプション設定ファイル、および WS 接続環境設定ファイルの内容を初期状態に戻す場合に、コピーして使用してください。

## (2) JP1/AJS3 - View for SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧

JP1/AJS3 - View for SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧を次の表に示します。

## 補足事項

ログのファイルおよびフォルダー一覧については、「13.2.2 稼働ログファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。

表 A-2 JP1/AJS3 - View for SOA Option のファイルおよびフォルダー一覧

内容	ファイル名
JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定ファイル	JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ ¥conf¥ajsawscommon.conf
JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定モデルファイル	JP1/AJS3 - View for SOA Option インストール先フォルダ ¥conf¥ajsawscommon.conf.model

## 注

モデルファイルを削除したり、モデルファイルの内容を変更したりしないでください。モデルファイルは、JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定ファイルの初期状態の内容が記述されたファイルです。JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定ファイルの内容を初期状態に戻す場合に、コピーして使用してください。

## 付録 B プロセス一覧

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option のプロセスの一覧を次の表に示します。

表 B-1 JP1/AJS3 - SOA Option のプロセス一覧

プロセス 上段：Windows 下段：UNIX	機能名	説明
ajswsservice.exe -	サービスマネージャープロセス (Windows 限定)	Windows のサービスマネージャーの実行プロセスです。 1 ホストにつき 1 プロセスです。 WS ジョブが同時に複数実行されてもプロセス数は変わりません (1 プロセスのままです)。
ajswsjobstart.exe ajswsjobstart	スタータープロセス	JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントの一つであるスターターの実行プロセスです。 1WS ジョブにつき 1 プロセスです。 WS ジョブが同時に複数実行されると、複数のプロセスが上がります。
ajswscontroller.exe ajswscontroller	コントローラープロセス	JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントの一つであるコントローラーの実行プロセスです。 1 ホストにつき 1 プロセスです。 WS ジョブが同時に複数実行されてもプロセス数は変わりません (1 プロセスのままです)。
- ajswsstart	開始コマンドプロセス (UNIX 限定)	コントローラーの起動コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。
ajswsstatus.exe ajswsstatus	状態表示コマンドプロセス	JP1/AJS3 - SOA Option の状態表示コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。
- ajswsstop	終了コマンドプロセス (UNIX 限定)	コントローラーの終了コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。
ajswskillwsp.exe ajswskillwsp	WS プログラム強制終了コマンドプロセス	JP1/AJS3 - SOA Option の WS プログラム強制終了コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。
ajsws_log.bat ajsws_log	資料採取コマンドプロセス	JP1/AJS3 - SOA Option の資料採取コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。

(凡例) - : 該当するプロセスがないことを示します。

表 B-2 JP1/AJS3 - View for SOA Option のプロセス一覧

プロセス	機能名	説明
ajswsvgetWSDL.exe	WSDL 抽出コマンドプロセス	JP1/AJS3 - View for SOA Option の WSDL 抽出コマンドの実行プロセスです コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。
ajsws_userwsjobdialog.exe	ユーザー WS ジョブ定義プロセス	JP1/AJS3 - View for SOA Option のユーザー WS ジョブを定義する実行プロセスです。 1 クライアントにつき 1 プロセスです。
ajsws_wsjobdialog.exe	標準 WS ジョブ定義プロセス	JP1/AJS3 - View for SOA Option の標準 WS ジョブを定義する実行プロセスです。 1 クライアントにつき 1 プロセスです。
ajswsv_log.bat	資料採取コマンドプロセス	JP1/AJS3 - View for SOA Option の資料採取コマンドの実行プロセスです。 コマンドの 1 実行につき 1 プロセスです。 このコマンドを同時に複数実行すると、複数のプロセスが上がります。

---

## 付録 C ポート番号一覧

JP1/AJS3 - SOA Option で使用するポート番号を次の表に示します。

表 C-1 JP1/AJS3 - SOA Option で使用するポート番号

ポート番号	用途
20500	JP1/AJS3 - SOA Option 内の通信で使用されます。

注 JP1/AJS3 - View for SOA Option で使用するポート番号はありません。

## 付録 D 制限値一覧

JP1/AJS3 - SOA Option および JP1/AJS3 - View for SOA Option の制限値について説明します。

### 付録 D.1 JP1/AJS3 - SOA Option の制限値一覧

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の制限値、環境設定時の制限値、および標準 WS ジョブがサポートする SOAP のバージョンを次に示します。

#### (1) JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の制限値

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の制限値を次に示します。

表 D-1 JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の制限値

定義内容	接続できる最大値
一つの WS ジョブ実行ホストに導入できる JP1/AJS3 - SOA Option の数	1
一つの JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に接続できる WS ジョブ実行ホストの数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - Agent の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。
システムに導入できる JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の数	JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数と同様です。 JP1/AJS3 - Manager に接続できる JP1/AJS3 - View の数または JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

#### (2) JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定の制限値

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定の制限値を次に示します。

表 D-2 JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定の制限値

定義内容	設定できる範囲
使用するポート番号	1,024 ~ 65,535
同時に実行できる WS プログラム数	1 ~ 64
JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログのサイズ	4,096 ~ 16,777,216 バイト
JP1/AJS3 - SOA Option が出力する稼働ログの面数	2 ~ 16

### (3) 標準 WS ジョブがサポートする SOAP のバージョン

標準 WS ジョブがサポートする SOAP のバージョンは 1.1 です。

## 付録 D.2 JP1/AJS3 - View for SOA Option の制限値一覧

JP1/AJS3 - View for SOA Option ( JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View ) のシステム構成の制限値を次に示します。

表 D-3 JP1/AJS3 - View for SOA Option のシステム構成の制限値

定義内容	接続できる最大値
JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View に導入できる JP1/AJS3 - View for SOA Option の数	1

## 付録 E WSDL のサポート範囲 (Cosminexus Application Server の場合)

Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合に、標準 WS ジョブを定義するときに留意が必要な WSDL のサポート範囲について説明します。

### 付録 E.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 (Cosminexus Application Server の場合)

標準 WS ジョブで定義できる WSDL1.1 仕様のサポート範囲を次の表に示し、そのあとに、それぞれの要素についての詳細を説明します。

表 E-1 標準 WS ジョブで定義できる WSDL1.1 仕様のサポート範囲

分類	要素名 <sup>1</sup> <sup>2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート
ドキュメンテーション	wsdl:documentation			
インポート	wsdl:import			x
タイプ	wsdl:types			
メッセージ	wsdl:message	wsdl:part		
			name	
ポートタイプ	wsdl:portType			
		wsdl:operation		
			name	
バインディング	wsdl:binding			
サービス	wsdl:service		name	
		wsdl:port	name	

分類	要素名 <sup>1</sup> <sup>2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート	
SOAP バインディング	soap:binding				
	soap:operation		style		
			soapAction		
	soap:body			encodingStyle	×
				use	
				namespace	
	soap:header			×	
	soap:fault				
soap:headerfault			×		
soap:address					

(凡例)

- : サポートされます。
- : 一部サポートされます。
- × : サポートされません。

注 1

「wsdl」は、WSDL1.1 の名前空間プレフィクスを示します。

注 2

「soap」は WSDL1.1 の soap 拡張要素の名前空間プレフィクスを示します。

### (1) wsdl:documentation 要素

標準 WS ジョブで、この要素は使用できません。

### (2) wsdl:import 要素

標準 WS ジョブでは、wsdl:import 要素はサポートされません。wsdl:import 要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### (3) wsdl:types 要素

標準 WS ジョブでは、document/literal パターンでの wrapped 要素だけがサポートされます。

wrapped 要素の子要素の type 属性には、「付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (Cosminexus Application Server の場合)」で示すデータ型を指定できます。

「付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (Cosminexus Application Server の場合)」以外のデータ型を使用する場合は、複合型を使用した標準 WS ジョブを定義してく

ださい。複合型を使用した標準 WS ジョブの定義については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)」を参照してください。

なお、JP1/AJS3 - SOA Option では、types 要素の子要素の schema 要素中に import , include 要素を指定できません。

#### (4) wsdl:message 要素

wsdl:message の子要素の type 属性には、「付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (Cosminexus Application Server の場合)」で示すデータ型を指定できます。

「付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (Cosminexus Application Server の場合)」以外のデータ型を使用する場合は、複合型を使用した標準 WS ジョブを定義してください。複合型を使用した標準 WS ジョブの定義については、「2.3.1 WS プログラムを GUI で作成する (標準 WS ジョブの定義)」を参照してください。

なお、wsdl:message の子要素に wsdl:element 属性を指定した場合、値には document/literal パターンでの wrapped 要素だけを指定できます。

wsdl:type 属性に指定された値、または wsdl:element 属性に指定した要素 (element) の子要素の type 属性に指定された値が、次の状態に当てはまる場合、その message 要素を input または output 要素とするオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中に [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

- wsdl:message の子要素の name 属性が、1,023 バイトを超える場合

#### (5) wsdl:portType 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションの操作パターン (transmission primitive) のうち request/response だけがサポートされます。操作パターンが request/response でないオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

標準 WS ジョブでは、オペレーションのオーバーロード (同じ名前異なるパラメータを持つ複数のオペレーション) はサポートされません。wsdl:operation 要素の name 属性に同じものが複数ある場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

wsdl:operation 要素の name 属性の値が QName 形式で、かつ 1,023 バイトを超える場合、そのオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

オペレーションの最大個数は 100 個です。WSDL ファイル中に wsdl:operation 要素が 101 個以上指定されている場合、先頭から 100 個分の wsdl:operation 要素についてだけ処理されます。

wsdl:input 要素または wsdl:output 要素中の wsdl:message 要素の最大個数は 100 個です。wsdl:message 要素の数が 101 個以上ある場合、その wsdl:input 要素、

wsdl:output 要素を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

document スタイルの WSDL ファイルの場合、wsdl:message 要素内の element 属性に指定した要素 (xsd:element) の子要素の最大個数は 100 個です。子要素が 101 個以上の要素 (xsd:element) を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

#### (6) wsdl:binding 要素

標準 WS ジョブでは、バインディングのタイプのうち、SOAP バインディングだけがサポートされます。SOAP バインディング以外のバインディング要素が指定されていた場合 (wsdl:binding の子要素として soap:binding が指定されていない場合)、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

また、wsdl:binding の子要素の wsdl:input、wsdl:output 要素の子要素として、soap:body 要素だけがサポートされます。soap:body 以外の要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

#### (7) wsdl:service 要素

標準 WS ジョブでは、複数の wsdl:service 要素が指定された WSDL ファイルはサポートされません。また、wsdl:service の子要素に複数の wsdl:port が指定された WSDL ファイルはサポートされません。

また、wsdl:service 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、または wsdl:port 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、WSDL ファイルはサポートされません。

WSDL ファイルに複数の wsdl:service 要素が指定されている場合、複数の wsdl:port が指定されている場合、または name 属性の値が制限を超えている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

#### (8) soap:binding 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションのスタイルとして、"rpc" および "document" の両方がサポートされます。

#### (9) soap:operation 要素

標準 WS ジョブでは、soapAction 属性の値が 511 バイト以内であるときにサポートされます。

soapAction 属性の値が 512 バイトを超える場合、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

## (10) soap:body 要素および soap:fault 要素

標準 WS ジョブでは、use 属性の値として "literal" だけがサポートされます。"encoded" が指定されたオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

## (11) soap:header 要素および soap:headerfault 要素

標準 WS ジョブでは、soap:header 要素および soap:headerfault 要素はサポートされません。soap:header 要素、soap:headerfault 要素が指定されているオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

## (12) サポートされるオペレーションが一つもない場合の動作

標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

## 付録 E.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 (Cosminexus Application Server の場合)

標準 WS ジョブに定義する WSDL ファイルの、XML Schema データ型および soapenc データ型のサポート範囲について説明します。

接続する Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server のとき、オペレーションの引数、戻り値として、単純型 (XMLSchema の基本データ型) と複合型を指定できます。

単純型の場合、標準 WS ジョブを定義するとき、JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログに引数や戻り値のデータ型が表示されるので、ダイアログに値を入力することができます。一方、複合型の場合は、JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログに引数や戻り値のデータ型が表示されません。複合型の場合は、XML 形式で値を記述して、ダイアログに XML 文書を指定します。

ここでは、単純型を一覧で示します。ここで示すデータ型以外 (複合型) を使用する場合は、値を XML 形式で記述してください。

表 E-2 JP1/AJS3 - View for SOA Option のダイアログに表示されるデータ型 (単純型)

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	R E T	O U T	I N O U T
1	xsd:anyType	java.lang.Object	x	x	x	x
2	xsd:anySimpleType	java.lang.Object	x	x	x	x
3	xsd:base64Binary	byte []			x	x
4	xsd:boolean	java.lang.Boolean				

付録 E WSDL のサポート範囲 (Cosminexus Application Server の場合)

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	R E T	O U T	I N O U T
5	xsd:byte	java.lang.Byte				
6	xsd:date	java.util.Date				
7	xsd:dateTime	java.util.GregorianCalendar				
8	xsd:decimal	java.math.BigDecimal				
9	xsd:double	java.lang.Double				
10	xsd:float	java.lang.Float				
11	xsd:hexBinary	byte[]				
12	xsd:int	java.lang.Integer				
13	xsd:integer	java.math.BigInteger				
14	xsd:long	java.lang.Long				
15	xsd:QName	javax.xml.namespace.QName				
16	xsd:short	java.lang.Short				
17	xsd:string	java.lang.String				
18	xsd2000:timeInstant <sup>3</sup>	java.util.GregorianCalendar	x	x	x	x
19	xsd:duration	org.apache.axis.types.Duration	x	x	x	x
20	xsd:time	org.apache.axis.types.Time	x	x	x	x
21	xsd:gYearMonth	org.apache.axis.types.YearMonth	x	x	x	x
22	xsd:gYear	org.apache.axis.types.Year	x	x	x	x
23	xsd:gMonthDay	org.apache.axis.types.MonthDay	x	x	x	x
24	xsd:gDay	org.apache.axis.types.Day	x	x	x	x
25	xsd:gMonth	org.apache.axis.types.Month	x	x	x	x
26	xsd:anyURI	org.apache.axis.types.URI	x	x	x	x

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	R E T	O U T	I N O U T
27	xsd:normalizedString	org.apache.axis.types.NormalizedString	x	x	x	x
28	xsd:token	org.apache.axis.types.Token	x	x	x	x
29	xsd:Name	org.apache.axis.types.Name	x	x	x	x
30	xsd:NCName	org.apache.axis.types.NCName	x	x	x	x
31	xsd:NMTOKEN	org.apache.axis.types.NMTOKEN	x	x	x	x
32	xsd:nonPositiveInteger	org.apache.axis.types.NonPositiveInteger	x	x	x	x
33	xsd:negativeInteger	org.apache.axis.types.NegativeInteger	x	x	x	x
34	xsd:nonNegativeInteger	org.apache.axis.types.NonNegativeInteger	x	x	x	x
35	xsd:unsignedInt	org.apache.axis.types.UnsignedInt	x	x	x	x
36	xsd:unsignedShort	org.apache.axis.types.UnsignedShort	x	x	x	x
37	xsd:unsignedLong	org.apache.axis.types.UnsignedLong	x	x	x	x
38	xsd:unsignedByte	org.apache.axis.types.UnsignedByte	x	x	x	x
39	xsd:positiveInteger	org.apache.axis.types.PositiveInteger	x	x	x	x
40	xsd:language	org.apache.axis.types.Language	x	x	x	x
41	xsd:ID	org.apache.axis.types.Id	x	x	x	x
42	xsd:IDREF	org.apache.axis.types.IDRef	x	x	x	x
43	xsd:ENTITY	org.apache.axis.types.Entity	x	x	x	x
44	xsd:IDREFS	org.apache.axis.types.IDRefs	x	x	x	x
45	xsd:ENTITIES	org.apache.axis.types.Entities	x	x	x	x
46	xsd:NMTOKENS	org.apache.axis.types.NMTokens	x	x	x	x
47	soapenc:Array	java.lang.Object []	x	x	x	x

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	R E T	O U T	I N O U T
4 8	soapenc:base64	byte[]	x	x	x	x
4 9	soapenc:boolean	java.lang.Boolean	x	x	x	x
5 0	soapenc:byte	java.lang.Byte	x	x	x	x
5 1	soapenc:decimal	java.math.BigDecimal	x	x	x	x
5 2	soapenc:double	java.lang.Double	x	x	x	x
5 3	soapenc:float	java.lang.Float	x	x	x	x
5 4	soapenc:int	java.lang.Integer	x	x	x	x
5 5	soapenc:integer	java.math.BigInteger	x	x	x	x
5 6	soapenc:long	java.lang.Long	x	x	x	x
5 7	soapenc:short	java.lang.Short	x	x	x	x
5 8	soapenc:string	java.lang.String	x	x	x	x

(凡例)

IN : IN パラメーターとして使用することを指します。

RET : 戻り値として指定することを指します。

OUT : OUT パラメーターとして指定することを指します。

INOUT : INOUT パラメーターとして指定することを指します。

: 指定できます。

x : 指定できません。

注 1

"xsd" は XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

"soapenc" は soapenc の名前空間プレフィクスを指します。

注 2

Java データ型は、Cosminexus の Web サービスライブラリでの対応型です。

注 3

"xsd2000" は、XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

## 付録 F WSDL のサポート範囲 ( WebSphere Application Server の場合 )

Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合に、標準 WS ジョブを定義するときに留意が必要な WSDL のサポート範囲について説明します。

### 付録 F.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( WebSphere Application Server の場合 )

標準 WS ジョブで定義できる WSDL1.1 仕様のサポート範囲を次の表に示し、そのあとに、それぞれの要素についての詳細を説明します。

表 F-1 標準 WS ジョブで定義できる WSDL1.1 仕様のサポート範囲

分類	要素名 <sup>1</sup> <sup>2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート
ドキュメンテーション	wSDL:document			
インポート	wSDL:import			x
タイプ	wSDL:types			
メッセージ	wSDL:message	wSDL:part		
			name	
ポートタイプ	wSDL:portType			
		wSDL:operation		
			name	
バインディング	wSDL:binding			
サービス	wSDL:service		name	
		wSDL:port	name	
SOAP バインディング	soap:binding			
			style	
			soapAction	
	soap:body		encodingStyle	x
			use	
			namespace	

分類	要素名 <sup>1</sup> <sup>2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート
	soap: fault			
	soap: header			×
	soap: headerfault			×
	soap: address			

( 凡例 )

- : サポートされます。
- ◐ : 一部サポートされます。
- ×

注 1

「wsdl」は、WSDL1.1 の名前空間プレフィックスを示します。

注 2

「soap」は WSDL1.1 の soap 拡張要素の名前空間プレフィックスを示します。

### ( 1 ) wsdl:documentation 要素

標準 WS ジョブで、この要素は使用できません。

### ( 2 ) wsdl:import 要素

標準 WS ジョブでは、wsdl:import 要素はサポートされません。wsdl:import 要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 3 ) wsdl:types 要素

標準 WS ジョブでは、document/literal パターンでの wrapped 要素だけがサポートされます。

wrapped 要素の子要素の type 属性には、「付録 F.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebSphere Application Server の場合 )」で示すデータ型だけ指定できます。

なお、JP1/AJS3 - SOA Option では、types 要素の子要素の schema 要素中に import、include 要素を指定できません。

### ( 4 ) wsdl:message 要素

wsdl:message の子要素の type 属性には、「付録 F.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebSphere Application Server の場合 )」で示すデータ型だけ指定できます。

また、wsdl:message の子要素に wsdl:element 属性を指定した場合、値には document/literal パターンでの wrapped 要素だけを指定できます。

wsdl:type 属性に指定された値、または wsdl:element 属性に指定した要素 ( element ) の子要素の type 属性に指定された値が、次のどちらかの状態に当てはまる場合、その

message 要素を input または output 要素とするオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中に [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

- 「付録 F.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebSphere Application Server の場合 )」で示すデータ型以外の場合
- wsdl:message の子要素の name 属性が、1,023 バイトを超える場合

## ( 5 ) wsdl:portType 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションの操作パターン ( transmission primitive ) のうち request/response だけがサポートされます。操作パターンが request/response でないオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

標準 WS ジョブでは、オペレーションのオーバーロード ( 同じ名前異なるパラメータを持つ複数のオペレーション ) はサポートされません。wsdl:operation 要素の name 属性に同じものが複数ある場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

wsdl:operation 要素の name 属性の値が QName 形式で、かつ 1,023 バイトを超える場合、そのオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

オペレーションの最大個数は 100 個です。WSDL ファイル中に wsdl:operation 要素が 101 個以上指定されている場合、先頭から 100 個分の wsdl:operation 要素についてだけ処理されます。

wsdl:input 要素または wsdl:output 要素中の wsdl:message 要素の最大個数は 100 個です。wsdl:message 要素の数が 101 個以上ある場合、その wsdl:input 要素、wsdl:output 要素を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

document スタイルの WSDL ファイルの場合、wsdl:message 要素内の element 属性に指定した要素 ( xsd:element ) の子要素の最大個数は 100 個です。子要素が 101 個以上の要素 ( xsd:element ) を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

## ( 6 ) wsdl:binding 要素

標準 WS ジョブでは、バインディングのタイプのうち、SOAP バインディングだけがサポートされます。SOAP バインディング以外のバインディング要素が指定されていた場合 ( wsdl:binding の子要素として soap:binding が指定されていない場合 )、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

また、wsdl:binding の子要素の wsdl:input、wsdl:output 要素の子要素として、soap:body 要素だけがサポートされます。soap:body 以外の要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 7 ) wsdl:service 要素

標準 WS ジョブでは、複数の wsdl:service 要素が指定された WSDL ファイルはサポートされません。また、wsdl:service の子要素に複数の wsdl:port が指定された WSDL ファイルはサポートされません。

また、wsdl:service 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、または wsdl:port 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、WSDL ファイルはサポートされません。

WSDL ファイルに複数の wsdl:service 要素が指定されている場合、複数の wsdl:port が指定されている場合、または name 属性の値が制限を超えている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 8 ) soap:binding 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションのスタイルとして、"rpc" および "document" の両方がサポートされます。

### ( 9 ) soap:operation 要素

標準 WS ジョブでは、soapAction 属性の値が 511 バイト以内であるときにサポートされます。

soapAction 属性の値が 512 バイトを超える場合、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 10 ) soap:body 要素および soap:fault 要素

標準 WS ジョブでは、use 属性の値として "literal" だけがサポートされます。"encoded" が指定されたオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 11 ) soap:header 要素および soap:headerfault 要素

標準 WS ジョブでは、soap:header 要素および soap:headerfault 要素はサポートされません。soap:header 要素、soap:headerfault 要素が指定されているオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 12 ) soap:address 要素

標準 WS ジョブでは、location 属性の値が 511 バイト以内の場合にサポートされます。

location 属性の値が 512 バイトを超える場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

## ( 13 ) サポートされるオペレーションが一つもない場合の動作

標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

## 付録 F.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebSphere Application Server の場合 )

標準 WS ジョブに定義する WSDL ファイルの、XML Schema データ型および soapenc データ型のサポート範囲について説明します。

標準 WS ジョブでは、オペレーションの引数および戻り値として、XMLSchema の基本データ型だけを指定できます。基本データ型以外 ( 複合型、配列、列挙型 ) は指定できません。

標準 WS ジョブで指定できるデータ型の一覧を、次の表に示します。

表 F-2 指定できるデータ型

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
1	xsd:anyType	java.lang.Object	×	×	×	×
2	xsd:anySimpleType	java.lang.String	×	×	×	×
3	xsd:base64Binary	byte[]				
4	xsd:boolean	boolean				
5	xsd:byte	byte				
6	xsd:date	java.util.Calendar				
7	xsd:dateTime	java.util.Calendar				
8	xsd:decimal	java.math.BigDecimal				
9	xsd:double	double				
10	xsd:float	float				
11	xsd:hexBinary	byte[]				
12	xsd:int	int				
13	xsd:integer	java.math.BigInteger				
14	xsd:long	long				
15	xsd:QName	javax.xml.namespace.QName				
16	xsd:short	short				

付録 F WSDL のサポート範囲 ( WebSphere Application Server の場合 )

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
1 7	xsd:string	java.lang.String				
1 8	xsd2000:timeInstant <sup>3</sup>	java.util.Calendar	x	x	x	x
1 9	xsd:duration	java.lang.String	x	x	x	x
2 0	xsd:time	java.util.Calendar	x	x	x	x
2 1	xsd:gYearMonth	java.lang.String	x	x	x	x
2 2	xsd:gYear	java.lang.String	x	x	x	x
2 3	xsd:gMonthDay	java.lang.String	x	x	x	x
2 4	xsd:gDay	java.lang.String	x	x	x	x
2 5	xsd:gMonth	java.lang.String	x	x	x	x
2 6	xsd:anyURI	java.net.URI	x	x	x	x
2 7	xsd:normalizedString	java.lang.String	x	x	x	x
2 8	xsd:token	java.lang.String	x	x	x	x
2 9	xsd:Name	java.lang.String	x	x	x	x
3 0	xsd:NCName	java.lang.String	x	x	x	x
3 1	xsd:NMTOKEN	java.lang.String	x	x	x	x
3 2	xsd:nonPositiveInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 3	xsd:negativeInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 4	xsd:nonNegativeInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 5	xsd:unsignedInt	long	x	x	x	x
3 6	xsd:unsignedShort	int	x	x	x	x
3 7	xsd:unsignedLong	java.math.BigInteger	x	x	x	x

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
38	xsd:unsignedByte	short	x	x	x	x
39	xsd:positiveInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
40	xsd:language	java.lang.String	x	x	x	x
41	xsd:ID	java.lang.String	x	x	x	x
42	xsd:IDREF	java.lang.String	x	x	x	x
43	xsd:ENTITY	javax.xml.soap.SOAPElement	x	x	x	x
44	xsd:IDREFS	java.lang.String[]	x	x	x	x
45	xsd:ENTITIES	javax.xml.soap.SOAPElement	x	x	x	x
46	xsd:NMTOKENS	java.lang.String[]	x	x	x	x
47	soapenc:Array	java.lang.Object[]	x	x	x	x
48	soapenc:base64	byte[]	x	x	x	x
49	soapenc:boolean	java.lang.Boolean	x	x	x	x
50	soapenc:byte	java.lang.Byte	x	x	x	x
51	soapenc:decimal	java.math.BigDecimal	x	x	x	x
52	soapenc:double	java.lang.Double	x	x	x	x
53	soapenc:float	java.lang.Float	x	x	x	x
54	soapenc:int	java.lang.Integer	x	x	x	x
55	soapenc:integer	java.math.BigInteger	x	x	x	x
56	soapenc:long	java.lang.Long	x	x	x	x
57	soapenc:short	java.lang.Short	x	x	x	x
58	soapenc:string	java.lang.String	x	x	x	x

( 凡例 )

IN : IN パラメーターとして使用することを指します。

RET : 戻り値として指定することを指します。

OUT : OUT パラメーターとして指定することを指します。

INOUT : INOUT パラメーターとして指定することを指します。

: 指定できます。

× : 指定できません。標準 WS ジョブ定義時エラーとなります。

注 1

"xsd" は XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

"soapenc" は soapenc の名前空間プレフィクスを指します。

注 2

Java データ型は、WebSphere の Web サービスライブラリでの対応型です。

注 3

"xsd2000" は、XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

## 付録 G WSDL のサポート範囲 (WebLogic Server の場合)

Web アプリケーションサーバが WebLogic Server の場合に、標準 WS ジョブを定義するときに留意が必要な WSDL のサポート範囲について説明します。

### 付録 G.1 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 (WebLogic Server の場合)

標準 WS ジョブで定義できる WSDL 1.1 仕様のサポート範囲を次の表に示し、そのあとに、それぞれの要素についての詳細を説明します。

表 G-1 標準 WS ジョブで定義できる WSDL 1.1 仕様のサポート範囲

分類	要素名 <sup>1 2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート
ドキュメンテーション	wsdl:document			
インポート	wsdl:import			x
タイプ	wsdl:types			
メッセージ	wsdl:message	wsdl:part		
			name	
ポートタイプ	wsdl:portType	wsdl:operation		
			name	
バインディング	wsdl:binding			
サービス	wsdl:service		name	
		wsdl:port	name	
SOAP バインディング	soap:binding			
	soap:operation		style	
			soapAction	
	soap:body		encodingStyle	x
			use	
		namespace		

分類	要素名 <sup>1</sup> <sup>2</sup>	子要素 <sup>1</sup>	属性	サポート
	soap:header			x
	soap:fault			
	soap:headerfault			x
	soap:address			

( 凡例 )

- : サポートされます。
- : 一部サポートされます。
- x : サポートされません。

注 1

「wsdl」は、WSDL1.1 の名前空間プレフィックスを示します。

注 2

「soap」は WSDL1.1 の soap 拡張要素の名前空間プレフィックスを示します。

### ( 1 ) wsdl:documentation 要素

標準 WS ジョブで、この要素は使用できません。

### ( 2 ) wsdl:import 要素

標準 WS ジョブでは、wsdl:import 要素はサポートされません。wsdl:import 要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 3 ) wsdl:types 要素

標準 WS ジョブでは、document/literal パターンでの wrapped 要素だけがサポートされます。

wrapped 要素の子要素の type 属性には、「付録 G.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebLogic Server の場合 )」で示すデータ型だけ指定できます。

なお、JP1/AJS3 - SOA Option では、types 要素の子要素の schema 要素中に import、include 要素を指定できません。

### ( 4 ) wsdl:message 要素

wsdl:message の子要素の type 属性には、「付録 G.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebLogic Server の場合 )」で示すデータ型だけ指定できます。

また、wsdl:message の子要素に wsdl:element 属性を指定した場合、値には document/literal パターンでの wrapped 要素だけを指定できます。

wsdl:type 属性に指定された値、または wsdl:element 属性に指定した要素 ( element ) の子要素の type 属性に指定された値が、次のどちらかの状態に当てはまる場合、その

message 要素を input または output 要素とするオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中に [ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

- 「付録 G.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebLogic Server の場合 )」で示すデータ型以外の場合
- wsdl:message の子要素の name 属性が、1,023 バイトを超える場合

## ( 5 ) wsdl:portType 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションの操作パターン ( transmission primitive ) のうち request/response だけがサポートされます。操作パターンが request/response でないオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

標準 WS ジョブでは、オペレーションのオーバーロード ( 同じ名前異なるパラメータを持つ複数のオペレーション ) はサポートされません。wsdl:operation 要素の name 属性に同じものが複数ある場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

wsdl:operation 要素の name 属性の値が QName 形式で、かつ 1,023 バイトを超える場合、そのオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

オペレーションの最大個数は 100 個です。WSDL ファイル中に wsdl:operation 要素が 101 個以上指定されている場合、先頭から 100 個分の wsdl:operation 要素についてだけ処理されます。

wsdl:input 要素または wsdl:output 要素中の wsdl:message 要素の最大個数は 100 個です。wsdl:message 要素の数が 101 個以上ある場合、その wsdl:input 要素、wsdl:output 要素を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

document スタイルの WSDL ファイルの場合、wsdl:message 要素内の element 属性に指定した要素 ( xsd:element ) の子要素の最大個数は 100 個です。子要素が 101 個以上の要素 ( xsd:element ) を持つオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

## ( 6 ) wsdl:binding 要素

標準 WS ジョブでは、バインディングのタイプのうち、SOAP バインディングだけがサポートされます。SOAP バインディング以外のバインディング要素が指定されていた場合 ( wsdl:binding の子要素として soap:binding が指定されていない場合 )、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

また、wsdl:binding の子要素の wsdl:input、wsdl:output 要素の子要素として、soap:body 要素だけがサポートされます。soap:body 以外の要素が指定されている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 7 ) wsdl:service 要素

標準 WS ジョブでは、複数の wsdl:service 要素が指定された WSDL ファイルはサポートされません。また、wsdl:service の子要素に複数の wsdl:port が指定された WSDL ファイルはサポートされません。

また、wsdl:service 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、または wsdl:port 要素の name 属性の値が、QName 形式で 1,023 バイトを超える場合、WSDL ファイルはサポートされません。

WSDL ファイルに複数の wsdl:service 要素が指定されている場合、複数の wsdl:port が指定されている場合、または name 属性の値が制限を超えている場合、標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

### ( 8 ) soap:binding 要素

標準 WS ジョブでは、オペレーションのスタイルとして、"rpc" および "document" の両方がサポートされます。

### ( 9 ) soap:operation 要素

標準 WS ジョブでは、soapAction 属性の値が 511 バイト以内であるときにサポートされます。

soapAction 属性の値が 512 バイトを超える場合、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 10 ) soap:body 要素および soap:fault 要素

標準 WS ジョブでは、use 属性の値として "literal" だけがサポートされます。"encoded" が指定されたオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 11 ) soap:header 要素および soap:headerfault 要素

標準 WS ジョブでは、soap:header 要素および soap:headerfault 要素はサポートされません。soap:header 要素、soap:headerfault 要素が指定されているオペレーションは、標準 WS ジョブの定義中、[ Web サービス選択 - ステップ 2 of 2 ] ダイアログボックスに表示されません。

### ( 12 ) サポートされるオペレーションが一つもない場合の動作

標準 WS ジョブの定義中にエラーとなります。

## 付録 G.2 標準 WS ジョブで指定できるデータ型 ( WebLogic Server の場合 )

標準 WS ジョブに定義する WSDL ファイルの、XML Schema データ型および soapenc データ型のサポート範囲について説明します。

標準 WS ジョブでは、オペレーションの引数および戻り値として、XMLSchema の基本データ型だけを指定できます。基本データ型以外 ( 複合型、配列、列挙型 ) は指定できません。

標準 WS ジョブで指定できるデータ型の一覧を、次の表に示します。

表 G-2 指定できるデータ型

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
1	xsd:anyType	java.lang.Object	×	×	×	×
2	xsd:anySimpleType	java.lang.String	×	×	×	×
3	xsd:base64Binary	byte []		3	3	3
4	xsd:boolean	boolean		3	3	3
5	xsd:byte	byte		3	3	3
6	xsd:date	java.util.Calendar		3	3	3
7	xsd:dateTime	java.util.Calendar		3	3	3
8	xsd:decimal	java.math.BigDecimal		3	3	3
9	xsd:double	double		3	3	3
10	xsd:float	float		3	3	3
11	xsd:hexBinary	byte []		3	×	×
12	xsd:int	int		3	3	3
13	xsd:integer	java.math.BigInteger		3	3	3
14	xsd:long	long		3	3	3
15	xsd:QName	javax.xml.namespace.QName		3	3	3

付録 G WSDL のサポート範囲 ( WebLogic Server の場合 )

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
1 6	xsd:short	short		3	3	3
1 7	xsd:string	java.lang.String		3	3	3
1 8	xsd2000:timeInstant 5	-	x	x	x	x
1 9	xsd:duration	java.lang.String	x	x	x	x
2 0	xsd:time	java.util.Calendar	x	x	x	x
2 1	xsd:gYearMonth	java.lang.String	x	x	x	x
2 2	xsd:gYear	java.lang.String	x	x	x	x
2 3	xsd:gMonthDay	java.lang.String	x	x	x	x
2 4	xsd:gDay	java.lang.String	x	x	x	x
2 5	xsd:gMonth	java.lang.String	x	x	x	x
2 6	xsd:anyURI	java.net.URI	x	x	x	x
2 7	xsd:normalizedStrin g	java.lang.String	x	x	x	x
2 8	xsd:token	java.lang.String	x	x	x	x
2 9	xsd:Name	java.lang.String	x	x	x	x
3 0	xsd:NCName	java.lang.String	x	x	x	x
3 1	xsd:NMTOKEN	java.lang.String	x	x	x	x
3 2	xsd:nonPositiveInte ger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 3	xsd:negativeInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 4	xsd:nonNegativeInte ger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
3 5	xsd:unsignedInt	long	x	x	x	x
3 6	xsd:unsignedShort	int	x	x	x	x

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
37	xsd:unsignedLong	java.math.BigInteger	x	x	x	x
38	xsd:unsignedByte	short	x	x	x	x
39	xsd:positiveInteger	java.math.BigInteger	x	x	x	x
40	xsd:language	java.lang.String	x	x	x	x
41	xsd:ID	java.lang.String	x	x	x	x
42	xsd:IDREF	java.lang.String	x	x	x	x
43	xsd:ENTITY	java.lang.String	x	x	x	x
44	xsd:IDREFS	java.lang.String[]	x	x	x	x
45	xsd:ENTITIES	java.lang.String[]	x	x	x	x
46	xsd:NMTOKENS	java.lang.String[]	x	x	x	x
47	soapenc:Array	java.lang.Object[]	x	x	x	x
48	soapenc:base64	byte[]	x	x	x	x
49	soapenc:boolean	java.lang.Boolean	x	x	x	x
50	soapenc:byte	java.lang.Byte	x	x	x	x
51	soapenc:decimal	java.math.BigDecimal	x	x	x	x
52	soapenc:double	java.lang.Double	x	x	x	x
53	soapenc:float	java.lang.Float	x	x	x	x
54	soapenc:int	java.lang.Integer	x	x	x	x
55	soapenc:integer	java.math.BigInteger	x	x	x	x
56	soapenc:long	java.lang.Long	x	x	x	x
57	soapenc:short	java.lang.Short	x	x	x	x

項番	データ型 <sup>1</sup>	Java データ型 <sup>2</sup>	I N	RE T	OU T	INOU T
5 8	soapenc:string	java.lang.String	x	x	x	x

( 凡例 )

IN : IN パラメーターとして使用することを指します。

RET : 戻り値として指定することを指します。

OUT : OUT パラメーターとして指定することを指します。

INOUT : INOUT パラメーターとして指定することを指します。

: 指定できます。

: rpc スタイルだけサポートされます。

x : 指定できません。標準 WS ジョブ定義時エラーとなります。

注 1

"xsd" は XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

"soapenc" は soapenc の名前空間プレフィクスを指します。

注 2

Java データ型は、WebLogic の Web サービスでサポートするデータバインディングの対応型です。

注 3

WebLogic では、document スタイルの Web サービスで、RET パラメーター、OUT パラメーター、および INOUT パラメーターはサポートされません。rpc スタイルの Web サービスだけがサポートされます。

注 4

WebLogic の Web サービスとして使用できないため、サポートされません。

注 5

"xsd2000" は、XMLSchema の名前空間プレフィクスを指します。

---

## 付録 H 用語解説

### (英字)

---

#### ajsexecute メソッド

WS プログラム実行時の呼び出し口となるメソッドです。WS プログラム提供インターフェースに従って WS プログラムを実装する必要があります。

#### Cosminexus

アプリケーションサーバを中核とした、性能および信頼性の高い業務アプリケーションを実行および開発するためのシステム構築基盤製品です。

#### Cosminexus Application Server

Cosminexus の実行環境を構築する基盤製品です。Application Server Standard と、Application Server Enterprise の総称です。

#### JavaVM

Java Virtual Machine の略です。Java 言語で実装されたプログラムを実行するためのソフトウェアです。

#### JavaVM 起動オプション設定ファイル

JP1/AJS3・SOA Option を動作させる JavaVM の起動パラメーターを記述したファイルです。コントローラーを開始する際の、メモリー使用量の最大値を設定できます。

#### SOAP ( Simple Object Access Protocol )

HTTP などの通信プロトコルを下位に持ち、ネットワークを経由したオブジェクト間の通信を規定したプロトコルです。リモートマシン上のオブジェクトに対するアクセスには、XML の技術を利用した SOAP メッセージを利用します。

#### SOAP アプリケーション

SOAP および WSDL の技術を利用して開発し、ネットワークを利用して公開、実行できるアプリケーションのことをいいます。SOAP アプリケーションでは、クライアント側に実装された処理によって、SOAP サービスを呼び出し、提供されるサービスを利用します。

#### SOAP クライアントライブラリ

WS ジョブ実行ホストから Web サービス提供ホストに対して、Web サービスの接続処理を実施します。

Cosminexus の SOAP クライアントライブラリ、WebSphere Application Server の SOAP クライアントライブラリ、および WebLogic Server の SOAP クライアントライブラリを総称しています。

#### WebLogic Server

Oracle Corporation が提供する Web アプリケーションサーバです。

## WebSphere Application Server

IBM が提供している J2EE 準拠の Web アプリケーションサーバです。

## Web アプリケーションサーバ

Cosminexus Application Server , WebSphere Application Server , または WebLogic Server を指します。

WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバと Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバは同一にする必要があります。例えば、WS ジョブ実行ホストの Web アプリケーションサーバが WebSphere Application Server の場合は、Web サービス提供ホストの Web アプリケーションサーバも WebSphere Application Server にします。

## Web サービス

Web 関連の技術を利用して、ネットワークを介して提供されるサービスです。

JP1/AJS3 - SOA Option が接続できる Web サービスは、Cosminexus Application Server , WebSphere Application Server , または WebLogic Server の SOAP アプリケーションです。

## Web サービスクライアント

Web サービスのクライアントプログラムのことです。

## Web サービス提供ホスト

Web サービスを提供するホストです。WS ジョブ実行ホストからの要求を実行し、処理結果を返信します。

## WSDL ( Web Services Description Language )

インターフェース定義の言語仕様の一つです。SOAP アプリケーションの開発では、サーバ側に実装した SOAP サービスにアクセスするためのインターフェース定義を記述します。

## WS コネクタ

JP1/AJS3 - SOA Option が用意している Web サービスクライアントです。WS コネクタを利用することで、Web サービスクライアントを開発することなく、Web サービスに接続することができます。

## WS ジョブ

Web サービスのクライアントプログラムの実行を定義したジョブのことです。WS ジョブをジョブネットに組み込むことで、Web サービスに接続した業務を JP1/AJS2 から実行できます。

## WS ジョブ実行ホスト

JP1/AJS3 - SOA Option をインストールしたホストです。

JP1/AJS3 - SOA Option は、JP1/AJS3 - Agent または JP1/AJS2 - Agent , および Web アプリケーションサーバと同じホストにインストールします。また、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で WS ジョブを実行する場合は、マネージャーホストに JP1/AJS3 - SOA Option , および Web アプリケーションサーバをインストールします。

## WS 接続環境設定ファイル

標準 WS ジョブによる Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを使用する場合の環境、Web サービス接続に失敗した場合のリトライ回数などを設定するファイルです。

## WS プログラム

JP1/AJS3 - SOA Option のコントローラー上で動作する、次の Web サービスクライアントのことを指します。

- WS コネクター
- ユーザー WS プログラム

WS ジョブの実行プログラムとして定義することで、WS ジョブの実行を契機に Web サービスに接続できます。

## WS プログラム実行 ID

WS プログラムの実行時に、WS プログラム実行アクションに対して発行される ID のことを指します。実行された一つの WS プログラムにつき、一つの ID が発行されます。

## WS プログラム実行インターフェース

コントローラーが WS プログラムを呼び出すためのインターフェースです。WS プログラムは、この WS プログラム実行インターフェースに従って実装している必要があります。

## (カ行)

---

### 環境設定パラメーター

JP1/AJS, JP1/AJS3 - SOA Option, および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用に必要な各種情報を定義するためのパラメーターです。環境設定ファイルの中に記述します。

例えば、JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定パラメーターでは、同時に実行する WS プログラムの数を設定できます。

JP1/AJS の環境設定パラメーターでは、ジョブネットワーク要素を作成するディレクトリを設定したり、イベントログの出力の可否を設定したりします。

JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定パラメーターでは、稼働ログのサイズなどを設定します。

### 環境設定ファイル

JP1/AJS, JP1/AJS3 - SOA Option, および JP1/AJS3 - View for SOA Option の運用に必要な情報を設定するファイルです。

例えば、JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイル (ajswscommon.conf) には、JP1/AJS3 - SOA Option の同時に実行する WS プログラムの数が記述されています。

JP1/AJS の環境設定ファイルには、スケジューラーサービスの環境やジョブの実行環境などが設定されています。

JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定ファイルには、稼働ログのサイズや面数が設定されています。

### 組み込み SOAP クライアントライブラリ

JP1/AJS3 - SOA Option に組み込まれている SOAP クライアントライブラリです。

Web アプリケーションサーバに Cosminexus Application Server を使用する場合、組み込み SOAP クライアントライブラリを使うと、WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server がなくても WS ジョブを実行できます。

## クライアント

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View をインストールしたホストです。  
WS ジョブの定義、および実行状態の監視ができます。

## クライアント定義ファイル

ユーザー WS ジョブによる Web サービス接続で、HTTP プロキシサーバを使用する場合の環境、  
Web サービス接続に失敗した場合のリトライ回数などを設定するファイルです。このファイルは、  
Web アプリケーションサーバが Cosminexus Application Server の場合だけ使用するファイルです。

## コントローラー

コントローラーは、JP1/AJS3 - SOA Option のコンポーネントです。  
WS ジョブ実行ホストの OS 上に JavaVM を常駐し、WS プログラムをスレッドとして実行すること  
で、WS プログラムの高速起動を実現しています。

## ( サ行 )

---

### 実行クラス名

WS プログラム内の、定められたインターフェース ( WS プログラム提供インターフェース ) を実装  
したクラスのことです。WS プログラムの実行時、コントローラーによって実行されるクラスです。

### 出力パラメーターファイル

Web サービスのオペレーションの出力メッセージを保存するファイルです。標準 WS ジョブに、出  
力パラメーターファイルを出力するかどうかを定義します。

## ( タ行 )

---

### 単純型

WSDL ファイルに定義されているパラメーターのデータ型の一つです。このマニュアルでは、XML  
Schema の基本データ型を指します。

## ( ナ行 )

---

### 入力パラメーターファイル

Web サービスのオペレーションで入力メッセージにセットするパラメーターの値を設定したファ  
イルです。標準 WS ジョブに入力パラメーターファイルを定義すると、入力パラメーターファイルに  
設定したパラメーターの値が読み込まれます。

## ( ハ行 )

---

### 引き継ぎ情報出力インターフェース

ユーザー WS プログラムの処理結果をユーザー WS ジョブの定義で指定した標準出力ファイルに出  
力するためのインターフェースです。ユーザー WS ジョブの後続ジョブに、ユーザー WS プログラ

ムの処理結果を引き継ぎたい場合に、ユーザー WS プログラムに実装します。

### 標準 WS ジョブ

Web サービスクライアントの開発なしで、Web サービスに接続できる WS ジョブのことです。JP1/AJS3 - SOA Option が提供する WS コネクタが実行プログラムとなります。

### 複合型

WSDL ファイルに定義されているパラメーターのデータ型の一つです。このマニュアルでは、単純型 (XML Schema の基本データ型) 以外のデータ型を指します。

次の場合に、複合型を使用した標準 WS ジョブを定義できます。

- WS ジョブ実行ホストに Cosminexus Application Server を置き、Cosminexus の SOAP クライアントライブラリを使用している場合
- 組み込み SOAP クライアントライブラリを使用している場合

## (マ行)

---

### マネージャーホスト

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager をインストールしたホストです。ジョブネットの定義情報やスケジュール情報をデータベースで管理し、ジョブの実行をエージェントホストに依頼して実行させます。

## (ヤ行)

---

### ユーザー WS ジョブ

ユーザー WS プログラムを実行プログラムとして定義した WS ジョブのことです。

### ユーザー WS プログラム

Web サービスクライアントに、JP1/AJS3 - SOA Option が規定するインターフェース (WS プログラム実行インターフェース) を実装したプログラムを指します。

JP1/AJS3 - SOA Option では、Web サービスクライアントをすでに開発してある場合でも、その Web サービスクライアントに JP1/AJS3 - SOA Option が規定するインターフェースを実装することで、Web サービスに接続することができます。



---

# 索引

## A

---

ajsexecute 202  
ajsexecute メソッド 411  
ajsws\_log 277, 382  
ajsws\_log.bat 382  
ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびディレクトリ一覧〔UNIX の場合〕 278  
ajsws\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダー一覧〔Windows の場合〕 277  
ajsws\_userwsjobdialog.exe 383  
ajsws\_ws.conf〔UNIX の場合〕 131  
ajsws\_ws.conf〔Windows の場合〕 87  
ajsws\_ws.conf に定義できる環境設定パラメーター一覧〔UNIX の場合〕 131  
ajsws\_ws.conf に定義できる環境設定パラメーター一覧〔Windows の場合〕 87  
ajsws\_wsjobdialog.exe 383  
ajswscommon.conf〔UNIX の場合〕 121  
ajswscommon.conf〔Windows の場合〕 76  
ajswscommon.conf に定義できる環境設定パラメーター一覧〔UNIX の場合〕 121  
ajswscommon.conf に定義できる環境設定パラメーター一覧〔Windows の場合〕 76  
ajswscontroller 382  
ajswscontroller.exe 382  
ajswsjobstart 382  
ajswsjobstart.exe 382  
ajswskillwsp 264, 382  
ajswsservice.exe 382  
ajswsstart 382  
ajswsstart (UNIX 限定) 266  
ajswsstatus 268, 382  
ajswsstatus.exe 382  
ajswsstop 382  
ajswsstop (UNIX 限定) 273  
ajswsv\_log.bat 383  
ajswsv\_log〔Windows 限定〕 281  
ajswsv\_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダー一覧 281

ajswsvcommon.conf 153  
ajswsvcommon.conf に定義できる環境設定パラメーター一覧 153  
ajswsvgetWSDL.exe 383  
ajswsvgetWSDL〔Windows 限定〕 275

## C

---

c4webcl.properties〔UNIX の場合〕 134  
c4webcl.properties〔Windows の場合〕 90  
CLASSPATH 環境変数 200  
CLASSPATH 環境変数の設定〔UNIX の場合〕 113  
CLASSPATH 環境変数の設定〔Windows の場合〕 69  
CLASSPATH 環境変数の設定例〔UNIX の場合〕 113  
CLASSPATH 環境変数の設定例〔Windows の場合〕 69  
Cosminexus 411  
Cosminexus Application Server 411

## F

---

FTP 199

## H

---

HTTPS 通信する場合の設定〔UNIX の場合〕 141  
HTTPS 通信する場合の設定〔Windows の場合〕 98  
HTTP 基本認証を利用する〔UNIX の場合〕 138  
HTTP 基本認証を利用する〔Windows の場合〕 95  
HTTP 基本認証を利用する場合の設定手順〔UNIX の場合〕 138  
HTTP 基本認証を利用する場合の設定手順〔Windows の場合〕 95  
HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容〔UNIX の場合〕 138

HTTP 基本認証を利用する場合の設定内容  
〔Windows の場合〕 95

HTTP 基本認証を利用する場合の設定例  
〔UNIX の場合〕 139

HTTP 基本認証を利用する場合の設定例  
〔Windows の場合〕 96

HTTP プロキシサーバを利用する〔UNIX の  
場合〕 139

HTTP プロキシサーバを利用する  
〔Windows の場合〕 96

## I

---

IP アドレスを変更する 242

## J

---

JavaVM 411

JavaVM 起動オプション設定ファイル  
380, 411

JavaVM 起動オプション設定ファイル  
〔UNIX の場合〕 120

JavaVM 起動オプション設定ファイル  
〔Windows の場合〕 75

JavaVM 起動オプション設定ファイル  
ajswsjavavmoptions.conf に定義するオプ  
ション〔UNIX の場合〕 129

JavaVM 起動オプション設定ファイル  
ajswsjavavmoptions.conf に定義するオプ  
ション〔Windows の場合〕 85

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義  
〔UNIX の場合〕 129

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義  
〔Windows の場合〕 85

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義  
例〔UNIX の場合〕 129

JavaVM 起動オプション設定ファイルの定義  
例〔Windows の場合〕 86

JavaVM 起動オプション設定モデルファイル  
380

JP1/AJS3 - SOA Option 運用コマンド稼働口  
グ 251

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール  
〔UNIX の場合〕 109

JP1/AJS3 - SOA Option のインストール  
〔Windows の場合〕 65

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定の制限値  
385

JP1/AJS3 - SOA Option の環境設定ファイル  
のバックアップとリカバリー 239

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム構成の制  
限值 385

JP1/AJS3 - SOA Option のシステム全体像  
12

JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定  
ファイル 381

JP1/AJS3 - View for SOA Option 環境設定モ  
デルファイル 381

JP1/AJS3 - View for SOA Option のインス  
トール 146

JP1/AJS3 - View for SOA Option の環境設定  
ファイルのバックアップとリカバリー 241

## L

---

LANG 環境変数の設定 113

LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数の設定 114

## O

---

OS のサービスリスト 277

OS のシステム情報 277, 281

OS のプロセスリスト 277

## P

---

PATH 環境変数の設定 (Cosminexus  
Application Server を使用する場合) 68

PATH 環境変数の設定 (WebLogic Server  
9.2 を使用する場合) 69

PATH 環境変数の設定 (WebSphere  
Application Server を使用する場合) 69

PATH 環境変数の設定例 (Cosminexus  
Application Server を使用する場合) 68

PATH 環境変数の設定例 (WebLogic Server  
9.2 を使用する場合) 69

print 204

println 204

## S

SOAP 411  
 SOAP アプリケーション 411  
 SOAP クライアントライブラリ 411  
 SOAP のバージョン 16, 386

## W

WebLogic Server 411  
 WebLogic Server 10 以降に必要な設定  
 [ Windows の場合 ] 67  
 WebLogic Server 11g を使用する場合には必要  
 な設定 [ UNIX の場合 ] 112  
 WebSphere Application Server 412  
 Web アプリケーションサーバ 412  
 Web アプリケーションサーバの起動 219  
 Web サービス 412  
 Web サービスクライアント 412  
 [Web サービス選択 - ステップ 1 of 2] ダイア  
 ログボックス 297  
     WSDL ファイル名 297  
 [Web サービス選択 - ステップ 2 of 2] ダイア  
 ログボックス 298  
     WSDL ファイル名 299  
     オペレーション 299  
     出力パラメーター 299  
     入力パラメーター 299  
 Web サービス提供ホスト 13, 412  
 Web サービス提供ホストと接続 24, 26  
 Web サービス提供ホストへの接続要求  
 23, 26  
 Web サービスとの通信ログ 277  
 WSDL 412  
 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲  
 ( Cosminexus Application Server の場合 )  
 387  
 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( WebLogic  
 Server の場合 ) 403  
 WSDL 1.1 仕様のサポート範囲 ( WebSphere  
 Application Server の場合 ) 395  
 WSDL の取得 174  
 WSDL ファイル 219  
 wseeclient.jar [ UNIX の場合 ] 112  
 wseeclient.jar [ Windows の場合 ] 67  
 wseeclient.zip [ Windows の場合 ] 67  
 WS コネクター 412  
 WS コネクターの実行 23  
 WS ジョブ 412  
 WS ジョブ実行 ID 271  
 WS ジョブ実行時のワークパスの設定  
 [ UNIX の場合 ] 119  
 WS ジョブ実行時のワークパスの設定  
 [ Windows の場合 ] 74  
 WS ジョブ実行の流れ 218  
 WS ジョブ実行ホスト 13, 412  
 WS ジョブ実行前の準備 219  
 WS ジョブ定義情報のバックアップとリカバ  
 リー 239  
 WS ジョブの強制終了 29, 228  
 WS ジョブの強制終了機能 15  
 WS ジョブの実行 22, 31, 217  
 WS ジョブの実行機能 14  
 WS ジョブの実行結果の確認 230  
 WS ジョブの実行状況の確認 228  
 WS ジョブの実行登録 227  
 WS ジョブの実行抑止 238  
 WS ジョブの定義 31  
     WS ジョブの実行プログラムに WS コ  
     ネクターを定義する 31  
     WS ジョブの実行プログラムにユー  
     ザー WS プログラムを定義する 31  
 WS ジョブの定義機能 14  
 WS 接続環境設定ファイル 220, 380, 412  
 WS 接続環境設定ファイル [ UNIX の場合 ]  
 120, 130  
 WS 接続環境設定ファイル [ Windows の場  
 合 ] 75, 87  
 WS 接続環境設定ファイルの定義 [ UNIX の  
 場合 ] 130  
 WS 接続環境設定ファイルの定義 [ Windows  
 の場合 ] 87  
 WS 接続環境設定ファイルの定義例 [ UNIX  
 の場合 ] 133  
 WS 接続環境設定ファイルの定義例  
 [ Windows の場合 ] 90  
 WS 接続環境設定モデルファイル 381

WS 定義 GUI 稼働ログ 251  
 WS プログラム 413  
 WS プログラム強制終了コマンドプロセス  
 382  
 WS プログラム実行 ID 271, 413  
 WS プログラム実行インターフェース  
 202, 413  
 WS プログラム実行情報 270  
 WS プログラム提供インターフェース 200  
 WS プログラムを GUI で作成する 16  
 WS プログラムを独自に開発する 20

## X

XML 文書の作成 (複合型の場合) 187  
 XML 文書の作成例 188

## あ

アーカイブ 200  
 アップグレード 56  
     JP1/AJS2 - View for Web Service から  
     JP1/AJS3 - View for SOA Option へ  
     のアップグレード 56  
     JP1/AJS2 for Web Service から JP1/  
     AJS3 - SOA Option へのアップグ  
     レード 56  
 アンインストール  
     JP1/AJS3 - SOA Option [ UNIX の場  
     合 ] 144  
     JP1/AJS3 - SOA Option [ Windows  
     の場合 ] 101  
     JP1/AJS3 - View for SOA Option 159

## い

インスタンス生成タイミング 205  
 インスタンス破棄タイミング 205  
 インストール先フォルダ IX  
 インストールとセットアップの流れ [ UNIX  
 の場合 ] 104  
 インストールとセットアップの流れ  
 [ Windows の場合 ] 60

## う

運用編の読み方 170

## お

オンラインマニュアル IX

## か

開始コマンドプロセス [ UNIX 限定 ] 382  
 開始時刻 271  
 開発環境 199  
 開発手順 199  
 各種ファイルの確認 219  
 カスタムジョブ 155  
 カスタムジョブ登録の手順 155  
 カスタムジョブの登録内容 156  
 稼働ログ 248  
 稼働ログファイルおよびフォルダ一覧 248  
 環境設定手順 [ JP1/AJS3 - View for SOA  
 Option ] 152  
 環境設定パラメーター 413  
 環境設定パラメーター名 [ JP1/AJS3 - SOA  
 Option ] [ UNIX の場合 ] 121  
 環境設定パラメーター名 [ JP1/AJS3 - SOA  
 Option ] [ Windows の場合 ] 76  
 環境設定パラメーター名 [ JP1/AJS3 - View  
 for SOA Option ] 153  
 環境設定パラメーター名の対応 [ UNIX の場  
 合 ] 136  
 環境設定パラメーター名の対応 [ Windows  
 の場合 ] 92  
 環境設定ファイル 380, 413  
 環境設定ファイル [ JP1/AJS3 - View for  
 SOA Option ] 152  
 環境設定ファイル [ UNIX の場合 ] 120  
 環境設定ファイル [ Windows の場合 ] 75  
 環境設定ファイルの設定例 [ JP1/AJS3 -  
 SOA Option ] [ UNIX の場合 ] 128  
 環境設定ファイルの設定例 [ JP1/AJS3 -  
 SOA Option ] [ Windows の場合 ] 83  
 環境設定ファイルの設定例 [ JP1/AJS3 -  
 View for SOA Option ] 154

環境設定ファイルの定義手順〔JP1/AJS3 - SOA Option〕〔UNIX の場合〕 120  
 環境設定ファイルの定義手順〔JP1/AJS3 - SOA Option〕〔Windows の場合〕 75  
 環境設定モデルファイル 380  
 環境変数の設定〔UNIX の場合〕 113  
 環境変数の設定〔Windows の場合〕 68  
 環境変数の設定例〔UNIX の場合〕 115

## き

記述形式 262  
 既存の Web サービスクライアントの有効活用 5  
 強制終了 15, 29, 228

## く

組み込み SOAP クライアントライブラリ 26, 413  
 組み込み SOAP クライアントライブラリを使った WS ジョブ実行の仕組み 26  
 クライアント 12, 414  
 クライアント定義ファイル 220, 381, 414  
 クライアント定義ファイル〔UNIX の場合〕 120, 130, 140  
 クライアント定義ファイル〔Windows の場合〕 75, 87, 97  
 クライアント定義ファイルの定義〔UNIX の場合〕 134  
 クライアント定義ファイルの定義〔Windows の場合〕 90  
 クライアント定義ファイルの定義項目〔UNIX の場合〕 134  
 クライアント定義ファイルの定義項目〔Windows の場合〕 91  
 クライアント定義ファイルの定義例〔UNIX の場合〕 135  
 クライアント定義ファイルの定義例〔Windows の場合〕 91  
 クラスタシステム 161  
 クラスタシステムでの環境構築 162  
   インストール 162  
   環境設定 163

クラスタソフトへの登録 163  
 セットアップ 162  
 前提条件 162

## け

系切り替え 166

## こ

高速起動 5  
 構築から運用までの流れ 30  
 コマンド一覧 263  
 コマンド稼働ログ〔UNIX の場合〕 250  
 コマンド稼働ログ〔Windows の場合〕 249  
 コマンド実行時刻 270  
 コマンドの記述形式 262  
 コントローラー 22, 414  
 コントローラー 開始時刻 270  
 コントローラー稼働ログ〔UNIX の場合〕 250  
 コントローラー稼働ログ〔Windows の場合〕 249  
 コントローラー状態 270  
 コントローラーの開始〔UNIX の場合〕 224  
 コントローラーの開始〔Windows の場合〕 221  
 コントローラーの終了〔UNIX の場合〕 224  
 コントローラーの終了〔Windows の場合〕 221  
 コントローラープロセス 382  
 コントローラーを自動で開始または終了する〔UNIX の場合〕 224  
 コントローラーを自動で開始または終了する〔Windows の場合〕 222  
 コンパイル 200

## さ

サービスマネージャー稼働ログ 249  
 サービスマネージャプロセス〔Windows 限定〕 382  
 サービスリスト 277  
 採取した資料の格納先  
   ajsaws\_log 279

ajswsv\_log 282  
 採取する情報  
 ajswsv\_log 277  
 ajswsv\_log 281

## し

---

システム構成〔UNIXの場合〕46  
 システム構成〔Windowsの場合〕35  
 システム障害通知ログ 248  
 システム情報 277, 281  
 システム全体像 12  
 システムの前提条件〔UNIXの場合〕45  
 システムの前提条件〔Windowsの場合〕34  
 実行 14  
 実行クラス名 271, 414  
 実行結果の確認 230  
 実行状況の確認 228  
 実行状態 271  
 実行中の WS プログラム数 270  
 実行登録 227  
 実行の流れ 218  
 実行前の準備 219  
 実行抑止 238  
 実装例 204  
 従来と JP1/AJS からの Web システム呼び出し機能を使用した場合との違い 4  
 従来と Web システムからのジョブ・ジョブネット呼び出し機能を使用した場合との違い 7  
 終了コマンドプロセス〔UNIX 限定〕382  
 出力パラメーターファイル 414  
 障害情報  
 JP1/AJS の運用 254  
 JP1/AJS3 - SOA Option 253  
 JP1/AJS3 - View for SOA Option 253  
 WS ジョブを定義したジョブネットの定義内容 253  
 標準 WS ジョブ定義時に指定した WSDL ファイル 253  
 状態表示コマンドプロセス 382  
 使用できる Web アプリケーションサーバ 9  
 ジョブ実行依頼元ホスト名 271  
 ジョブ名 271

資料採取コマンドのログ 277  
 資料採取コマンドプロセス 382  
 資料の採取方法 253  
 資料を採取するための設定〔JP1/AJS3 - SOA Option〕〔UNIXの場合〕117  
 Cosminexus での資料採取の設定 117  
 JP1/AJS3 - SOA Option での資料採取の設定 117  
 資料を採取するための設定〔JP1/AJS3 - SOA Option〕〔Windowsの場合〕71  
 Cosminexus での資料採取の設定 72  
 JP1/AJS3 - SOA Option での資料採取の設定 71  
 資料を採取するための設定〔JP1/AJS3 - View for SOA Option〕150

## す

---

スターター稼働ログ〔UNIXの場合〕250  
 スターター稼働ログ〔Windowsの場合〕249  
 スタータープロセス 382

## せ

---

制限値一覧 385  
 JP1/AJS3 - SOA Option 385  
 JP1/AJS3 - View for SOA Option 386  
 性能解析トレースの設定〔UNIXの場合〕118  
 性能解析トレースの設定〔Windowsの場合〕73  
 設定変更 242  
 前提 OS〔UNIXの場合〕  
 JP1/AJS3 - SOA Option 45  
 JP1/AJS3 - View for SOA Option 45  
 前提 OS〔Windowsの場合〕  
 JP1/AJS3 - SOA Option 34  
 JP1/AJS3 - View for SOA Option 34  
 前提アプリケーションのインストール〔UNIXの場合〕106  
 前提アプリケーションのインストール〔Windowsの場合〕62  
 前提プログラム〔UNIXの場合〕  
 Web サービス提供ホスト 46

- WS ジョブ実行ホスト 45
- クライアント 45
- マネージャーホスト 46
- 前提プログラム〔Windows の場合〕
  - Web サービス提供ホスト 35
  - WS ジョブ実行ホスト 34
  - クライアント 35
  - マネージャーホスト 35

## た

---

単純型 19, 414

## つ

---

通信ログ 277

## て

---

- 定義 14
  - 標準 WS ジョブの定義 16
  - ユーザー WS ジョブの定義 16
- 定義手順
  - 標準 WS ジョブの定義手順 175
  - ユーザー WS ジョブの定義手順 208
- 定義の流れ
  - 標準 WS ジョブ定義の流れ 172
  - ユーザー WS ジョブ定義の流れ 198
- データ型 19

## と

---

- 同時実行 27
- トラブルシューティング 245
- トラブル対処の手順 246
- トラブルへの対処方法 255
- トレースログの設定〔UNIX の場合〕118
- トレースログの設定〔Windows の場合〕72

## に

---

- 日時を変更する 243
- 入力パラメーター値欄の入力方法 289
- 入力パラメーターファイル 186, 220, 414
- 入力パラメーターファイルの作成（単純型の場合）186

認証情報設定ファイル 219

## は

---

- バージョン互換 57
- バイナリモード 199
- バックアップ 239
- バックアップが必要なデータ 239

## ひ

---

- 引き継ぎ情報出力インターフェース 203, 414
- 標準 WS ジョブ 16, 415
- 標準 WS ジョブがサポートする SOAP のバージョン 386
- 標準 WS ジョブが実行される仕組み 22
- 〔標準 WS ジョブ定義〕ダイアログボックス 286
- HTTP 基本認証 295
- Web サービスの選択 288
- WSDL ファイル配置方法 295
- WSDL ファイル名 288, 295
- オペレーション 288
- 出力パラメーター（単純型の場合）291
- 出力パラメーター（複合型の場合）293
- 出力パラメーターファイル 292
- 入力パラメーター（単純型の場合）288
- 入力パラメーター（複合型の場合）291
- 入力パラメーターファイル 288
- 認証情報設定ファイル名 295
- 標準 WS ジョブで指定できるデータ型（Cosminexus Application Server の場合）391
- 標準 WS ジョブで指定できるデータ型（WebLogic Server の場合）407
- 標準 WS ジョブで指定できるデータ型（WebSphere Application Server の場合）399

標準 WS ジョブのアイコン〔UNIX の場合〕  
156

標準 WS ジョブのアイコン〔Windows の場  
合〕156

標準 WS ジョブの実行 23

標準 WS ジョブの終了コード 230

標準 WS ジョブの定義 16

標準 WS ジョブの定義を変更する 172

標準 WS ジョブを定義する 172

## ふ

ファイルおよびフォルダー一覧 380  
JP1/AJS3 - SOA Option 380  
JP1/AJS3 - View for SOA Option 381

ファイルを転送 199

フェールオーバー 166

複合型 19, 415

プロセス一覧 382  
JP1/AJS3 - SOA Option 382  
JP1/AJS3 - View for SOA Option 383

プロセスリスト 277

## ほ

ポート番号一覧 384

ポート番号を変更する 242

ホスト名を変更する 242

## ま

マネージャーホスト 13, 415

## め

メソッド実行タイミング 205

メッセージ一覧 312

メッセージの記載形式 306

メッセージの記載先 304

メッセージの形式 305

メッセージの出力先 307

メッセージの分類 304

メンテナンス 237

## ゆ

ユーザー WS ジョブ 415

ユーザー WS ジョブが実行される仕組み  
24, 25

[ユーザー WS ジョブ定義] ダイアログボッ  
クス 300

WS プログラム配置パス 300

実行クラス名 300

パラメーター 300

ユーザー WS ジョブのアイコン〔UNIX の場  
合〕156

ユーザー WS ジョブのアイコン〔Windows  
の場合〕156

ユーザー WS ジョブの実行 25

ユーザー WS ジョブの終了コード 234

ユーザー WS ジョブの定義 20

ユーザー WS プログラム 415

実装時の注意事項 206

制限事項 206

ユーザー WS プログラムの開発 199

ユーザー WS プログラムの開発環境 199

ユーザー WS プログラムの開発手順 199

ユーザー WS プログラムのコンパイル 30

ユーザー WS プログラムの実行 25

ユーザー WS プログラムの実装 30

ユーザー WS プログラムの実装例 204

ユーザー WS プログラムの制限事項 206

ユーザー WS プログラムの配置 30

ユーザー WS プログラムのバックアップとり  
カバリ 239

ユーザー WS プログラムを変更 / 削除する  
242

ユニット定義ファイル 275

## り

リカバリ 239

## れ

レジストリ情報

JP1/AJS3 - SOA Option 277

JP1/AJS3 - View for SOA Option 281

## ろ

---

ログ情報 248

ログ情報の種類 248